明星学園 創立100周年記念

明星学園100年の
ひと・もの・こと



学校法人 明星学園

明星学園
１００年の ひと・もの・こと



はじめに

明星学園創立100周年記念誌として、『明星の年輪―明星学園100年のあゆみ』につづき、『明星学園100年の ひと・もの・こと』をここに刊行いたします。『100年のあゆみ』とは違った切り口で、明星学園を多角的に紹介しています。

「今こそ伝えたい先人のことば」からは、その時代、その場で語られた先人たちの学園に対する思いが生き生きと伝わってきます。なぜそのように表現したか、表現せずにはいられなかったか、そこには単なる歴史的な記述とは違う、理想と現実との間で格闘する一人間としての先人の姿がリアルに存在しています。日々試行錯誤を続ける教育現場の人々にとって、必ずや最良の対話の相手となってくれることでしょう。

また、『100年のあゆみ』では取り上げることのできなかったトピックスも掲載しています。どんな発見があるでしょうか。是非、楽しみながら気軽にお読みください。

「明星学園と私」では、おもに卒業生の皆さんに寄稿していただきました。大正13年創立以来、多くの卒業生を輩出し、卒業生の数だけ、かけがえのない人生がそこにあることでしょう。卒業生の文章を時代に沿って並べることで、その時代に生きる「私」と「明星学園」のさまざまな姿が、にもかかわらず変わることのない「明星」のありようが浮かび上がってくるに違いありません。

明星学園は社会の中に存在し、時代と共に年輪を刻んでいきます。論語の一節に、「知者は水を楽しみ、仁者は山を楽しむ」という言葉があります。明星教育の理想が、次の100年に向けて「山」のように揺るぎないものであることを願います。同時に学園が発展するためには、時代に合わせ「水」のように柔軟に形を変えることも求められます。しかし「水」は相手（容器）によっていかに形を変えようとも、「水」であることを変えることはありません。

明星学園であるということはどのようなことなのか、思いをはせるための資料としてこの冊子を活用していただけるなら、こんなに嬉しいことはありません。

明星学園創立100周年記念誌　編集委員　堀内 雅人



目　次

はじめに　堀内 雅人 …… 3

第１部　今こそ伝えたい先人のことば —— 7

赤井 米吉先生 …… 8
照井 猪一郎先生 …… 12
照井 げん先生 …… 18
山本 徳行先生 …… 22
上田 八一郎先生 …… 26
明星学園設立趣意書 …… 30

第２部　未来に伝えたい明星学園のことがら —— 31

明星学園のあいことば …… 32
学園の名前の由来 …… 33
校章の由来 …… 34
校歌・明星学園行進歌について …… 36
創立者の肖像 …… 39
校地・校舎の変遷 …… 42
写真で見る 校地のうつりかわり …… 44
写真で見る 校舎のうつりかわり …… 48
三つの学園寮 …… 53
小・中学校、現在の夏季行事 …… 56



第３部　明星学園と私 57

「明星学園と私」によせて　一瀬 清 …… 59

明星学園と私―赤井米吉先生を中心とした想い出―

中野 光（教育学者） …… 60

自由な発想と創作の日々　霜田 光一（6 回生） …… 62

女学校生活と平和への願い　馬場 洋子（13 回生） …… 63

マングローブとヒマラヤと―原点は明星学園だった

向後 元彦（25 回生） …… 64

想いを紬ぐ　佐々木 苑子（25 回生） …… 65

続・わたしの明星＝故郷（ふるさと）　小平 稠（30 回生） …… 66

想 い　川口 ゆり子（36 回生） …… 67

Myojo & Myself　塚原 芙美（36 回生） …… 68

明星とのやくそく　松居 和（40 回生） …… 69

人生の根っこ　田下 隆一（46 回生） …… 70

自由が道をひらく　山見 浩司（48 回生） …… 71

『夢中力』これぞ！　明星 DNA　増田 太郎（54 回生） …… 72

予想、理由、結果　中島 たい子（56 回生） …… 73

チャレンジを楽しむ＝生き方明星流　山本 琢磨・紀子（56 回生） …… 74

明けの明星よ、いまこそ　松浦 史子（58 回生） …… 75

別世界へ…高校デビュー　纐纈 くり（59 回生） …… 76

羅 針 盤　田邉 哲（59 回生） …… 77

ぼくとガッパ　和田 礼（63 回生） …… 78

白黒の世界が一変した明星生活　難波 直子（66 回生） …… 79

多様性と同一性の中に生きる　村上 拓（72 回生） …… 80

祝辞　なお 100 年先の黎明へ　八島 輝京（79 回生） …… 81

今も生き続ける「和」の心　中田 珠未（83 回生） …… 82

明星の“輪”　古川 博資（元中学校社会科教諭） … 83

明星学園と私～昭和 30 年代を中心に～　依田 好照（元小・中学校校長） …… 84

第４部　データで見る 100 年のあゆみ ―― 87

児童生徒数推移 …… 88
「私は何回生？」入学・卒業年度一覧表 …… 94
担　任　一　覧　　小学校 …… 98
　　中学校 …… 110
　　高等学校 …… 119
　　女学校・旧制中学校 …… 133
宿泊行事一覧　　小学校 …… 135
　　中学校 …… 138
　　高等学校 …… 140
　　女学校・旧制中学校 …… 142
明星祭　プログラムとテーマ …… 143

第５部　人事一覧 ―― 147

歴代理事長・校長 …… 148
法人評議員会議長・関連団体会長 …… 149
歴代理事・監事 …… 150
1. 教員在職期間 …… 152
　教員索引（よみがな順） …… 163
2. 職員（事務）在職期間 …… 168
3. 職員（警備・守衛）在職期間 …… 169
4. 職員（用務）在職期間 …… 169

創立 100 周年 ―― 170

あとがき …… 175

P.152 ～ 169
「教員・職員在職期間」は
書籍版のみに掲載しています。

第１部
今こそ伝えたい先人のことば



創立同人と黎明期の先生たち

- 原文で使われている旧字・旧仮名遣いは、ここでは原則的に現代表記に置き換えました。
- 現代と読み方が異なる漢字や読み方が難しい漢字にはルビを振りました。

赤井 米吉（あかい よねきち） 先生

1887 年（明治 20）6 月 1 日～ 1974 年（昭和 49）2 月 26 日

学園創立者。創立同人の一人。
学園長・理事長・小学校長・女学校長
在職期間　1924 年（大正 13）～ 1973 年（昭和 48）
石川県石川郡野村字法島（現金沢市法島町）出身
広島高等師範学校卒業。石川郡犀川村駒帰尋常小学校二又分教場訓導、愛媛師範学校教諭、福井県立小浜水産学校教諭兼舎監、秋田師範学校付属小学校主事、成城小学校幹事を歴任ののち明星学園を創設。哲学者西田幾多郎とは親戚関係。



明星精神

暁の明星と宵の明星がある。暁の明星は東の空がまだ紅に染め出ぬ時にやがて旭日が朗らかな光を空一ぱい輝かせることをさきぶれすべく現れる。偉大な未来を示すものである。

宵の明星は地はたそがれて、夕映の空も暗にとざされる瞬間に輝き出る。物みなが静かな休みに入ろうとするとき、その暗と休みの彼方に明日の光と活動のあることを予告するのである。

明星の子たちよ。若き人々よ。我等は過去に何物も持たぬ。

我等の持つものは偉大なる未来である。輝く明日である。希望である。憧れである。前進である。明星の名にふさわしい心と働きを持とう。

若者は心も身も純白である。清潔である。明星を汚さぬ様に務めよう。「濡れぬ先こそ露をいとえ」とある。露おく草叢（くさむら）に入る人々は最初は露に衣の裾の濡れるのを恐れる。一度濡れるとやけくそになる。いくら濡れてもかまわぬようになる。純真な人々がいつかあばずれになるのがそれである。若人よ、純白な心と身をいたわろう。一点のしみのつくのも惜む心であらねばならぬ。自愛、自重と云うのはそれである。心に思うことを口に発表して初めて明瞭な思想になる。発表のない思想はふ化しない卵である。人が言った後に「私もそう思っていた」と言う。だがそれは実はまだ半熟であったのである。言葉は実践して初めて生命となる。私たちの命は実践である。実践なき思想は宿なしのルンペンである。

若き人々よ、お身たちは美しい音楽を好む。美わしい絵画にみとれる。だが自ら美しい音楽をかなで、絵を描くのは容易でない。美しいものを見て感ずることは誰にでも出来る。自ら美しいものを作り出すには苦労がいる。

学校の仕事は兎角（とかく）感心することなくして、自ら苦労して作り出すことの少ないの弊におちいり易い。人を見て、物を見て感心ばかりしていたら、自らこれを行おうとしないのでは、この感心は役に立たぬ。人生の傍観者になってはいけない。

道行く人は何千人見送っていても自ら歩かないでは永久に進まれぬ。 明星の子は希望の子であると共に実践の子でなければならぬ。

女学部機関紙『明星時報』22 号（1936 年）

同人諸君（創立三年目の秋）

……我々の学園は、もともと現代教育の欠けているものを補い、誤れるものを正さんとして建てられたのである。正しく児童を教育しようとの考えであった。従ってそれは教育の改造であると同時に社会の改造を目的にして建てられたのであった。この根本的目的が我々の間に常に意識されているならば我々の学園の存立の意義は失われない。それはもとより容易な仕事ではない。我々の知と徳をもって完成し得られることができないかもしれない。然しこれを意識し、これに向って努力するその努力は、よしや不完全であっても、必ず大きな酬をうけるにちがいないと思う。一粒の種子が地に落ちて育くまれることによって百倍千倍の実が実るように、我々の仕事はいつかは大きな結果を招来することにちがいない。若しこの精神が失われるならば、かくの如き小学園が一つ在るもないも、それは大した問題ではない。否かくの如き小さなものにこれだけの費用と人々の苦心を集める必要はない。むしろ無くなることが経済的にも精神的にも有利であるかもしれない。どうかこの根本的なことを凡てが意識して進んで欲しい。…中略…

国の前途を思い児童の将来を考え、同人諸君がこの使命感をもって立たれた人であることを固く信ずる。

国の経済の破綻、従って生活に対する不安を一日も早く取り除かねばならぬ。経済の破綻を招いた根本的なものは霊の堕落である。霊が朽ちたため産業も、経済も朽ちたのである。

我々の教育は実にこの財界さえ救済しようとしているのである。霊の復興を計る我々の任の如何に大であるかを考え、互にいましめ、互に助けあって、我々の負う責務を遂げたい。

明星学園の更生の秋である。同人諸君、内に省み、外を眺め、今一度猛然として立たれんことを切に望む。

1927 年（昭和 2）9 月 29 日

『赤井・照井両先生 生誕百年誌』(1988 年 5 月）所収（『明星の年輪―明星学園 100 年のあゆみ』第 1 部 P.92）

赤井の日記より（1930 年 4 月 4 日、新学期最初の職員会議発言の草案）

一、天下、学校実に多い。その中へ我々の学園が出現したのは何の為であったか。文部省の定めるところのものを克明に実現しようとしてならば何もこう苦しんでこの学園を建てる必要はなかった。実に新らしい時代が要求する教育を実現せんが為であった。その為には文部省のものにも囚われず、厳密な批判を行って行かねばならぬ。勿論敢えて異をたつる必要はない。然し、研究、実験の労をさけ、既成の教育に追従するのは学園の堕落である。深く慎まねばならぬ。その為には常に研究的態度をもって教材に、教法に研究をおこたらぬ様でなければならぬ。

二、児童の研究はその結果を残す様にして欲しい。教育の研究は一回的で、同一の児童に対して二様の研究をなすことは出来ない。従って前人の研究を後人が参考とすることによってのみ稍（ようやく）確実性を帯びるのである。故に学園の内部に於いても同人の研究を互に実施、批判することによって学園の進歩が期せられるのである。又、社会に対し、一般教育界に対してもそれが幾分の貢献をなすのである。

三、児童の研究に於いて何よりも大切なのは、児童を見ることである。教育そのものに於いても、教育研究の為にも、児童を見ないで、概念的に仕事をしていては何物も生み出すことは出来ぬ。日本教育の行詰りは、結局教師が児童を離れる為である。教室に於いて、運動場に於いて、一層児童に親しまれんことを切に希望する。授業だけで、あとは職員室に閉じこもる様なことは絶対にさけなければならぬ。後略…　　中野光著『教育改革者の群像』(1976 年国土社)「沢柳精神の継承者」

(『明星の年輪―明星学園 100 年のあゆみ』第 1 部 P.93)

自由と協同（抜粋）

日本新教育は自由を求めた。然しかつてのそれはブルジョアジーの自由であったことは否定出来ないが今や大衆プロレタリヤのそれが求められねばならぬことが明らかに眼に映って来た。然しその為に自由教育が葬られるべきものではない。もっと真実な自由の社会へもっと広い大衆を解放しなければならぬのみである。前期の自由教育を笑って新たなる自由教育の課題を捉え得ないのは自らの近視眼を告白するよりほか何ものでもない。然しながらそれは共働を無視するものでは勿論あり得ない。強制された共働は真の共働ではない。人間が個体生命を有し、個人意識を持っている限り真の共働は各人に於いたる社会性の覚醒、または共働心の発達にまたねばならぬ。従って自由なきところ真の共働は起らぬ。如何にファッシズムの制度がよく敷かれても、如何に共産制がよく考えられても、相寄る個人に於いてその真義の了解と実戦への熱意なく、囚人の如くひかるる共働は人々の己れとのよりよき生活を保障するものではない。各人の自覚への自由教育は正に共働人を造るにもっとも要求されたものである。

前期の自由教育が唱えられたとき、それは封建的専制教育から資本主義的自由教育への転換を意味したことは勿論であった。その時に教育は未だ産業革命を経ていなかったのだ。――今未(いま)だ教育は多分に封建的思想に支配されている。真実の教育は常に時代と共にある。然して今や更に新たなる指導精神とその方法とを要求されているのだ。人々はそれを共働の一面に於いて強く要求している。新たなる社会は真に共働、連帯の社会でなければならぬ。しかもそれは自由を排除するべきものではない。自由なる人格に於いてのみ真のものが得られるのである。

児童の自由とは児童個人の放肆(ほうし)なる自由を意味するものではない。児童の団体的生活、共働作業に於いても、教師の専制的命令によって仮に団結し、共働せしめる従来の訓練的教育に反して、一向児童の自然的発達による団結と共働を希(こいねが)ったのである。その為の一切の強制を排除せんとしたのである。もし児童の自然的発達に社会的なもの、共働的なものがないとするならば、そしてそれは偏(ひとえ)に強制によって盲目的に習慣づけなければならぬものと考える人があるならば、むしろこの様な人間をとらえて何が故に協同社会の一員たらしめねばならぬかを反問しなければならぬ。人間は実に協同社会内に生まれ落ち、協同社会の内に育ち、協同社会を現に形成しておればこそ更にこれを自覚せしめ、これをより向上せしめんとしての教育を行なわんとし、然もその可能を信ずるのである。

されば自由教育は共働教育にとりかえられるべきものではなく、それは常に共にあるべきものである。否真にあるところのものは人間生活そのもののみである。これを個人意識の内面からな

がめれば自由であり、これを社会生活の外から見れば共働である。これを個人から見れば個性の発揮であり、これを社会から見れば有機的生活である。社会的存在としての全一なる人間の発達の教育は自由と云うとき共働を含み、共働と云うとき自由を含むのである。後略…

『明星の教育』第５号（1931 年８月 25 日）

『新讀本』 巻頭言より抜粋
児童のためにこの読本を選択される父母、教師の方々に　大正 15 年４月

この読本は教師と父母と児童とが共同して作ったものです。

読本は単なる読み物とは違わねばなりません。単に読んでその内容を知ったり、感じたりすること以外に読む力を増すという要件が備わっていなければなりません。児童が好んで読むから良い読本だともいわれず、文字や語句を系統的に排列したものが良い読本だともいわれません。児童の現在に立って将来を眺めたものでなければなりません。…中略…　多くの児童読本はまだ児童の発達相にぴったりしていないように思われてなりません。そこで児童と共同して作ったならば彼等自ら適当なものを選んで私たち大人の想いのとどかぬところを補ってくれるだろうと考えたのです。こうして出来たのがこの読本です。

しかしそれも容易な仕事ではありませんでした。まず最初にこれを企てたのは我が学園の照井猪一郎先生でした。児童の読み物として適当しそうなものを全部謄写刷りにして児童に与えて、その中で児童の好んで読み行くものを見つめていかれたのです。次に照井げん先生が、その次に霜田靜志先生、大高義一先生が先に選ばれたものを修正して、また児童の反応状態を見つめて前後３ヵ年、４人の教師と 100 人余りの次つぎと入り来る児童によって作られたものです。そのために要した謄写刷りの紙は数万枚に及びます。材料を探したり、作ったりして、これを謄写原稿に書き、いよいよ謄写しているうちに夜を徹したことはどれだけあるか知れません。さらに児童に与えたものは必ず一応は父母の方々にも目を通してもらいました。そしてその感想、忠言も聞きました。中には文字の使い方、文章の構成についてまでも細かい注意を与えて下さった方々もあります。またこれをまとめるについては数次の職員会を開いて山本徳行先生や私も加わっていろいろと推敲もしました。装丁は松岡正雄先生がやって下さいました。こうしてこの読本は我が学園に関係のあるすべての教師と父母と児童が一緒になって作ったものです。

まだ十分とはいわれませんでしょう。他の教師、他の父母の方々が他の児童に与えて御覧になったら、あるいは多くの欠点を見出されるかも知れません。それはむしろ私たちの期待するところです。私たちの過去３年の研究をひとまずまとめて提出して、広く多方の士の御批判に訴えたらさらに改善の暗示を与えられることだろうと考えまして、こうして世に出して見ることになったのです。児童の教育に興味を持たれる教師、父母の方々がこれを児童に与えてその反応の状態を凝視して忌憚なき御批判を与えられるよう切に御願い致します。私たちはそれによって、いよいよこれを完全なものにしたいと思います。

照井 猪一郎 先生

1887 年（明治 20）4 月 7 日～ 1964 年（昭和 39）2 月 25 日



創立同人の一人。小学校長・中学校長
在職期間　1924 年（大正 13）～ 1964 年（昭和 39）
秋田県平鹿郡川西村（現大森町）出身
県立横手準教員養成所卒業後、平鹿郡八沢木村小学校準訓導として奉職。退職後、東京私立順天中学校、正則英語学校に学ぶ。秋田県仙北郡内小友小学校代用教員、内小友小学校訓導、秋田師範学校訓導、成城小学校訓導ののち赤井とともに明星学園創設。

誕生ものがたり

創立前後のほんの思い出話に過ぎない。理論でもなし、実際でもなし、明星史でもなければ教育報告でもない。およそ文藝雑誌にふさわしからざる一篇ではあるが、創立の人たちの息ぶきが、においが、かすかにでも伝えられたら、悪文の罪ほろぼしになるであろう。

呱々の声

大正 13 年 2 月 29 日、むさし野はまだふかぶかと冬のとばりの中に眠っていた。

霜柱にふくれ上がった麦畑を、一足一足かみしめるようにきざんで行く 4 人の一団があった。一行はぽくぽくの黒土の上をとりつかれたもののようにむさぼり歩いた。

畑中の小高い一地点に最後の歩みをとめた一行は、やおらかついで来た一本の標木をうち立てた。「明星学園建設地」……したたるような墨あとがあざやかに白木のおもてに読まれた。

彼らはそれをかこんでいっせいに大空をふりあおぎ、さて思い深げにまわりの森や林をながめまわした。誰からともなく無言のほほえみがかわされた。

大海の底のようにしずまりかえったひと時だった。真昼の太陽は真珠色のスポットをこの謙虚な開拓者たちの上におとした。

輝く日光、すみきった大気、ゆたかな土壌、それは彼らの久しくあこがれていた求道の聖地であった。

池近く富士遠き森の台地 —— 彼らはこの日この地に真教育の精舎の礎をすえた。

＊　　＊　　＊

この 4 人は明星学園の創立者赤井米吉と照井猪一郎、山本徳行、照井げんの全同人で、この時この仕事を援けた育ての親は、茶郷基氏というかげの人であった。

大正 13 年 5 月 15 日、明星学園開校の式典は入学式をふくめて行われた。あいにくの雨を半ぶきの屋根はしのぎかねて、式壇はぬれるにまかされた。参列の子どもたちの、親たちの、来賓の頭から頬をつたって雫は床をぬらした。でもみんなの顔は輝きにあふれていた。

＊　　＊　　＊

校地は緑にかこまれた一千坪の畑地、校舎といってもそれは百九坪のほんのバラック普請、集まった児童は 1 年 2 年 3 年の 3 学級あわせて男女 21 名 —— これは明星学園発祥の種の起源であった。

しかし将来への計画はすでに構想されていた。一学級の定員を30名とし、中学校、高等女学校を延長の上におき、男女共学をたて前とした。…中略…

わが道をあゆむ

それはそれとして、私達も時代の若い教師であった。このうづまく新思潮の中に自ら求めてけん命に泳いだ。泳ぎながらも、かるがるしく飛びこみ、わき立つ波にもてあそばれてはあっさりと沈んで行くそこばくの同士を苦々しくながめた。自らの実体をつかみ、進むべく道をえらび、つくべき彼岸を見つめて精進しなければならないはずだからである。

めまぐるしい新教育の花ぞのから、この草深いむさし野にわけ入って来た私達のあの日の姿を人は何と見たであろう。

「あんなところに学校をつくったって子供なんか入るものか。」

親しい友たちまでがそういって止めた。電車は東京から30分おき、駅から徒歩20分、お天気でも霜どけ道で靴を泥にすいとられる井の頭でもあった。

しかし子供と学び子供と生きる私達には、そこにいささかの不安もなかった。

個性尊重―自主自立―自由平等

ただそれだけが私達の上に輝く教育の燈(ともしび)し火であった。ただそれだけが明星教育のゆるがぬ基本理念であった。

その日から学習も訓練もその他の一切の教育活動もこの根源からこんこんと流れ、うるおい、しみわたって行くべきであった。

森のひとつ屋はせまかったが、子供たちの教育の場は広かった。とざさぬ窓から子供たちは無限に解放されるべき教育の約束だからである。

学校と家庭と社会――それは子供たちの生活環境であった。両親と先生とちまたの人たち――それは彼等の指導体制であった。

子供たちはつねにこの三次元の中に学び育てばよいのであった。…中略…

愛とおそれと

私達は限りなく自由を愛した。しかしその言葉を簡単に丸のみにされることを極度におそれた。自由は個人の心理的なわがままを許すことではなかった。私達は慎重な用意のもとに、古いかせからひとまず子供達をとき放したのだった。だがそれには子供達との間に深い理解ときびしい約束がうらづけられていた。

自らの力で自らを守る自主のよろこびをえた彼等は、惜みなくその力をもちよって友達と助け合わなければならなかった。従って他人の自由を無視し、集団の秩序を乱すようなことをしては、それはそのまま自分の自由性の喪失であった。

彼等は刻々におこる生活のめんどうをなくすために、つぎつぎに新しい約束をつくらなければならなかった。

当然、この約束に忠誠なものは信頼され、ルーズなものは非難された。こうした彼等の創設した新しい約束は、強い力を以って彼等の社会を支配した。それは大人のそれよりも遥かに実践的で、新鮮で、活発なものであった。

「あーららあらら。だれかさんがあらら」

この合唱ほど彼等にとって手きびしい警告はなかった。こうして私達は彼等の自由を新しい明るい世界に導き入れた。ここで私達はあやまられたる自由教育と永遠のわかれをつげた。

自主自立は人の意志を強く鍛える。個性尊重は人権不犯の原則で、正しい人格はこれに根ざす。自由平等は人間の生活を明朗にし、人類に永遠の平和を与える。

「強く――正しく――朗らかに――」この明星の教育語は永遠に愛誦されていい。

「誕生ものがたり」創立25周年記念『明星』(1949年10月)に初出、1994年復刻発行

明星の理想　―明星を生活する―

個性尊重を基底とし、自主自立と自由平等を二辺とし、人間完成を頂点とする教育の金字塔を打ちたてようと明星がここにいしずえをすえて早くも28年の時が流れた。

人類文化の歴史から眺めるならばたかが28年。それでも人の一生からすればその生涯の半分に当たるともいえる。

生徒や教師の数のふえたことや、うえた庭木の茂ったこと、次第に建てまして来た校舎の次々に腐朽して行く点からすると、現実の世界では決して短い年月とばかりはいえない。それにここにも世界の現代史が巨細となくおりこまれて来た以上なお更(さら)のことである。

世界の現代史――それはまことにきわまりない波乱とはかり知れない複雑性をはらんだいくつかの大きな渦巻で、誰でも今日の日を以て明日を考えることのできない正体のしれないものである。

それは人類は今、その歴史に太い線をひいて次の頁を改めようと苦悶を重ねている最中だからであるからであろう。

私たちはこの世界の動きの八ちまたに立って、この後とても自分を失わずに強く正しく明るい歩みをつづけなければならない。

ラジオや新聞は朝に夕に講和(※)の近づくことを報じて国民の意気をかき立て、その後の覚悟を促している。これに私たちは何を期待すればいいのであろう。それはそのまま明星教育の理想そのもの以外ではない。

解放された自由と平等、人類愛に基づく世界の平和。拘束されることのない自主自立の明朗で強固な社会生活の建設。このことなくして正しい講和は望み得ない。

明星教育28年史はすべてこの流れで貫いている。今後もこの主流に大小清濁さまざまな支流が流れこむことは当然であろうが、すべては明星教育の大理想の中に大きく解けこむべきであり、更に新しい力としてプラスすべきである。

これだけでは単に言葉の作文である。これが少しずつでも日常の国民生活の上に、学生生活の上に実現されなければならない。一歩一歩前進しなければならない。一重一重積み上げられなければ絵にかいた餅同様におわってしまう。

そうさせないためには、国民に生まれた一切の人たちの協力と懸命の努力にまつよりほかはない。すべての幸福は条件としてだけ与えられるもので、これを育て上げるにはうけとった者の責任と努力によらねばならないのだ。

ともかくも世相はどのように変化しようと明星教育の高く掲げた理想のかわることはない。た

だこれを実現する手段や方法や技術が時代時勢を生かすために適切に処理して行けるよう工夫塩梅されることは当然である。

皆さんの日常の生活もこれ以外による必要も迷いもいらない。後略…

中学校学園会会報『黎明』6号（1951年6月）に初出、遺稿集『残照』(1968年2月）所収

（※）1951年（昭和26）9月、日本は48カ国とサンフランシスコ平和（講和）条約を結んだ。当時、アメリカを中心とする国ぐにとの講和が現実的だとする単独講和論と、ソ連や中国を含めた国々とに講和を求める全面講和論との論争が激しかった。また、平和（講和）条約と同時に日米安全保障条約が結ばれ、アメリカ軍は引きつづき日本に駐留することが決められた。

惑星の嘆き（抜粋）

私立学校は星座に籍を持たない惑星である。無軌道の如くに見えてその実独自の自転を有し、固有の軌道面を精確に公転する。宇宙系の顕著な一存在でないと誰が言う。

★惑星の嘆き

「のんびり育てたいから明星のようなところをえらんだ。」と仰しゃって頂く御ヒイキはかたじけないが、そうした語韻からは多くの誤解を撒布するから無條件では感謝が出来ない。

のんびり育てるということは「充分に自覚的であり、自律的であり、自発活動的であり、創造的であらせる教育、それ等から来る明朗な愉快な生活――」という意味にお取り下さるのでしたら私達は衷心から感激に堪えない。

なぜならば私達の教育は子供達にそうした生活をさせるために充分に個性を尊重し、天分や素質を検索し、その上にそれぞれに即した指導を創案して行くことが指導の原理になって居るからである。

従って瑪瑙をダイヤに磨き上げようとするような不合理や、不自然や、非科学的な仕事に無駄な努力をしもしないし、させもしない。

「のんびりした生活」ということを容易な何等鍛錬を含まない教育の意味におとり下さることだけは御勘弁下さい。それは私達にとってこの上もない迷惑である。

なぜならば私達の学校生活では、力いっぱい精いっぱい――即ちいつも天分の極量を傾けて努力する生活をさせることがモットーだからである。

他人に寄りすがったり、人に引きずられたりおぶさったりして歩く子はつくりたくない。遅れてもいい、転んでもいい。教師の慈愛と激励の下にどこまでも自力で歩く子をつくりたいのだ。

のんびりしているが如くに見えるのは生活が自覚的に自律的に展開して行くからである。自信に向って勇往邁進。敢てはばかるところがないから明朗であるのだ。

然し自らの生活を自ら律して行く彼等の内面的生活には瞬時の油断も余剰もあり得ないではないか。

小学部教育月報『ほしかげ』第4号（1933年12月10日）

初等部の心境を全父兄に告ぐ
創立二十周年　―昭和十八年〈初等部だより〉―

…前略

国家の大飛躍と共に学園にも20年の周期がめぐり来ました。われわれはちゅうちょなく、ここに大きな発展をめざして躍進をつづけ、皆様の今日に酬いなければなりません。

総父兄においてかかぐるところの主題は主として校舎や設備に対する最小限度の整備についてでありました。しかしわれわれはそれと同時に、またそれ以上に学園教育実質の充実に心魂を打ちこまねばなりません。これは当然現在職員たるわれわれに課された重大な責任であります。

初等部の創設以来早くも20年の星霜を経ました。学園に茂るものは独り蒼々たる樹林ばかりではありません。初期の卒業生に生まれた子供達はもう5つ6つになりました。ここ一両年にして再び父母の巣立ったこの初等部に種蒔かれるのであります。

われわれは皆様の孫の曽孫の玄孫のためにも常にこの学園をよりよきものに準備しておかねばなりません。

それは決して遠い将来のことでも他山の世間話でもございません。思いをここに致す時、現在の私共にも皆様ご同様津々たる感懐を禁じえないものがございます。

こうして学園の生命は永遠であります。学園教育の根源は学園伝統の精神と共に深く学舎の大地に根をおろして、皆様の子孫を培わねばなりません。

嘗(かつ)ての職員も、今あるわれわれも、この永遠に展開する教育史の一駒を編みつつ孜々として倦(う)まざるものであります。

やがて今日のわれわれがひとり残らず退陣する日は来るでありましょう。しかしそれはどこまでも現実の相で、学園は常に次々の人々の努力によって若く輝かしく発展して行くはずのものであります。それでこそこの仕事は国家百年の構想に根ざした公の事業であって、露微塵も、私人私情の含まるべき余地のないものであります。

「明星学園を創った教師たち―各周年に語る」ＰＴＡ会報『道』87号（1971年9月30日）

次の五ヵ年

明星が草深いむさし野の畑中に、新教育の産声をあげたのは大正13年5月。文部省が久しい沈滞を破って教育制度に大刷新を断行したのは、ずっと遅れて昭和16年。いわゆる「国民学校案」なるものがそれで、その殆どがわれわれ私学が長年に亘って研究し実践してきた成果を、性格をかえて転用したものであった。

われわれは常に日本の教育の先頭に立たされて、その啓蒙開発に努めて今日に至ったので、その意味では一応その役割を果たしたといえないことはない。

今年は創立35周年に当るので、数えでは36年目ということになる。36年――それは人生でいえば働き盛りの壮年期に当る。人間にはこの期を頂点として下り坂となり、やがて老衰して行くが、学園は教育の場であるから、永遠に成長し、発展し、常に新鮮であるべく約束づけられている。

今日われわれは、嘗(かつ)て新教育と呼ばれた当初の目的は充分に達成され、高く評価もされているが、われわれは徒(いたず)らにそこに安住すべきではない。それは先駆者の宿命である。

36年前の鮮やかな出発に比して、今日のわれわれに社会がはたして同質同量の魅力を以て迎えてくれるかどうか。映画やラジオも普及せず、テレビもなかった大正末期でこそ、学校は教育の殿堂であり、教師の技術が高く輝きもしたろうが、月の裏側が覗かれ、ロケットが到達し、数年後には人間を乗せて成層圏外の軌道をまわる航空機は既に設計されつつあるという今日、果たして教育の実際がそうした事実を計算に入れて企画されているかどうか。

36年来伝承し、改良を加えて来た私たちの新教育ではあるが、予想も出来ない急テンポな最新文化に密着して歩みつつあるかどうか。

あえて明星といわず、日本といわず、世界中の教育はその理念にも方法にも思い切った切りかえを遂げなければ、時代の波底に沈潜してしまいはしないだろうか。

誰にでもわかることは、教育の効率を高めるためには「無駄と臆病をとりのぞいた高能率な教育方法によらなければならない」ということである。

明星の場合でいうならば、従来のままではたして小、中、高12ヵ年を通した一貫教育が円滑に行われているかどうかである。単に地域を同じくし、一段階ずつ進学出来るというだけなら、イージーゴーイング以外の何物でもない。

12ヵ年の区分の仕方と、原理原則、それに伴う教科の課程の改廃、教科の内容の修正、家庭学習のあり方、児童生徒の能力負担合理化、教科外活動の指導、見学プランの統一、有効適切な共学の運営、自治会のもち方、担任教師の能率的配置、それら何一つとりあげても多様の問題が内含されてよりよい解決を待っている。

今私たちは5ヵ年計画を立ててこれらの一つ一つと取り組んでいる。そして昭和39年――明星創立40周年までには、一応の骨組みは終りたいと急いでいる。

これが充分な肉付けを完成するためには、今後多くの人たちによる長い努力を要することではあるが、それなしには明星の教育的使命は考えられない。後略…

35周年記念誌「明星」(1959年9月)に初出、遺稿集『残照』(1968年2月)所収

照井 げん 先生

1890 年（明治 23）12 月～ 1976 年（昭和 51）4 月 27 日



創立同人の一人。音楽科教諭。
在職期間 1924 年（大正 13）～ 1963 年（昭和 38）11 月
秋田県秋田市出身
秋田県女子師範学校卒業、西馬音内・川尻・船川小学校を大正 11 年 3 月まで歴任、大正 11 年 4 月成城小学校に就職すると研究成果をつぎつぎに発表。成城小学校のもっとも教育活動の躍動した時期に教鞭をとった。成城小学校で出会った照井猪一郎と結婚。赤井、照井らととともに明星学園創設。音楽科を担当するかたわら会計、学園創設当初の多忙な学校事務一般の整理にあたった。

卒業する 28 名に向けて

昭和 3 年 4 月 5 日、明星っ子としての皆の組のスタートは切られたのでした。ぽかぽかと暖かい春の日に恵まれ、雑木林の森にむしろを敷いてお菓子を頂いた事や、その森を舞台に 4 年生がお芝居をして歓迎してくれた事など、今度出られる半数足らずの方々にはいろいろと入学当時のなつかしい思い出が展開される事でしょう。

最初の人数は 21 名という少ないところへもってきて、担任の中島先生にお手伝いの正根寺先生、なかなかゆとりのある手の届いた取扱いの出来る幸福な組でした。

あれから 6 年の間に隨分とお友達にも出入りがあって今の 28 名になったのですから、一番最近に入った方は僅か半年位しかここの生活をしておりません。にも拘らずどの子を見てもみんな生へ抜きの明星っ子のような気がしてなりません。私の独りよがりかも知れないが、一度明星の空気を吸ったものは、みんなある素直さとのんびりさと明るさと朗らかさの持ち主になり、しかも自律的の態度に変わって行くように思われます。例えばよそで試験勉強に苦しみなやまされてきた子も、どことなくいじけたところのあるような子も、環境のちがった外国に育って日本語のよく通じないような子も、いつの間にか明星の空気の中にとけこんでしまっているのです。

10 年の間に出来上った**明星の校風**というものがあるとすれば、その一つは先生もお友達もよそ行きの殻を抜ぎ捨ててあるがままの姿でみんなと接触してることではないでしょうか。お世辞も上手もないぶっきら棒のようでも、純真さと明るさは満ちあふれてると思います。従ってあとからあとから入ってきた皆も、まずゆったりと心安い気持になり、外から塗り附けられたものは自然に洗い流されて自分の本来の姿に立ちかえるようになり得たと思います。その姿を掴み得ない中は診断の決定しない病人と同じで先生もよい手当を施すことはむずかしいものですが、幸にここではそうした心配は大変少ないのです。そこで初めて悪い部分は切り捨てたりよい芽は培い伸ばしたりするのですが、何しろ相手は人間なので、人の心はそう簡単に紙細工のように切り捨てたり糊付けして足したりするようにうまくはいかぬものです。悪いと知りつつも捨て得ないし、良いと知りつつも取り得ないところに大きな苦悩があるのです。今まですべてを知りつくして導いてくれた先生の手から遠ざからなくてはならぬ皆さんは、これからはほんとに自分で自分を伸して行くように努力しなくてはなりません。朝に夕に反省を怠らず勇敢に雄々しく正しいものに向かって邁進し、苦しみに打ち勝って常に朗らかさを失わぬよう心掛けてほしいものです。最後にくれぐれも健康に気をつけ明星っ子の美点をますます発揮されるよう望んで止みません。

『ほしかげ』6 号 第 7 回卒業記念号（1934 年 3 月）

追　憶　二　三

創立十周年！！ いつの間にこんな長い年月が過ぎ去ったのか？ 可愛いらしい1年生を11度も迎えたとはどうしても考えられない。「明星学園建設敷地」という棒杭を書いて、あの麦畑の中に立てたのはついこの間のようなき気がしてならないのに、もう早や校舎が腐ってきたの、大修理だのなんて私には何だか夢のような事実だ。4、5日前ひょっこり図書室にあった写真帳をあけて見ると、第1枚目に開校の翌日、校庭で撮った20名（1名欠席）の子供等と4人の先生方との記念写真が貼ってあった。11人の男の子はとりどりの洋服姿で、9人の女の子はいずれも真白なエプロン姿、何しろ一番大きい子が3年生だったから、一寸見ただけでは誰だったのか見当がつかない。よくよく見つめてると成程これがこの頃髪をすぱりとわけてきたあの子だなアと、がっちりした青年になった今の顔と結びついてくる。それにもまして4人の先生方の若かったこと。皆はち切れそうな元気な顔。赤井先生のおつむの毛だってむくむくとして此頃のように一本一本並んで居るのではない。何と言っても10年という年月は争われぬものだと、つくづく無量の感に打たれました。

○

子供の募集はまだ建物の形さえない中から初めたが、それにしても麦畑の棒杭一本を見ただけで、唯々学園の創立趣意を信じ、武蔵野の大自然を愛好して、大事なお子さんを入学させようと決心せられたあの当時の**父兄の方々の勇敢さ、大胆さ**は今から考えると全く驚異と言うより外はない。学園に永遠の礎を据えて下さったその父兄の方々に対する私達の感激は、教育理想の実現慾と相まってその期待を裏切らぬよう努力せざるを得ませんでした。お母さん方もまた非常な熱心で、毎日2人3人ずつかわった顔の見えない日とてはなく、よく皆と一緒に日光を浴びながら楽しい昼食を共にしたものです。幸にして2年目には新1年の入学者が30名に近く、全校の児童数は創立の4倍くらいにまで漕ぎつけることが出来た。

開校の日はすがすがしい若葉の5月15日、天気がよかったら武蔵野の空気を吸っただけでもどれくらいよい印象を残したかわからないのに、これはまたどうしたものか大変な荒天、印象の点からだけ考えるとこの方はむしろ強かったでしょう。朝から冷たい冷たい雨が止まずに降りつづいている。今のように便利な自動車があるでもなく、淋しい公園の道を御臨席の澤柳先生をはじめ皆歩いてお出でになったものです。然も校舎はやっと半出来で、周囲には窓一つなく、床板も仮張りのがたがた、ほんとに屋根があるというに過ぎなかったのです。仕方がなしにあたりに幕など借りてまわしたが、それでも雨は遠慮なく吹き込んでくるので、澤柳先生も、「これではあんまりひどいなア」とおっしゃいましたが、ほんとにお気の毒で皆に済まないという気持でいっぱいでした。せめて今日だけでも朗らかな天気を恵んでくれたらと、薄暗い空がうらめしくてなりませんでした。それから2、3年学園に何か催し事のある度に雨が降ったので、明星と雨とはつきもののように言われたものです。

学園の誕生は、今は故人となられた茶郷氏の後援によって案外楽に出来たが、さてこれを哺くみ育てて行く苦心はまた決して容易なものではなかった。その意味に於いて開校の日の嵐は、吾々にそうした暗示と覚悟を与え、とかく誇らかになりがちな人間の心に強い鞭をあて、謙譲と反省と同情とを教えてくれたものかも知れない。その後種々の事情からして経済経営に於ける赤井先生の御苦心は大したもので、教育の実際経営に於ける先生方の悩みもまた決して小さいもの

ではなかった。

すくすくと延びて行く学園の子等と共にある時、中等部を終えて溌溂たる若人になりつつある彼等の姿を見た時、吾々は教育者でなければ味わい得ない親心とでもいうような喜悦と幸福とに満たされる。白髪のふえた事なぞはつい忘れ、いつもいつも若々しい明るい気持でその日その日を過して行けるのは、全く純真な子等と共に働かして頂いてるお蔭だと、唯々(ただただ)感謝の外(ほか)はない。

『ほしかげ』7号　創立10周年記念号（1934年5月）

印象　二つ　卒業生への言葉

…前略　6年の年月は夢の間に流れ去って早くも卒業の光栄を擔(にな)う日が近づきました。お別れの言葉にかえてほほ笑ましい印象として、残された一つ二つを述べさして貰いましょう。これは皆が4年の頃の事です。

「先生体操！」「体操だよ」「キックキック」「キックにしてね先生！」けたたましいひびきに、甘ったれた調子も交って職員室の周りは俄(にわか)に騒々しくなりました。見れば男の子達は、大きなボールを小脇にかかえて玄関よりの窓から、女の子達は湯わかし場の方の窓から、顔に顔が重なって職員室総攻撃という情勢です。当の五十嵐先生はと見れば、お得意の読方数授に次のベルなどおかまいなしに大馬力をかけられてか、ほっと一息つこうと今や椅子に腰を下して、バット（タバコの銘柄・ゴールデンバット）に火をつけられたばっかり。お弁当の次に体操の好きなみんなは、さらぬだに食われた体操の時間が1秒1秒少なくなるので、じっとしては居(い)られない。早く早くとせき立てます。

「今行くよ」と仰っても、バットがなかなか煙になってしまいそうもないのでみんなも動かない。とうとう先生は「しようがないなア」とにこにこしながら、残り惜しげに、バットの半分を灰皿に消して「さア」と立ち上がられた。みんなは歓声をあげて、我先きにと運動場に駈け出して行った。こんな事が度々ありました。先生は「またやって来たなア」「来ると行かないよ」などと笑ってらっしゃいましたが、皆のこの猛烈なデモは結局先生のバットの節約なったわけですよ。

もう一つ。私がお昼に音楽室から出て来ると、女学校の芝生にきまって円陣になって、お弁当を食べてる一団がありました。それは皆の組の人達でした。如何にも楽しげに瞠(むつま)しげに一つになって、食事して居る様を見せつけられた私は、何となしにある大きな力を感ぜしめられると同時に、ほんとによい明星風景だなと思いました。よい社会はほんとの協力に依って成立します。明星で哺(はぐ)くまれたこの精神こそ、よい国家、よい社会を築き上げる礎(いしずえ)になる事を疑いません。ではさようなら！

『ほしかげ』19号（1936年3月10日）

30周年と私

大正13年2月も終りに近い日曜日のこと、かねて茶郷基氏の御出資による学園創設の計画が成立したので、同志が井の頭の拙宅に集まり、麦畑であった今のこの地に学園誕生の杭をたてることになった。その時私はありったけの感激をこめて、真新しい四角な棒杭に、墨色も鮮やかに「明星学園建設敷地」と拙筆を揮(ふる)った事を今でも忘れることは出来ない。…中略…

出来あがった校舎はボール紙の天井であったりしてすべては乏しい出発ではあったが、中に盛ら

れた教育理想は実に豊富で新鮮で溌溂(はつらつ)たること、何人の追従をも許さないものがあったと思う。

私は言いたい。「かつて学園に働いた、また現在働きつつある教師に、教育に対する情熱がなかったならば、今日の明星は築きあがらなかった」と。よい先生方に恵まれた学園はほんとに幸いであったと唯々(ただただ)感謝の外はない。児童生徒の信頼も父兄の支持も皆そこから生れ深まって来たのは当然の事と思う。

私は夫婦共稼ぎで30年という長い年月苦楽を共にして来たが、家庭は全く学園の延長で、すべてが学園中心の生活形態であった。家庭での話題も教育以外には余り持たなかったし、仕事の多くも明日への教材作りや調べ物などで精一ぱい。時には教育上の大議論も闘わすこともあって、それがまた私の何よりの向上でもあり研磨でもあったのだ。世間によく言う共稼ぎの弊もいろいろあった事でしょうが、ひたすらに「道一すじ」に生きて来た私には、それらのマイナスをおぎなうに値するではないかとうぬぼれている。

会計の仕事なども全く重責であった。身を挺して学園を守る覚悟以外何ものもない。

私は私共の同級生の集りの時にはいつも若いと云われる。もし私に少しでも若さがあるとすれば、それはほんとに精神的な若さで、偏に学園生活のおかげ、純真な子供等に接しているおかげである。

…中略… 学園はどこまでも子供等の楽園であるよう祈念して筆を措く。

『明星学園ＰＴＡ会報』30周年記念号（1954年6月）

明星のタネ

大きい方たちは昨日ＰＴＡから出された会報を読んで頂けば、明星の昔のお話はよくわかると思いますので、今日は小さい人たちのために、明星の種というお話をちょっぴりいたします。

ここにいらっしゃる赤井先生は昔の園長先生でした。3年生よりありませんでしたが、3年の先生は山本先生とおっしゃる方で生徒が9人でした。2年の先生は亡くなった照井先生で生徒がたった5人、1年の先生はこの私で生徒が7人、全部で21人でした。この21人が明星の大もと、つまり種であったのです。

ところでこの21の種がよく伸び、育つためには3つの大事な条件が必要でした。それは土と、空気と、日光でした。仕合せな事に明星はその3つがよく揃っていたのでした。第一に明星の土は非常にこやしのきいたゆたかな土地でした。第二は空気が大変にきれいでいつもすがすがしかったのです。第三にはこの武蔵野の大地から輝かしいお日様が隈なく照らしてくれたことです。この3つのおかげで、21の種は芽が出て、根が出て、葉が出て、めきめきと延びていきました。そして美しい花が咲いて立派な実がなったのです。

その実がまた種になって植えられました。また芽が出て、根が出て、葉が出て、花が咲いて沢山の実がなりました。これを40年も繰り返している間に、とうとう今日のように、この体育館にあふれるくらい、1年から12年まで立派な実がなってしまいました。みんな強く正しく朗(ほが)らかな実です。そればかりではない。40年の間にみのった実は、日本中はおろか、世界中のそちらこちらにちらばって花を咲かせ、実をむすんでいるのです。たった21の種がよくもこんなにも実ったものだとしみじみ考えると同時に、この先、10年、20年後を想像するだけでも、何と嬉しい楽しい夢ではありませんか。

私のたねのお話はこれでおしまいです。

『星雲時代』創立40周年記念号（1964年6月29日）

山本 徳行（とくこう） 先生

1897 年（明治 30）3 月～ 1978 年（昭和 53）



創立同人の一人
在職期間 1924 年（大正 13）～ 1929 年（昭和 4）3 月
愛媛県出身。今治中学校卒業後、小学校代用教員となる。愛媛師範第 2 部に入学、この時寄宿舎の舎監だった赤井米吉と出会う。小学校訓導として勤めた後、成城小学校に奉職。赤井らとともに明星学園創設にかかわる。明星学園創立時の 3 年生を卒業までの 4 年間担任し、翌 1929 年に退職。大阪府視学就任、公立学校小学校長、愛媛県主事など歴任して昭和 26 年今治明徳学園初代理事長、今治明徳高等学校長、今治明徳高等学校学長となる。

光る星

千駄谷の赤井先生のお宅を事務所として明星学園創立の事務をとる。先ず設立趣意書を印刷して、新聞の折込広告として配布する。…中略…　輝く理想、新鮮なる校風、生命に充てる教訓、是等三つのものは幼い魂の成長の大要件です。神と自然と人間の与うる聖い教を糧とし、温い友情の風を呼吸し、至高の理想に向って幼い魂は伸び上るのです。浮草の如くに転々として定まらぬ教師と、点数と競争で駆らるる児童が雑然たる知識の断片の蒐集を事としている現代の小学校では、幼い魂の伸びようもありません。新しい教育へ、幼い者を救い出さねばなりません。

かかる考えをもって、森幽に水清き井の頭公園脇に、一千坪の土地とささやかな学舎を得て、友情に燃える私たちが、隠れた後援を誓われる一教育愛好者に励まされて新しい教育樹立を企てました。思えば教育に身を献げて茲に十数年、互に紆曲の道を辿って遂にカナンの地を得た心地がします。どうかこのささやかな芽生がよき成長を遂げます様、御援助を願います。

大正 13 年 3 月

その頃の吉祥寺駅はまだ郊外の寒駅であった。弁天振袖で有名な吉祥寺が移転して、この門前町としての閑（のど）かな村落にすぎなかった。荒漠（ぼうばく）たる武蔵野がここにもあった。

駅から南、原始林に囲まれた井の頭公園がある。その昔は「森幽に水清き」将軍さんのお狩場であったと云う。この公園を抜けて森、畑、草っ原とつづく。――この麦畑の中に「明星学園建設敷地」の棒杭を建てたのであった。

夕暮れる頃ともならば、広い池畔の杉林の上空高く、明星がキラキラと輝く。―明星、―明星。――私たちもまた教育界の明星たれと、心ひそかに誓いあった。

同人は赤井先生を中心に、先生が秋田師範の主事をしていた頃の訓導だった照井猪一郎君とその妻のげん先生、それに私の 4 人きりだった。顧問としては沢柳政太郎先生。後援者は赤井先生と同郷であり大のファンである茶郷基氏であった。

その頃、震災で焼野となった大東京は、復興に明け暮れる毎日であった。大工も左官も引っぱりだこの世の中とて、ささやかな校舎もなかなか建築ははかどらなかった。4月20日の開校日には1年生7名（照井げん先生担任）、2年生5名（照井猪一郎先生担任）、3年生9名（私の担任）の全校生徒21名が、畠の中の「明星学園建設敷地」の棒杭の前に集った。井の頭の森が私たちの教室であった。すだく小鳥が友達であり、芽ぐむ草、名も知らぬ花そのものが教材であった。

5月15日、開校式をあげる。相憎くの雨で、屋根からは雨雫が遠慮なく降る。風は囲の幕をはたはたと鳴らす。生徒とその父兄たちも、さぞかし驚いたことであろう。もの静かな沢柳先生が、天井を見あげて「これはひどいね」とおっしゃったことは今も覚えている。

しかし、私たちは希望に燃え盛っていた。「友情に燃ゆる私達」が、一切の規範から逃れて、思う存分な教育実践にはいることが出来るのである。「カナンの地」がここにある。

一応校舎らしく出来上ったのは6月の初頃であったであろうか。私は照井君と二人であれこれと買い物に出かけたものである。新世帯となれば火箸1本、茶碗1つから買い揃えなければならない。たとえ全校21人といえども、学校は学校である。門札も出さなければならず、運動場も整地しなければならない。

新　教　育

当時赤井先生はドルトンプランの紹介で話題の人となっていた。それに、その頃である、創設者パーカースト女史の来朝があり、先生は女史の講演を通訳せらるため、全国をまわって多忙であった。私たち3人は、思い切った新教育を考えていた。

先ず時間割のない教室である。始業、終業の相図も一切ないのである。学籍簿もなければ、出席簿も作らない。勿論通知簿もない。そしてあるものは、克明に記した教育記録簿だけである。教授の方式はプロゼクトメソッドであり、ドルトンプランである。

校舎が出来、花壇の花が美しく咲き揃った頃には、生徒数も次第に増加して1学級30人の定員にほぼ近いまでになっていた。運動場にはスベリ台も出来、小鳥の舎もたった。小さな夢の学園である。子供達はいっぱいの太陽を浴びて、広い武蔵野をかけめぐっていた。教師も子供もまっ黒であった。野外が常に教室であって、教室はむしろ休憩の場であった。

しかし、妙案であると思っていたプロゼクトメソッドも、凡々の私達では長くつづけられ得ないものであると分った。2か月もすればもう教材の発展が限界に来て、堂々めぐりをしている感である。こんなことで「学力」がつくであろうか。

ドルトンプランそのものも、生徒達は伸びる様には見えるであろうが、ヒョロ長い伸長で練り鍛えることに欠けている。叩き鍛え、教材の背後にあるものを掴み取らせることが、これで果し得るであろうか。

始業、終業の相図も、あって見れば邪魔くさいものではあろうが、段落のケジメをつけることもまたあってよいのではなかろうか。反省せしめられることが多い。私の悩みは更に大きくなるばかりであった。

怱　忙

東京での生活は実に忙しい毎日であった。私は夜学に通っている苦学生なのである。昼間は人一倍に忙しい教師生活をしている。そして夕暮れともならば、電車に乗って水道橋まで通う。もう高等師範部を卒業して、中等教員の免許状をもらっている。仲間の者は中学校や女学校に就職したものも多い。しかし私は更に学部の編入試験を受けてやはり勉強をつづけているのであった。尚その上に多くの教育雑誌からは原稿の依頼がある。国語教育、学級経営については一かどの権威者と思われていたその頃である。〆切り日までに原稿を送らないと毎日の様に電報が来る。人が来る。売れっ子の悲鳴である。夜学から帰って２時３時まで原稿を書きなぐって翌朝は読み返しもしないで投函。こうして印刷になった研究論文がゆうに大巻になっている。

その他に著書の原稿がある。明星時代に著作したものに「尋三四教育の実際」がある。これは教育体験の記録である。この著も五版まで出したから相当には読まれたものである。このほか児童太閤記上下２冊、児童八犬伝上下２冊、読方指導書４冊を出版している。計９冊である。成城時代に「尋一教育の実際」「学芸会のために」「鑑賞文集」の３冊を書いているから東京時代に計12冊を著作している。

時間がないから睡眠時間の節減であった。文字通り

While their companions slept,

Were toiling upward in the night.

の連続であった。それでも毎晩四時間位は眠ったであろうか。痩せた身体はますます痩せて針金の如くではあったが、眼だけはピカピカ光らせていた。上京した当時には一滴の酒も呑まないで暮したものであるが、疲労回復のためにボツボツ酒をまた嗜むようになった。

名月や歩々怱忙の影法師

中秋名月の夜の自嘲即吟の句である。…中略…

退　職

末弟も大学を卒業したし、開校時に受け持った３年生が６年を卒業するので私はここの教壇を降りた。その理由の一つは明星同人の教育観と、私のそれとの相違もあった。

私には「学力」と云うものがあるとの信念がある。教育とは児童を成長せしめることであり、習得する力を得さしめることであると云うことは肯定する。しかし３年生には３年生としての「学力」があり、5年生には５年生としての学習知識を獲ていなければならないと私は信じている。そしてそれはある場合に於ては、詰込むこともまた止むを得ぬ教育であると信じている。真理は日々に新しい。真の教育こそ新教育であると云うのである。

私は間違っているかも知れない。しかしかかる私はすでに学園の異端者であった。もっともっと早く去るべきであったであろうが、恩師赤井先生の恩情にあまえて、４ヶ年を御世話になったわけである、申訳のないことであった。

かくて私は念願の学生生活に専念することにした。しかしその頃私はもう３人の子供の父親であった。家族を養うために、また郷里の両親に送金するために、安閑とただの学生であることは許されなかった。勉強も勉強だが、稼ぐだけは稼がなければならないのである。

その頃文化書房から「中学年教育」と云う雑誌が刊行されていた。私はその編集長となった。そして後には主筆として、この刊行をお預りした。依頼を受けた雑誌にはどしどし原稿を送って原稿料を稼いだ。それに著書の印税収入もある。表面は学生であるが、自らは立派な社会人であった。

こんなことで、乏しいながらも生活費にはこと欠かないですんだ。しかしこうして稼ぎ得たのも、赤井先生あってこその私であった。私の後には常に赤井先生の後光が輝いていたのである。

カナンの地

――三十数年後に明星の地をふんで――昭和41年6月3日、私は藍綬褒章の伝達式に参列した……翌4日は小雨の日であったが、私は文部省・大蔵省に出かけたので、妻は在京の子供3人に案内されて、箱根路を周遊する。そして次の日は、一同うち連れて赤井先生をお訪ねした。私はこの先生によって今日がある。まず何をおいても先生にこの光栄をご報告しなければならないと思ったからである。

家族一同して井の頭の杜を歩く。そして明星学園を訪う。明星を創めたあの頃は、この杜も、もっともっと幽邃であった。原始林の面影が残っていた。27歳だった私はこの泉の傍で物思いにふけったものである。今ここに同行する3人の子はその頃まだ生まれてもいなかった。

明星学園も随分変った。照井猪一郎君も逝ったし、上田八一郎君も他界した。「カナンの地」とて逃れて来た花園ではあったが、私は同行を離れて一人歩きをして来た。しかし明星の発展を希わない日は1日とてもなかった。何分にも思い出深い草分けの一人である。あの頃植えた木が、今では一抱えもの大木に生長しているのに驚かされる。その頃色をまっ黒にして武蔵野をかけめぐっていた教え子も、今ではもう52歳だという。嘘のような話である。思えば、お互いに年輪を重ねたものである。

山本徳行自叙伝『坂』(1947年1月5日)

上田 八一郎（はちいちろう） 先生

1890 年（明治 23）5 月 15 日～ 1965 年（昭和 40）7 月 16 日



明星学園中学校（旧制）校長、戦後は新制高等学校の初代校長。
富山県福野町出身。
在職期間 1928 年（昭和 3）～ 1965 年（昭和 40）
広島高等師範学校卒業後、広島高師付属中学校に奉職。大正 10 年朝鮮大邱に転住、大邱中学創設に参加し同校教頭に就任。広島高師時代から親交のあった赤井の誘いで明星学園中学校・高等女学校の設立に参加。創立後は中学校校長となる。戦後は新制高等学校校長として男女共学を推進。

中学校教育雑感

武南さんから中学入学の御子様をお持ちになる父兄母姉の方々に何か書いてみてはとのお話がありましたので、以下私の雑感を述べさせて頂きます。それによって私が平常何を考えておりますかをご想像願いたいと思います。

官立の病院と私立の病院、ないし大きい病院と小さい病院、この利害得失を考えてみると、それが官立の学校と私立の学校、ないし大きい学校と小さい学校の、それによく似ていることに気がつく。10 年前弟が脳脊髄膜炎に罹り、ある官立病院の 1 室で愈々（いよいよ）最後の息を引き取ろうとした晩、その晩の当直が皮膚科のお医者であったのにガッカリしたことを今思います。思い出しただけでもゾッとする。おもしろいことには英国では公立の病院は大抵 hospital というが、私立の病院は大概 nursing - home と呼んでいる。私の学校――学校といえないほどに小さな学校ではあるが、教育するとか教授するとかいう気持よりもお守する心持の方がより多く動いている。やはり一種の nursing - home であろう。

「学校ではウント鍛錬せねば駄目だ」とか「日本教育の真髄は鍛錬にある」とか「不可能を要求されぬものは全力を発揮するものでない」とか、世間ではよく耳にする言葉である。しかし言葉や文字に眩惑されてはならぬ。瓦を極度に鍛錬しては悲しき瓦礫となるの恐れがあり、硝子玉を無慈悲に鍛錬しては無意味の玉砕に終る危険がある。真に安心して鍛錬しうるものは鋼鉄だけであるかもしれぬ。少しいい過ぎたようにも思うが、とにもかくにも、角を矯（た）めて牛を殺すが如きことがあっては一大事と申さなくてはならぬ。

ある人は自分が若い時に苦労した経験から子供も苦労させねば駄目だという。またある人は自分が若い時に苦労したから子供だけには苦労させたくないという。もちろんこの 2 人のいう苦労はその意味内容において各々分明でない。ただし私は後者が人情味のより多い人であり、その子供は必ずや心の豊かな伸長を持つであろうことを信ずる。親はすべてにおいて主観的な物の見方はできるだけ避けねばならぬ。いわんや主観の強要があってはなおさら悪い。…中略…

エレン・ケイ女史はその名著『児童の世紀』において「子供の自然的教育の妙技はその過失を 10 度の内 9 度までは不問にするところにある」と述べている。思うに大人は往々子供において自己の欠

点を見出す時、それらを見るに忍びざる心持から無意識に責め、または叱る場合がかなり多いと思う。

最近子供の生活を題材にした西洋映画がかなりたくさん上映される。その中にも「スキピイ」（1931 年、アメリカ）が私には最も感興深いものであった。

乱暴で空想的な子供が如何にデリケートな涙ぐましい純情を持っているかを教えられた。しかも大人と子供の世界がどんなに相違しているかも見せつけられた。…中略… ぜひ子供の持つ純一無雑の世界を見ていただきたいと思う。

現代の教育は知識偏重であって人格教育などは薬にしたくもないと世間では申します。後者は認めるとして、前者には多少異議がないでもない。実際のところ、偏重はおろか、誠に不完全極まる知識である。せめて知識だけでももう少し偏重したいような気がする。といって私は点数や席次をつけて個人間の空漠たる競争心と名誉心とを刺激するの愚を知識偏重というのではない。極言すれば、完全に知育が施されるならば人格教育の全部とはいわぬが、少なくともその一部分は自然にその効果を収めることができるのではないでしょうか。いわんや学塾の中心人物を敬慕して集まった昔の時代を再建することの困難な現代においては。

しかし、私は信ずる。すべての教育の問題は最後には教師論に帰る。知育といい徳育というも、要は教うる人、その人に依存する。しかして現代には誠にその人少なし。　　昭和 8 年

遺稿集『漫思凡考―上田八一郎先生を偲ぶ―』（1971 年 7 月 16 日）

漫 思 凡 考

僅か百名に過ぎない少数の生徒であるからには、きっと手の届いた仕事が出来るであろうと親達は期待されるが、実際やって見ると中々そうは行かぬ。十人十色と云うが此処では正しく百人百色である。少数であるだけ其色合が可なりの程度までわかるが、少なくとも太陽の七色だけでは分類出来ぬ事は事実である。

白味がかったとか灰色がかったとか云う形容詞を用いぬと表現出来ぬのもあれば、又桃色に藤紫を加えたといったような複雑なのもある。所詮百人百色である。誠に各人の持つ個性―特異性―は造化の妙だと思う。

如何に巧みな植木屋でも松を梅に変性せしむる事が出来ない様に、如何に巧みな教師でも生徒の個性を変える事は出来ない、否、それは却って自然に対する冒涜であろう。そこで吾々のなし得る仕事はただ其個性によき方向を与えしむるにあるのみと云う事になる。と云えば至極簡単なようだが、この仕事が中々並大抵でない、恐しく難事業である。白を黄と見違えたらとんでもない方向へ彼等を導くことになる。世間には白を赤と誤診されて前途のある一生を棒に振った者もある。胃アトニーを胃下垂と診たって大同小異だろうが、時に腸チフスを肺炎と誤診する事がないでもない。従っていくら薬を投じて見ても一向に効き目がない。かくして教育者は診断の正確な名医であらねばならぬ事になる。ルビッチと云う映画の監督が患者を看るように共に働く女優を観察するという。そして彼は唯一つの美点すらも持ち合せない婦人は殆どない、どんな婦人でもよき方向を与えれば自己分析の結果、自分に恵まれた点を発見するものだという。これは彼が名監督と呼ばれている所以（ゆえん）であろう。

私は飽くまで個性の尊重者である。世間では〈個性―自由―我儘―放縦〉〈団体―規則―服従

―統制〉という風に飛躍的に考える人が多い。しかし私は特異性を持った大個性の集団でなければ団体も社会も強固なものにならないと信ずる。個性を滅却した団体は、よし強制によって一時的の統制は得られるであろうが、決して永続きはしないと固く信ずる。

二十余年前、私がまだ学生であった頃、三宅雪嶺氏が「教育上の疑問と仮解答」と題し「学生時代、数学が不得意で落第の憂目に遭った者で現在これこれの要職にある者があるかと思えば、又英語が不得手で悩み切った者で現在華々しく国政を料理している者もある。人には各々其特異性があるので数学や英語だけで其人の全体を量ることはどうかと思う」と云った様なことを直截簡明に、しかもあの咄弁で投げつける様に吐き出された事を思い出すのである。そして二十年後の今日、雪嶺氏の疑問が私の疑問となり、雪嶺氏の仮解答が私の仮解答になっている事に気がつく。然し現実は誠に憂鬱である。上級学校への入学試験なるものが私の夢の一切を叩きこわして了う。

小学部教育月報『ほしかげ』第12号（1934年12月15日）

親・教師・人

私の娘は女学部に、息子は小学部に通っている。そして私は二人のためにこの小さなマッチ箱のような明星が此の上もない結構な生活の場所であると信じている。処が一面、鉄筋コンクリートの学校にさえ通わせて置けば安心が出来、又、大定員の学校に入れてさえおけばお互いに揉まれ磨かれて自然に玉となるかのように聞かされると、私もなるほどと一応は頷いてもみるがさて静かに考え廻らすと、団体的訓練や社会意識の養成は、いかにも大定員学校の特権であるかのように思われるが、実際の処、内から発する自得の力でなくて、外から強制的に鍍金（めっき）されたものとしたら、その瞬間だけは綺麗に見えても、いつかは剥げる。外から揉まれ磨かれた玉といっても硝子玉であり、飴玉は飴玉である。

一体、世間では学校教育にあまり価値をおき過ぎる傾向がある。私の短い教師生活から考えてみても、学校教育の力というものは誠に微々たるものであって、子供の一切合切を学校に一任して安心している親があったら大変な間違いである。尚、又、貴方のお子様は私が責任を以てお引受け致しますなどと大きな口をきく教師がいたらその教師はよほど偉い人か、なければ……（一寸（ちょっと）うまい言葉が出て来ない）。ごまかされてはならぬ。親切そうにみえて一向親切でない学校があり、不親切に見えて、とても親切な学校もある。元来親切そうな教育というものは生徒の成長には甚だ迷惑なものである。設備が完全であり標本が沢山あれば、それだけ親をごまかす力を持っている。然し私の経験では充ち足りると倦怠が来たり、教育堕落の第一歩を踏み出す恐れがある。足らざる処に何かを以て補わんとする努力が起り苦しみが生れる。ホントの教育はこの見えざる処に行われるものではないだろうか。

『明星の教育』創刊号（1931年1月）に初出、『上田八一郎先生生誕百年史』(1991年5月）所収　（90年史第1部P.33）

名物・明星巻きずしの話

今年もまたやがて3年生（新制高校12回生＝通算27回生）が出て行く。ここ数年、僕のカラダの調子がよくないので、毎年新学年始めにはあんなこともしたい、こんなこともしたいと思いながら、結局いつも何もできずに別れることになる。残念でもあり申し訳ない次第でもある。少

なくとも３年生の顔に名前だけはおぼえようと努力するが毎年それも出来ない。気の毒にも思うし淋しくも思う。夏休暇前頃は職員室の前庭のベンチに腰掛けて２、３人宛と気軽に語り合いたいと思っていたが、それも終に出来なかった。すまない、すまない。…中略…

＊　　＊　　＊

来る４月からは何とかしてカラダの調整をはかり、生徒たちと気軽に語り合うことの出来るように努めたいと念願している。

昔の明星は生徒たちと先生たちとが気軽に語り合う機会が多かったのに、現在の明星にはそれが無いと不平を言う者が多いようだが、昔は多くても百名くらいであったが、現在は500名に近い。そのうえ新しい先生方も沢山来られたが、学校は現在、将来の教育内容の改善充実と校舎の増築改築で先生方が全部恐ろしく忙しい。

この多忙さには35年間明星生活をやってきた僕でさえ驚いているのだよ。

来る４月からの新学年準備で毎日のように諸種の会議、各種の委員会が続き、側で見ていても恐ろしいくらいである。

教育の仕事は金だけでは解決しない。しかし金がなくては仕事が一つも進展しない。第一が金だ。ところがその金がないのだ。君たちが早く金持ちになってうんと寄付してくれよ。これは冗談ではない。本気で僕がいっているのだよ。僕の一生はあとそう長くはない。僕の生きている間に君たちの寄付を受けることは望めない。明星はいつまでも続く。君たちのあとに続く後輩たちのために本気で考えてくれたまえ。

明星は（明星ばかりではない。日本のあらゆる部門がそうであるが）現在どこから見ても「曲がり角」に来ている。バスの車掌がよく言うように「曲がりますからご注意を願います」の形に似ている。満員バスの中でつり革のない人は左に倒れる。どうしてもつり革が必要である。そのつり革の役割を演ぜねばならぬ一人は僕でなければならぬと思うが、手足の不安な僕こそそのつり革を必要とするわけである。まことにおかしなお話である。

明星の誕生は三十数年前、少なくとも僕の関係した中・女の誕生は楽ではなかった。恐ろしく難産であった。先生方の俸給もその月に支払い出来ないことが相当長く続いた。今が第二の誕生かもしれぬ。今度は難局だ。「創設は易く守成は難し」という言葉があるが、第二の誕生は守成と言ってもよい。

僕は現在先生方が心身共に疲れないことのみを祈っている。先生方が疲れる様子を見るのがいちばん心配である。…中略…

以上泣き言はこの辺で止めて、話を元に戻し、三年生のことについて少し思い出を語ろう。…中略…

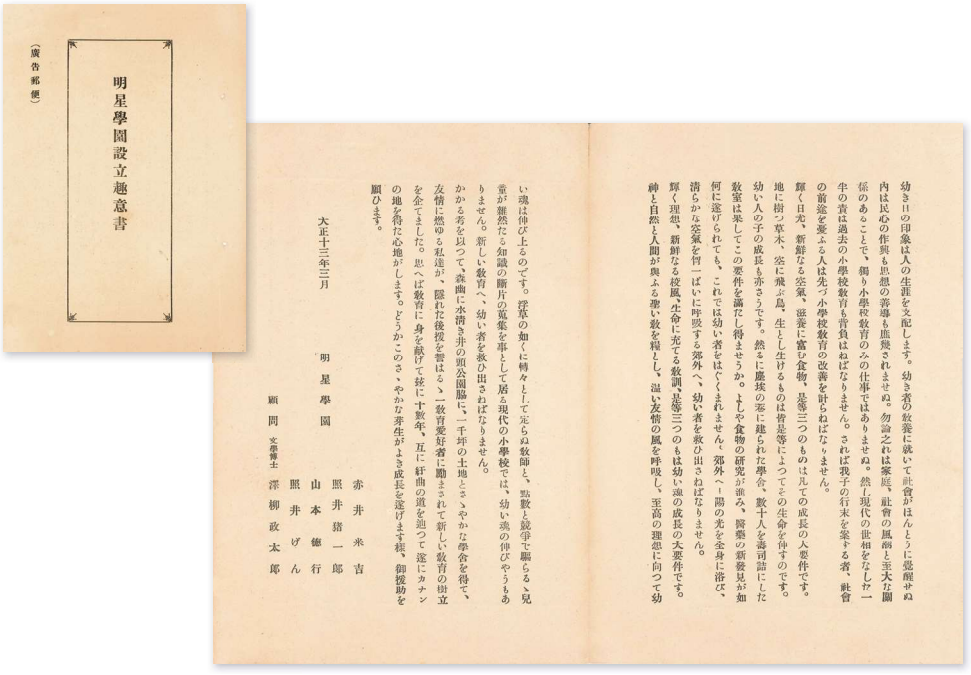
明星精神とは何ですかとよく君たちは訊いた。「巻きずし」に似ていると考えたことがなかったかしら（？）巻きずしにはカンピョウやタマゴが入っているが、たべる時にはこれがカンピョウの味、それはタマゴの味だと別々に区別して味わうことはない。一緒に咀嚼して独特の明星巻きずしの味を楽しむのである。フランス料理の特徴は味と色と香りとが一つにとけあって見事な交響曲をつくっているところにあると或る人は言ったが、明星巻きずしも交響曲をつくっている。君たちのなかには明星巻きずしの中のカンピョウは味が悪い、卵は古いと不平言うことがあるが、巻きずし全体を味わってみないとホントの明星巻きずしの独特の味がわからない。明星精神というものもそれに似ている。そんな話もしたように記憶しているが、どうだったかしら。

高等学校新聞部発行『星雲時代』Vol.10-No.6 卒業特集号（1960年２月28日）

明星学園設立趣意書

幼き日の印象は人の生涯を支配します。幼き者の教養に就いて社会がほんとうに覚醒せぬ内は民心の作興も思想の善導も庶幾されませぬ。勿論これは家庭、社会の風潮と至大な関係のあることで、独り小学校教育のみの仕事ではありませぬ。然し現代の世相をなした一半の責は過去の小学校教育も背負わなければなりません。されば我が子の行末を案ずる者、社会の前途を憂うる人は先づ小学校教育の改善を計らねばなりません。輝く日光、新鮮なる空気、滋養に富む食物、是等三つのものは凡ての成長の大要件です。地に樹つ草木、空に飛ぶ鳥、生とし生けるものは皆是等によってその生命を伸ばすのです。幼い人の子の成長も亦そうです。然るに塵埃の巷に建てられた学舎、数十人を寿司詰にした教室は果してこの要件を満たし得ましょうか。よしや食物の研究が進み、医薬の新発見が如何に遂げられても、これでは幼い者をはぐくまれません。郊外へ！陽の光を全身に浴び、清らかな空気を胸一ぱいに呼吸する郊外へ、幼い者を救い出さねばなりません。輝く理想、新鮮なる校風、生命に充てる教訓、是等三つのものは幼い魂の成長の大要件です。神と自然と人間が与うる聖い教を糧とし、温かい友情の風を呼吸し、至高の理想に向かって幼い魂は伸び上がるのです。浮草の如くに転々として定まらぬ教師と、点数と競争で駆らるる児童が雑然たる知識の断片の蒐集を事として居る現代の小学校では、幼い魂の伸びようもありません。新しい教育へ、幼い者を救い出さねばなりません。かかる考えを以って、森幽に水清き井の頭公園脇に、1千坪の土地とささやかな学舎を得て、友情に燃ゆる私達が、隠れた後援を誓わるる一教育愛好者に励まされて新しい教育の樹立を企てました。思えば教育に身を捧げてここに十数年、互いに紆曲の道を辿って遂にカナンの地を得た心地がします。どうかこのささやかな芽生がよき成長を遂げます様、御援助を願います。

大正十三年三月



第２部
未来に伝えたい明星学園のことがら



小学校の初代ジグザグ校舎

明星学園のあいことば

明星学園では、子どもたちに教育理念を伝えるためのあいことばが受け継がれてきた。

照井猪一郎は、創立初期の心情を綴った一編、「誕生ものがたり」の中で、以下のように語っている。

「**個性尊重―自主自立―自由平等**」
ただそれだけが、私たちの上に輝く教育の灯火であった。
ただそれだけが明星教育のゆるがぬ基本理念であった。…中略…
子どもたちはつねにこの三次元の中に學び育てばよいのであった。

自主自立は人の意志を**強く**鍛える。個性尊重は人権不犯の原則で、**正しい**人格はこれに根ざす。
自由平等は人間の生活を**明朗に**し、人類に永遠の平和を與(あた)える。
「**強く―正しく―朗らかに―**」この明星の教育語は永遠に愛誦されていい。

「誕生ものがたり」創立 25 周年記念『明星』(昭和 24 年 11 月 15 日)

「強く―正しく―朗らかに―」は、明星学園のあいことばとして、照井猪一郎によって唱えられ、全学園で愛誦された。

その一語一語には、以下の表のように明確な教育理念が込められていた。

	内 容	教育方針	実際化
強 く	1. 強い意志力の下に信念の遂行・現顕に努力 2. 自主自立の精神	1 他の誘惑に打ち勝つ 2 勤労の習慣 3 継続性と持続性の習慣 4 自学自習	体 育
正しく	1. 高い知性 2. 正しい批判力・判断力 3. 常に真理を追及、正義を愛好する信念	1 社会認識 2 生活指導 3 社会生活的訓練 4 現地調査	科 学
朗らかに	1. 明朗闊達 2. 豊かな情操 3. 自らを愛し他を愛する情味 4. 協力性ある豊かな人格	1 男女共学 2 階級意識の払拭 3 差別撤廃 4 言語儀礼の平易	芸 術

依田好照校長の時代からは、小学校・低学年では、覚えやすく元気を引き出すあいことば「**いつも元気でニコニコ**」が使われていた。

学園の名前の由来

明星学園の名前の由来について、赤井米吉先生は教育誌『渾沌』第８巻－第１号（1929年１月22日）に発表した「明星五年」と題する文の中で次のように語っている。

「学園の名称は創立同人の間でいろいろと議せられていた。「啓明」「黎明」「井の頭」「三鷹」「桜の丘」なども考えられたが満足されなかった。ある日、敷地を見に行った帰りに、夕暮の井の頭公園の森を逍遥した私は、その美しい星の光に驚かされた。何だか初めて星を見るような心地がした。（その後も感ずることであるがこの付近の星の光は他とは違う。実際美しい。）それはいわゆる「明星」そのものではなかっただろう。しかしその時ふとこの言葉が胸に浮んだ。ついに皆の意見も「明星」と決定したのである。幼い子等の心の明星、人類の憧がるる理想の明星、それを慕って、それをみつめて伸びよう、登ろう、精進しようとの意味であった。」

赤井米吉「明星五年」『渾沌』第８巻－第１号（1929年１月22日）

☆　　☆　　☆

照井猪一郎先生は次のように話された。

「名をきめてから身体をつくりあげるものと、できあがったものに名付ける場合があるとしても、命名にはそれぞれよりどころがある点では変わりはない。しかし私たちの学園の名をとったについては、それほど深い吟味のうえというほどの因縁はなかった。大正13年もやっと２月、数人の同志でいよいよ新らしい学園を創立しようという相談がまとまり、建設地もきまって、さて何という名にしようかと皆で案を持ちよったことに始まる。“桜が丘”だの“梅が丘”だの“むさしの”だの、まことに月並ばかりで誰も満足しなかった。その一つに“明星”というのがあった。

前の晩、私も二つ三つ考えていたその一つに“明星”というのがあった。しかしこの名に対する解釈の内容は、それぞれちがっていたようだった。明けの明星、宵の明星に象（かた）どって、『希望の光輝くしるべ、永遠の理想、魂のやすらいといこい』そうした宗教的感傷、観念的甘美も多分に含まれていたかも知れないが、私の場合はより現実につながっていた。その頃、私は星のぞきに熱をあげていた。大正12年の９月から、井の頭の池畔に下宿して、そこから成城学園に通勤したのも、一つには、武蔵野の大気が透明で地平線の低いことは、天象の観測にあつらえむきなことと、ほど近くに三鷹の天文台のあるということも大きな理由であった。ともかくあらゆる不便を忍んで空のためにここに居をすえたことにちがいはない。そういえば学園の建設地を井の頭にえらんだのも、私が先住していたことに動機したことも確かだと思う。



だから私は明星を“金星”の意味には限定していなかった。すべての天体をさしていた。天体の運行はすべてを超越し、すべてに調和しすべてに完全な唯一絶対の存在である。大武蔵野をおおう宏大な天球の一角に明星学園の姿を描き、そこから厳粛な黙示と示唆と暗示をうけることを生活の糧として来たまでのことである。」

『明星の年輪―明星学園50年のあゆみ』（1974年11月）P.115

校章の由来





松岡正雄教諭

（1）小学部の帽章

学校名が決まったあと、赤井先生は明星のマークの意匠（デザイン）を松岡正雄氏に依頼した。松岡氏は明星学園が創立して間もなく成城小学校から移ってこられた美術科教員である。松岡氏はただちに銀の円（まる）い枠に赤の五出の星をはめた意匠の校旗をデザインした。円は宇宙を表徴し、完全を示す。星は理想を現し、赤は人間の至情を意味する。きわめてはっきりとしたものであった。また、小学生が帽子につけるために同じ意匠のバッジも作られた。銀色の枠部分と七宝の赤い星、地は切り抜かれており、下地の色を透かす効果もあった。子どもたちがお揃いの帽子につければ、紺色の夜空に星が浮かびあがるように見えた。　『明星の年輪―明星学園 50 年のあゆみ』P.116 参照



1934 年 5 月、創立 10 周年記念式典で演説する赤井先生のうしろに、日の丸とならんで校旗が掲げられている。モノクロ写真で色は分からないが、白地に赤い星が染められていたと思われる。

（2）中学部の帽章・ボタン



創立 50 周年記念誌（『明星の年輪―明星学園 50 年のあゆみ』1974 年）には、上田八一郎先生の談話として「昭和 3 年（1928）4 月、中学部が創設した時、美術科担当の松岡正雄が右図のような帽章を考案されたので、それを採用した。」と記されている。一方、1932（昭和 7）年発行の『星雲時代』（中学部生徒会機関紙）に、「明星には定まった制服のボタンがないので他の学校のボタンをつけていると、（他校の）友達からだらしがない学校ではないかと言われることが度々あった。新入生たちもボタンのない学校は珍しいなどと言っている。僕はぜひボタンを作ってもらいたい。」（井上次郎「ボタン」から抜粋、『星雲時代』創刊号、1932.11.01）という投稿が掲載されている。翌 1933 年（昭和 8）1 月 20 日発行の『星雲時代』5 号に、「帽子の徽章とボタンの図案募集」―みんなふるって応募せよ―「帽子の徽章とボタンの図案を一般から募集して、松岡先生の選で決定されることになった。4 年では義務的に考案しているが、その他の人々も進んで描いて応募しようではないか。僕らの精神を象徴したもの、明星の校風にふさわしいものがどしどし考案されるべきだ。」と記されており、中学部の徽章は上田八一郎先生の記憶よりも 5 年ほど後につくられたものだったようだ。残念ながら学園資料室には『星雲時代』が全号残っておらず、図案決定の記事を探すことはできないが、松岡教諭が在職していた 1933 年度中に決定されたことが推測できる。

このマークの意味するところは、「左右の半円形は東半球と西半球の意味で二つで世界を示し、下部にある線は東西半球を結合して東西文化の融合を表したもの。そしてその融合の実現をはかるのが明星学園の使命だというので、大きく星を掲げたわけである」。

上田八一郎先生談、『明星の年輪―明星学園 50 年のあゆみ』P.117 参照



1936 年 5 月 旧制中学校の生徒たちの帽子と学生服の胸に金の星が光る。



現存する帽章は直径3㎝、金色の真鍮製。帽章と同じデザインで一回りサイズの小さいボタンもあった。写真（右）の帽章は地が切り抜かれているがこれは戦後に作られたもので、1936年撮影の写真を見ると、帽章もボタンも地が切り抜かれていない。デザイン的な理由か、戦争中の物資不足が影響したのかは分からないが、後期に製造された帽章はこのように切抜き地のものだった。これらの帽章・ボタンは戦後、新制中学・高等学校が始まってからも、学生服を着用した生徒たちがいた間は愛用されていた。

（3）女学部のブローチ



1933年の秋、女学部校友会新聞部が全生徒に呼びかけて、ブローチ（バッジ）のデザインを募集した。応募された50点は校友会機関紙『明星時報』22号・24号に掲載され、これを全職員で検討し、赤井米吉園長が美術担当教員の岩瀬富士雄に委嘱してこのブローチが作られた。洋銀台に緑・黒・白の七宝を流しいれたもので、横幅3.8cmほど。緑色の星をローマ字表記「MIOZIO」が挟んでいる。現代の表記では明星＝MYOJOだが、当時の明星学園ではこのようにMIOZIOと表記した。同じMIOZIO表記は校旗や機関紙の題名などにも使用されていた。

このブローチは、戦後発足した新制中学校でもしばらくの期間使われていたので、初期の新制中学校に通った生徒はこのブローチを明星学園の校章として記憶している。

（4）戦後デザインされた現在の校章



戦後の学制改革で1947年に新制中学校が、翌1948年に新制高等学校が発足した。現在も使われている校章は新制高等学校が発足した1948年5月に、美術科教員の横川武がデザインした。小学校は赤、中学校は緑、高等学校は黒という色違いのデザインである。

この意匠は、外側の円形が宇宙を表し、そのなかに明星学園の「明」の字を図案化して右側に配し、左下には金色に輝く星が刻まれている。

以前一部でこの校章のデザインについて「myojoのMとＪを図案化したもの」という誤った記述がされていた時期があり、現在でも「校章＝ＭＪ」という勘違いが散見されるが、正しくは「明」の字をデザイン化したものである。これまでに発行された学園史『明星の年輪―明星学園50年のあゆみ』（1975年）P.118、『明星の年輪―明星学園60年のあゆみ』（1985年）P.30にも明確に記述されてる。また、高等学校校長も務めた上田八郎明星会副会長（7回生、高等学校初代校長上田八一郎先生の長男、高校理科教諭）が、「明星の校章のデザインを勘違いしている人が多いが、“ＭＪ”ではなくて“明”の字なんだよ」と語っておられたことも忘れてはならない。

校歌・明星学園行進歌について

明星学園では、創立10周年の年につくられた「明星学園行進歌」を“校歌”として歌ってきた。当時2人のお子さんを通わせていた保護者の北原白秋氏に赤井米吉園長が作詞を依頼し、1934年の秋、運動会後の式で初めて合唱された。この「明星学園行進歌」ができる前は、赤井先生が作詞した「明星学園の歌」が校歌として歌われていたが、創立当初は校歌がなかったと赤井先生は振り返る。

「1924年（大正13）5月15日の学園開校から一カ月ほど経った6月21日、ようやく校舎が完成したところで開校披露式が行われた。来賓のおとなたちの祝辞に退屈そうにしていた子どもたちは、最後に立ち上がって『ぴかぴか光るみ空の星よ』を歌った。この頃は校歌があったわけではないので、唱歌の『星の歌』（Twinkle Twinkle Little Star）を歌わせたのであった」と記録にある。

キリスト者であった赤井米吉先生は、1928年（昭和3）に中学部・女学部が開校したときに、

「しののめの　空にさきがけ　ま輝く　望みの星よ　とわにかがやけ
　たそがれの　空にきらめく　「とこしえの国」のしるべよ　とわに輝け」

という祈りの一節を次のように変えて歌詞にした。

黎明（しののめ）の　空にさきがけ　ま輝く　望みの星よ　明星、明星、
われらの明星　とわに輝け
黄昏（たそがれ）の　空にきらめく　「永劫（とこしえ）の国」のしるべよ　明星、明星、
われらの明星　とわに輝け

そして中学部の音楽教員であった吉原規（いさむ）氏がこれに曲を付けた。以下、赤井先生談。

「歌詞がこのように単純なものであったから、曲も静かで、荘重な、室内の儀式用には立派なものであったが、行進曲にはむかなかった。しかし小学部では今の行進曲ができた後も、かなり久しく両方を歌っていた。中学部のものには行進しながら威勢よく歌われるものが欲しいと思った。

昭和9年（1934）学園の10周年記念学芸会が外苑の青年会館で催された時、わたくしは偶然に父兄の北原白秋さんとならんで見ていた。お嬢さんの篁子さんが劇に出られるのだった。その時わたくしは『明星行進曲』を作ってもらいたいとたのんだ。白秋さんは心よく承諾された。そこで資料としてわたくしの歌と学園の要項をさしあげておいた。それには今も書かれている『強く、正しく、朗らかに』が書かれていた。しばらくすると白秋さんから原稿用紙に『明星行進歌』が記されてきた。それが今歌われているものである。

『深き木立』は今の若い人々にはぴんとこないかも知れないが、戦争前までは井の頭の池の両側から新東京あたりまで樹齢40～50年の杉が深く茂っていた。『富士』は校庭から晴れた日の朝夕は望まれたものである。それらの風物がことごとく詠みこまれ、『校歌』といわないで、一篇の井の頭の詩としても立派なもの。それにわれわれのモットー『清く』『朗か』がよまれ、『若き魂』が歌われているので、われわれは有頂天になってよろこんだ。

曲は白秋さんのお知合いの細谷一郎さんにたのんで作ってもらった。それができてきたのは秋

の運動会の少し前であった。さっそく練習して、運動会のあとの式の時にはじめて合唱した。白秋さんは夫人とともに来ておられたが、特に父兄席から出て生徒の前に立って聞いておられた。時々頭をかしげるようにしておられた。何か気にいらないところでもあったのであろうか。20年むかしのそのお姿がほうふつとする。



戦時中は何でも統制ばやりで、『校歌』も東京都の許可をうけなければならないというので提出した。すると許可にはなったが、『めざめ若き魂』を、『さめよ若き魂』と訂正せよとの条件がつけられていた。大詩人白秋さんの詩を訂正する官吏（かんり）の無謀さにおどろいたが、暫（しばら）くそのように直して歌っていた。戦争がすんでからまた元どおりになった」。

＊　　＊　　＊

1934年の運動会で披露されて以来、“校歌”として全校で愛唱されてきた明星学園行進歌だったが、小学校では1976年度の卒業式、中学校では1977年度の卒業式を最後に小・中学校の式典では歌われなくなった。これは15年間続いた4・4・4制が廃止され、9年生が中等部（中学校）へ移った時期と重なる。遠藤豊校長を中心に進められた小・中学校を一体化する「運動」の結果、明星学園は4・4・4制から9・3制へと変わり、同時に小・中学校では形式的な卒業式から発表会的な内容の式へと大きく変化した時期だった。入学式も「うたで迎える入学式」となり、その他の式典においても合唱やマット運動、朗読などの表現活動が大きな比重を占めるようになった。このような“変革”の流れのなかで明星学園行進歌は歌われなくなった（高校では入学・卒業式で歌われていた）。このことについては2003年6月発行の『明星会会報』No.50に掲載された元小・中学校校長依田好照の記述を紹介する。

「たしかに表現活動はさかんになりました。『うたによる入学式・卒業式』もその後の教育界の動向をみれば先駆的なものでした。これらは実践を主導した遠藤校長の功績です。しかしそのことと、明星学園行進歌を歌わなくなったこととは、いったいどう結びつくのか。記録は何も語ってくれません。

そこで『私の記憶によれば』となります。あるとき、職員会議で私は遠藤校長に問いました。

依田――　明星学園行進歌をなぜ歌わないのか。

遠藤――　歌詞が子どもに難しい。曲も子どもが歌うには無理な箇所がある。

依田――　歌詞が難しいといっても日本語です。英語の歌より難しくないでしょう。それに、校歌とか行進歌というのは、いまは難しくても、だんだんと意味がわかっていくものでしょう。しかも北原白秋は明星の父母だったわけでしょう。

…中略…『私の記憶」のもう一つは、原田満寿郎先生から聞いた話です。（原田先生は1934年に奉職。『50年のあゆみ』『60年のあゆみ』は原田先生と、明星会会長だった谷井精之助氏の尽力で完成されました。）―原田先生は（1974年に）校長代行となった遠藤先生のために、学園の歴史的な資料をいくつもそろえて、読むことを勧めました。遠藤先生はそれには目もくれず、横を向いたまま押し返したというのです。これはいかにも象徴的な出来事に思え、私の脳裏に刻み込まれています。

おそらく、遠藤先生の意識のなかには、『改革』に急なあまり、先人たちが辛苦して築いてき

た学園の歴史は大きな位置を占めていなかったのではないか。（ちなみに遠藤先生は無着先生や私より年長ですが、私たちより遅れて来たひとです。照井校長の謦咳に接し、照井先生を敬愛する無着先生と同列に見做すことは正しくないと思っています。）

もう一つ、この時期の象徴的な出来事は、遠藤先生が校長代行となってひと月もたたないうちに、赤井米吉先生が亡くなられたことです。（照井先生はそれより9年前に逝去、全園教務として苦労を重ねた橘正薫先生はその前年に急逝されました。）赤井先生は学園長でしたが、ほとんど学校に来られることもなく、教職員の多くは赤井先生の存在さえ知らなくなっていました。

この時期は、また、以前からくすぶっていた小・中と高の対立が、いわゆる『内部進学問題』として噴き出した時期でした。…中略…

学園の混沌の原因は時の理事会にもあったと思います。昭和52（1977）年、遠藤・無着両先生も構成員だった理事会は、健康上の理由で辞意を表明していた鈴木高校長の後任として、遠山啓先生（1972年から金沢嘉市先生と共に学園の教育顧問）を、学園長兼高校長に迎えると決定しました。（学園長は赤井先生以外に例のないことでした。）これは高校教職員の反対で実現せず、恩地先生が高校長となり、遠山先生は学園長に就任されませんでした。

学園の混沌は昭和54（1979）年、無報酬を条件に理事長を引き受けられた松井憲紀氏（元横河電機社長・会長・元父母）のもとで正常化に向かいました。

私は昭和58(1983）年、新たに学校を設立するため辞任した遠藤校長のあとを引き継ぎました。小・中・高をつなげ、明星会（同窓会）からもそっぽを向かれていた学園を立て直すことが私の使命でした。そのなかで、翌年の創立60周年を機に行進歌の復活を考えました。しかし小・中の先生のなかには（音楽の先生も含めて）行進歌を知らない人もいました。いまさらなぜ、という人もいました。一時期の空白がかくも歴史を断絶させるものかと慄然としました。

60周年式典が近づく頃、私は1年生の教室から順次、歌唱指導に出向きました。しかし結局、復活を為しえませんでした。校長として非力の故です。

どのようなことであれ、学校の責任は校長にあります。故人となられた遠藤先生に礼を失する言い方になりますが、この問題の責任は遠藤校長と、私とが、それぞれに負うべきものです。それでは、どういうかたちで責任を負うことができるか。

いまの私は、おのれの無力を愧じ入りながら、明星会の皆様の力でつくられたCDが活用され、明星学園行進歌の歌声が広がっていくことをひたすら希うばかりです。」

＊　　＊　　＊

2013年4月7日の中学校の入学式において、8・9年生の合唱とアンサンブル部の演奏で明星学園行進歌が歌われた。35年ぶりの復活だった。これ以降、中学校・小学校でも行進歌が歌われる機会が増え、90周年・100周年の記念式典では全校児童生徒と卒業生が年代を越えて明星学園行進歌を合唱した。

『明星の年輪―明星学園100年のあゆみ』P.102、P.373参照

創立者の肖像

赤井 米吉先生



小学校正門を入って右手の低学年校舎の前に、創立者 赤井米吉先生のブロンズ胸像がある。

いちょう広場を見守るように立つ赤井米吉先生の肖像は、明星会（同窓会）が中心となって募金を集め、1979 年 11 月、卒業生・新旧保護者・教職員らの協力によって建立された。建立当初は、旧ジグザグ校舎低学年教室の南側、子どもたちが遊ぶ正門広場の八重桜の下に、校舎を背にして広場に向けて設置された。

明星学園の創立者であり、戦後日本の教育再生にも功績を残した赤井先生だが、戦争中の著書『新世界観と教育』（教育建設社 1941 年）などの内容が国家主義的であったと判断され、1946 年 11 月、教育職員適格審査委員会により教職追放処分となった。赤井先生は学園を離れ、いっさいの教育活動から身を引いた。



赤井先生胸像の除幕式（1979 年 11 月）
中央は明星会会長の北川富枝先生

1952 年に追放解除された後も明星学園の教育に直接関わることはなく、裏方的な存在として学園拡張のための資金集めなどに尽力しながらも、目立たぬ立場でひっそりと過ごした。

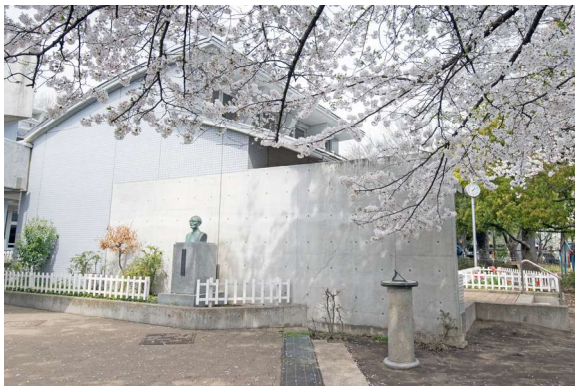
創立同人の照井猪一郎小・中校長、旧友で女・中学校設立の苦労を共にした上田八一郎高校長、戦後の明星教育を支えた橘正薫全園教務、よき理解者・協力者だった市村今朝蔵元理事長・寅之輔理事長兄弟など、明星学園を深く愛し、赤井先生の追放中に学園を支え発展させてきた仲間たちは相次いで他界していた。晩年、理事や学園長という立場にあった「赤井先生」でも、その存在を意識していない教員も多かった時代だった。

1974 年 2 月 26 日永眠。享年 86。同年 3 月 9 日、完成したばかりの第 2 体育館で学園葬。

赤井先生を偲ぶ卒業生らが明星学園発祥の地である小学校に胸像を据えたのは、それから 5 年後だった。

2000 年の小学校新校舎建築の際、現在の場所に移設された。

子どもたちが元気に走り回るいちょう広場の片隅に、いまも赤井米吉先生の胸像はしずかに佇んでいる。



2024 年春の赤井先生胸像と日時計

照井 猪一郎先生

小学校管理棟２階にある図書室に足を踏み入れると、正面の太い柱に掲げられた創立同人照井猪一郎先生のブロンズレリーフが目に入る。

この２階の図書室は、1964 年４月に誕生した“照井文庫”が基になっている。同年２月に猪一郎先生が逝去し、先生の蔵書すべてを夫人のげん先生が学園に寄贈したことにより、照井文庫が誕生した。（照井文庫について、詳しくは『明星の年輪―明星学園 90 年のあゆみ』P.378 ～ 381 をぜひお読みいただきたい）



照井先生のレリーフが子どもたちを迎える図書室。猪一郎先生、げん先生、そして司書の野口保子先生の気配を感じるような、居心地のいい空間である。

猪一郎先生が担任した２回生、８回生、15 回生ら卒業生有志が中心となって遺稿集の編纂と肖像作成が進められ、先生の五回忌にあわせて実現した。

1968 年５月19日、赤井米吉学園長、富永三郎氏（２回生）、武者小路実篤氏（後援会長）、照井げん先生（創立同人）ら臨席のもと、初・中等部図書室にて遺稿集『残照』出版記念会と肖像除幕式が執り行われた。



照井猪一郎先生のレリーフ除幕式でスピーチする赤井米吉先生（1968 年５月）

同年４月、学園は専任司書として野口保子を採用した。当時はどこの学校でも担任教員が図書室の仕事を兼任するのが普通で、明星に専任の司書が置かれたのは画期的なことだった。野口の就任当時、図書室には既に 6,000 冊の蔵書があったが、常駐する司書がいない図書室の本は整備されておらずめちゃくちゃな状態だったという。野口はげん先生の手を借りながら本を分類し、居心地のよい図書室へと整備発展させていった。



初等部の教室の前で子どもたちと過ごす照井先生（1940 年）

明星学園では創立当初から子どもたちに合う本を選んで各教室の本棚に置く学級文庫を充実させてきたが、図書室はその発展形として今も子どもたちに親しまれている。小・中・高に三つある図書室の蔵書は７万冊を超える。

本好きの子どもたちのための種をまいた照井猪一郎・げん両先生の思いは、現在も三つの図書室に受け継がれている。

※学園創立同人の一人であり、図書室の整備にも尽力された照井げん先生の肖像がつくられていないことは残念だ。
創立 100 周年を機に、小さい人たちの図書室にげん先生肖像をおけないだろうか。

上田 八一郎先生

1948 年に始まった新制高等学校の初代校長・上田八一郎先生は、前身の旧制中学校校長でもあり、創立者の赤井米吉先生とは広島高等師範学校で共に過ごした学友だった。学園創立同人より遅れて参加した人ではあるが、明星学園の校風を創りあげた一人であることは間違いない。



終戦直後、赤井が教職追放となったときには旧制中学校に加えて高等女学校の校長も兼務した。1948 年に発足した新制高等学校でも引き続き校長を務め、戦後の教育を発展させた。校長として子どもたちと接しながら英語の授業も受け持ち、生徒全員、一人ひとりの名前と顔を憶えていたという。教職員のなかにも、上田先生の人柄にひかれて明星学園に集った人も多かったのではないだろうか。

晩年は病気がちで、その回数も減っていたが、高校では週の初めに上田校長の講話を聞く時間が設けられていた。4・4・4 制時代は、9 年から 12 年までの全生徒が第一体育館に集まり、上田校長の話に耳を傾けた。「私はだいぶ歳をとったので、椅子に座らせてもらうが、年寄りの話しは長くなりがちだから、君たち若者も床に座りなさい」と、ソフトな語り口で始まるが、時にべらんめえ調、時に英語も交え、既知に富んだ内容だった。その話の一つひとつは卒業後も上田校長の面影とともに心に残るものだった。

1964 年に照井猪一郎小・中学校校長が他界すると、小・中学校校長も兼任した。しかし、その翌年 1965 年 7 月 16 日逝去。享年 75。

上田八一郎先生を偲び、1966 年 5 月 15 日、高等部（4･4･4 制時代、9 年生から 12 年生を“高等部”と呼んだ）第一体育館南側の通称「中庭」に面して、先生の碑が建立された。



第一体育館に面した中庭に設置された上田先生碑。
ベンチも置かれた中庭は、生徒たちの憩いの場だった。
ある雪の日に撮影。

この日 5 月 15 日は明星学園の創立記念日であり、上田先生の誕生日でもあった。角館喜和ら卒業生教員が中心となって“碑建立の会”を立ち上げ、碑のデザインは佐藤正巳氏（7 回生）、レリーフ制作は四田昌二氏（11 回生）にお願いした。



除幕式には明星学園関係者のほかに、広島高等師範学校、大邱中学校（上田先生が教頭を務めた明星学園の前任校）の関係者も集った。

碑には上田先生の直筆による「Cool brain and Warm heart」の文字が刻まれている。

1986 年、高校に第三体育館が落成した際、上田先生の碑も新しい体育館の入口に移設された。

校地・校舎の変遷

1924年　3月　井の頭の麦畑（現小学校敷地）を地主から借り受け、校舎建築開始
　　5月　未完成の校舎に1・2・3年生の児童21名を迎えて開校式
　　6月　**小学校校舎完成**
1926年　3月　小学校高学年用の**2教室を増築**
1927年　4月　小学校**音楽室・美術室**が完成
1928年　2月　中学校（旧制）用地として牟礼の敷地（現高等学校敷地）を取得。
京橋区（現在の中央区の一部）が三鷹に所有する林間学校の建物101坪（333.9㎡）を公売入札で落札し、**中学校教室**用に移築
1928年　3月　小学校第1回卒業式、27名が卒業（第1回生）。
　　4月　井の頭校地、小学校校舎北側に**女学校校舎**125坪（413.2㎡）完成
高等女学校（5年制）と旧制中学校（5年制・男子）開校
1929年　6月　**旧制中学校**に**4教室増築**
1929年　小学校グラウンドに小・女・中学校合同の**講堂が完成**。完成記念に3部合同劇の会開催
1931年　5月　女学校の**特別教室**（割烹室、裁縫室、理科室、校長室、職員室）として保護者の川井源八氏から三菱銀行深川支店の建物が寄付され、移築
1933年　1月　**中学校校舎増築**（牟礼）
1934年　12月　**女学校校舎増築**（井の頭）
1935年　5月　中学校（牟礼）に**屋内体操場**が完成
1940年　中学校（牟礼）**理科室増築**
1945年　8月　太平洋戦争終結
1947年　4月　戦後の学制改革により男女共学の新制中学校発足。校舎は井の頭の高等女学校の教室を充てる
1948年　2月　新制度移行による生徒増に対応するため**中学校教室**（井の頭）、**高校教室**（牟礼）を**増築**
　　4月　男女共学の新制高等学校発足。校舎は旧制中学校校舎（牟礼）を充てる
1955年　高校校地拡張（牟礼3,670㎡）
1956年　8月　小学校（井の頭）に**初代ジグザグ校舎**（後列、鉄筋コンクリートブロック平屋建て870㎡）6教室とトイレが完成
　　10月　**中学校校舎木造**2階建て9教室とトイレ（1,050㎡）を牟礼に新築。完成直後、高等学校の校舎となる。
講堂（井の頭）を**移築**（向きと位置が変わる）
1957年　6月　**高校校舎木造**2階建て9教室とトイレ（980㎡）が完成（牟礼）
1958年　6月　高校グラウンド隣の土地を取得（牟礼）
　　10月　小学校**初代ジグザグ校舎**（前列、鉄筋コンクリートブロック平屋建て750㎡）**6教室完成**（井の頭）

1959年　4月　4・4・4制開始
1961年　1月　小・中学校（井の頭）の**特別教室棟**（現事務局棟、鉄筋コンクリ―ト2階建て7教室、1,175㎡）**完成**
　　2月　7・8年生が新たに完成した特別教室棟にホームルームを移す（それまでは高校にいた）
　　11月　高校に**第1体育館**（鉄筋コンクリート2階建て1,400㎡）**完成**
1962年　7月　中学校校地拡張（運動場2,640㎡、校舎用敷地1,451㎡）
1963年　2月　老朽化した小・中の講堂を取り壊し
1964年　12月　**中学校校舎**（鉄筋コンクリート4階建て1,718㎡）**16教室完成**
1965年　6月　小・中に**図書室開設**
1966年　3月　**高校特別教室**（鉄筋コンクリ―ト地下1階付4階建て1,735㎡）**完成**
1974年　3月　4・4・4制終了、6・3・3制へ変更。小・中学校に**第2体育館**（鉄骨造亜鉛鉄板葺、一部2階建て823㎡）**完成**（井の頭）
　　4月　9年生が井の頭校地の中学校へ、5・6年生はジグザグ校舎へ移って新学期開始
1975年　**小・中学校音楽室**（鉄骨モルタル鋼板葺、1階建て278㎡）**完成**
1977年　4月　**高校新校舎**（鉄筋コンクリート陸屋根3階建て3,557㎡）**完成**
1980年　9月　小学校に**総合学習室**（マルチパーパスルーム、コンクリートブロック陸屋根2階建て227㎡）**完成**
1986年　5月　高校に**第3体育館完成**
1989年　夏　中学校玄関となりに**ＰＴＡルーム完成**
1997年　高校グラウンド隣接敷地を購入
1999年　7月　小学校ジグザグ校舎解体→小学生は仮設校舎へ
2000年　9月　**小学校新校舎（新ジグザグ校舎）・中学校特別教室完成**
2009年　4月　資料整備委員会発足、小学校社会科資料室（北棟1階）に場所を借りて作業開始
2013年　7月　資料整備委員会は専用作業室（兼90周年記念誌編集室）に引越し
2014年　4月　小・中学校北棟1階（売店の場所）に保護者運営の学童クラブ**すずかけの木開設**
売店は隣接するベンチの広場に移動して営業開始
2015年　**高校グラウンド整備、人工芝**とタータンにリニューアル。校舎とグラウンドの境に芝生スペースを新設。**弓道場完成**
2017年　8月　南駐車場の場所に学童クラブすずかけの木の建物建設開始
2018年　4月　**高校**10年生8クラス化に伴い**教室増設**
学童クラブすずかけの木の建物完成。新しい建物で活動開始
学園資料整備委員会（資料室）は学童室退去後の北棟1階に移動
2018年　10月　資料整備室の一部を展示室に改装
2019年　3月　高校グラウンド北端に新棟着工
2019年　4月　**高校職員室移設・職員室だった場所に3教室増設**
2020年　4月　高校に**黎明棟**完成。ラウンジにコンビニエンスストア開店

写真で見る　校地のうつりかわり

井の頭校地（現 小中学校・井の頭キャンパス）

創立のころ

1924 年（大正 13）
明星学園小学校 開校
1924 年（大正 13）3 月
　　麦畑 1,000 坪を借地
　　小学校校舎建築開始
1925 年 麦畑 800 坪を借地
1926 年 小学校 2 教室増築
1927 年 音楽室、図書室を建築



1925 年（大正 14）10 月 21 日　第 1 回運動会
グラウンドは草原で野道のような小径が続いている

昭和のはじめ～

1928 年（昭和 3）
高等女学校 開校

女学校校舎を建築

1929 年 小・女・中合同の講堂完成
1931 年 女学校特別教室完成
1934 年 女学校校舎を増築
1939 年 女学校校舎を増築



1937 年（昭和 12）　小学校と女学校 全景

1947～

1947 年（昭和 22）
男女共学の新制中学校 発足
1948 年 2 月　新制中学校教室を増築
1956 年 8 月　小学校初代ジグザグ校舎
　　後列完成
1958 年 10 月 小学校初代ジグザグ校舎
　　前列完成

1959 年「4・4・4 制」始まる
1961 年 1 月　小・中学校特別教室棟
（鉄筋コンクリート2階建て 7 教室）完成



1961 年（昭和 36）ジグザグ校舎と 2 階建て特別教室棟完成後の全景

１９６０年～

1962 年 7 月
小・中学校運動場 2,640㎡拡張
中学校校舎敷地 1,451㎡拡張

1963 年 2 月　老朽化した小・中の講堂、木造校舎を解体
1964 年 12 月　拡張した敷地に中学校校舎（鉄筋コンクリート 4 階建て 16 教室）完成



1964 年（昭和 39）　校地を拡大し、中学校の 4 階建て校舎が完成。グラウンドの古い木造校舎と講堂は解体された

１９７０年～

1974 年「4・4・4 制」終了、「6・3・3 制」へ

1974 年 3 月　小・中学校　第 2 体育館完成、9 年生が中学校（井の頭校地）へ
1980 年 9 月　小学校総合学習室 2 階建て完成
1989 年 夏　中学校玄関のとなりに PTA ルーム完成
1999 年 7 月　小学校ジグザグ校舎解体



1974 年（昭和 49）に小・中学校グラウンドに完成した第 2 体育館

２０００年～

2000 年 9 月　小学校新ジグザグ校舎、中学校特別教室完成

2005 年　「6・3・3 制」から「6・6 制」へ

2018 年 4 月　小学校南駐車場に学童クラブ「すずかけの木」の建物完成



2023 年（令和 5）9 月撮影　大きく育った樹木が子どもたちの教室と遊び場に木陰をつくっている

牟礼校地（現 高等学校・牟礼キャンパス）

昭和のはじめ

1928 年（昭和 3）
旧制中学校 開校

1928 年 2 月　中学校校地として牟礼の敷地取得、京橋区が三鷹に所有する林間学校の建物（101 坪）を公売入札で落札。教室用に移築
1929 年 6 月　旧制中学校に 4 教室増築
1933 年 1 月　中学校校舎増築
1935 年 5 月　中学校屋内体育場が完成
1940 年　理科室増築



1937 年（昭和 12） 中学校全景

1947～

1947 年（昭和 22）
男女共学の新制中学校 発足

1948 年 2 月　中学校教室（井の頭）を増築
高校教室（牟礼）を増築

1948 年（昭和 23）
男女共学の新制高等学校 発足

1955 年　高校校地 3,670㎡拡張

1956 年 10 月 中学校舎完成、後に高校校舎となる。
1957 年 6 月　高校校舎完成
1958 年 6 月　グラウンド隣接の土地 495㎡を拡張



1948 年（昭和 23） 中学校全景



1957 年 角度をつけて並ぶ２棟の２階建て新校舎

１９６０年～

1959 年「4・4・4 制」始まる

1961 年 11 月　高校に第 1 体育館完成
1966 年 3 月　高校特別教室 4 階建て完成



1966 年（昭和 41）　第 1 体育館と 4 階建て校舎完成

１９７０年～

1974 年「4・4・4 制」から「6・3・3 制」へ

1977 年　新校舎 3 階建て完成
　　特別教室一部改造
1986 年 5 月　高校に第 3 体育館完成
1997 年　グラウンド隣接の土地購入



1986 年（昭和 61）　第 3 体育館完成

２０００年～

2005 年「6・3・3 制」から「6・6 制」へ

2015 年　グラウンド、人工芝とタータンにリニューアル
　　弓道場完成
2018 年 4 月　高校 10 年生 8 クラス化に伴い教室増設
2019 年 4 月　高校職員室・教室増設
2020 年 4 月　黎明棟完成



2023 年（令和 5）9 月 18 日撮影

写真で見る　校舎のうつりかわり

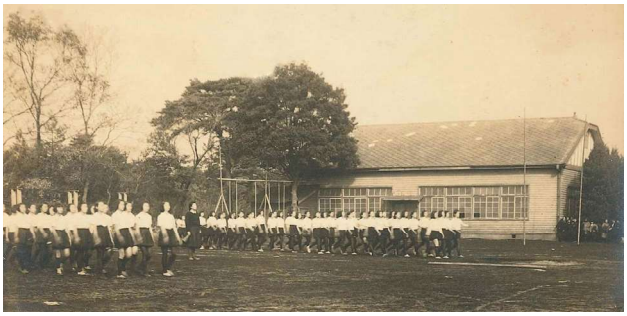
小学校の校舎　井の頭校地（現 小・中学校）　創立～昭和初期



学園創立時の校舎 1924 年（大正 13）
右端は玄関と職員室兼事務室。1 年から 4 年の教室はＬ字型に向かい合うように作られ、大きく張り出した庇の下には外廊下がめぐらせてある。中央の木は 4 人の先生と 21 人の児童によって植えられた「いちょうの木」。後の校舎の建て替えの際に移植され、現在もグランドに佇んでいる。



1927 年（昭和 2 年）音楽教室・美術室が完成（左手前の建物）
その奥に、前年に増築された５～６年用の２教室と、創立時の４教室（1 ～ 4 年用）が続いている。高学年用の２教室は、低学年用より少し広く作られた。



1929 年 小・女・中学校合同の講堂が完成。
講堂の左端に立つかしの木の下には、子どもたちの飼育した小動物が埋葬されている。



玄関と職員室兼事務室
初期の教育研究と経営の方針がこの部屋で凝議された。正門を入るとすぐに目に入る半円状の庇。1958 年に新校舎ができるまで、学園の顔として親しまれた。



教室前の庭
教師と子どもたちが陽光をあびながら、昼の弁当をいただいている。この庭では、学校劇やバザーなども行われた。



教室と本棚（学級文庫）
4 ～ 6 人用の机でグループ学習。各教室の壁には年齢に合わせた本が並べられ、自由に読むことができた。



校舎の裏側と畑
雑木林に囲まれた学園の敷地。畑作など、課外活動が盛んに行われた。女学校の校舎が建築される際、この辺りの畑は縮小されるが、畑作は昭和 10 年代まで続いた。

小・中学校の校舎　井の頭校地（現 小・中学校）　1950 年代～ 2024 年



1956 年 8 月小学校初代ジグザグ校舎〈後列〉6 教室とトイレ完成。



1958 年 10 月ジグザグ校舎〈前列〉 6 教室完成。



1961 年 1 月小・中学校特別教室 7 教室を含む管理棟完成。



1964 年 12 月中学校校舎完成。



1974 年 3 月小・中学校第 2 体育館完成。



ジグザグ校舎右上の木陰に**音楽室**（1975 年完成）、道路に面した東南の角に**総合学習室・マルチパーパスルーム**（1980 年完成）が写っている。1980 年代撮影の鳥瞰写真。



2000 年 9 月小学校新ジグザグ校舎と中学校特別教室棟完成。

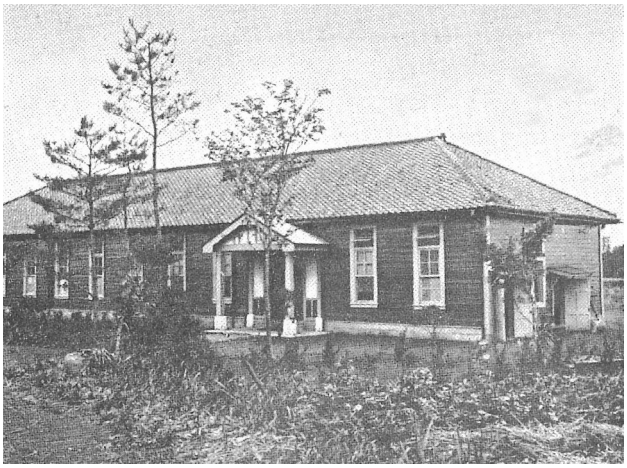


2023 年 9 月撮影の井の頭キャンパス

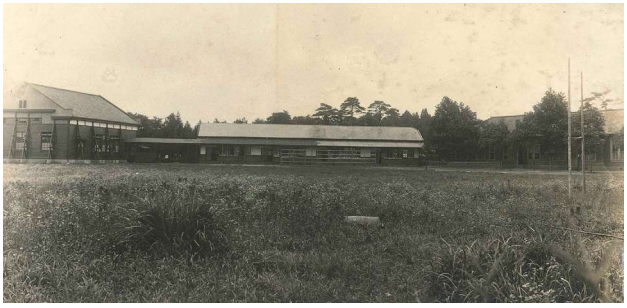


2018 年学童クラブ「すずかけの木」専用の建物完成。

旧制中学・新制中学校の校舎　牟礼校地（現 高等学校）　創立～ 1948 年



旧制中学校開校時の校舎 1928 年（昭和 3）2 月
中学校校地として牟礼の敷地を取得。京橋区が三鷹に所有する林間学校の建物（101 坪）を公売入札で落札し、教室用に移築。



1928 年～ 40 年 次々と校舎が増築された。
1929 年 6 月　旧制中学校に 4 教室（90 坪）、渡り廊下を増築。
1933 年 1 月　教室（45 坪）増築。
1935 年 5 月　グランドに屋内体育場（70 坪）が完成。
1940 年　　屋内体育場の反対側に理科室（52 坪）増築。



1947 年 さらに教室が増築された牟礼校舎の全景
1947 年 4 月　男女共学の新制中学校発足。
1948 年 4 月　新制高等学校発足。井の頭の女学校校舎を新制中学校の校舎に、牟礼の旧制中学校校舎を新制高等学校の専有とし、2 教室を増築。完全に男女共学制となる。



旧制中学校の玄関 1928 年 4 月
玄関前の 2 本の松は授業第 1 日目に桜・楓とともに植樹された。



旧制中学校の玄関 1928 年 4 月
上田八一郎校長と生徒。
右奥の門札は、茶郷基氏の筆。



理科室から望む屋内体育場と校舎

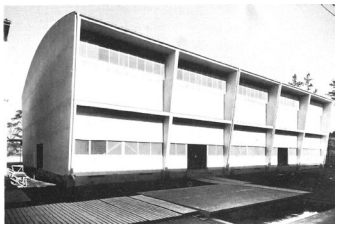


屋内体育場前で軍事教練 1944 年
太平洋戦争終結の前年、グラウンドで軍事教練を受ける 4 年生。

新制中学校・高等学校の校舎 牟礼校地（現 高等学校）1950 年代～ 2024 年

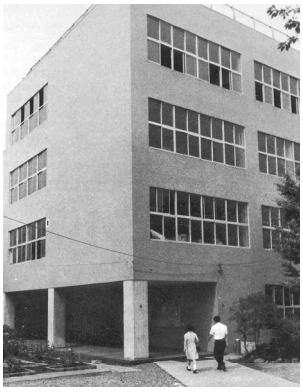






1955 年中学校校舎（完成後、高校校舎となる）を牟礼に建築。
1957 年高校校舎２棟目は１棟目と位置をずらし、彩光に配慮して建築。

1961 年 11 月 高校に**第一体育館**完成。



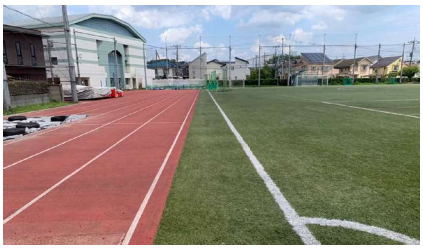
1966 年 3 月 高校**特別教室棟**完成。



1977 年 4 月 高校**新校舎**完成。



1986 年 5 月 高校に**第 3 体育館**完成。



2015 年
高校**グラウンド**、人工芝とターターンにリニューアル。
弓道場完成。



2018 年 4 月 高校生徒増のため、**教室増設**。
2020 年 4 月 高校に**黎明棟**完成。



2023 年撮影の高等学校鳥瞰写真。最新の**黎明棟**と既存校舎の位置関係がわかる。グラウンド左下の細長い屋根の建物は**弓道場**。

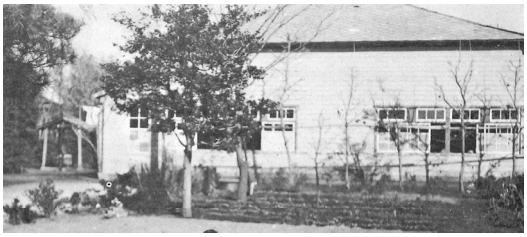
女学校の校舎　井の頭 校地　　創立～ 1930 年代



1928 年（昭和 3）４月 小学校校舎北側に女学校校舎が完成。
校舎前に佇む生徒は１回生。



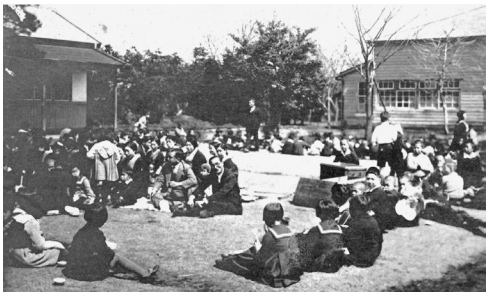
1929 年６月 小・女・中合同の構堂が完成
奥が講堂。右に女学校校舎と前に広がる芝生と花壇。



1931 年５月 女学校特別教室が完成
寄付により、三菱銀行深川支店の建物を移築した。



1930 年代の小学校と女学校の全景
左半分が校庭、中央奥に講堂、その手前に小学校の美術室・音楽室が見える。詳細は右図を参照。



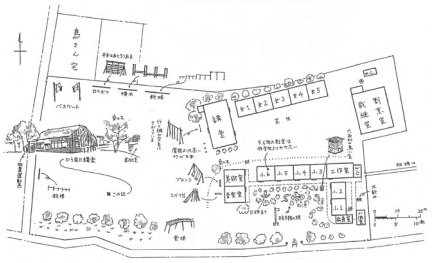
女学校の芝生で１年生歓迎茶話会
中央に座っているのは赤井園長。女学校の芝生は、朝礼はもとより、先生と生徒が昼食を共にしたり、語らい合う憩いの場だった。



1931 年 割烹室
全員の昼食を用意する１回生。
特別教室は、割烹室のほか、裁縫室、理科室、校長室、職員室があった。



裁縫室内は床の間もある畳敷き
小学校低学年の夏期生活などにも利用され、女学生も家事のお手伝いで参加していた。1931 年８月



1935 年ごろの小学校と女学校の全景
記憶を頼りに卒業生が描いた当時の見取り図。

三つの学園寮

軽井沢・上野原寮（沓掛寮）

明星学園にはかつて**三つの学園寮**があり、さまざまな行事に利用されていた。これらの寮の歴史を記す。

※詳しくは『明星学園の年輪―100年のあゆみ』P.86～88、P.180～182、『同90年史』P.227～237、『同60年史』P.24、P.43～45、P.49、P.95～96、P.131～135、P.168～171、P.295～296、『同50年史』P.101～102、P.304～331参照

1930年（昭和5）春
市村今朝蔵氏から学校寮建設用地として、長野県中軽井沢に3000坪（9,918㎡）の土地を寄贈される。周辺の土地も保護者への分譲用に提供され、数件の別荘が建築された。

1930年（昭和5）7月 70坪（231㎡）の寮を建設。二棟つづきの平屋建てだった。
中軽井沢に広がる海抜1,000mの高原。
浅間の山麓まで達する落葉松林に囲まれた沓掛の大地に「上野原寮」は誕生した（年代によっては、「沓掛寮」とも呼ばれた）。

1930年7月25日 小24名、女13名、中23名の60名、教師、保護者も含め、総勢70余名が軽井沢で10日間の合宿を行った。

1950年 児童・生徒数の増加に対応するため、2階建てに増築された。
「上野原寮」は、戦時中の一時期を除き、1930年～1967年までの長期に渡り、小、中、高の山の夏季生活の場として、毎年利用された。

1968年9月 建物が老朽化したため、利用は終了。学園財政難のため、評議員会の承認を得て、800坪（2,645㎡）だけ残し、2,200坪（7,273㎡）の敷地を売却した。

1983年3月 60周年記念行事の一つとして明星会（卒業生の同窓会）の寄付により、平屋建ての寮（317㎡）が新築され活用された。その新寮も老朽化し、現在は利用されていない。



1983年 明星会の寄付により**建築された新寮**



1930年に建築された初代・**平屋建ての寮**



人見進夫先生と生徒作の木彫りの表札（1957年）



中庭の外洗面所兼洗濯場



薪で沸かす風呂は当番制



1950年に増築され**2階建てになった上野原寮**



中庭から見る寮



中庭でフォークダンス



勉強も食事も林の中で



中庭での先生たち



寮を拠点に浅間山周辺や北八ヶ岳へ登山。日帰りや山小屋泊のコースを選択できた



落葉松林の中を白糸の滝や鬼押出しまでサイクリング

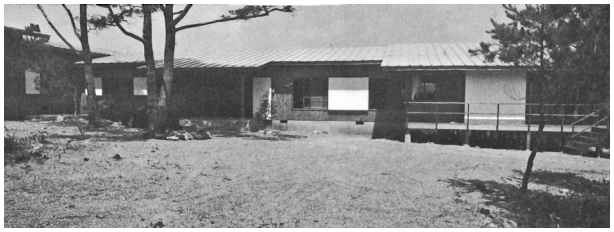
清里寮（八ヶ岳寮）

1966 年（昭和 41）7 月 23 日
山梨県から学校寮向けに貸与された 7,000 坪（23,142㎡）の敷地に明星の 3 番目の寮（566㎡）、「**清里寮**」（八ヶ岳寮とも呼ばれた）が完成。
八ヶ岳連峰の南麓に広がる標高 1,200m の高原、遠くに富士山や南アルプスを望み、四季折々の美しい自然に囲まれた場所だった。
主に小・中学生の登山行事、スケート行事、高校生の合宿など、一年を通して大いに利用された。

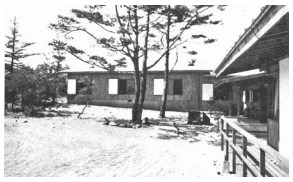
1968 年　浅間山の火山活動活発化、軽井沢寮の閉鎖により、登山行事の拠点は「清里寮」へ移行する。

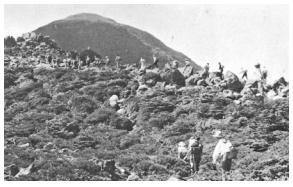
1981 年まで清里寮は学校行事のみならず、教師、保護者、卒業生にも利用されていた。

1984 年 1 月 7 日　漏電による火災で寮は焼失。土地は山梨県へ返納し、「清里寮」は、その幕を閉じた。


玄関を中央に、左が宿泊棟、右がベランダのある食堂 1966 年 7 月


眺めのよい食堂


前庭を囲むように建つ宿泊棟


夏の清里 登山行事の拠点。
天狗岳へ登る中学生

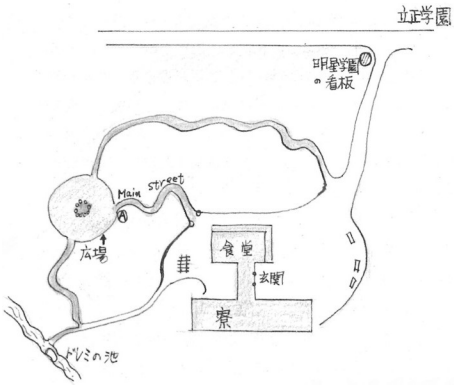

冬の清里 小学生のスケート行事（1973 年まで冬季体育の一環として学校行事だった）

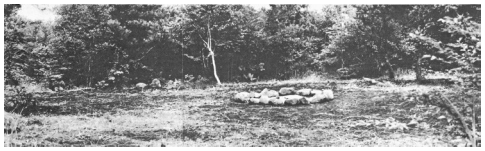
寮・広場周辺略図と写真

卒業生（35 回生）制作


広場から寮を望む


ドレミの池へいたる道




略図の A 地点から見た広場全景


食堂前のメインストリート入口と広場へ至る小径

千倉寮（瀬戸寮）

1936 年（昭和 11）秋 照井小学校校長ほか数名の教師と卒業生が、「海の家」候補地を探し、千葉県安房郡健田村（後の千倉町）にめぐり会う。
1937 年 6 月 健田村瀬戸に生徒の臨海学校場と保護者の別荘村「明星村」の建設を決定。
1937 年 7 月 20 日 4・5 年生が健田村の農家で網元の青木太一氏宅と旅館・朝日屋に分宿して 10 日間の合宿生活。ここから漁業組合事務所や民家などに分宿し、千倉での臨海生活が始まる。
1941 年 7 月 健田村で 2 階建ての売家を 400 円で購入。
1942 年 7 月 前年購入の家を漁業組合事務所の隣に移築したが、戦後まで使えなかった。
1948 年 7 月 21 日 移築した家で 6 年生が 20 名ずつの班に分かれて戦後初めての千倉夏季生活。これ以降、1955 年の夏まで、7 月に 5・6 年生（年によっては 3 年生以上）が班ごとに千倉を訪れ、臨海生活を送った。

1956 年 2 月 青木さんの庭に建物（265㎡）を移築
1956 年 7 月「明星学園千倉寮」（瀬戸寮とも呼ばれる）と命名。布団を購入。5、6 年のクラス、延べ 165 名が 3 週間過ごした。小学生のあと、中学生も臨海生活。その後、毎年、寮での夏季生活は続けられた。

1975 年 7 月 50 周年記念行事として千倉寮の改築工事第 1 期完了。明星学園後援会から千倉寮改築資金として、この年から 10 年間にわたり総額 4,000 万円を寄付される。
1976 年 7 月 改築工事第 2 期完了（715㎡）。2 階建てと 1 階建ての 2 棟。12.5 畳が 10 部屋と大小 5 部屋、間仕切りを取れば教室・会議室にも利用でき、100 余名の収容能力を持つ。7 月の小学校の夏季行事終了後は、父母・学園関係者にも解放し、この夏の利用者はのべ 700 名に達した。その後、毎年の夏季行事、研究会などで利用された。
2001 年 7 月 4・5・6 年生の夏季行事を最後に、**11 月** 老朽化した寮は食堂棟のみを残して解体。学園の三つの寮は、その役割を終えた。

2002 年（平成 14）7 月 19 日 4・5・6 年生が千倉で夏季行事。この年以降、寮から近い旅館・矢原荘を宿舎とし千倉での夏季行事は現在も続いている。


海岸一帯は砂丘上に密生する松の保安林で縁取られていた。


磯では、水泳初心者（赤帽）の練習や生物の採取をおこなった。

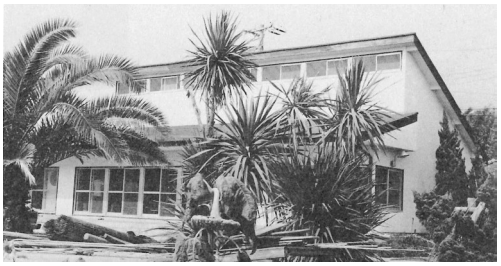



父母への手紙をしたためる 4・5 年生。


1956 年 青木さんの庭に**移築した「千倉寮」**。右端の建物が青木さんの母屋。前庭から畑を抜け、海まで数分の場所。


瀬戸海岸の遠浅の海（波打際より 230m は水深 2m）。波乗りや水泳の練習に適していた。


朝の浜辺をランニング


1976 年 **改築された新寮**。2001 年 7 月まで利用された。

小・中学校、現在の夏季行事

小学校４・５・６年生



波が来た！瀬戸浜の波、最高！



ウツボやカニ発見！
磯の生き物に夢中！



コース別活動では瀬戸浜の
風景をパシャリ！



色別に分かれて海に！
ヒャア！冷たい！

1937 年（昭和 12 年）７月に千倉で 4･5 年生の臨海夏季生活が実施されてから 87 年。現在は、寮の近くにある矢原荘をお借りして、４年生はクラス毎１泊２日、4･5 年生は学年毎２泊３日の千倉の生活を満喫している。４年生は、友達と楽しく海の生活を送る事を大事に活動している。５年生は２回目の千倉。自律的に千倉の生活を送る事と磯の生き物に出会う事を大事にしている。６年生は、小学校生活最後の千倉。コース別活動（釣り、写真、ビーチグラスや貝殻を使っての工作、BBQ、夜の鴨川シーワールド等）も楽しみながら、千倉を満喫する。寝食を共にし自然の中に身を置くことにより、子ども同士、子どもと教師、教師同士が、ぐっと近づくことができる伝統的な行事が、いまも続いている。

中学校７年生



赤岳直下のほぼ垂直の鉄梯子、
一瞬たりとも気を抜けない！



赤岳直下、草木も生えない
ガレ場は慎重に！



赤岳山頂（2,899m）、つらかった登りも
登頂した瞬間、晴れ晴れとした笑顔に。
弁当を食べ、下りは元気に出発！

中学校の伝統行事である「夏の登山」、かつては７年から９年まで全学年で行われていた。現在では７年のみの実施となっているが、引率は学年を越えてほぼすべての教員で支えている。赤岳鉱泉小屋に２泊、教員も生徒も山小屋で同じ釜の飯を食う。といっても、今の小屋のメニューはステーキとビーフシチューが日替わりで、フルーツもスイカとメロンといった贅沢版である。２日目は、引率教員や生徒の状況、天候によって硫黄岳・赤岳を選択してきた。小屋に荷物を置き、少ない荷物のみ、安全第一で実施している。毎年、さまざまな成長のドラマを生んでいる。



硫黄岳の広々とした頂上（2,760m）で
グループごとに記念撮影！

第３部
明星学園と私



とびらイラスト：田辺綾子



田辺 綾子さん（56 回生）プロフィール

綾子さんは 1971 年世田谷区生まれ。
1977 年に小学校に入学し、9 年間明星学園で学んだ。
好奇心旺盛で心優しい子だった。大の読書家で、愛読書はＭ . エンデの『モモ』、Ｅ . ケストナーの『飛ぶ教室』、モンゴメリの『赤毛のアン』、オルコットの『若草物語』など。
また絵を描くのが大好きで、特に彼女の描く子どもの絵は、そのしぐさに子どもの心がのぞくような素敵な絵だった。
私は幸運にも 3 年生から 4 年間担任した。その間贈られた手作りの創作絵本は、今でも宝物として持っている。
卒業後、疾患による四肢体幹機能障害により 17 歳の頃から車椅子生活を送るが、自由の利かない体であっても絵や詩の創作を続け、2012 年、アートビリティ大賞を受賞。『詩人志望』(2011 年)、『コーヒー未満』(2015 年)、『幸せのかたち』(2020 年）という詩集も世に送り出している。
今回、この 100 周年記念誌に絵を使用することについて快くご承諾いただいた。
幼き日の綾子さんを思い出しながら作品の数々を見ていると、あの頃と変わらぬ彼女の優しさが伝わってきた。

一瀬 清



一瀬先生が今も大切にしている田辺綾子さん手作りの絵本

「明星学園と私」によせて

明星学園創立100周年記念誌　編集委員　一瀬 清

明星学園は一貫した建学の理念、「個性尊重」「自主自立」「自由平等」のもとで100周年を迎えた。教師たちは「建学の理念は飾っておくものではない、日々の学校生活の中でこそ生かされていくものである」との思いで教育にあたってきた。学びは断片的知識の詰め込みではなく、課題に対し、自分の意見を持って、人の意見を聞くという探究的・共同的な学びである。そこでは「わからない」という声が大事にされた。学校生活は規則に縛られるものではなく、自分たちで作り上げていくものである。そこでは友だちとのつながりが大事にされた。学生時代だけでなく、生涯の友達になることが自然にできていった。明星学園は自己確立をはぐくむ学園である。

児童文学作家の石井桃子氏はこう言っている。

子どもたちよ
子ども時代を　しっかりと　たのしんでください。
おとなになってから　老人になってから
あなたを支えてくれるのは　子ども時代の「あなた」です。

小学校時代、中学校時代、高等学校時代をどう過ごすかということは、この言葉のようにひとりひとりの生涯に大きな影響を与えることだと思う。

『明星の年輪―明星学園100年のあゆみ』では学校の歴史を通史のように記述してきた。「明星学園と私」では明星で学んだ個々の人がどんな時代を過ごし、そのことが今の自分にどう生かされているのかを語ってもらった。いわば歴史に個のスポットを当てたものである。この個々の体験が加わることによって、明星学園の学校の姿がより鮮明になるとの試みである。

明星を卒業した人は2万人に迫る。そこには2万通りの「明星」がある。楽しかった、救われた、という人もいれば、つらかったという人もいるに違いない。卒業生全員に書いてもらいたかったが、紙面に限りがある。各年代、各分野にわたることを考慮して、卒業生22人、明星関係者3人の方に書いていただいた。

なお残念ながら、本誌の完成を見ることなく、中野光先生、霜田光一氏、馬場洋子氏が2023年に逝去されました。快くご寄稿くださったことへの感謝と、心からの哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈りいたします。

明星学園と私
──赤井米吉先生を中心とした想い出──

教育学者　中野　光

(1) 金沢での縁から

私は東京文理科大学を卒業し、桐朋小学校の教師を数年間つとめたあと、北陸の金沢大学での教師生活を送った。そこで金沢出身の赤井米吉先生について知ることができた。金沢には「赤井米吉ファン」と言われた校長がおられ、しばしばその校長から話を聞いていた。「東京では、赤井先生はまだお元気ですから、一度おたずねになったら……」とすすめられたので、早速上京した折に吉祥寺のお宅に伺った。これを機に親しくさせていただくようになり、赤井米吉著『愛と理性の教育』(1964年平凡社刊) の編集のお手伝いをすることができた。その時に、私は赤井先生から「澤柳政太郎」(元京都大学総長・東北大学総長・最後に成城学園小学校校長──彼は小学校の教師になりたかった) という教育者についても詳しく話を聞くことができた。

(2) ちょうどその頃、私は「両雄並び立たず」という言葉をたびたび耳にしていた。

それは成城小学校における小原国芳と赤井米吉という2人の関係を指して生まれた言葉だった。2人の有能な教師の仲がよくなかったことを指していた、と言われているが、まんざら「うそ」ではなかった。しかし、2人の教師にはそこに「澤柳政太郎」という名校長がいたことを忘れてはならないだろう。1924年3月、赤井をはじめとする成城小学校の4人の教師は小原から離れて「明星学園」を創設した。その創設記念式典が行われる日の朝、澤柳成城学園校長は誰よりも早く明星学園の式典会場に出かけたという。そして10年後、小原国芳は明星学園10周年記念の祝賀会に出席し、涙を流しながら来賓挨拶として「赤井君」と呼びかけ赤井の業績を称えた、といわれている。両者は性格は違っていたが教育者として立派だった。それというのも、間に澤柳という人格者がいたからだった。

(3) 新教育の三きょうだい

私は日本の新教育の歴史を調べてみて、「三きょうだい」という呼び方をしてきたことがあった。それは明星学園、玉川学園、和光学園の3つの学園のことで、いずれも成城小学校から誕生した個性的な学園だったからである。明星学園は大正期 (1924年) の創立だったが、次は玉川学園 (1929年)、それから和光学園が1933年に誕生した。

そのなかで私が知るかぎり、和光学園と明星学園とはいちばん関係が深かったのでは、と思っている。

和光学園は戦前にいちばん小さな学校だった。戦争中にこの学校の経営責任を担当していた弘重モミは5人の女子児童を連れて長野県に疎開した。その時の苦労は筆舌に尽くし難かったという。敗戦後、残ったわずか5名の児童を和光学園生徒として学園の再出発を期する自信は持てなかった。弘重モミは、自分の息子が在学している明星学園の校長赤井米吉に、息子を通して自身の苦衷を伝えた、という。赤井は「お母さん、もうひとがんばりしましょう」と励ました、ということである。和光の戦後は明星のおかげで再生の道をたどることができた。

(4) 私は赤井先生との交流を通して断片的に明星学園については知っていた。赤井先生からは戦前のドルトン・プランのことなどを詳しく教えてもらった。翻訳者赤井先生自身はこのプランに批判的であった。(詳細については「梅根悟校閲・世界教育選集80巻・赤井米吉訳・中野光編『ドルトン・プランの教育』〈明治図書出版〉) 1974年赤井先生が死去された時、明星の高校から「故赤井先生について生徒たちに講演をしてほしい」という依頼があった。私は高校生を対象に話をした経験がなかったので困惑し、自信が持てなかったが、勇気を奮って出かけた。全校生徒を前に話し始めたところ生徒たちは大変熱心に聴いてくれた。終了後には大きな拍手をしてくれ、退室するときも拍手で見送ってくれた。私の話が感動的だったからではない。生徒が、自分

たちが学んでいる学園の創立理念とその苦難の歴史を知ったからであり、赤井が追求した真実なるものが生徒たちの心を動かしたからなのだ、と思った。

(5) 2014年に『明星の年輪―明星学園90年のあゆみ』(1924年～2014年・443ページ) を明星学園・出口一彦氏の名でいただいた。これを読了した時の感動は今でも忘れられない。出版にそなえて全学的な準備が進んでいることは知っていたが、これほど立派な90年の学校史が完成するとは想像することはできなかった。この90年史は恐らく日本の学校史のモデルとして高く評価されるに違いない。

執筆の先生方はこの書を書くために大変な努力・研究をされたに違いないと思われた。この学校がなぜできたか、いわゆる大正デモクラシーの時代背景を子どもたちの立場に立って生き生きと描いていた。そして、この学校が公的に縛られる公立でなく、そして個人の思想に縛られ易い私立学校でなく、日本の未来をつくる社会の一教育機関である「社会立」の学校であるという赤井たちの学校観も確認できた。

その創設期の赤井たち4人・後援者たちの紹介、当時の子どもたちの姿もいきいきと描かれ、父母たちの協力も具体的な姿で登場している。

総ページ443からなる本書は5つの章から成るが、実に「読み応え」がある内容だった。多くの筆者の努力に深い敬意を感じた。恐らく国際的にも高い評価が得られているに違いない。何よりもこのような学園に学んだ人たちは自らの選んだ道に誇りを感じとっているに違いない。

(6) そして今回、明星学園創立100周年記念誌への原稿を依頼され、感慨深い。

思えば、明星学園創設の折、赤井は日頃たしなむ短歌で、その喜びと希望と覚悟とを詠んだ。

　たそがれの　そらにきらめく永劫の　国のしるべよ　とはにかがやけ

時代は大正デモクラシーの退潮期・「たそがれ」であった。その後には日中戦争・太平洋戦争と続き、経済的困難とも戦わねばならなかった。しかし明星は暗い夜空に「きらめき」つつ1974年に創立50年を迎えることができた。その喜びの日の直前、赤井はその一生を閉じた。

遺稿集『この道』にも「この道や永劫の道天高く」という句が残されていた。明星学園の教育改革への道は時代の変化の中で苦しみつつ、喜びつつ継承され、これからも天高く続いていくことを願っているに違いない。

そして、学園は今ここに100年を迎える。

【プロフィール】

中野　光（なかの あきら）

1929年愛知県生まれ。1958年東京文理科大学を卒業。桐朋学園中学・高等学校で数学教員として教えた後、初等部開設の中心的役割を果たされる。その後金沢大学、和光大学、立教大学、中央大学の教授を歴任。大正自由教育研究では多数の著作を発表。明星学園創立者の赤井米吉とも親交が厚く、何度も明星学園で講演してくださいました。



自由な発想と創作の日々

6回生　霜田　光一

私は1927年（昭和2）に明星学園小学部に入学した6回生です。

小学2年生の頃から、鉱石ラジオを作って1925年に放送を開始したばかりのラジオを聞いたり、豆電球を風車で点滅させる工作をしていました。4回生の担当教師だった父、霜田静志は『芸術を基調とせる低学年の教育』を提唱し実践していて、私のこのような自由な工作を奨励していたのだと思われます。小学4年生の頃からは、模型飛行機を作って飛ばしたり、ブリキ板を1枚ずつ切り抜いて重ねて作ったモーターで走る電気機関車まで作りました。

1933年（昭和8）に中学部に進んだ頃、国産で傍熱陰極の真空管が発売されましたが、メーカー製の交流式ラジオ受信機はまだ発売されないで、街のラジオ屋の注文生産でした。そこで私は木板の上に真空管とコイルとバリコンなどを並べた受信機をつくって家族にラジオを聞かせました。そして学業の予習復習はそっちのけで鉄道模型の考案と製作に没頭していました。明星の教育はそれを許して生徒の自由にさせていたのです。とくに理科の多湖実輝先生は、積極的に私たちの独創的研究を奨励し、指導してくださいました。

まず製作した35㎜ゲージの蒸気機関車は、電熱のボイラーで蒸気を発生してその蒸気でピストンを動かして走るという独創的なものです。これが完成するまでには2年余りかかりましたが、その完成前から、モハ40型模型電車の構想を練っていました。

この電車は1方向に走るだけでなく、リモートコントロールで逆方向に走れるのです。当時は専門家でも無線操縦（ラジコン）はできませんでした。私の電車は20ボルトで走行し、4ボルトでは電灯がついたまま停止し、6ボルトにすると逆転スイッチが回って逆方向のヘッドライトが付くので、次に20ボルトにすると逆走して帰ってくるのです。最初はドアエンジンまで作ろうとしたのですが、時間もないので止めました。

当時、映画館では35ミリの映画が上映され、アマチュアには16ミリの映画がありましたが、カメラもフィルムも高価でした。パテー（仏）で発売した9.5ミリの映画はフィルムだけなら手の届く値段でした。そこで9.5ミリ映画フィルムの撮影機と映写機を自作する方法を考えて、1938年の中学卒業までに完成しました。1巻10メートルの映画を数巻撮影しましたが、残念ながら第2次世界大戦のためフィルムの供給は途絶えてしまいました。

卒業後も2年間ほど毎月1回土曜日の午後、卒業生の混声コーラスに参加していたことも懐かしく思い出しています。明星は私の心の故郷です。

【プロフィール】



6回生　霜田 光一（しもだ こういち）

1920年生まれ。小・中学部（旧制）の11年間を明星学園で過ごし、旧制武蔵高等学校を経て東京帝国大学理学部物理学科を1943年に卒業。大学院特別研究生になり海軍のマイクロ波レーダーを研究。戦後、マイクロ波分光学の実験を始める。1954年、コロンビア大学でメーザーを研究。60年代に入り、世界的にレーザーの研究がさかんになる中、主としてレーザー分光学の研究を開拓。その頃に知り合った研究者や教えた若手の中から、その後ノーベル賞の授賞者が10人以上も出ている。

メーザー・レーザーの研究とは別に、共著者の一人として大学物理の教科書、高校物理の教科書、小・中学校理科の教科書も執筆。大学を退職後はボランティアとして科学博物館などで、子どもたちに科学的な考え方や実験の楽しさを伝えている。

1981年東京大学名誉教授。2002年日本学士院会員。1974年東レ科学技術賞受賞。1979年米国光学会C.E.Mees Medal受賞。1990年勲二等瑞宝章受章。2000年文化功労者顕彰。

女学校生活と平和への願い

13 回生　馬場　洋子

昭和 15 年（1940）に公立の小学校から明星学園高等女学校へ入学しました。94 歳を迎える今も、明星で過ごした日々の思い出が鮮明によみがえってきます。

まずは楽しい思い出からです。当時の女学校は一日六時限の授業があり、主要教科は数学（代数・幾何）、理科、歴史、地理、国語、英語で、裁縫と割烹（料理）の授業もありました。この割烹の授業がとても楽しい良き思い出です。

入学してすぐにご飯を炊くこと、お味噌汁をつくることを習います。桜御飯という桜色に染めたご飯を炊きました。割烹室の向かい側に畳の裁縫室があり、そこに 3 人ほどが座れる細長い食卓と座布団をたくさん並べます。女学校の先生がた 7・8 人をご招待して、お昼にそろってそこで試食をするのです。

「ご飯はお味のついた桜御飯でございます。お豆腐と油揚げのお味噌汁、それとお漬物です」などと、担当する生徒が料理を説明します。1 学年が 1 クラスだけで 30 人ほど。賑やかなおしゃべりと楽しい試食の時間でした。ただ戦争で食料事情が悪くなるにつれて、割烹の実習ができなくなり、献立のプリントが配られて調理をイメージするだけになりました。

青木ふみ先生のロンドン仕込みの発音が美しい英語の授業、末綱卓一先生の「美しき青きドナウ」「流浪の民」などを合唱した音楽の授業、いずれも待ち遠しい授業でした。

一方で辛い思い出もあります。

女学校は 5 年制でしたが、3 年生までしか授業が受けられませんでした。戦況の悪化が原因です。吉祥寺には空襲警報が鳴り響き、焼夷弾が落とされました。近辺に軍需産業の中島飛行機や横河電機があったので米軍に狙われたのです。疎開する人が増え、国から勤労動員の命が下り、女学生も工場に動員されて授業どころではなくなってしまったのです。

学校工場といって学校のなかに工場から旋盤などの機械が運び込まれました。そこで飛行機の部品をつくりましたが、次第に青梅線昭和前駅の昭和飛行機の工場へ通うようになりました。大人に交じって女学生が懸命に作業をするので、かわいそうに思ったのか、工員さんは優しく接してくださいました。

栄養状態が悪く皮膚が化膿してしまい、浴衣の生地を包帯の代わりに巻く、そんな死にたくなるような状況でしたが、恩地邦郎先生が心配して「こういうご時世では自分で自分の身体を守らないといけないよ。明日から工場は休みなさい」といってくださいました。戦時中でも明星の先生は生徒の命を第一に考えてくださったのです。

昭和 20 年（1945）3 月、戦時中の卒業は修学旅行も謝恩会もありません。戦争は子供たちも理不尽に巻き込んで犠牲にします。明星のことを思い出すたびに、楽しい学園生活が奪われたあのような時代があってはならないと、戦争への憤りと平和を願う気持ちが強く湧き起こってきます。

【プロフィール】

13 回生　馬場 洋子（ばば ようこ／旧姓・志村）

1927 生まれ。1940 年 4 月明星学園高等女学校入学。1945 年 3 月卒業。明星での演劇部活動をきっかけに演劇を志し、1946 年東芸（東京芸術劇場）付属演劇研究所へ入所。昭和 20 年代には劇団民藝で女優として活動。「女子寮記」（1948）に主演、「林檎園日記」（1947）「たくみと恋」（1948）などに出演。長女は 39 回生、次女は 47 回生。明星 PTA のコーラス部員として 2023 年まで活動。



マングローブとヒマラヤと
―原点は明星学園だった

25 回生　向後　元彦

こんな作文を憶えている。「ぼくのおうちはおおきいな／いつでもあばれてあそべるよ／ゆうはんははやいよ」。戦後すぐ、だれもが貧乏、食べ物にも困っている時代だった。なのに、なんたるノーテンキ、でも幸せだったんだなぁ。

小学校の作文がいまも記憶にあるのは、担任の鈴木満男先生に褒められたからにちがいない。よほど嬉しかったのだろう。ちなみに先生は、戦後はじめて芥川賞候補になった文学青年、と後に聞いた。

ぼく自身作家になろうと思ったことはない。それどころか、人生どこにおいても、行き当たりばったり。でも興味がひかれるとこだわりをもち、熱中した。明星では蝶々採り・土器ひろい・美術だった（今でも好きだ）。

蝶を追う小さな冒険は、やがて山登りに進化する。そして深田久弥『ヒマラヤ、山と人』と出会い、ヒマラヤの虜になった。大学山岳部入部―穂高岳・剱岳・谷川岳の岩壁を攀じ、厳冬期北アルプスの極地法登山を経験する。だが、ときは 1960 年代初め、日本は「鎖国状態」。山岳部でいくら頑張ってもヒマラヤへは行けない。悩みに悩む。結果、京大の事例を知り、探検部の設立にいたる。

一途な思いは天につながる。杉野忠夫教授。財界・官界につうじる先生の理解と絶大な支援のもとに 1 年余のヒマラヤ放浪が叶った。

つぎなる人生を一変させた活動、38 歳のときである。アラビアの海岸でマングローブを育てようとした。「非常識への挑戦」といわれる。が、10 年後、試みは成功した。ユネスコや UNDP（国連開発計画）からも評価され、活動は地球規模に広がる。生物多様性・温暖化（気候危機）など地球環境問題との関係もできてくる。

マングローブは蝶々採り・ヒマラヤと同列、未知に対する好奇心の発露である。当然、対象が大きくなれば、より厳しい困難がついてくる。なかでもお金の問題……。アラビアのマングローブ事業では“株式会社 砂漠に緑を”を設立する。山・探検仲間が株主、（数回にわけて）資本金は 1,000 万円になる。でも充分ではない。フィールドは世界一物価が高いアラビア産油国なのだ。社長（ぼく）に給料を払う余裕はない。妻＋幼い娘 2 人、どうやって食べていくのか。

ぼく自身は貧乏に対する耐性があった。中学 1 年のとき、父親が経営する会社が破綻、わが家は極貧の奈落におちた。狭い間借り部屋へひっこし、長男のぼくは叔父や叔母の家に預けられたりもした。明星の月謝も滞納したに違いない。そして中学 2 年の 6 月、明星を中退する。

明星を離れる日、同級生 43 名のサインが記された高価な本をいただく。欲しかった『原色日本蝶類図鑑』（保育社）だった。皆が別れを惜しんでくれた。

明星学園が 100 歳になるときぼくは 84 歳、やりたいこと、やるべきことはまだ多い。

【プロフィール】

25 回生　向後 元彦（こうご もとひこ）

1940 年生まれ。大学時代、探検部を設立。1962 ～ 63 年ネパール、以降世界が舞台となる。1978 年からの「マングローブ」はライフワーク。著書：『一人ぼっちのヒマラヤ』（ベースボールマガジン社）、『緑の冒険―沙漠にマングローブを育てる』（岩波新書）など。受賞：Rolex Awards for Enterprise（スイス、1987）、日経環境技術賞（1994）、大同生命地域研究特別賞（1998）、Worldview Climate Prize（ノルウェイ、2019）など。サラリーマン経験は 2 年弱の JETRO だけ。



想いを紬ぐ

25回生　佐々木　苑子

ある晴れた夏の朝、北海道釧路市の高台にある母の実家の庭はタンポポが咲き乱れていた。

その日は朝から大人たちの立居振舞いに緊張感が満ちていて、子ども心にも声をかけてはいけない朝だった。正午の時報と共にラジオから重く低い音声が流れると、正座している大人たちの手の甲に涙がしたたり落ちるのが見えた。昭和45年8月15日、玉音放送がラジオから流れた日のことである。

父は私が2歳の時、第二次世界大戦に7年間従軍し、中国大陸から南方のニューギニアまで転戦した。終戦と同時に病院船「橘丸（たちばなまる）」に通訳として乗船し舞鶴港に帰国した。

母に「これがあなたのお父さまよ」と云われて7歳になっていた私は初めて見る軍服姿の父を見上げた。その後父は毎日新聞記者として復職し、豊かな記者生活を歩んだ。

小学校を北海道釧路市、弟子屈温泉（てしかがおんせん）、広島県三次市（みよしし）、東京杉並第二小学校と転校した。教科書も方言もそのつど変わることになじめない私を見かねて、自由教育一貫校の明星学園に入学させてくれた。

母のこの選択がその後の私の生き方を決定した。個性を尊重し研磨し開花させる校風に私は生き返った。

雨の日も雪の舞う朝も井の頭公園の池に架かる石橋を渡って通学した。四季の移ろい、水しぶきをあげて泳ぎ回る「かいつぶり」、雪の舞う朝は中谷宇吉郎（なかやうきちろう）の云う「雪は天からの手紙である」を彷彿とさせた。

自然の豊かさに五感を養われ、明星は私を感受性ごと、原石のままで置いてくれた。これが一番有難かった。

高校生活では、山岳部とバスケット部に入部した。放課後、涼風の吹く黒土のグランドで練習に夢中になり汗をかく快感を覚えた。

田中一水先生、村崎洋先生の引率で北アルプス、南アルプス、白馬岳などを縦走した。

夜、テントから見上げる漆黒の夜空に光る星々の煌めき、鋭く光る流れ星の記憶は今、絵絣紬織（えかすりつむぎおり）の着物に織り込まれている。

角舘喜和先生、岸すみれ先生に捧ぐ





【プロフィール】

25回生　佐々木 苑子（ささき そのこ）

中学・高校と明星学園で学ぶ
1965年　3年間静岡県の手織紬工房で技術を学ぶ
1969年　杉並の自宅に織物工房を設立
　　本格的な創作活動を開始
1972年　第19回日本伝統工芸展　初入選
1975年　第22回日本伝統工芸展　日本工芸会総裁賞受賞
2001年　第48回日本伝統工芸展　東京都知事賞受賞
2002年　紫綬褒章受章
2003年　第50回日本伝統工芸展　第50回展記念賞受賞
2005年　重要無形文化財「紬織」保持者に認定　特別賞受賞
2006年　日本工芸会染織部会長　日本工芸会常任理事
2009年　旭日小綬章受章
2015年「人間国宝　佐々木苑子―絵絣紬に生きる―」
　　群馬県立近代美術館にて着物・帯70点あまり展示
　　（50年近く重ねられてきた創作の全貌を紹介）

続・わたしの明星＝故郷（ふるさと）

30 回生　小平　稠

2019 年 7 月に発行された「明星と私」(「輝け！明星学園」の会が発行した文集）に、レイメイ～　シモニヒカルミョウジョウ～……この行進歌が私にとって明星そのものである、として想い出の駄文を綴ったが、今回はその続きである。

小学校 6 年間、クラス替えがなく「藤組」であったが担任は 2 年毎に替り、1・2 年は広川孝先生、3・4 年は佐々木玄吾先生、5・6 年は岸いわお先生であった。この 3 人の先生や他の先生方には怖いという感じは全くなく、我々生徒と同じ目線で見てくれた。しかし、校長の照井猪一郎先生は別格で威厳そのもので、とても怖かったのを覚えている。廊下に土足で上って雷を落とされ、雑巾で拭かされたこともあり震え上がった。先生がお休みの際に照井先生（校長先生とは言わなかった）が授業をされたが、子供心に面白く聞き入った。それは日本の神話である。

イザナキとイザナミの二神が海を掻き回して大八洲（オオヤシマ）（日本列島）を造った話。この二神の子が天照大神（アマテラスオオミカミ）、月読命（ツキヨミノミコト）、須佐之男命（スサノオノミコト）である話。天照大神が天の岩戸に隠れ、一寸外を覗いた瞬間に手力男命（タヂカラオノミコト）が岩戸を投げ捨て、その岩戸が地面に落ちた所が信濃国戸隠ヶ嶽（戸隠神社）である話。須佐之男命と櫛名田比売（クシナダヒメ）との恋、八岐大蛇（ヤマタノオロチ）を退治して十束（トツカ）の剣（ツルギ）（草薙（クサナギ）の剣（ツルギ））が出てきた話。大穴牟遅（オオムナジ）が火に囲まれて地下空洞に落ち、ネズミから矢を渡され脱出できた話、等々いろいろな話をしてくださった。

今にして思えば、昭和 20 年代は戦前の教育の反省もあり、神話を話すことも以ての外という雰囲気の中で、神話を授業で生徒に聞かせる校長がいる学校はおそらく明星以外になかったのではなかろうか。そこに時流に押し流されることのない明星学園の自由な雰囲気を感じる。最近、古事記・日本書紀を読む機会があったが（勿論現代文であるが）、照井先生がどのようなお考えで我々生徒に聞かせてくださったのかは解らぬが、改めて想い出した次第であると共に、日本の歴史を神話と史実とを照らし合わせて読み解くことも大切ではなかろうか。

【プロフィール】

30 回生　小平　稠（こだいら しげる）

明星小を卒業し成蹊高校、学習院大学に学び、商工中金に勤務。退職後は老舗大手の宝石卸の（株）みつわに勤務。大学時代は法学部に在籍し憲法を専攻したが、それ以上に熱心に取り組んだのが弓道。現役時代にはゴルフにも勤しんだがリタイアして弓道を再開し、現在は日本スポーツ協会の公認指導員、学習院弓道部、哲学堂弓道場で後輩の指導にあたっている。
3 つの学校のコセコセしない環境で育まれた若干競争心に欠ける性格が私の人生をそれなりに形作っており、プラスに作用していると思っている。



想い

36回生　川口　ゆり子

明星学園100周年おめでとうございます。

私は高校の3年間お世話になりました。私のバレエの恩師・牧阿佐美先生、そして大原永子さん、豊川美恵子さん、武者小路有紀子さんなどの先輩の後を追い明星学園に入学いたしました。まもなくしてこの学校の皆さんはよくおしゃべりし、部活も活発で自信を持った個性豊かな人たちが沢山なのだと感じました。子供の頃から夢中でバレエをやっていた私は、学校ではバレエとは別に皆さんと一緒に揃い、おとなしくしていなくてはいけない中学生活を過ごしていました。しかし高校生になり、明星学園の皆さんの個性あふれる様子を見て、自分も日々の感情を前に出してよいのだと思うようになりました。

その頃バレエ界では海外から素晴らしい先生方が来日され、日本のバレエを高める為に指導してくださる時代でした。バレエ団の方針もこのようなチャンスはないとのことで、私にも午前中のプロクラスを受けるようにと指示があり、3、4時間目の授業を休むことになりました。学校側も先生方も理解してくださいましたし、友達もみんな協力してくれました。この3年間の学校生活は私のバレエの一生の土台をつくってくれた日々として、学校に感謝の気持ちでいっぱいです。卒業後はニューヨークへ留学し、現地でコンサートを開いてくださいました。18歳の時です。帰国後、国内や海外でも沢山の舞台で踊りました。

一生の仕事としてバレエがあります。そしてそれを理解してくれ、今でも私を応援してくれている明星学園時代の仲間がいます。このような人間関係を作ってくださった学校、私の人生の中で本当にありがたく、明星学園万歳です。これからも個性豊かな生徒さんが頑張って前を向いて進んで下さることを願っています。

【プロフィール】

36回生　川口 ゆり子（かわぐち ゆりこ）

1963年橘バレエ学校卒業後、牧阿佐美バレエ団入団。
69年ニューヨーク留学。帰国後、牧阿佐美バレエ団のプリマとして海外のバレエ団にも客演。89年バレエシャンブルウエストを設立しプリマとして活躍するほか、後進の育成にも力を発揮している。
芸術選奨文部科学大臣新人賞　舞踊評論家協会賞
橘秋子賞優秀賞　服部智恵子賞　石井漠賞　指導者大賞
橘秋子特別賞　芸術大賞　芸術祭優秀賞
平成17年度芸術選奨文部科学大臣賞
平成18年紫綬褒章　令和2年度第68回舞踊芸術賞受賞



Myojo & Myself

36 回生　塚原　芙美

6 歳の頃、私の両親は保谷という当時は未だ森の中だった場所に引っ越しました。両親とも音楽家で、母は近くにある自由学園でチェロを教えていました。その関係で小学校は自由学園を受験しましたが、母親の面接で失格。母は校長先生から「貴女のようなお考えの方には明星学園しかありません。」と言われ、早速私を連れて明星へ行ったそうです。

入学試験はすでに終わっていましたが寒川先生が特別に面接をして下さり、入学できることになりました。これが私と明星の出会いです！

数日後、私は生まれて初めてのハガキを受け取りました。岸いわおというお名前で「今度ふみちゃんと一緒のクラスになるのでよろしく」という内容でした。とてもきれいな字で、そのハガキは大切に保管していました。母はこんなにいい子が一緒で良かったと喜び、初の登校日に担任の先生に「岸いわおちゃんってどの子ですか？」と尋ね、先生は真っ赤になって「僕です……」とおっしゃったのを今でも覚えています。こうして私の明星での生活が始まりました。

たまたまそのクラスの父兄には母の女学校時代のお友達の姿があり、家も近い事がわかり母親同士は喜び、S ちゃんと私は毎日手をつないで登下校をするように言われ、学校の帰りには井の頭公園で楽しく過ごしました。

3 年生になった時に弟が 1 年生に入学しましたが、間もなく保谷から港区六本木へ引っ越すことになりました。1 年生の弟は渋谷駅の乗り換えで迷子になり、警察から息子さんを保護しているとの連絡がきました。母が迎えに行き、そこで「1 年生の子供を一人で電車通学させるのは無理」と言われ、早速弟と私を近所の公立の小学校に転校させました。それは私にとっての暗黒時代でした。明星とは違い男子は偉そうに威張っていて、女子からは遊びが違うと仲間外れにされ、給食の臭いに耐えられず涙が出てしまい、脱脂粉乳が飲めずこっそりとパンに染み込ませカバンにしまうという辛い日々でした。休み時間に給食費が抜き取られてしまい職員室へ行ったら逆にお辞儀をして入らなかったと叱られてしまった。明星の職員室は私にとっては安全地帯だったのに……。毎晩ベッドで一人泣いた日が続きやっとの思いで勇気を振り絞って父親に明星に戻りたいと伝え、めでたく 4 年生の時に明星に戻ることができました。初日は担任だった伊東先生が井の頭公園駅で待っていてくださり手をつないで学校までみんなと一緒に楽しく歩いて行ったのを今でも覚えています。

その後も明星での楽しい思い出はたくさ〜んあります。千倉で赤帽だった私に千倉への引率依頼が来たり、教育実習をさせて頂きしばらくは代理教員をしたり、卒業後の今でも川手先生の歴史講座に参加したり、明星との関係は続いています！

【プロフィール】

36 回生　塚原 芙美（つかはら ふみ）

明星学園小学校入学、同中学校卒業／米国 Friends'Central School 編入 / 帰国後 American School in Japan 編入・卒業 / 聖心女子大学入学・卒業（Humanities in English 専攻）/ 米国万国博覧会日本館 Official guide/ 聖心女子大学 教授の副手、企画・広報部、Media Center のスタッフを務めながら同大学で英語教員免許状取得 /Relocation Consultant（プラザ・ホームズ、コンサルジャパン、オールジャパンリロケーション）/ 医療通訳英語試験合格 / 東京都外国人おもてなし語学ボランティア / ラグビーワールドカップ 2019 ボランティア / 通訳：国際会議（日本コンベンション・サービス）、アメリカ大使館農務局 / メディフォン電話医療通訳等 / 英語講師：明星学園中学校、川崎市成人学校、東京ヴァイオリン製作学校、聖路加国際病院、馬込幼稚園、日本 Rational Software 社等



明星とのやくそく

40 回生　松居　和

明星と、つながっている。

先日、保育園で講演後、保護者会長さんに「小風さんは、松居先生の妹さんですよね」と訊かれた。そうですよ、と答えると、「小学 1 年生の国語の教科書に、『やくそく』という話を書いているのをご存知ですか？」と言う。

すみません、知りませんと答える。「とてもいい話です、今度先生たちの集まりで研究会をやるんです」。あおむしが 3 匹でてきて喧嘩をしていたら、木に怒られて、てっぺんまで登るときらきら光る海が見えて、いつか一緒にそこまで飛んで行こう、とやくそくする、という話です、と熱心に語ってくれた。

妹は絵本作家ですが、1 年生の国語の教科書というのは、格別です。

帰って電話で、教科書に話を書いたか、と訊くと、書いた、書いた、というのです。保護者会長が研究会をすると言ってたぞ、というと、ゲタゲタ笑って、「研究されちゃうんだ」とか言うのです。

ネットを調べると、このお話でどう授業をやったか、という映像まで載っている。深い、いい話で、これは研究されるかもしれない、と頷きました。

そして、寒川道夫先生を思い出したのです。

妹が、神と言う、小学校の担任で国語の先生だった寒川道夫先生が、ほっぺたを膨らませ喜んでいるに違いない。あの伝統が受け継がれている。授業が子どもたちの人生を介し、生きていくんだ、と思いました。

私の 5、6 年の担任は、後に自由の森学園を創った遠藤豊先生で、理科の授業で染み込んだ、囚われず自分で考える、という姿勢が今でも私の芯にあります。

自由の森学園を遠藤先生が創った時、私は、教育に自由という言葉を使う解釈をめぐって先生と激突したのです。それでも、先生は私に創設直前の教師たちに講演させた。自分の理科の授業が、この天敵をつくったと知っていたはず。最初の入学式で尺八の演奏を頼み、次の年、生徒たちにも講演させた。「自由」という言葉の危うさとまやかしについて生徒たちと夕暮れまで話し合いました。担任がフィールドを与えてくれたのです。

アメリカという国を見て、義務教育の危うさ、0、1、2 歳児の存在意義が忘れられていく流れに気づいたのも、4 歳児が一番完成している人間、と思い始めたのも、あの理科の授業があったからだと思います。遠藤先生は、師であり、同志であり、いつまでも私の担任です。寒川先生が、妹にとって神であるように。

「やくそく」は続いていく。

明星の敷地には、創った人たちの「動機」が子どもたちの歓声に包まれて宿っている。私にとって校長先生は照井先生の威厳のある歩く姿であって、音楽の先生は 1 年生を嬉しそうに迎えるおげん先生です。永遠に。

【プロフィール】

40 回生　松居　和（まつい かず）

音楽家、執筆家、元埼玉県教育委員長。慶応大学哲学科からカリフォルニア大学に編入卒業。アルバム制作の傍ら尺八奏者として多数のアメリカ映画に参加。制作、監督したドキュメンタリー『シスター・チャンドラとシャクティの踊り手たち』がヒューストン国際映画祭で金賞受賞。日本で教育関連の講演を続け、朝日新聞「私の視点」文芸春秋「日本の論点」内閣府「論究」などに執筆。著書に『家庭崩壊・学級崩壊・学校崩壊』『なぜ、わたしたちは 0 歳児を授かるのか』最新刊『ママがいい！』など。



人生の根っこ

46 回生　田下　隆一

明星学園高等部を卒業して早 40 年以上になります。

現在は埼玉県の小川町で有機農業を営み、農業歴は現在で 40 年になりました。6.5ha の田畑を耕作して、すべて無農薬無化学肥料で栽培しています。

年間 80 種以上の野菜が主で、米、麦、大豆も栽培して、小麦は乾麺、大麦は麦茶、人参ジュース等の加工品も販売しています。市場への出荷はなく都内のレストラン、自然食品店、販売店、一般家庭に直接販売しています。明星学園関係の方にもお世話になっています。

現在、有機農業は日本の農業のなかの 0.5％で、とてもマイナーな農業ですが、EU では化学肥料の地下水汚染や農薬の生態系への影響、堆肥などを畑へ投入することによって CO_2 を減らせるなどの理由から、持続可能な開発目標 SDGs に基づき 2030 年までにすべての農地の 25％を有機農業にする方針を立てました。

日本でも 2050 年までに農地の 25％を有機農業にしていくと農水省が決め、そこに向かって動き出しています。

私も最後まで現場で関わりたいですし、有機農業が何年か先には日本の農業の主流になるよう努力してゆきたいです。

東京で生まれ、農業と全く関係ない家庭で育った私の農業への思いは、明星で過ごした 6 年間に育まれたのだと思います。教科書のなかにあるものを教えられるのではなく、さまざまなことを選び取って学んでいくことを覚えました。学校で机の上だけの勉強をして農学部に入っていたら、今までずっと農業の現場にいるようなことになっていなかったとも思います。

いろいろなことを学ばせていただき、仲間と歩んだ 6 年間が自分の人生の根となり大きく育ってきました。

これからも根っことなる大事な時期の子どもたちが、自分の手で道を見つけていき、それぞれの花を咲かすように、先生方と関係者の皆さんがご指導くださるよう願っています。



【プロフィール】

46 回生　田下 隆一（たした りゅういち）

1960 年生まれ。埼玉県地域指導農家理事、株式会社風の丘ファーム代表取締役。東京での生活で農業に憧れ、高校卒業後、北海道の牧場で研修の後、東京でサラリーマンをするが農業をあきらめきれずに、小川町の霜里農場で研修。翌年小川町で就農、2008 年には法人化し株式会社風の丘ファームを設立。露地野菜年間 100 品目、米、麦、大豆を栽培、飲食店、一般家庭に農産物、加工品を直接出荷している。

自由が道をひらく

48 回生　山見　浩司

私は 48 回生で 1981 年卒業です。

私は中学 2 年生の時に公立の中学校から編入し、明星学園の門をくぐりました。編入前に学校の見学に訪れた際、生徒の服装の自由さにびっくりしたのを覚えています。ずっと詰襟の制服だった私は果たしてこの環境下でみんなの輪に入れるのだろうかと不安がありましたが、数日間クラスのみんなと過ごす内にその不安はすぐに消え去りました。

クラスの雰囲気は生徒と先生が友達のように接し、あだなで呼んで、気兼ね無く先生に質問を投げかけたり、時にはふざけあったりと今までの公立の環境とは正反対のようでした。すぐに友達もできて毎日が楽しい通学になりましたが、勉強は元々苦手で今思い起こすと遊びの方が多かったように思います。規則に関しても公立のような厳しさは無く、ルールと言えば生徒の事を親身に考えた上での決め事だったような気がします。それでもやはり明星は自由でした。学校や先生方は「それは良くない」とか、「これをしなさい」、などと強制する事は無かったです。やりたい事をやらせてくれて、そしてその後押しをしてくれる先生方がたくさんいて、相談もできて、本当に身近な存在でした。私たちの時代の卒業生は、卒業後大学に進学する人が非常に少なかったように思います。自分のやりたい事に向かって専門学校などに進む人が多かったです。

明星は自由と誰もが感じるかもしれませんが、自由とはある意味、厳しい世界かもしれません。むしろ敷かれたレールの上を進んだ方が楽だったのかもしれません。自分で自分の道を切り開くのはたとえ辛くても自分の目標があればいくらでも頑張れると思います。

人間の本能としてやりたい事をやる、そしてそれで生きていけるのは最高の幸せだと私は思います。

明星学園ありがとう！



【プロフィール】

48 回生　山見 浩司（やまみ こうじ）

1961 年東京生まれ。幼少期から美術・創作活動への興味が旺盛。1975 年明星学園中学校入学、高校卒業まで楽しく過ごす。卒業後、美大受験に失敗するが父の勧めでステンドグラスの世界に出会い、ガラスの透明感に魅了される。その後アメリカの美術大学に入学。留学中の 1984 年、ガラスの万華鏡と出会う。帰国後、ステンドグラス工房で制作の仕事をする傍ら独学で万華鏡を作り始め、日本の万華鏡作家第一人者となる。メディアに取り上げられる機会が次第に増え、万華鏡制作スクールも開始。アメリカで開かれる万華鏡の世界大会には毎年参加し、今までに 9 回の最優秀作品賞を受賞。現在に至る

『夢中力』これぞ！ 明星 DNA

54 回生　増田　太郎

「どっちがゆで卵だと思う？」

小学校の入学面接で、先生から放たれた思いがけない一言。あてずっぽうで答えるぼくから卵を受け取り、机の上でクルクル回し、先生が教えてくれた『仕組み』。

「そうだったのか！ あ〜、今すぐに、家族の前で卵クルクルをやって見せたい！」そんな驚きと興奮で幕を開けた明星の日々。

答えではなく、それを導き出すおもしろさを「これでもか！」と教わった。羊毛から毛糸を紡ぎ、チョッキ（ベストではない）を作った社会の授業もすさまじかったけれど、特にワクワクだったのは、6 年間担任してくれた松井幹夫先生の算数の授業。楽しそうに、嬉しそうに、満面の笑みでぼくらに語り掛ける先生と、問題の奥に潜む『仕組み』を解き明かしていく時間は、目からうろこの連続。

「$\frac{1}{2}+\frac{1}{3}$は、なぜ$\frac{5}{6}$なのか、説明する絵本を作ってみよう」という授業に至っては、算数だか国語だか美術だか、ジャンル分け不能な楽しさ炸裂。「算数が、そして教えることが好きで好きでたまらない」というオーラ全開の先生から授かった、大好きなものに没頭する夢中力。

これぞ、明星 DNA だと思う。

中学・高校では、アンサンブルクラブのコンサートマスターを務めつつ、バンド活動に明け暮れた。

落ちはじめた視力のことなど思い悩むヒマがないほど、ヴァイオリンとギターを夢中でかき鳴らせたのも、明星の仲間と一緒だったから。そしてやっぱり、ここでも興味は楽曲ができる『仕組み』へと向かっていった。そのひとつが、『コード（和音）』にあると知った時の興奮といったら！ そこからはラジオでも街中でも、流れてくるあらゆる音楽に耳をすませ、絶対音感を駆使してコードを分析する『謎解き』にのめり込み、音楽を作り、奏でる道へと踏み出した。

2022 年 2 月、ぼくの楽曲が NHK『おかあさんといっしょ』歌のおねえさん卒業ソングとして一カ月に渡り放送された。

〜もしももしも 歌うのが苦手でも「ラララ♪」だけで大丈夫〜

歌詞を共作したパートナー、ありかがつけたタイトルは『まほうのラララ♪』。オーケストラとバンドが色とりどりのコードを奏で、躍動するリズム。番組キャスト、人形劇のキャラクター、総出演で歌う「ラララ♪」の声がどんどん重なるサビのメロディは、実際の音程も歌詞も、ただひたすらに「ラ」の連打のみ。みんなと歌い、奏でる楽しさ。大好きなものと出会い、ともに生きていく素晴らしさを思いきりメロディにのせた。

これからも、明星 DNA『夢中力』をフル稼働させ、ぼくは音楽を作り、奏で続けていきたい。

【プロフィール】

54 回生　増田 太郎（ますだ たろう）

作編曲家／ヴァイオリニスト　5 歳よりヴァイオリンを始め、20 歳で視力を失うも、生命力あふれる演奏が話題となり、テレビ東京『生きるを伝える』テレビ朝日『徹子の部屋』ほか出演。
映画、アニメ、ドラマ、ドキュメンタリー等の音楽を手掛け、2022 年からは NHK『おかあさんといっしょ』オープニングテーマの制作と演奏を担当。全国の自治体・企業・学校等に招かれ開催している『講演ライブ』では「ヴァイオリンのイメージが 180 度変わった」など、驚きと感動の声が寄せられている。



予想、理由、結果

56 回生　中島　たい子

太釘を鍛えてナイフを作り、羊毛をカードして毛布を作り、草木で布を染め、ベニヤで椅子を作り、陶器を焼き、版画を刷り、絵本を作り、人形劇を上演し、稲を植え、牛の尾でテールシチューを作り──と、小学校だけでも書き出したらきりがないぐらい、明星では毎日何かを作っていた。素晴らしい経験をさせてもらったと思うが、実は弊害もあった。

その後、私は美大に入ったけれど、周りは創作に没頭できる場をようやっと得た、やる気満々の学生ばかりだった。私はというと、子供の頃から色々と経験済みだから、そこまで創作に新鮮味を感じない。中には作品を通じてここぞと自己主張をしている人もいて、その為に創作があるんだということも改めて知った。明星では、創作とは日常で自己主張する道具ではなかった。大学の空気に馴染むのに時間がかかり、危うく留年するところだったが、これは私のせいではなく明星の責任だと思っている。

創作は好きだけれど、今さら熱くはなれない。物書きを生業としているのに、今もこの問題に私は悩まされている。やはり「熱いもの」の方がウケる（売れる）。私だって食べる側になればシチューは熱い方がいいと思う。とはいえ、「熱くない作家」というのは他にもいて、多くはないが猫舌の人にはウケているので、まあいいか、と今日も筆を握っている。

逆に、熱くもなれないのになんで創作を続けているのだろうと、自分でも不思議になる。その鍵も明星の体験に潜んでいるのでは？ と、記憶を探ってみた。浮かんできたのは創作とは少し違う、理科などの授業だった。「予想」「理由」「結果」と、ノートに自らの見解を必ず書いて、実験をやったり問題を解いた。何が起きるかを想像して、または回答を予想して、なぜそう思うか理由を書く。そして出た結果や、明かされた正解を自分の言葉で書く。私は予想をハズすことばかりだったが、よく考えたことを褒められた。自分なりの想像や理屈があるからこそ、「結果」で知った真実は、違うほど驚きになり面白い。それはセットで愛せるものになる。考えたら今もこの順番で物語を書いている。勝手に世界を想像して、読者にツッコミを入れられないよう理屈を書く。そして少しでも現実の面白さに近づけるように驚かす展開を描く。どうやらこの思考法が埋め込まれてしまったことで創作を続けているようだ。これも明星の責任だと思いつつ、面白い生き方を教えてくれたことに深く感謝している。

【プロフィール】

56 回生　中島 たい子（なかじま たいこ）

1969 年東京都生まれ。明星学園小・中学校卒。文化学院高等・大学部卒。多摩美術大学芸術学部卒。放送作家、脚本家を経て、2004 年『漢方小説』で第 28 回すばる文学賞を受賞し、小説家デビュー。著書に『がっかり行進曲』『院内カフェ』『パリのキッチンで四角いバゲットを焼きながら』『かきあげ家族』など。



チャレンジを楽しむ＝生き方明星流

56 回生　山本　琢磨・紀子

【琢磨】のりちゃんは明星で思い出に残っている事といえば？

【紀子】明星祭で校庭から気球を上げたことと修学旅行で韓国へ行ったこと。今になって考えるとどっちもすごい事だと思う。先生たち、チャレンジングだったよね。「何とかなる」って当てずっぽうではなくて、それまでの経験やら知識があるから何とかなる。失敗しても何が原因か分析して修正して、それを楽しんでいたように見えた。それを見てるから今の私たち、いろんな事に対してハードルが低いっていうか、ま、何とかなるからやってみよう！って思えるんじゃない？ 実際私たち、仕事でも暮らしでも日々試されていると思うけど、楽しんでいるよね。

【琢磨】ほんと先生たち自由だったね～。中等部では社会の時間に日本国憲法の歌を歌ったりしたんだけど、今自分の中に憲法の考え方が染みついているんだよね。高校では瀬野先生の哲学の授業が印象に残ってる。哲学って難しい印象があったけど、実際は物事を考えるために必要な基礎的な学問だと思うんだよね。本質から考えて組み立てていかないと今の日本の政治家が決めるような法律が出来ちゃう。他の国の真似をしてみたり、表面的で短期的な解決方法しか考えられない。

【紀子】長いスパンで物を見たり判断していくことって重要だし、これからますます求められていくと思う。学生生活では答えを教わるのではなく、答えに辿り着くための方法を教わったのだと今になって感じてる。

【琢磨】ハンド部も楽しかったよね。良いプレーが決まった時のすんごい充実感とかって大人になると感じる機会が少ないよね。

【紀子】たくちゃん、授業中はいつも寝ていたけどハンドでは生き生きしてたね！ 女子はベスト4に入って関東大会に出場するのが目標だったけど叶わなかった。引退試合は東京都2位のチームに延長の末負けて、帰ってからどうして勝てなかったのか、何が足りなかったのかを考えながら泣きながら走った！ もう翌日から練習はないのにね。だけど、目標にむかってがむしゃらになれたことは財産だと思うし、その時の頑張りは今の自分にもしっかり生きてると思ってる。

【琢磨】卒業してからもちょくちょくハンドボールしに行ったね。

【紀子】先生や先輩、年の離れた後輩とも一緒にプレーして飲みに行って。そういう場を作ってくれた先生に感謝してる。

【琢磨】じゃあ、幸悦先生に会いに秋田に行こう！

【プロフィール】

56 回生　山本 琢磨（やまもと たくま＝中学校から）
山本 紀子（のりこ／旧姓・倉地＝高校から）

1989 年高校卒業（56 回生）の同級生夫婦。
在学中は 2 人ともハンドボール部。
東日本大震災のボランティアをきっかけに東京から宮城へ移住。
現在は 2 人で循環可能な自然素材を使った木造住宅の工務店を営む。自分たちの生活でもできるだけ環境負荷の少ない暮らしを楽しみながら実践中。



明けの明星よ、いまこそ

58 回生　松浦　史子

明星学園にお世話になったのは中高の 6 年間です。祖父が明星学園小学校の教員であったこともあり、高校卒業まで自由な考え方を規制されることもなく、伸び伸びと過ごすことができました。人生も半ばを過ぎようとするいま、自由で伸びやかな時間を過ごした明星時代の重要性を実感することが増えてきたように思います。

高校卒業後、浪人時代・学部時代を経てもっとも長く在籍した学校は、博士号取得まで 10 年以上籍を置いた東京大学でした。多分野に跨がる私の研究の基礎を築いてくれた場所でもあります。机を並べた仲間たちや指導に当たってくださった先生方には「松浦さんの発想はとても自由ですね」、と、言われることが多くありました。褒め言葉が半分、そうでない場合が半分、というのが実情だろうと思います。非常勤時代を入れると 30 年の教員・研究生活になろうとしていますが、「頑固ですね」だとか、「空気を読んでいませんね」と直接に言えなかった人たちも、きっといたに違いありません。

911 事件は、北京大学での長期留学を終えた年に起こりました。こうした民族問題だけでなく、環境・感染症問題など地球の抱える難題は日増しに苛烈化し、我々が教育を受けた時代には想像もしなかった方向に、世界が変わりつつあることをひしひしと感じる昨今です。教え子たち、あるいはようやく就学の年齢を迎えた我が子の将来を思うとき、正直、心底恐ろしくなりますが、そんな未来予測の困難な時代ならばこそ、既成の枠にとらわれない柔軟な発想力や豊かな想像力へのニーズは世界的にも高まっていると、教育・研究の現場で切実に感じることも、また事実です。そんなこともあって、自由すぎる生徒たちを相手に試行錯誤を繰り返しながら、一人一人の発想を尊重した教育を施して下さった明星恩師たちの奮闘ぶりを、有難く思い出すことも増えて参りました。

明星学園の有り難さを最近になって実感し始めたもう一つの要因は、同窓生たちの存在にあります。卒業後の生き方、歩む道はじつに多様ですが、一つ共通項を挙げるならば、長いものに巻かれない、権力に阿らない生き方をしている仲間が多いように思います。必要な時にはタッグを組める同志たちでもあります。明星で受けた教育、仲間たちとの時間は、長い間かけてじわじわと花実を結ぶことも多いのではないでしょうか。

混沌とした先行きの見えない 21 世紀も半ばにさしかかる昨今、暗い闇を切り裂き、光を放ちはじめる「夜明けの明星」の底力を感じる日々です。

【プロフィール】

58 回生　松浦 史子（まつうら ふみこ）

中学・高校時代を明星学園で過ごす。早稲田大学第一文学部卒業後、東京大学文学部学士入学。同大学人文社会系大学院（中国語中国文学専修）修了後、博士号（文学）取得。北京大学国費留学後、文教大学付属高等学校・慶應義塾大学・早稲田大学など 6 校での非常勤講師を経て、現在、二松学舎大学文学部・国際日本学大学院教授。著書に『漢魏六朝における『山海経』の受容とその展開―神話の時空と文学・図像』汲古書院 2012 等。



別世界へ…高校デビュー

59回生　纐纈　くり

この度は明星学園創立100周年おめでとうございます。謹んでお祝い申し上げます。

「個性尊重　自主自立　自由平等」という言葉に惹かれ、明星学園へ行きたいと受験したのは今から35年前のこと。自分で自分の人生を決めた第一歩。それまでは言われたことだけをやればいいという教えの私学に通い、180度違う、自分自身で考えるという別世界へ来てしまいました。恥ずかしながら私にとって、考えて物事を進める、ということは高校生デビュー。はじめは何もかもに迷い、戸惑いながらも、先生方の導きもあり、楽しい高校生活がスタートしたのです。

得意な授業を選択し、好きなことを勉強できる。勉強は得意でありませんでしたが、好きな授業は集中して学ぶことができました。そして、あらゆる本を読むアドバイスを先生にいただき、小説など本を夢中になって読んだのもこの時期です。感受性の豊かな高校時代に読んだその時の記憶と感性は今も私の根幹に大きく影響しています。

色々とご迷惑をおかけした生徒でありましたが、失敗をしながらも、得意なところを伸ばしていただき、先生方も気長に向き合い、受け止め、応えてくださったことは今も感謝しかありません。そして、ちょっと楽しみ過ぎまして、少し多くの時間通ってしまいました。おかげで倍もの友人ができ、明星で出会った友人たちは今でも宝で、かけがえのない存在なのです。今までの中で一番楽しかった時であり、勉学以上のものを得た場所でありました。

現在は神保町で曾祖父より続いている江戸時代に出版された和本や浮世絵を取り扱う古書店の四代目を継いでおります。ただ店でお客様を待っているだけではなく、いかに江戸時代の書物文化が魅力あるものなのか、面白い物なのかということを少しでも多くの方々に知っていただけるよう、時には妖怪の浮世絵などを使いながら、楽しんで発信しています。今、楽しんでこの仕事をできているのも、色々なアイディアが出てくるのも、感性を育てていただいた明星のおかげにほかなりません。そして今もなお、近くにいらした先生や先輩、友人が店に顔を出してくださるのも本当にありがたいですし嬉しいことです。

終わりに、育ててくださった明星学園に感謝いたします。今の自分があるのは明星の時代があったからこそだと今も胸を張って言えます。ありがとうございました。そして今後のさらなるご発展をお祈り申し上げます。

【プロフィール】

59回生　纐纈 くり（こうけつ くり）

1972年、千代田区神田神保町生まれ。駒沢大文学部国文科卒。明治15年（1882）創業、神田神保町、江戸時代の和本と古地図、浮世絵の専門店「大屋書房」の4代目。『妖怪カタログ壱、弐』を刊行。大学の社会人講座や小学校まで幅広い世代に妖怪の浮世絵や和本を通して江戸の文化を発信。世界で唯一の妖怪マガジン『怪』（角川書店）、『別冊太陽』（平凡社）などに執筆。国際浮世絵学会常任理事。



羅針盤

59回生　田邉　哲

明星学園で学べることは創造力、突破力、応変力だ。

これは誰から教わるというものでもなくて、自分でうんうんとうなりながら何かに取り組んで達成することで得られる。

それを繰り返し繰り返し練習できるのが明星学園だった。

明星学園で先生達に教わった、というよりも、自ら学んだと言った方がしっくりくる。

先生達は僕らを見守り、導き、見届けてくれた。

僕が必要だと思っていて、でも存在しないものは自分で作るしかない。

これ必要なんだけど、無い。では作ろう。

そう思うことに抵抗を感じないのはやはり明星学園のおかげだと思う。これを本文章内では創造力と定義する。

何かに取り組んで、創り出そう、達成しよう、と努力しても何か足りなくてうまくいかない時もある。

そんな時、そこを突破できるかどうか重要なポイントになる。周囲も、自分でさえ、もうここからは進めない、いや進めるのか？

限界なんじゃないか？ いやもうちょっとやってみようか？と迷うあたりで発揮する、ひらめきであり、決意だ。

数学の問題を解くとき、絵を描くとき、物を作る時、登山をしている時、さらに進むのか、撤退するのか、別の方法を試すのか判断が重要になる。

その時に必要な判断力、ぐっと腹に力を込めて責任をとって決断することを突破力とする。

それと、今日は無理しないで休もう、という判断も必要になるし、目標を達成するために、目的地に着くために、迂回して遠回りコースを選択することもある。

回り道になったとしてもこっちが安全、と思った時はそうするんだ。これは応変力とか名付けよう。

これらの力が、今までの人生（まだ短いが）で幾度となく必要だった重要な選択、判断の時にいつも僕を助けてくれた。

細かいことを言うと僕の場合、毎日助けてもらってる。

小さな診療所を経営しつつ医者をやるというのは、荒波の中、小さなボートで海を渡るようなものだ。

僕は先頭でボートを漕いでいる。乗組員も僕の横や後ろで毎日漕いでいる。しかも本当に本気で一生懸命漕がないと思った方向には何一つ進まない。

だから必死に漕ぐ。ここ最近も天気がいい日はほとんどない。毎日風が吹いていて、海は波立って荒れている。必死で漕いでも進まない日もある。

気をつけないと転覆するだけでなく、命まで奪われかねない。

しかしがむしゃらに漕ぐのに集中しすぎても行き先を見失いかねないから、ちょいちょい羅針盤を見るんだ。

羅針盤。

僕らはどこに向かって、何を目指してるんだっけ？ とね。嵐の中で行く先を見失わないように。

この例えの中で言えば学校では普通、ボートの漕ぎ方を教えてくれ漕ぐためのオールを授けてくれる。それは知識や技術だ。

でも、今日はどっちに向かって漕ぐんだい？ そっちでいいのかい？ 僕らこのまま必死に漕ぎ続けると何かいいことあるのかい？とみんな思うんだ。乗組員も、僕も。

だから羅針盤が必要なんだ。

ここでの羅針盤はポリシーであり、存在価値そのものだ。達成する目標でもある。

天に輝く北極星であり、ぶれない光だ。

そこを目指そう。

目指して進むには、いわゆる勉強で得られる知識と技術だけではちょっと足りない。

知識はボートの漕ぎ方であり技術はオールだ。他に創造力と突破力と応変力が必要だ。

ここで独断的にはっきり言ってしまうと、明星学園では比較的簡単に学べるこれら３つのチカラ、ノウハウは、他の公立学校では極めて学びにくいようだ。

生きて行くのに必要なのに、だ。

僕は明星学園でそういった部分を学んだ。

そして今日も僕らは海を渡って行くんだ。



【プロフィール】

59回生　田邉　哲（たなべ さとし）

1974年東京都生まれ。明星学園小学校、中学校で学ぶ。その後、都立武蔵高校→浪人→東海大学医学部→佐久総合病院→たなべ診療所開設、現在に至る。

ぼくとガッパ

63回生　和田　礼

僕は10歳まではロンドンで過ごしていた。現地の学校に通っていたため、日本に帰国した際に公立校ならカリキュラムの違いにより一つ下の学年に入るように言われてしまう。小学生で留年というのも箔がつきすぎるので、両親は私立校への転入を考えた。結果、僕は小学校4年生の2学期から明星学園に通うことになった。二つ下の弟も同じタイミングで転入している。

平屋建ての教室に暖かい日差しがさしている。僕がちょっとした緊張と興奮が混じった感情で教室の前庭に辿り着くと一人のおじさんがやってきた。教室にはすでに子どもたちが集まっていたが皆が口々にそのおじさんに挨拶をする。

「ガッパおはよう！」

おじさんはニコニコと子どもたちに応えながら僕の前に立った。七三分けの髪、ちょっと薄い色のサングラスにちょび髭。ランニングシャツに腹巻き、足には草履のようなものを引っ掛けている。まるで実写版バカボンのパパだ。いったいこの人物はなんなんだ？

「いらっしゃい。君の担任の内藤です。みんなからはガッパと呼ばれてるからそれで良いよ」

これがガッパとの出会いだった。ガッパはバカ田大学卒業なのだ！と嘯きながら独自の授業を展開していき、僕はあっという間に彼が大好きになった。ガッパの名前の由来は芥川龍之介の『河童』が好きだからだそうだ。ガッパは教科書は使わず、いろいろな本を紹介してくれた。本を読みなさい、そこには分からない言葉や漢字が出てくるでしょう。知りたいと思った言葉、読みたいと思った漢字を楽しく覚えなさい。数の大きさをイメージしなさい。数が組み合わさっていく楽しさを感じなさい。自分で考え、考えることを楽しむ。6年生になるとガッパはこんなことを言い出した。

「問題作るのがめんどくさいからみんなで作ってきなさい」

教室には箱が置かれ、そこに朝、生徒が自分で考えた問題を入れる。ガッパはその中からこれは良い問題だ、とかこの問題だと答えられないよと言いながらこれで楽できるとニコニコする。問題を作るには物事の本質への理解が必要だ。こうして僕たちは知らず知らずに自分たちで学んでいたのだ。ガッパがあまりにも他の小学校と違う教え方をするので一部保護者から改めてくれとの声が出たが、僕たち生徒はガッパが良いと声を上げた。実はガッパは中学の先生で小学校教諭の免許を持っていなかったらしい。そんなモグリの先生に教わったことが僕の一生の宝物だ。

【プロフィール】

63回生　和田　礼（わだ れい）

1977年パリ生まれ、ロンドン育ち。現在は「ダースレイダー」名で音楽、言論活動を展開。2010年に脳梗塞になり合併症で左目を失明、以来眼帯がトレードマーク。宮台真司、プチ鹿島、神保哲生、町山智浩などを迎えた番組をネット配信。著書『武器としてのヒップホップ』『ＭＣバトル史から読み解く日本語ラップ入門』、監督出演『劇場版センキョナンデス』『シン・ちむどんどん』、中日新聞、幻冬舎＋など連載多数。2024年より国立民族学博物館客員教授。長女が明星学園中学校在学中。



白黒の世界が一変した明星生活

66 回生　難波　直子

明星学園との出会いは小学２年生の時だった。

私は公立の小学校に入学し、１年生で登校拒否になった。祖母に買ってもらったランドセルをハサミで切ったり、棚のガラスを割ったり、きっと心の中に嵐が吹き荒れていたのだと思う。家族も大変な思いをしたに違いなかった。

両親の勧めで小学２年生から明星学園へ転校し、新しい生活がスタートした。担任は可愛くて優しい深谷先生（河住由美先生）。ひと目で先生が好きになった。通学路で依田校長先生に元気に挨拶をする。秋野先生の弾くピアノに合わせて歌う。一瀬先生と一緒にものづくりをする。放課後は学校に残って遊ぶ。友達の家に遊びに行く。友達を家によんで遊ぶ。ワクワクが詰まった毎日だった。たくさん遊び、たくさん笑った。今まで白黒だった世界に鮮やかな色がついたようだった。初めて学校が自分の居場所になった。

中学校に入ると本格的な勉強が始まった。明星学園の授業では、常に自分の考えとその理由が求められた。焦点を絞り、深く学ぶ授業だった。学校の勉強を通して、新しいことを吸収する楽しさ、分からなかったことが分かるようになる喜びを知った。

高校に進学して将来の仕事を考えた時、人の役に立つ仕事がしたいと思い、医学部を目指した。入学試験合格の知らせを聞いた時は、生まれて初めて嬉し涙を流した。合格はもちろんだが、私の合格をまるで自分のことのように喜んでくれる友達がいることが、それ以上に嬉しかった。

高校卒業後は埼玉医科大学医学部へ進学し、現在は産婦人科医として働いている。

明星学園で個性豊かな仲間と個性豊かな先生方に囲まれ、素晴らしい時間を過ごすことができた。私は明星学園に通い、自分の頭で考える自由を手に入れ、自分とは異なる人を自然に受け入れることができるようになった。振り返ってみれば、不登校という一見ネガティブな出来事さえも、明星学園に出会うきっかけになったのであれば、それでよかった。

人生万事、塞翁が馬。明星学園に 11 年間も通わせてくれた両親に心から感謝している。



2017 年、同級生とその子どもたちとともに高校を訪問した際に撮影。８・９年生で数学の楽しさを教えてくれた平野先生（現校長先生）とともに。筆者は後列右端。

【プロフィール】

66 回生　難波 直子（なんば なおこ／旧姓・杉山）

1980 年東京都杉並区生まれ。1988 年明星学園小学校２年生に編入、明星学園中学校を経て 1999 年に高等学校卒業。2005 年埼玉医科大学医学部卒業。2005 ～ 2012 年、板橋中央総合病院にて初期研修医・産婦人科、2010 年に産婦人科専門医の資格を取得。2013 年から戸田中央産院産婦人科に勤務。明星で身に着けた「みんな違ってみんないい」の考え方が日々の診療に生きている。今後は学校保健や性教育の分野にも力を入れていきたい。

多様性と同一性の中に生きる

72回生　村上　拓

『明星と私』というテーマを考えたとき、すぐに「多様性と同一性」という言葉が浮かんだ。私が明星学園で学んだことは、「世界にはいろいろな人がいて、ひとつの共同体の中で生きている」という実にシンプルなことである。

中学・高校を明星学園で過ごした私は、勉強の傍らオーケストラで合奏したり、演劇をしたりと、自由を謳歌した。授業スタイルも好きで、ただ解や公式を与えられるのではなく、何故そうなるのか・どうすれば答えへたどり着けるのか、を推理したり議論したりするのが楽しかった。明星学園の教育を振り返ってありがたいと思うのは、自分の意見や存在を頭ごなしに否定されなかった、ということである。先生方は、私のような一生徒の身勝手な意見にも、「やってみよう」（やれるものならやってみな、かもしれない）と言ってくれた。中学の卒業制作でセミダブルサイズもある巨大なタペストリーを織りたいと言ったときは、既存の織機では小さすぎたため道具を造るところから教えてもらったし、文集で原稿用紙100枚の長編ネパール旅行記を書きたいと言ったときも、文字数制限は気にしなくてよいと参考文献を沢山貸してもらった。高校で友人と劇団の旗揚げをした際も、既存の演劇部と衝突しないよう巧みに取り計らってくれた。

耳を傾けてもらえるという事実は、自分の存在を認められることであり、それは同時に、他者の存在を受容することにもつながった。私は、後先考えず意見を口にするタイプであったが、学校には一人で黙々と勉強や趣味をする人もいれば、仲間と一緒にいる時間を楽しむ人もいて、それぞれの悩みや生き方があった。そして、それでいいのだ、と受け止めることができた。個が尊重された先に「多様性」が確立し、自分と相手の「同一性」を見出すことでお互いをより身近に感じ調和が生まれる。いろいろな人がひとつの学校で共に過ごしていて、生徒も教師もひとりひとりの存在が認められている。そのことがまさに明星学園の理念である“個性尊重・自主自立・自由平等”だと思う。

卒業後に私は国際医療を志し、大学で国際関係論を学んだ後に、医学部に編入して医者になった。国際医療は私にとって天職で、それはまさに「多様性と同一性」と向き合う仕事である。言葉も通じない難民キャンプで診療をしていて、世界はこんなにも知らないことで溢れているのかと思うと同時に、患者さんの温もりや聴診器から聴こえる心音は、我々が同じ人間であって何ら変わりがないことを教えてくれる。世界は広く未知であるが、どこまで行っても人間の愛すべき営みがある。そのことが、明星と私の中で変わらない本質だと思う。100周年を迎える明星学園が、変化を迫られ続ける時代の中にあっても、これからも生徒の「多様性と同一性」に向き合い、共に悩み成長し続ける学校であってほしい。

【プロフィール】

72回生　村上　拓（むらかみ たく）

1986年生まれ。2005年卒業。中学・高校を明星学園で過ごし、国際基督教大学へ進学。国際関係学科で国際関係論および平和研究を専攻。国際協力・人道救援を学ぶ中で医の道を志し、卒業後に岡山大学医学部へ学士編入。2014年に医者となり、以降は小児科で診療。日本赤十字社および国際医療NGO AMDAのメンバーとして、モンゴル地域医療、ニュージーランド震災、東日本大震災、熊本震災、バングラデシュ南部避難民等の医療支援に従事。現在は東京都立小児総合医療センター集中治療科にて勤務。岡山大学大学院にも所属し総合内科学・医学教育学の分野で研究を行い、医学博士号を取得。



医療支援活動中の筆者

祝辞　なお100年先の黎明へ

79回生　八島　輝京

小学校から高校まで明星学園で過ごし、他の学校を知らない私にとって、「明星とは」という問いは難問だ。今でも（未だに！）誰かに「明星っ子らしいね」と言われるたび、それがどういう意味なのかを上目遣いに見定めようとしつつ、少し居心地の悪い笑顔を浮かべている。

明星学園で過ごして楽しかったこと、悔しかったこと、色々なことを今になっても思い出す。卒業して10年以上経とうというのに、この学校で過ごしてきた記憶は私の多くの部分を占めていて、それら全てを「楽しかったナ」と滑らかにまとめることはできない。

中学3年次、担任の先生が「この学年は他者と出会うことがテーマでした」と言っていたのを覚えているが、私個人にとっても「他者との出会いと共生」は、12年間の明星生活を通じてのテーマだった。

個性尊重を謳うこの学校で、多くの人と出会い仲良くしてもらい、あるいは仲が悪くなったり信頼を失ったりを繰り返したそれこそが「自分とは違う他者とどう生きていくか」を学ぶことであった。

小学校で取り組んでいた「みいつけた」(3年生以降は「みいつけた＋考えた」、5年生以降は「日記帳」と名前と内容が変わっていった）もまた、印象深い。周囲をキョロキョロ見回して、違和を覚えるものや、疑問を抱くものを見つけ、文章化する「みいつけた」。私が制作しているドキュメンタリー映画も、どれも企画のスタートは「みいつけた」と同じところから始まる。

ドキュメンタリーの撮影は、他者と出会い、そこにある問題を調べ、自分の意見を持ったうえで、自分もそこに身を置かせてもらいながら「自分とは違う他者が何を考えてどう生きているか」を記録し、そして自分の意見も含めて見つめなおしていく営為であり、そう考えると「他者との出会いと共生」もまた今に繋がっている。

「自分とは違う他者とどう生きていくか」というのは、個人だけでなく恐らく学校に対しても問われていて、例えば「明星っ子らしくない」ように見える子にも、私が明星で先生方からもらったような熱心な教育実践が求められている。思想改造をする訳でもなく、その「らしくなさ」とどこまで共にあれるだろうか。

今後「明星っ子」らしくなさと明星学園は、いかに共に生きていくかが試されることになるかも知れぬ。赤井先生の言葉通りここは実践の学校であるから、試行錯誤を止めて保守化してしまったら、この学校が明星学園である意味はない。

100年続けてきた試行錯誤を礎としたこれから先の100年の教育実践が、皆にとってより良い世界の実現へとつながって行くことを祈り、また私も努めていきたいと思う。

創立100周年、おめでとうございます。

【プロフィール】

79回生　八島 輝京（やしま あきひろ）

ドキュメンタリー映画監督・映像作家。映画作品に、沖縄・辺野古に住む人々の日々の暮らしを撮影した『辺野古抄』(第1回東京ドキュメンタリー映画祭長編部門観客賞)、戦乱のためシリアからトルコに移住せざるを得なかったせっけん職人さんたちの仕事と暮らしを撮影した『故郷とせっけん』(東京ドキュメンタリー映画祭2021 in OSAKA 観客賞）など。



今も生き続ける「和」の心

83回生　中田　珠未

私の人生を大きく変えてくれたのが「明星学園」で過ごした4年間でした。

幼少期は父の転勤が多く、小学校の6年間で4回もの転校を繰り返しました。中学校に上がる際に「6年間一緒に過ごした友人達と卒業をしたい」という強い思いから他の中高一貫校へ入学しましたが、中学3年生に上がるタイミングで明星学園中学校に編入する事となりました。私の思いより、さらに強い思いで、明星学園への転校を進めてくださる方たちとの出会いがあったのです。この時の決断が、私のバスケットボール人生への大きな第一歩となりました。

その、明星学園に入学するきっかけを与えてくださったのが、今年の6月に惜しまれつつ他界された当時のヘッドコーチ椎名真一先生と、現在も中学校の教師をしながら高校女子バスケットボール部のコーチを務められている高橋三絵先生のお2人です。バスケットボールのバの字も分からないような少女に、どんな時も味方であり続け、厳しくもたくさんの愛情と熱意を持って向き合い続けてくれました。本当に感謝しています。

椎名先生はバスケット技術だけでなく「和」という言葉を大切にし、集団スポーツに欠かせない団結力の大切さや、皆が皆を支え合い、全員で同じ目標に向かい戦う楽しさを教えてくださいました。高橋先生は自由奔放でおそらく人一倍手のかかる私を常に見守り、叱り、たくさん褒めて、今でも本当の母親のような家族のような存在です。

ここで過ごした4年間がバスケットの部分ではもちろん、今の私の基礎となる部分を形成したと言っても過言ではありません。創立時から続く“人と違う事を受け入れ、それをその人の良さとし、認め、尊重する”という校風は、今の時代では尚とても重要な事だと感じます。転校が多く、新しい環境に馴染むために周りに合わせる事が多かった私は、この考え方で育ってきた内部生と関わる空間が何とも生きやすく、その環境こそが自分のアイデンティティを確立するきっかけになりました。

この歴史ある学校の卒業生である事を誇りに思うと同時に、100年という節目に立ち会える事、このような機会を与えてくれた河住元校長先生にも感謝しています。卒業後もいつも気にかけて応援してくださり、私の活力となっています。そんな素敵な先生達がいっぱいの明星学園が大好きです。今後も人との出会いや繋がりを大切に、更に羽ばたいていけるよう私も楽しみながら頑張っていきます。これからの100年も素晴らしい歴史を紡ぐ明星学園を楽しみにしています。このたびは創立100周年、本当におめでとうございます！

【プロフィール】

83回生　中田 珠未（なかだ たまみ）

ENEOSサンフラワーズ／背番号33番／ポジション：フォワード。2022年度3×3バスケットボール日本代表。
中学校入学と同時にバスケットボールを始め、2012年、明星学園中学校編入を機に本格的に打ち込むように。2016年明星学園高等学校卒業。その後、早稲田大学に進学、在学中はユニバーシアード日本代表にも選出される。大学卒業後は女子バスケットボールリーグ（Wリーグ）に所属するENEOSサンフラワーズに入団し5年目のシーズンを迎えた。



明星の“輪”

元中学校社会科教諭　古川　博資

私は、4・4・4制──三校長時代の1967年、明星学園中等部社会科教員になりました。5～8年生が中等部でしたから、69・70年度は5・6年生の担任もしています。74年度に9年生が井の頭キャンパスとなってから、7～9年生、中学の社会科担当となりました。

クラブは遺跡研究会、のちに鉄道部をつくりました。夏・冬・春休みに青春18キップで列車の旅をしました。バザーや学園祭では教室いっぱいのNゲージ運転会を催しました。鉄道部は、旅程、時刻表や費用の計算も中学生自らが行い、教師は引率のみというものでした。

私は36歳の1979年度末に糖尿病を発病しました。それからの人生は、この病を根っこに考えるようになったのです。「二度目の二十歳（40歳）から個展を始め、三度目の二十歳（60歳）には絵描きになる」と言い、いつも絵を描くようになりました。

1982年には8年生の授業でインディアン（イレーヌ・アイアンクラウド・日本名＝弥永光代さん）との出会いの場をつくりました。音楽室に160名を集めて、「聖なる輪」という話をしてもらいました。全員が何重にも輪になって坐り、光代さんは一重の輪の西側に坐って話されました。増田太郎たちの学年（54回生）です。「4つの方角のおくりもの──西（青い熊・力）、北（白いバッファロー・純粋）、東（黄色い鷲・知恵）、南（緑の鼠・無邪気）──を自分のものとしてうけとめられたとき『美しい生き方』ができる。これがシャイアン族の結論です」。一同が水を打ったように聴きました。「インディアンは尊敬の哲学をもっている」とある生徒（大塚岳史）が言いました。このときのことは、いつものちのちの学年でも、最後の授業で話しています。

1999年の日本は、周辺事態法・盗聴法・住基ネット・国旗国歌法などが矢継ぎ早に国会を通った年でした。「先生何かしましょうよ」と2人の母親が来ました。2000年5月から「憲法サークル」を立ち上げました。毎月憲法を語る会がＰＴＡ自主サークルとしてできました。これは現在も「憲法語らい場」として古川のもとで続いています。

【プロフィール】

古川 博資（ふるかわ ひろすけ）

1943年5月、北海道士別生まれ。8月父が出征するまでの百日間だけ、「博資（ひろすけ）」と呼ばれた。その後は「ひろし」と呼ばれることとなる。母は再婚し、6人兄弟として育つ。士別高校、東京教育大学卒業。1967年明星学園中等部の教諭となる。2004年～12年法政大学教育学部講師。その間も「ひろし」と名乗ってきた。2020年、77歳となって、戸籍にて「ヒロスケ」とルビをうち生きている。



明星学園と私
～昭和30年代を中心に～

元小・中学校校長　依田　好照

明星学園との出会い

私は1957年（昭和32）、明星学園に奉職しました。前の年、大学4年生のとき、明星学園に教育実習をお願いし、中学校社会科の原田満寿郎先生にご指導をいただきました。

当時、中学校の4階建の校舎はまだなくて、小学校の初代の「ジグザグ校舎」が建設中でした。

校長の照井猪一郎先生とはよくお会いしましたが、先生は教育のキョの字も口に出されず、雑談ばかりでした。この先生が学園創設の初期、たいへんな苦心を重ねて、国定教科書をはるかに超える国語の教科書、『新読本』全5巻を完成させたと知ったのは、ずっと後のことです。

私が奉職した当時、学園は創立30周年記念事業として発足した「明星学園振興事業」の最中で、老朽化した校舎を改築し、施設・設備を改善するとともに、教育内容を一層充実させようという計画でした。

学園の外では、文部省が教員の勤務評定制度の趣旨徹底を通達。これに対して日教組は勤評反対闘争を展開し、教育課程の自主編成の運動を進めていました。

教師たちの運動には、組合活動とは別に、あるいはそれと連動しながら、民間の学者・研究者との共同研究を進める団体がいくつもありました。明星学園の中にも、これらの研究団体に所属する人がいて、とくに小学校・中学校に多かったのです。

小・中・高一貫教育をめざして

私が奉職した1957年（昭和32）は、学園の歴史のなかで、一つのエポックとなる年でした。

まず、私より1年前に就職して小学校を担当していた無着成恭先生が、その年2月、組合の選挙で執行委員長に当選。新年度の運動方針の一つに、明星学園の小学校・中学校・高等学校の教育内容を一貫させて、新しい学校教育のあり方を探求することを打ち出したのです。

組合執行部の方針は全学園的な研究会を毎年開催する方向に決まった。しかし、児童・生徒を1日休みにして研究会を行うことを、照井校長が許可するかどうか……。しかし、それは杞憂でした。

照井校長は、「このような研究会は、組合が主催すべきことではなく、学園としてやるべきことだ」と言いました。「明星に限らず、戦前の私立学校が築き上げてきたすばらしい遺産は、戦後になって日本の教育のなかに普遍化された。それは日本の教育のためによろこばしいことではあるが、私立学校にはもはや誇るべき遺産はない。明星の教師たちは一致団結して研究に励んでもらいたい。そして、新しい明星学園の教育を創り出してもらいたい」というのです。

そこで、照井校長の指示のもとに学園の年次計画による行事となり、組合とは別に研究集会を実施するための準備委員が選ばれて、高校社会科の武者小路穣先生が委員長になりました。

こうして1957年（昭和32）11月25日、高校を会場として、第1回教育研究集会が開かれました。第1回のテーマは「基礎学力」を中心とすることでした。翌年2月に発行されたＰＴＡ会報『道』41号で、武者小路委員長は次のように報告しています。

「今回の教育研究集会の結論は何か？ ということになると、実は結論はない。というのは、この集会の準備にあたって一つの目標としたのは、りっぱな結論をださない、ということにあったからである。（中略）集会はその年度のまとめでなく、次年度の出発である。これが準備委員のくりかえし強調したところである。（中略）生徒に教育の成果を性急にもとめてはいけないのと同様、われわれのしごとも忍耐が必要である。」（後略）

この第1回教育研究集会は、シンマエで西も東もわからない私にとって大きな事件でした。「小・中・高一貫教育の研究・実践がおのれの使命」と胸に深く刻まれ、私の初心となりました。

社会科部会には、小学校・中学校に廣川孝先生・上川淳先生・原田満寿郎先生、高校に武者小路

穣先生・角館喜和先生・堀淳二先生という大先輩がいました。お互いに多忙の身ですが、都合をつけて、月に最低２回は授業を参観した上で合同研究会をもつことを決め、そのための連絡調整係を私が担当することになりました。

また、とくに小学校の歴史学習をイメージ豊かに進めるために、武者小路先生が短い「おはなし」を書き、上川先生がそれを使って授業を行い、みんなで参観することを何度も実践しました。中学でも絵図や物語を使う授業を工夫しました。これには上川先生の学生時代からの友人の挿絵画家で、明星の保護者でもある箕田源二郎氏に、いろいろな要素を含む大きな絵図を何枚も描いていただきました。

研究学校としての明星学園を

私が就職したころの明星学園では、各教科の教師たちが日々の研究をもとに実践をおこなっていました。そしてそれは今の明星にもしっかりと受け継がれていることと思います。

明星学園創立者・赤井米吉先生の研究者である教育学者・中野光先生は、ご著書『教育改革者の群像』（国土新書 1976 年）のなかで、1930 年（昭和 5）4 月 4 日、新学期最初の職員会議で赤井先生が次のように話されたと紹介されています。

「天下、学校実に多い。その中へ我々の学園が出現したのは何の為であったか。文部省の定めるところのものを克明に実現しようとしてならば何もこう苦んでこの学園を建てる必要はなかった。実に新らしい時代が要求する教育を実現せんが為であった。その為には文部省のものにも囚われず、厳密な批判を行って行かねばならぬ。勿論敢て異を立つる必要はない。然し、研究、実験の労をさけ、既成の教育に追従するのは学園の堕落である。深く慎まねばならぬ。その為には常に研究的態度をもって教材に、教法に研究をおこたらぬ様なければならぬ。」 2014 年（平成 26）に明星学園は創立 90 周年を迎え、同年に発行した記念誌『明星の年輪―明星学園 90 年のあゆみ―』には私も執筆者のひとりとして関わりましたが、ここでも中野先生のご研究から多くを参考にさせていただいております。

そして今また、創立 100 周年を迎えるにあたり、本文集にも中野先生からご寄稿をいただきました。明星学園の創立者である赤井米吉先生を直に知る研究者として、また赤井先生がもっとも信頼をよせていた教育界の後輩としての中野光先生が、明星学園にいつも寄り添ってくださったことに、深く感謝申し上げます。

【プロフィール】

依田 好照（よだ よしてる）

1933 年山梨県生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。1957 年、明星学園中学校社会科教員として就職。1983 年から 4 期 12 年間小・中学校の校長を務め、松井憲紀理事長とともに学園の再建を支えました。退職後も、明星の歴史や実践について語れる希少な存在として、創立 90 周年・100 周年記念誌の執筆にも大きな役割を果たしておられます。



依田好照先生へ捧ぐ

2024年8月13日、依田好照先生が逝去されました。91歳の誕生日まであと三か月でした。

本誌の校了まであと数日‥‥という日に届いた訃報に、編集委員一同ことばもなく、喪失感に打ちひしがれています。

依田好照先生は、1957年、創立同人の照井猪一郎先生が小・中学校の校長だった時代に明星学園中学校の社会科教員となりました。ユーモアあふれる軽妙な語り口、正義感あふれる人柄で中学生たちの人気の的でした。1983年から1997年までは小・中学校の校長として、財政面や内部進学問題などで厳しい状況にあった学園の再生のために、松井憲紀理事長とともに尽力されました。

近年では、依田先生は創立者を直接知る数少ない存在となり、私たち後進の創立者像は先生からの伝聞によって肉付けされています。

明星学園の歴史書の原本となった『明星の年輪──明星学園50年のあゆみ』(1974年)を完成させた原田満寿郎先生から学園史編纂の仕事も引き継がれ、『60年のあゆみ』、『70年のあゆみ』の2冊は校長時代の依田先生が中心となって編纂されました。校長引退後も明星学園の歴史の語り部としてたびたび講演や勉強会を行い、明星学園教育の実践者・研究者としても多くの記録を残してくださいました。

2014年に発行した『90年のあゆみ』、今年5月に発行した『100年のあゆみ』でも、創立期・太平洋戦争期の記述を中心として依田先生に多くの部分を執筆いただきました。

また本誌も、先生との長年にわたるやり取りの中から生まれた資料が多く、こうして明星の歴史を語る一冊として形に残すことができたのも依田先生のおかげです。

この数年は体調がすぐれないことも多かったにもかかわらず、八重子夫人が聞き取りから代筆などご支援くださり、ご教示いただきました。

本年5月の明星学園創立100周年記念式典には、依田好照先生、八重子夫人揃ってのご列席が叶いました。多くの卒業生や新旧の教職員が依田先生の元へ次々と駆け寄り、先生の柔らかな物腰、にこやかな面差しに接することができましたが、今となっては、貴重な思い出となってしまいました。

いま、まさに本誌は校了段階で、今月末には刊行予定です。完成した本誌を先生にお見せすることを楽しみに作業にあたってまいりましたが、叶わなかったことが残念でなりません。

依田好照先生へ心からの感謝と哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈りいたします。

2024年8月16日

明星学園創立100周年記念誌　編集委員
串田妙子・大草美紀

第 4 部
データで見る 100 年のあゆみ



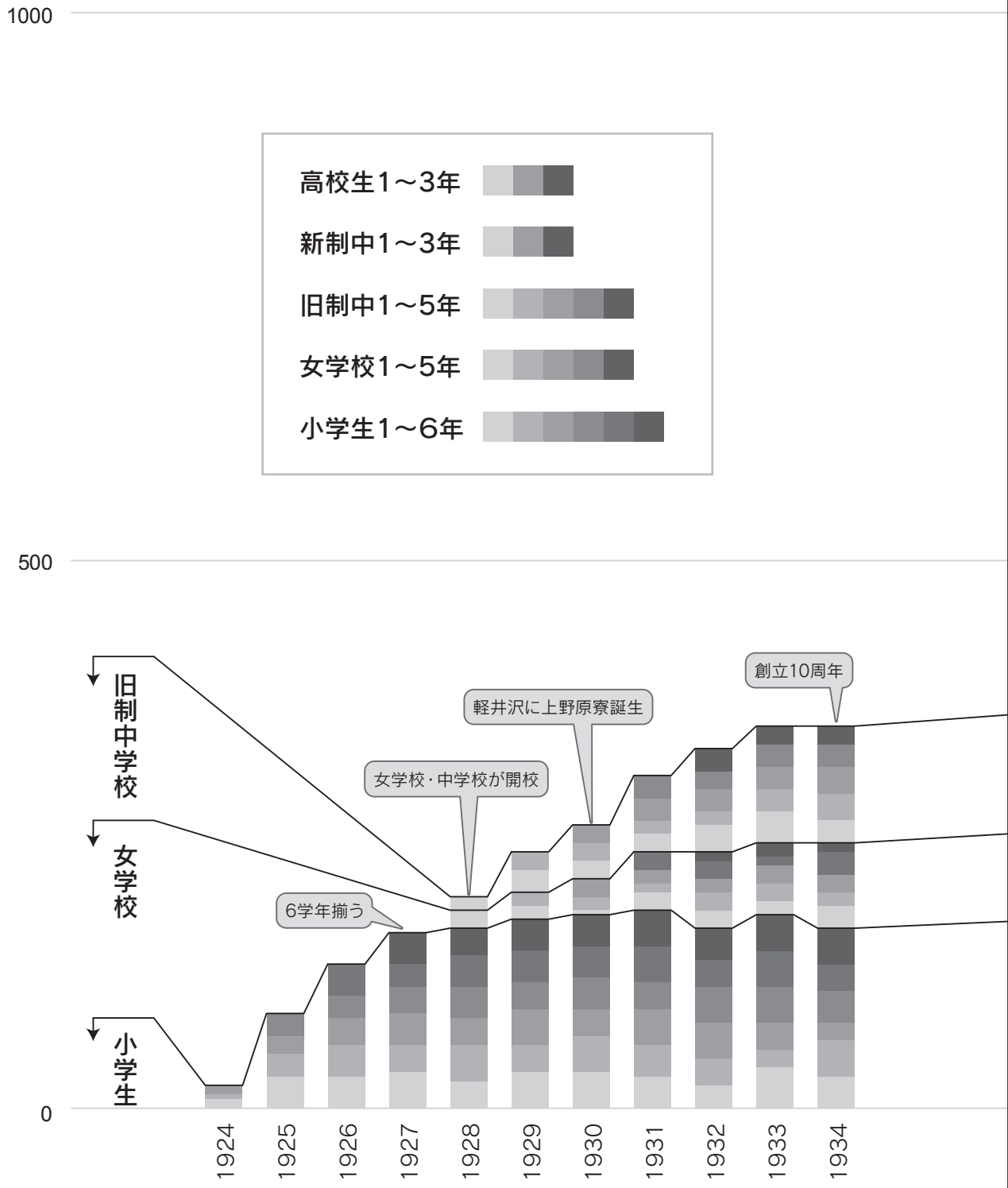
牟礼キャンパス（2023 年 9 月）

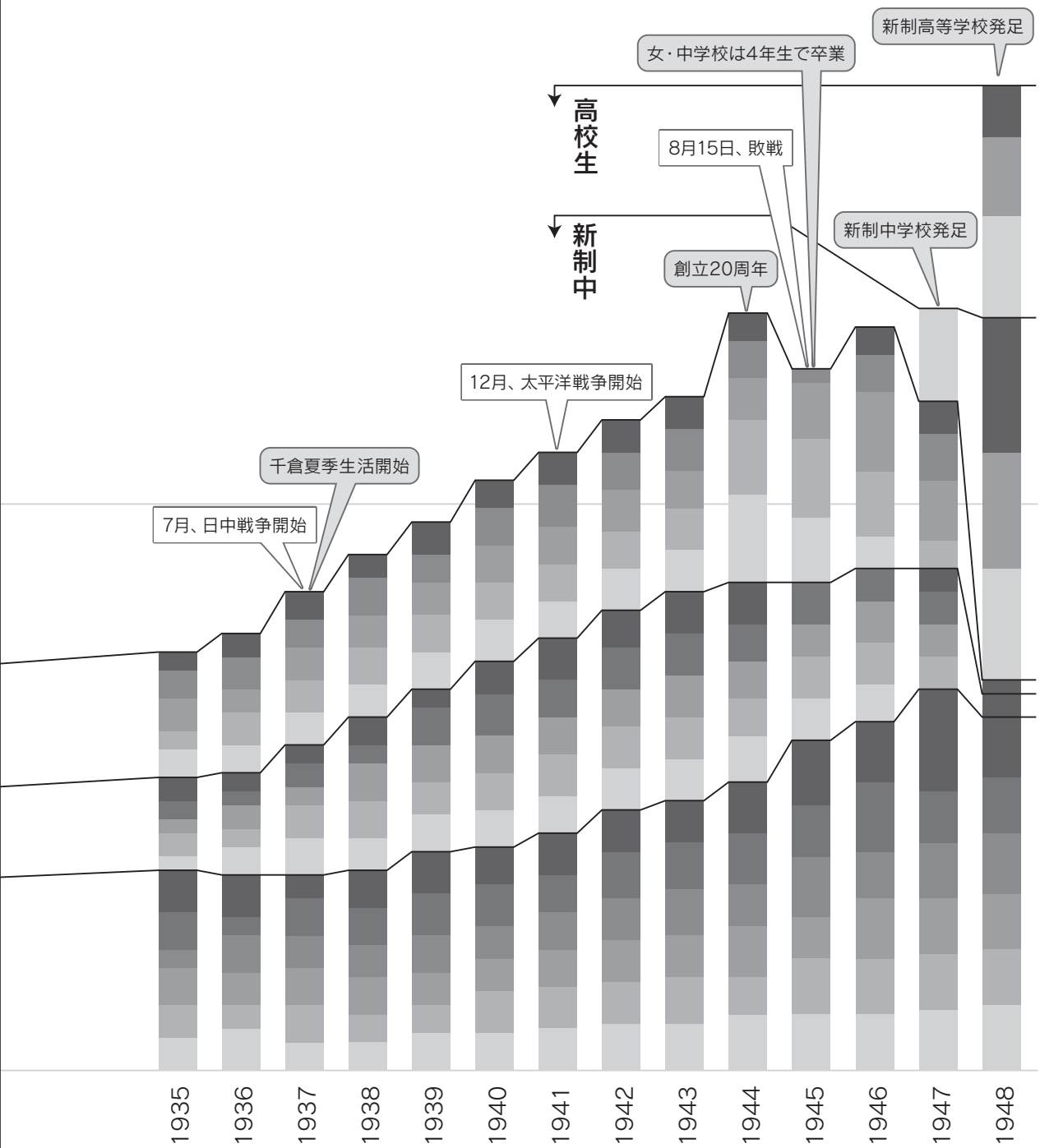


井の頭キャンパス（2023 年 9 月）

児童生徒数推移

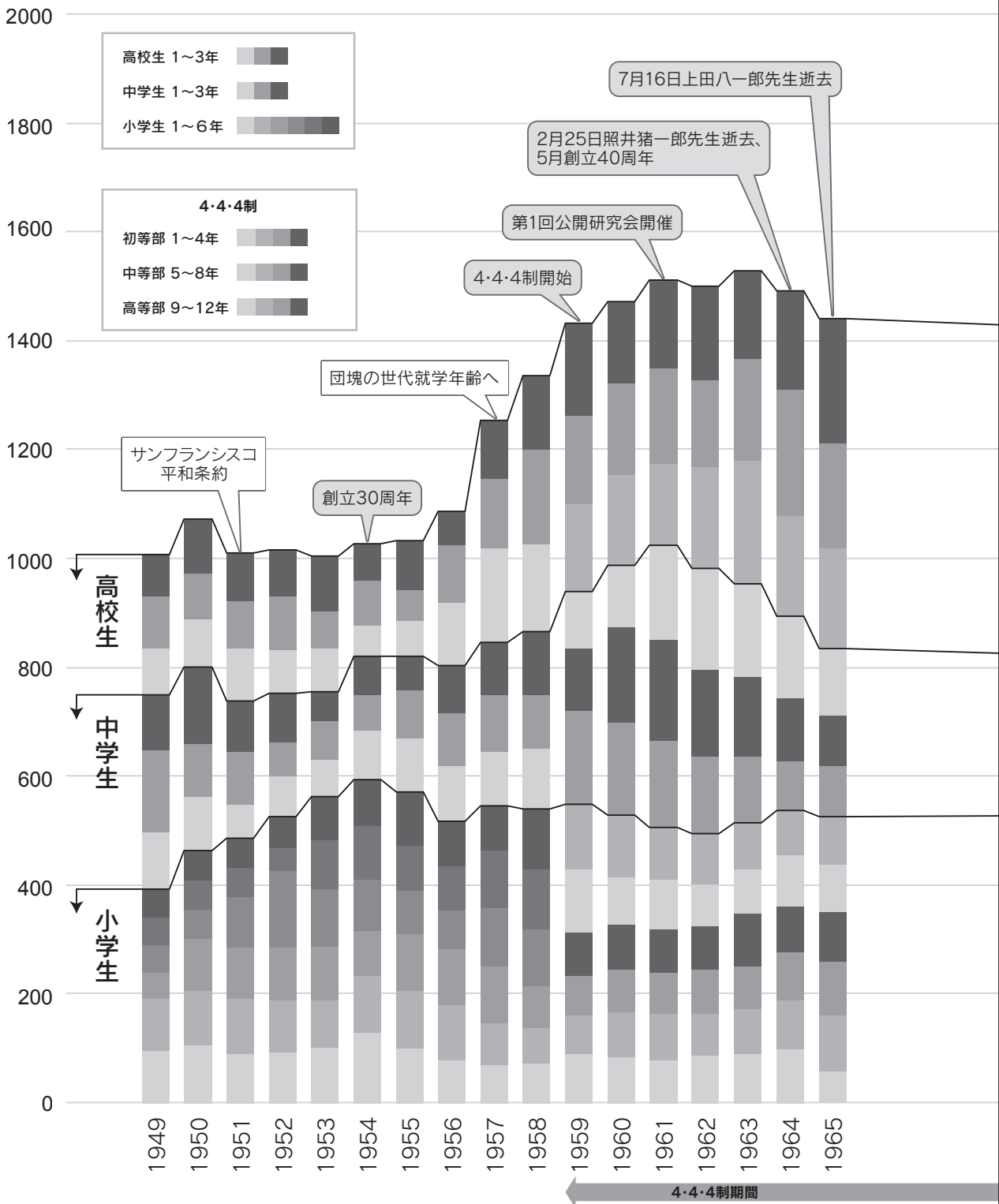
1924～1948年度

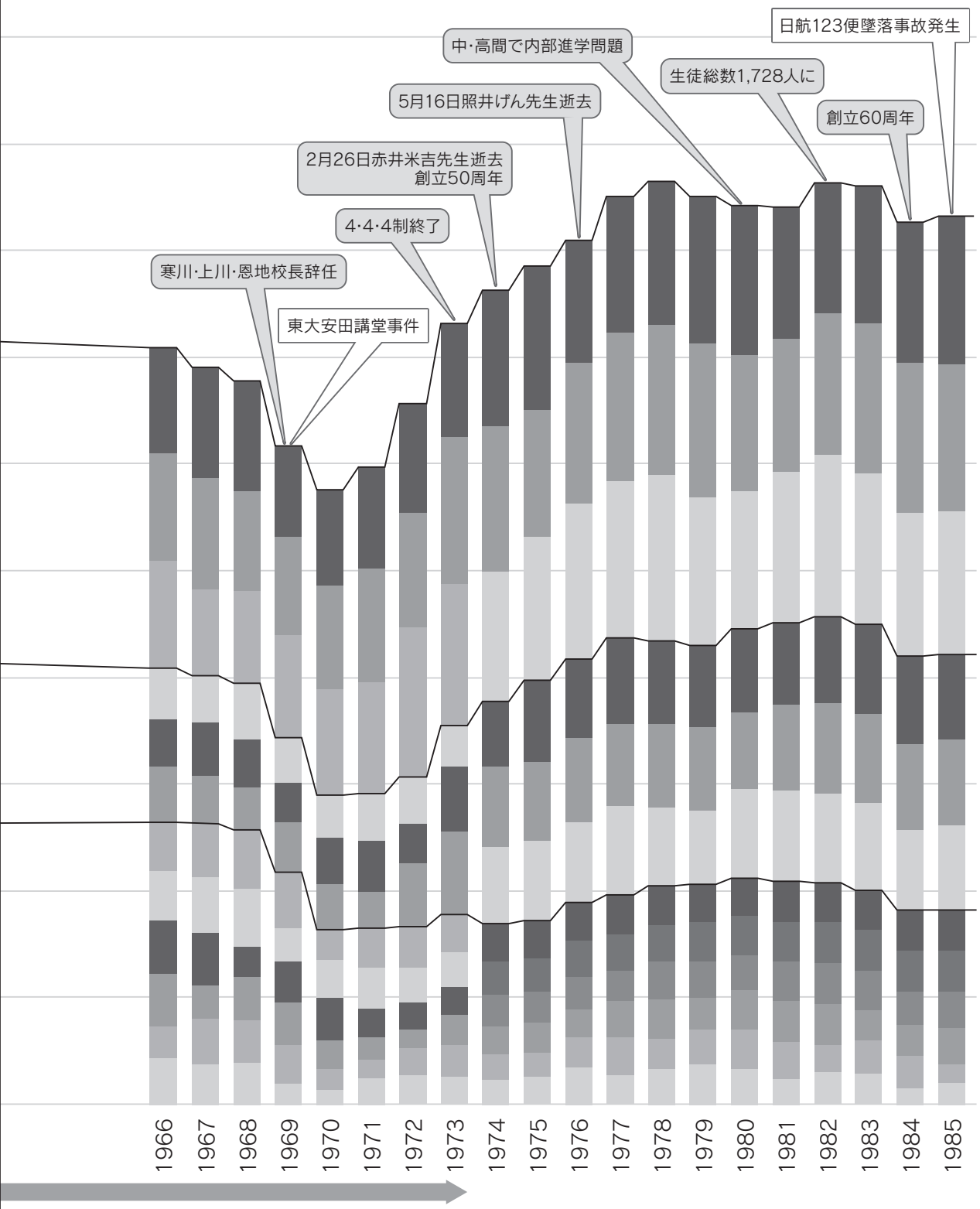



新制高等学校発足
女・中学校は4年生で卒業
高校生
8月15日、敗戦
新制中学校発足
新制中
創立20周年
12月、太平洋戦争開始
千倉夏季生活開始
7月、日中戦争開始
1935
1936
1937
1938
1939
1940
1941
1942
1943
1944
1945
1946
1947
1948

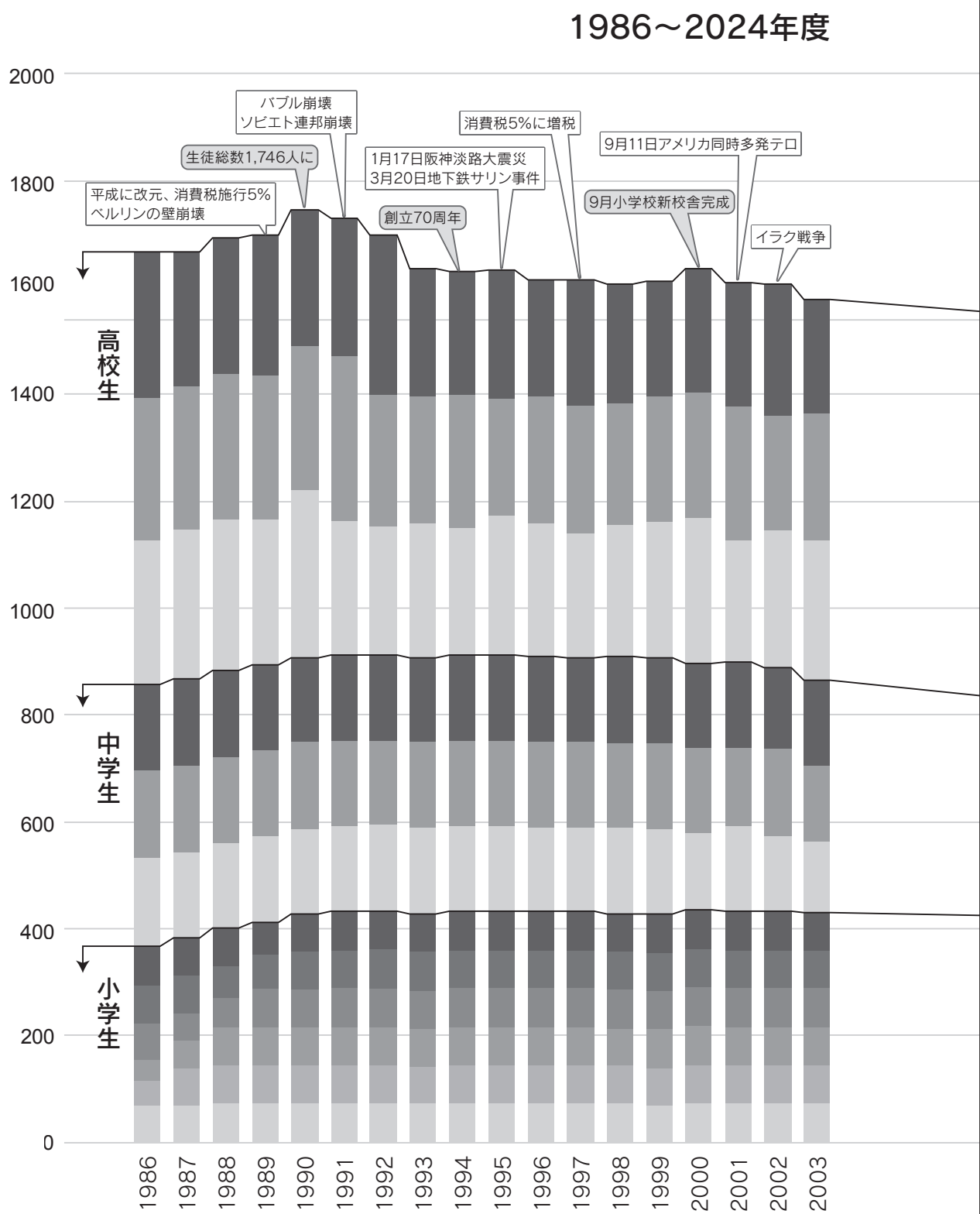
児童生徒数推移

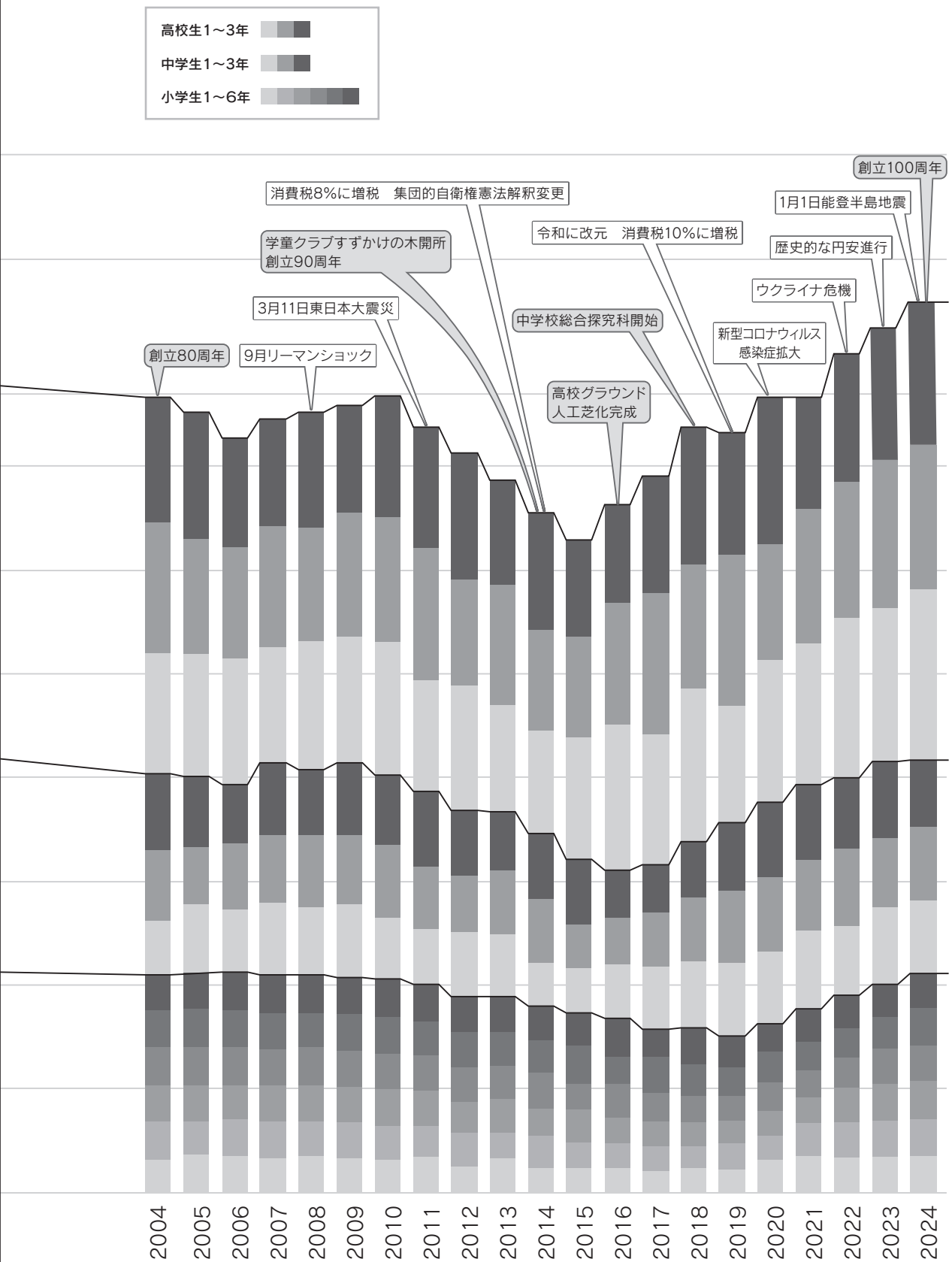
1949～1985年度




日航123便墜落事故発生
中·高間で内部進学問題
生徒総数1,728人に
5月16日照井げん先生逝去
創立60周年
2月26日赤井米吉先生逝去
創立50周年
4·4·4制終了
寒川·上川·恩地校長辞任
東大安田講堂事件
1966
1967
1968
1969
1970
1971
1972
1973
1974
1975
1976
1977
1978
1979
1980
1981
1982
1983
1984
1985

児童生徒数推移


1986～2024年度
2000
1800
1600
1400
1200
1000
800
600
400
200
0
高校生
中学生
小学生
平成に改元、消費税施行5%
ベルリンの壁崩壊
生徒総数1,746人に
バブル崩壊
ソビエト連邦崩壊
創立70周年
1月17日阪神淡路大震災
3月20日地下鉄サリン事件
消費税5%に増税
9月小学校新校舎完成
9月11日アメリカ同時多発テロ
イラク戦争
1986
1987
1988
1989
1990
1991
1992
1993
1994
1995
1996
1997
1998
1999
2000
2001
2002
2003


高校生1～3年
中学生1～3年
小学生1～6年
創立100周年
1月1日能登半島地震
消費税8%に増税　集団的自衛権憲法解釈変更
歴史的な円安進行
令和に改元　消費税10%に増税
学童クラブすずかけの木開所
創立90周年
ウクライナ危機
3月11日東日本大震災
中学校総合探究科開始
新型コロナウィルス
感染症拡大
創立80周年
9月リーマンショック
高校グラウンド
人工芝化完成
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024

「私は何回生？」入学・卒業年度一覧表

	回生	標準的な誕生年 ※早生まれの人は1年上を参照	小学校		高等女学校		旧制中学校		備考
			入学 4月 *1924年を除く	卒業 3月	入学 4月	卒業 3月	入学 4月	卒業 3月	
創立期〜太平洋戦争期	1	1915年(大4)卯	1924年 5月	1928年	1928年	1933年	1928年	1933年	
	2	1916年(大5)辰	1924年 5月	1929年	1929年	1934年	1929年	1934年	
	3	1917年(大6)巳	1924年 5月	1930年	1930年	1935年	1930年	1935年	
	4	1918年(大7)午	1925年	1931年	1931年	1936年	1931年	1936年	
	5	1919年(大8)未	1926年	1932年	1932年	1937年	1932年	1937年	
	6	1920年(大9)申	1927年	1933年	1933年	1938年	1933年	1938年	
	7	1921年(大10)酉	1928年	1934年	1934年	1939年	1934年	1939年	
	8	1922年(大11)戌	1929年	1935年	1935年	1940年	1935年	1940年	
	9	1923年(大12)亥	1930年	1936年	1936年	1941年	1936年	1941年	
	10	1924年(大13)子	1931年	1937年	1937年	1942年	1937年	1942年	
	11	1925年(大14)丑	1932年	1938年	1938年	1943年	1938年	1943年	
	12	1926年(大15)寅	1933年	1939年	1939年	1944年	1939年	1944年	
	13	1927年(昭2)卯	1934年	1940年	1940年	1945年	1940年	1945年	
	14	1928年(昭3)辰	1935年	1941年	1941年	1945年 4年修了で卒業	1941年	1945年 1946年	戦時体制で、本来5年制のところ4年修了時点で卒業させられた。ただし中学校(男子)の一部は5年修了まで在学したため、男子は同じ回生でも卒業年が2通りに分かれる。
	15	1929年(昭4)巳	1936年	1942年	1942年	1946年 4年修了で卒業	1942年	1946年 1947年	
教育制度移行期	16	1930年(昭5)午	1937年	1943年	1943年	1948年	1943年	1948年	16〜19回生は、旧制度の高等女学校・中学校に入学した学年であるが、在学中に国の教育制度が切り替わり、明星でも新制中学校・高等学校が発足した。 16・17回生は旧制度(5年制)で卒業するか、新制高校3年生に編入するかを選択した。 18・19回生は卒業までに新制中学校に移行し、新制中学の第1回・第2回卒業生となった。
	17	1931年(昭6)未	1938年	1944年	1944年	1949年	1944年	1949年	
	18	1932年(昭7)申			1945年	新制中学へ編入	1945年	新制中学へ編入	
	19	1933年(昭8)酉			1946年	新制中学へ編入	1946年	新制中学へ編入	
	回生	標準的な誕生年 ※早生まれの人は1年上を参照	小学校		新制中学校 1947 年発足		高等学校 1948 年発足		
			入学 4 月	卒業 3 月	入学 4 月	卒業 3 月	入学 4 月	卒業 3 月	
	16	1930年(昭5)午					女・旧中から編入	1949年	
	17	1931年(昭6)未					女・旧中から編入	1950年	
	18	1932年(昭7)申	1939年	1945年	女・旧中から編入	1948年	1948年	1951年	
	19	1933年(昭8)酉	1940年	1946年	女・旧中から編入	1949年	1949年	1952年	

	回生	標準的な誕生年 ※早生まれの人は1年上を参照	小学校		新制中学校		高等学校		備考
			入学 4月	卒業 3月	入学 4月	卒業 3月	入学 4月	卒業 3月	
新制度開始期	20	1934年（昭９）戌	1941年	1947年	1947年	1950年	1950年	1953年	
	21	1935年（昭10）亥	1942年	1948年	1948年	1951年	1951年	1954年	
	22	1936年（昭11）子	1943年	1949年	1949年	1952年	1952年	1955年	
	23	1937年（昭12）丑	1944年	1950年	1950年	1953年	1953年	1956年	
	24	1938年（昭13）寅	1945年	1951年	1951年	1954年	1954年	1957年	
	25	1939年（昭14）卯	1946年	1952年	1952年	1955年	1955年	1958年	
	26	1940年（昭15）辰	1947年	1953年	1953年	1956年	1956年	1959年	
4・4・4制実施期	27	1941年（昭16）巳	1948年	1954年	1954年	1957年	1957年	1960年	1959年4月から1974年3月までの期間、4・4・4制を実施した。 初等部・中等部・高等部それぞれ4年間の区切りとしていたが、7年生・10年生で多くの生徒が“編入”した。 ここでは4・4・4制の実施期間を示すのみとし、入学・卒業については6・3・3制の年次で表記する。
	28	1942年（昭17）午	1949年	1955年	1955年	1958年	1958年	1961年	
	29	1943年（昭18）未	1950年	1956年	1956年	1959年	1959年	1962年	
	30	1944年（昭19）申	1951年	1957年	1957年	1960年	1960年	1963年	
	31	1945年（昭20）酉	1952年	1958年	1958年	1961年	1961年	1964年	
	32	1946年（昭21）戌	1953年	1959年	1959年	1962年	1962年	1965年	
	33	1947年（昭22）亥	1954年	1960年	1960年	1963年	1963年	1966年	
	34	1948年（昭23）子	1955年	1961年	1961年	1964年	1964年	1967年	
	35	1949年（昭24）丑	1956年	1962年	1962年	1965年	1965年	1968年	
	36	1950年（昭25）寅	1957年	1963年	1963年	1966年	1966年	1969年	
	37	1951年（昭26）卯	1958年	1964年	1964年	1967年	1967年	1970年	
	38	1952年（昭27）辰	1959年	1965年	1965年	1968年	1968年	1971年	
	39	1953年（昭28）巳	1960年	1966年	1966年	1969年	1969年	1972年	
	40	1954年（昭29）午	1961年	1967年	1967年	1970年	1970年	1973年	
	41	1955年（昭30）未	1962年	1968年	1968年	1971年	1971年	1974年	
	42	1956年（昭31）申	1963年	1969年	1969年	1972年	1972年	1975年	
	43	1957年（昭32）酉	1964年	1970年	1970年	1973年	1973年	1976年	
	44	1958年（昭33）戌	1965年	1971年	1971年	1974年	1974年	1977年	
	45	1959年（昭34）亥	1966年	1972年	1972年	1975年	1975年	1978年	
	46	1960年（昭35）子	1967年	1973年	1973年	1976年	1976年	1979年	
	47	1961年（昭36）丑	1968年	1974年	1974年	1977年	1977年	1980年	
	48	1962年（昭37）寅	1969年	1975年	1975年	1978年	1978年	1981年	
	49	1963年（昭38）卯	1970年	1976年	1976年	1979年	1979年	1982年	
	50	1964年（昭39）辰	1971年	1977年	1977年	1980年	1980年	1983年	
	51	1965年（昭40）巳	1972年	1978年	1978年	1981年	1981年	1984年	
	52	1966年（昭41）午	1973年	1979年	1979年	1982年	1982年	1985年	

	回生	標準的な誕生年 ※早生まれの人は1年上を参照	小学校		中学校		高等学校		備考
			入学 4月	卒業 3月	入学 4月	卒業 3月	入学 4月	卒業 3月	
6・3・3制	53	1967年(昭42)未	1974年	1980年	1980年	1983年	1983年	1986年	
	54	1968年(昭43)申	1975年	1981年	1981年	1984年	1984年	1987年	
	55	1969年(昭44)酉	1976年	1982年	1982年	1985年	1985年	1988年	
	56	1970年(昭45)戌	1977年	1983年	1983年	1986年	1986年	1989年	
	57	1971年(昭46)亥	1978年	1984年	1984年	1987年	1987年	1990年	
	58	1972年(昭47)子	1979年	1985年	1985年	1988年	1988年	1991年	
	59	1973年(昭48)丑	1980年	1986年	1986年	1989年	1989年	1992年	
	60	1974年(昭49)寅	1981年	1987年	1987年	1990年	1990年	1993年	
	61	1975年(昭50)卯	1982年	1988年	1988年	1991年	1991年	1994年	
	62	1976年(昭51)辰	1983年	1989年	1989年	1992年	1992年	1995年	
	63	1977年(昭52)巳	1984年	1990年	1990年	1993年	1993年	1996年	
	64	1978年(昭53)午	1985年	1991年	1991年	1994年	1994年	1997年	
	65	1979年(昭54)未	1986年	1992年	1992年	1995年	1995年	1998年	
	66	1980年(昭55)申	1987年	1993年	1993年	1996年	1996年	1999年	
	67	1981年(昭56)酉	1988年	1994年	1994年	1997年	1997年	2000年	
	68	1982年(昭57)戌	1989年	1995年	1995年	1998年	1998年	2001年	
	69	1983年(昭58)亥	1990年	1996年	1996年	1999年	1999年	2002年	
	70	1984年(昭59)子	1991年	1997年	1997年	2000年	2000年	2003年	
	71	1985年(昭60)丑	1992年	1998年	1998年	2001年	2001年	2004年	
	72	1986年(昭61)寅	1993年	1999年	1999年	2002年	2002年	2005年	
	73	1987年(昭62)卯	1994年	2000年	2000年	2003年	2003年	2006年	
	74	1988年(昭63)辰	1995年	2001年	2001年	2004年	2004年	2007年	
	75	1989年(平1)巳	1996年	2002年	2002年	2005年	2005年	2008年	
	76	1990年(平2)午	1997年	2003年	2003年	2006年	2006年	2009年	
	77	1991年(平3)未	1998年	2004年	2004年	2007年	2007年	2010年	
	78	1992年(平4)申	1999年	2005年	2005年	2008年	2008年	2011年	
	79	1993年(平5)酉	2000年	2006年	2006年	2009年	2009年	2012年	
	80	1994年(平6)戌	2001年	2007年	2007年	2010年	2010年	2013年	
	81	1995年(平7)亥	2002年	2008年	2008年	2011年	2011年	2014年	
	82	1996年(平8)子	2003年	2009年	2009年	2012年	2012年	2015年	
	83	1997年(平9)丑	2004年	2010年	2010年	2013年	2013年	2016年	
	84	1998年(平10)寅	2005年	2011年	2011年	2014年	2014年	2017年	
	85	1999年(平11)卯	2006年	2012年	2012年	2015年	2015年	2018年	

	回生	標準的な誕生年 ※早生まれの人は1年上を参照	小学校		中学校		高等学校		備考
			入学 4月	卒業 3月	入学 4月	卒業 3月	入学 4月	卒業 3月	
6・6制	86	2000年（平12）辰	2007年	2013年	2013年	2016年	2016年	2019年	
	87	2001年（平13）巳	2008年	2014年	2014年	2017年	2017年	2020年	
	88	2002年（平14）午	2009年	2015年	2015年	2018年	2018年	2021年	
	89	2003年（平15）未	2010年	2016年	2016年	2019年	2019年	2022年	
	90	2004年（平16）申	2011年	2017年	2017年	2020年	2020年	2023年	
	91	2005年（平17）酉	2012年	2018年	2018年	2021年	2021年	2024年	2024年度の学年 ⇩
	92	2006年（平18）戌	2013年	2019年	2019年	2022年	2022年	2025年	12年生
	93	2007年（平19）亥	2014年	2020年	2020年	2023年	2023年	2026年	11年生
	94	2008年（平20）子	2015年	2021年	2021年	2024年	2024年	2027年	10年生
	95	2009年（平21）丑	2016年	2022年	2022年	2025年	2025年	2028年	9年生
	96	2010年（平22）寅	2017年	2023年	2023年	2026年	2026年	2029年	8年生
	97	2011年（平23）卯	2018年	2024年	2024年	2027年	2027年	2030年	7年生
	98	2012年（平24）辰	2019年	2025年	2025年	2028年	2028年	2031年	6年生
	99	2013年（平25）巳	2020年	2026年	2026年	2029年	2029年	2032年	5年生
	100	2014年（平26）午	2021年	2027年	2027年	2030年	2030年	2033年	4年生
	101	2015年（平27）未	2022年	2028年	2028年	2031年	2031年	2034年	3年生
	102	2016年（平28）申	2023年	2029年	2029年	2032年	2032年	2035年	2年生
	103	2017年（平29）酉	2024年	2030年	2030年	2033年	2033年	2036年	1年生
	104	2018年（平30）戌	2025年	2031年	2031年	2034年	2034年	2037年	
	105	2019年（平31）亥	2026年	2032年	2032年	2035年	2035年	2038年	
	106	2020年（令２）子	2027年	2033年	2033年	2036年	2036年	2039年	
	107	2021年（令３）丑	2028年	2034年	2034年	2037年	2037年	2040年	
	108	2022年（令４）寅	2029年	2035年	2035年	2038年	2038年	2041年	
	109	2023年（令５）卯	2030年	2036年	2036年	2039年	2039年	2042年	
	110	2024年（令６）辰	2031年	2037年	2037年	2040年	2040年	2043年	
	111	2025年（令７）巳	2032年	2038年	2038年	2041年	2041年	2044年	
	112	2026年（令８）午	2033年	2039年	2039年	2042年	2042年	2045年	
	113	2027年（令９）未	2034年	2040年	2040年	2043年	2043年	2046年	
	114	2028年（令10）申	2035年	2041年	2041年	2044年	2044年	2047年	

担任一覧　1 ～ 6 年生　1924 ～ 2024 年度

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1924 大13	小学校 園長/赤井米吉	1	3		照井げん
		2	2		照井猪一郎
		3	1		山本徳行
1925 大14	小学校 園長/赤井米吉	1	4		霜田静志
		2	3		照井げん
		3	2		照井猪一郎
		4	1		山本徳行
1926 大15	小学校 園長/赤井米吉	1	5		須田寧
		2	4		霜田静志
		3	3		大高義一
		4	2		照井猪一郎
		5	1		山本徳行
1927 昭2	小学校 園長/赤井米吉	1	6		松枝良作
		2	5		須田寧
		3	4		霜田静志
		4	3		大高義一
		5	2		照井猪一郎
		6	1		山本徳行
1928 昭3	小学部 園長/赤井米吉	1	7		霧島(中島)昇平
		2	6		松枝良作
		3	5		須田寧
		4	4		太田雄治郎
		5	3		大高義一
		6	2		照井猪一郎
1929 昭4	小学部 園長/赤井米吉 部長/照井猪一郎	1	8		照井猪一郎
		2	7		霧島(中島)昇平
		3	6		松枝良作
		4	5		須田寧
		5	4		霜田静志
		6	3		大高義一
1930 昭5	小学部 園長/赤井米吉 部長/照井猪一郎	1	9		五十嵐重虎
		2	8		照井猪一郎
		3	7		霧島(中島)昇平
		4	6		松枝良作
		5	5		須田寧
		6	4		霜田静志
1931 昭6	小学部 園長/赤井米吉 主任/照井猪一郎	1	10		安藤正義
		2	9		五十嵐重虎
		3	8		照井猪一郎
		4	7		中島昇平
		5	6		松枝良作
		6	5		須田寧
1932 昭7	小学部 園長/赤井米吉 主任/照井猪一郎	1	11		中村勇
		2	10		安藤正義
		3	9		五十嵐重虎
		4	8		照井猪一郎
		5	7		中島昇平
		6	6		松枝良作

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1933 昭8	小学部 園長/赤井米吉 部長/照井猪一郎	1	12		牧均
		2	11		中村勇
		3	10		安藤正義
		4	9		五十嵐重虎
		5	8		照井猪一郎
		6	7		中島昇平
1934 昭9	小学部 園長/赤井米吉 部長/照井猪一郎	1	13		原田満寿郎
		2	12		牧均
		3	11		中村勇
		4	10		安藤正義
		5	9		五十嵐重虎
		6	8		照井猪一郎
1935 昭10	小学部 園長/赤井米吉 部長/照井猪一郎	1	14		伏見頼二
		2	13		原田満寿郎
		3	12		牧均
		4	11		中村勇
		5	10		安藤正義
		6	9		照井猪一郎
1936 昭11	小学部 園長/赤井米吉 部長/照井猪一郎	1	15		照井猪一郎
		2	14		伏見頼二
		3	13		原田満寿郎
		4	12		牧均
		5	11		中村勇
		6	10		安藤正義
1937 昭12	小学部 園長/赤井米吉 部長/照井猪一郎	1	16		佐々木金之助
		2	15		照井猪一郎
		3	14		伏見頼二
		4	13		原田満寿郎
		5	12		牧均
		6	11		中村勇
1938 昭13	小学部 園長/赤井米吉 部長/照井猪一郎	1	17		橘正薫
		2	16		佐藤加壽輔
		3	15		照井猪一郎
		4	14		伏見頼二
		5	13		原田満寿郎
		6	12		牧均
1939 昭14	小学部 園長/赤井米吉 部長/照井猪一郎	1	18		高橋律之輔
		2	17		橘正薫
		3	16		佐藤加壽輔
		4	15		照井猪一郎
		5	14		伏見頼二
		6	13		原田満寿郎
1940 昭15	小学部 園長/赤井米吉 部長/照井猪一郎	1	19		原田満寿郎
		2	18		鎌田貞之助
		3	17		橘正薫
		4	16		佐藤加壽輔
		5	15		照井猪一郎
		6	14		吉田小重郎

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1941 昭16	初等部 園長/赤井米吉 部長/照井猪一郎	1	20		桑原正三
		2	19		原田満寿郎
		3	18		鎌田貞之助
		4	17		橘正薫
		5	16		佐藤加壽輔
		6	15		照井猪一郎
1942 昭17	初等部 園長/赤井米吉 部長/照井猪一郎	1	21		大平馨
		2	20		桑原正三
		3	19		原田満寿郎
		4	18		照井猪一郎
		5	17		橘正薫
		6	16		佐藤加壽輔
1943 昭18	初等部 園長/赤井米吉 部長/照井猪一郎	1	22		照井猪一郎
		2	21		大平馨
		3	20		佐藤加壽輔
		4	19		原田満寿郎
		5	18		照井猪一郎
		6	17		橘正薫
1944 昭19	初等部 園長/赤井米吉 部長/照井猪一郎	1	23		橘正薫
		2	22		高橋幸一
		3	21		大平馨
		4	20		佐藤加壽輔
		5	19		原田満寿郎
		6	18		照井猪一郎
1945 昭20	初等部 園長/赤井米吉 部長/照井猪一郎 1945～49年の児童生徒名簿は残っていない。この年の担任は前後年から推測した。	1	24		照井げん
		2	23		橘正薫
		3	22		高橋幸一
		4	21		大平馨
		5	20		佐藤加壽輔
		6	19		原田満寿郎
1946 昭21	初等部 園長/赤井米吉 部長/照井猪一郎 11月4日、GHQ教育職員適格審査委員会で不適格と判断され赤井は教職追放となる。	1	25		(不明)
		2	24		(不明)
		3	23		(不明)
		4	22		(不明)
		5	21		橘正薫
		6	20		佐藤加壽輔
1947 昭22	部長/照井猪一郎	1	26		(不明)
		2	25		(不明)
		3	24		(不明)
		4	23		(不明)
		5	22		(不明)
		6	21	1組	廣川孝
				2組	橘正薫
1948 昭23	部長/照井猪一郎	1	27		(不明)
		2	26		(不明)
		3	25		(不明)
		4	24		寒川道夫
		5	23		(不明)
		6	22		(不明)

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1949 昭24	部長/照井猪一郎	1	28		(不明)
		2	27		(不明)
		3	26		(不明)
		4	25		(不明)
		5	24		寒川道夫
		6	23		(不明)
1950 昭25	小学校 校長/照井猪一郎 1950～60の小学校では各組に植物の名前を冠し、学年が上がってもクラス替えをせずそのままの組名で進級した。	1	29	きり	佐藤加壽輔
				はぎ	小林章一
		2	28	きく	佐藤(岸)巖
		3	27	さくら	廣川孝
		4	26	つばき	善方国男
		5	25	うめ	鈴木満男
		6	24	ふじ	寒川道夫
1951 昭26	小学校 校長/照井猪一郎 主任/佐藤加壽輔	1	30	ふじ	廣川孝
				ばら	伊藤迪
		2	29	きり	佐藤加壽輔
				はぎ	小林章一
		3	28	きく	佐藤(岸)巖
				ゆり	寒川道夫
		4	27	もも	善方国男
		5	26	つばき	室谷幸吉
		6	25	うめ	鈴木満男
1952 昭27	小学校 校長/照井猪一郎 主任/善方国男	1	31	ふよう	佐藤加壽輔
				うめ	佐藤(岸)巖
		2	30	ふじ	廣川孝
				ばら	伊藤迪
		3	29	きり	鈴木満男
				はぎ	村崎洋
		4	28	ゆり	寒川道夫
				きく	山本徳治
		5	27	もも	善方国男
				さくら	小森澄憲
		6	26	つばき	室谷幸吉
1953 昭28	小学校 校長/照井猪一郎 主任/善方国男	1	32	つばき	室谷幸吉
				すみれ	寒川道夫
		2	31	うめ	岸巖
				ふよう	小松幸吉
		3	30	ふじ	佐々木玄吾
				ばら	伊藤廸
		4	29	きり	鈴木満男
				はぎ	村崎洋
		5	28	ゆり	廣川孝
				きく	佐伯昭定
		6	27	もも	善方国男
				さくら	小森澄憲

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1954 昭29	小学校 校長/照井猪一郎 主任/善方国男	1	33	もも	伊藤迪
				さくら	小森澄憲
		2	32	すみれ	寒川道夫
				つばき	室谷幸吉
		3	31	うめ	岸巌
				ふよう	小松幸吉
		4	30	ふじ	佐々木玄吾
				ばら	村崎洋
		5	29	きり	善方国男
				はぎ	鈴木満男
		6	28	ゆり	廣川孝
				きく	佐伯昭定
1955 昭30	小学校 校長/照井猪一郎 主任/善方国男	1	34	ゆり	廣川孝
				きく	鈴木幸吉
		2	33	もも	生越昭吉
				さくら	小森澄憲
		3	32	すみれ	寒川道夫
				つばき	室谷幸吉
		4	31	うめ	佐々木玄吾
				ふよう	佐伯昭定
		5	30	ふじ	岸いわお
				ばら	鎌田貞之助
		6	29	きり	善方国男
				はぎ	鈴木満男
1956 昭31	小学校 校長/照井猪一郎 主任/善方国男	1	35	すみれ	生越昭吉
				つばき	小松幸吉
		2	34	ゆり	廣川孝
				きく	鈴木幸吉
		3	33	もも	寒川道夫
				さくら	一ノ瀬前典
		4	32	はぎ	無着成恭
				かえで	小森澄憲
				きり	善方国男
		5	31	うめ	佐々木玄吾
				ふよう	佐伯昭定
		6	30	ふじ	岸いわお
				ばら	鎌田貞之助
1957 昭32	小学校 校長/照井猪一郎 主任/善方国男	1	36	もも	岸いわお
				さくら	一ノ瀬前典
		2	35	すみれ	上川淳
				つばき	室谷幸吉
		3	34	さつき	鈴木幸吉
				ふじ	鎌田貞之助
				ばら	鈴木五郎
		4	33	ゆり	寒川道夫
				きく	島田厚
				あやめ	廣川孝
		5	32	はぎ	無着成恭
				かえで	小森澄憲
				きり	善方国男
		6	31	うめ	佐々木玄吾
				ふよう	佐伯昭定

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1958 昭33	小学校 校長/照井猪一郎 主任/善方国男	1	37	うめ	室谷幸吉
				ふよう	佐伯昭定
		2	36	もも	岸いわお
				さくら	佐藤文夫
		3	35	すみれ	上川淳
				つばき	鈴木幸吉
		4	34	さつき	佐々木玄吾
				ふじ	照井猪一郎
		5	33	ゆり	寒川道夫
				きく	菅野昭二
				あやめ	廣川孝
		6	32	はぎ	無着成恭
				かえで	小森澄憲
				きり	善方国男
1959 年 4 月、4・4・4 制開始					
1959 昭34	低学年部 小中校長/照井猪一郎 小主任/善方国男	低1	38	はぎ	岸いわお
				かえで	小森澄憲
				きり	佐々木玄吾
		低2	37	うめ	室谷幸吉
				ふよう	佐伯昭定
		低3	36	もも	伊藤迪
				さくら	佐藤文夫
		低4	35	すみれ	町田熊吉
				つばき	鈴木幸吉
				ぽたん	善方国男
	中学年部（前期）	中5	34	さつき	無着成恭
				ふじ	山浦邦夫
				ばら	上川淳
		中6	33	ゆり	寒川道夫
				きく	菅野昭二
				あやめ	広川孝
1960 昭35	低学年部 小中校長/照井猪一郎 全国教務/橘正薫	低1	39	ゆり	室谷幸吉
				きく	佐藤文夫
				あやめ	町田熊吉
		低2	38	はぎ	岸いわお
				かえで	小森澄憲
				きり	佐々木玄吾
		低3	37	うめ	鈴木幸吉
				ふよう	佐伯昭定
		低4	36	もも	伊藤迪
				さくら	辻木猪一郎
	中学年部（前期）	中5	35	すみれ	広川孝
				つばき	三橋和正
				ぽたん	土屋浩
		中6	34	さつき	無着成恭
				ふじ	山浦邦夫
				ばら	上川淳

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1961 昭36	低学年部 小中校長/照井猪一郎 全園教務/橘正薫	低1	40	1組	伊藤迪
				2組	佐伯昭定
				3組	山浦邦夫
		低2	39	1組	室谷幸吉
				2組	佐藤文夫
				3組	町田熊吉
		低3	38	1組	岸いわお
				2組	小森澄憲
				3組	佐々木玄吾
		低4	37	1組	鈴木幸吉
				2組	内藤哲彦
	中学年部（前期）	中5	36	1組	辻木猪一郎
				2組	工藤周一
				3組	無着成恭
		中6	35	1組	広川孝
				2組	三橋和正
				3組	土屋浩
1962 昭37	低学年部 小中校長/照井猪一郎 全園教務/橘正薫	低1	41	1組	寒川道夫
				2組	岸いわお
				3組	佐々木玄吾
		低2	40	1組	伊藤迪
				2組	佐伯昭定
				3組	山浦邦夫
		低3	39	1組	室谷幸吉
				2組	佐藤文夫
				3組	町田熊吉
		低4	38	1組	善方国男
				2組	小森澄憲
				3組	鈴木幸吉
	中学年部（前期）	中5	37	1組	広川孝
				2組	遠藤豊
		中6	36	1組	辻木猪一郎
				2組	工藤周一
				3組	無着成恭
1963 昭38	低学年部 小中校長/照井猪一郎 全園教務/橘正薫	低1	42	1組	善方国男
				2組	小森澄憲
				3組	辻木猪一郎
		低2	41	1組	寒川道夫
				2組	岸いわお
				3組	佐々木玄吾
		低3	40	1組	伊藤迪
				2組	佐伯昭定
				3組	山浦邦夫
		低4	39	1組	室谷幸吉
				2組	佐藤文夫
				3組	町田熊吉
	中学年部（前期）	中5	38	1組	松井幹夫
				2組	無着成恭
		中6	37	1組	広川孝
				2組	遠藤豊

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1964 昭39	低学年部 全園校長/上田八一郎	低1	43	1組	町田熊吉
				2組	菅野睦子
				3組	室谷幸吉
		低2	42	1組	善方国男
				2組	小森澄憲
				3組	辻木猪一郎
		低3	41	1組	末房政子
				2組	佐伯昭定
				3組	佐々木玄吾
		低4	40	1組	伊藤迪
				2組	吉田登
				3組	山浦邦夫
	中学年部（前期）	中5	39	1組	広川孝
				2組	工藤周一
				3組	佐藤文夫
		中6	38	1組	松井幹夫
				2組	無着成恭
1965 昭40	低学年部 全園校長/上田八一郎	低1	44	1組	須田清
				2組	伊藤迪
		低2	43	1組	町田熊吉
				2組	菅野睦子
				3組	室谷幸吉
		低3	42	1組	善方国男
				2組	吉田登
				3組	辻木猪一郎
		低4	41	1組	小森澄憲
				2組	佐伯昭定
	中学年部（前期）	中5	40	1組	荒川有史
				2組	山浦邦夫
				3組	遠藤豊
		中6	39	1組	広川孝
				2組	工藤周一
				3組	佐藤文夫
1966 昭41	初等部 小校長/寒川道夫 教頭/佐伯昭定	初1	45	1組	小森澄憲
				2組	室谷幸吉
				3組	岸巌
		初2	44	1組	須田清
				2組	伊藤迪
		初3	43	1組	町田熊吉
				2組	佐々木玄吾
				3組	佐伯昭定
		初4	42	1組	善方国男
				2組	吉田登
				3組	辻木猪一郎
	中等部	中5	41	1組	内藤哲彦
				2組	佐藤文夫
				3組	工藤周一
		中6	40	1組	荒川有史
				2組	山浦邦夫
				3組	遠藤豊

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1967 昭42	初等部 校長/寒川道夫 教頭/須田清	初1	46	1組	吉田登
				2組	辻木猪一郎
				3組	善方国男
		初2	45	1組	小森澄憲
				2組	室谷幸吉
				3組	岸いわお
		初3	44	1組	伊藤迪
				2組	須田清
		初4	43	1組	町田熊吉
				2組	佐々木玄吾
				3組	佐伯昭定
	中等部	中5	42	1組	無着成恭
				2組	山浦邦夫
				3組	野沢茂
		中6	41	1組	内藤哲彦
				2組	佐藤文夫
				3組	工藤周一
1968 昭43	初等部 校長/寒川道夫 教頭/須田清	初1	47	1組	町田熊吉
				2組	室谷幸吉
				3組	菅野睦子
		初2	46	1組	吉田登
				2組	辻木猪一郎
				3組	善方国男
		初3	45	1組	佐伯昭定
				2組	山浦邦夫
				3組	岸いわお
		初4	44	1組	伊藤迪
				2組	須田清
	中等部	中5	43	1組	佐藤文夫
				2組	星正男
				3組	内藤哲彦
		中6	42	1組	無着成恭
				2組	広川孝
				3組	野沢茂
1969 昭44	初等部 校長/寒川道夫 教頭/須田清	初1	48	1組	伊藤迪
				2組	須田清
		初2	47	1組	町田熊吉
				2組	室谷幸吉
				3組	菅野睦子
		初3	46	1組	吉田登
				2組	辻木猪一郎
				3組	善方国男
		初4	45	1組	佐伯昭定
				2組	山浦邦夫
				3組	岸いわお
	中等部	中5	44	1組	無着成恭
				2組	古川博資
		中6	43	1組	佐藤文夫
				2組	野沢茂
				3組	内藤哲彦

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1970 昭45	初等部 校長/鈴木満男 教頭/藤田恵一	初1	49	1組	室谷幸吉
		初2	48	1組	伊藤迪
				2組	須田清
		初3	47	1組	岸いわお
				2組	山浦邦夫
		初4	46	1組	吉田登
				2組	辻木猪一郎
				3組	善方国男
	中等部	中5	45	1組	佐藤文夫
				2組	佐伯昭定
		中6	44	1組	無着成恭
				2組	古川博資
1971 昭46	初等部 校長/鈴木満男 教頭/藤田恵一	初1	50	1組	伊藤迪
				2組	須田清
		初2	49	1組	室谷幸吉
		初3	48	1組	吉田登
				2組	辻木猪一郎
		初4	47	1組	岸いわお
				2組	山浦邦夫
	中等部	中5	46	1組	佐藤文夫
				2組	野沢茂
		中6	45	1組	広川孝
				2組	佐伯昭定
1972 昭47	初等部 校長/鈴木満男 教頭/藤田恵一	初1	51	1組	岸いわお
				2組	佐伯昭定
		初2	50	1組	伊藤迪
				2組	斉藤洋子
		初3	49	1組	山浦邦夫 川手晴雄(副)
		初4	48	1組	吉田登
				2組	善方国男
	中等部	中5	47	1組	内藤哲彦
				2組	根本美愛
		中6	46	1組	佐藤文夫
				2組	池田修次
1973 昭48	初等部 校長/鈴木満男 教頭/岸いわお	初1	52	1組	吉田登
				2組	山浦邦夫
		初2	51	1組	飯田達彦 岸いわお
				2組	佐伯昭定
		初3	50	1組	伊藤迪
				2組	関根洋子
		初4	49	1組	善方国男
				2組	川手晴雄
	中等部	中5	48	1組	野沢茂
				2組	平良淳子
		中6	47	1組	阿子島茂美
				2組	百瀬弘
1973 年度末（1974 年 3 月 31 日）で 4・4・4 制終了					

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1974 昭49	小学校 校長代行/遠藤豊 教頭/無着成恭	1	53	1組 2組	佐伯昭定 岸いわお
		2	52	1組 2組	吉田登 山浦邦夫
		3	51	1組 2組	伊藤迪 須田清
		4	50	1組 2組	金久光子 善方国男
		5	49	1組 2組	佐藤文夫 川手晴雄
		6	48	1組 2組	依田好照 野沢茂
1975 昭50	小学校 小·中校長/遠藤豊 教頭/無着成恭	1	54	1組 2組	松井幹夫 吉田登
		2	53	1組 2組	佐伯昭定 岸いわお
		3	52	1組 2組	善方国男 山浦邦夫
		4	51	1組 2組	伊藤迪 須田清
		5	50	1組 2組	金子充子 川手晴雄
		6	49	1組 2組	佐藤文夫 依田節夫
1976 昭51	小学校 小·中校長/遠藤豊 教頭/無着成恭	1	55	1組 2組	山浦邦夫 須田清
		2	54	1組 2組	松井幹夫 吉田登
		3	53	1組 2組	大野映子 岸いわお
		4	52	1組 2組	柳沢茂美 伊藤迪
		5	51	1組 2組	佐伯昭定 辻木猪一郎
		6	50	1組 2組	百瀬弘 川手晴雄
1977 昭52	小学校 小·中校長/遠藤豊 教頭/無着成恭	1	56	1組 2組	柳沢茂美 佐藤文夫
		2	55	1組 2組	山浦邦夫 須田清
		3	54	1組 2組	松井幹夫 吉田登
		4	53	1組 2組	大野映子 岸いわお
		5	52	1組 2組	一瀬清 伊藤迪
		6	51	1組 2組	佐伯昭定 辻木猪一郎

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1978 昭53	小学校 小·中校長/遠藤豊 教頭/無着成恭	1	57	1組 2組	辻木猪一郎 吉田登
		2	56	1組 2組	柳沢茂美 佐藤文夫
		3	55	1組 2組	山浦邦夫 須田清
		4	54	1組 2組	松井幹夫 飯田達彦
		5	53	1組 2組	時任重孝 岸いわお
		6	52	1組 2組	一瀬清 伊藤迪
1979 昭54	小学校 小·中校長/遠藤豊 教頭/無着成恭	1	58	1組 2組	大野映子 伊藤迪
		2	57	1組 2組	辻木猪一郎 吉田登
		3	56	1組 2組	柳沢茂美 一瀬清
		4	55	1組 2組	山浦邦夫 須田清
		5	54	1組 2組	松井幹夫 飯田達彦
		6	53	1組 2組	時任重孝 岸いわお
1980 昭55	小学校 小·中校長/遠藤豊 教頭/無着成恭	1	59	1組 2組	横森サチ子 柳沢茂美
		2	58	1組 2組	大野映子 伊藤迪
		3	57	1組 2組	辻木猪一郎 吉田登
		4	56	1組 2組	木幡寛 一瀬清
		5	55	1組 2組	山浦邦夫 須田清
		6	54	1組 2組	松井幹夫 飯田達彦
1981 昭56	小学校 小·中校長/遠藤豊 教頭/無着成恭	1	60	1組 2組	辻木猪一郎 吉田登
		2	59	1組 2組	横森サチ子 柳沢茂美
		3	58	1組 2組	大野映子 伊藤迪
		4	57	1組 2組	内藤哲彦 飯田達彦
		5	56	1組 2組	木幡寛 一瀬清
		6	55	1組 2組	山浦邦夫 須田清

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1982 昭57	小学校 小･中校長/遠藤豊 教頭/無着成恭	1	61	1組 2組	伊藤迪 須田清
		2	60	1組 2組	辻木猪一郎 吉田登
		3	59	1組 2組	横森サチ子 柳沢茂美
		4	58	1組 2組	大野映子 山浦邦夫
		5	57	1組 2組	内藤哲彦 飯田達彦
		6	56	1組 2組	木幡寛 一瀬清
1983 昭58	小学校 小･中校長/依田好照 教務主任/佐藤文夫 依田校長が就任した1983～1994年度、小中学校では教頭を置かず、運営委員体制を取った。	1	62	1組 2組	横森サチ子 大野映子
		2	61	1組 2組	伊藤迪 山浦邦夫
		3	60	1組 2組	辻木猪一郎 吉田登
		4	59	1組 2組	一瀬清 柳沢茂美
		5	58	1組 2組	木幡寛 高瀬真次
		6	57	1組 2組	内藤哲彦 飯田達彦
1984 昭59	小学校 小･中校長/依田好照 教務主任/佐藤文夫	1	63	1組 2組	辻木猪一郎 柳沢茂美
		2	62	1組 2組	横森サチ子 大野映子
		3	61	1組 2組	山浦邦夫 吉田登
		4	60	1組 2組	江頭有子 内藤哲彦
		5	59	1組 2組	一瀬清 飯田達彦
		6	58	1組 2組	木幡寛 高瀬真次
1985 昭60	小学校 小･中校長/依田好照	1	64	1組 2組	大野映子 山浦邦夫
		2	63	1組 2組	深谷由美 柳沢茂美
		3	62	1組 2組	横森サチ子 高瀬真次
		4	61	1組 2組	辻木猪一郎 福田純一
		5	60	1組 2組	江頭有子 内藤哲彦
		6	59	1組 2組	一瀬清 飯田達彦

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1986 昭61	小学校 小･中校長/依田好照	1	65	1組 2組	一瀬清 横森サチ子
		2	64	1組 2組	大野映子 山浦邦夫
		3	63	1組 2組	深谷由美 柳沢茂美
		4	62	1組 2組	高瀬真次 飯田達彦
		5	61	1組 2組	辻木猪一郎 福田純一
		6	60	1組 2組	江頭有子 平井千草 内藤哲彦
1987 昭62	小学校 小･中校長/依田好照	1	66	1組 2組	柳沢茂美 深谷由美
		2	65	1組 2組	一瀬清 横森サチ子
		3	64	1組 2組	大野映子 山浦邦夫
		4	63	1組 2組	江頭有子 内藤哲彦
		5	62	1組 2組	高瀬真次 飯田達彦
		6	61	1組 2組	辻木猪一郎 福田純一
1988 昭63	小学校 小･中校長/依田好照	1	67	1組 2組	辻木猪一郎 大野映子
		2	66	1組 2組	柳沢茂美 深谷由美
		3	65	1組 2組	一瀬清 横森サチ子
		4	64	1組 2組	山浦邦夫 福田純一
		5	63	1組 2組	江頭有子 内藤哲彦
		6	62	1組 2組	高瀬真次 飯田達彦
1989 平1	小学校 小･中校長/依田好照	1	68	1組 2組	横森サチ子 飯田達彦
		2	67	1組 2組	辻木猪一郎 大野映子
		3	66	1組 2組	柳沢茂美 一瀬清
		4	65	1組 2組	山浦邦夫 高瀬真次
		5	64	1組 2組	河住由美 福田純一
		6	63	1組 2組	江頭有子 内藤哲彦

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1990 平2	小学校 小·中校長/依田好照	1	69	1組 2組	一瀬清 大野映子
		2	68	1組 2組	横森サチ子 飯田達彦
		3	67	1組 2組	柳沢茂美 深谷あずさ
		4	66	1組 2組	江頭有子 内藤哲彦
		5	65	1組 2組	山浦邦夫 高瀬真次
		6	64	1組 2組	河住由美 福田純一
1991 平3	小学校 小·中校長/依田好照	1	70	1組 2組	柳沢茂美 河住由美
		2	69	1組 2組	一瀬清 大野映子
		3	68	1組 2組	横森サチ子 福田純一
		4	67	1組 2組	飯田達彦 深谷あずさ
		5	66	1組 2組	江頭有子 内藤哲彦
		6	65	1組 2組	山浦邦夫 高瀬真次
1992 平4	小学校 小·中校長/依田好照	1	71	1組 2組	大野映子 根岸あずさ
		2	70	1組 2組	柳沢茂美 河住由美
		3	69	1組 2組	一瀬清 照井伸也
		4	68	1組 2組	百瀬弘 福田純一
		5	67	1組 2組	飯田達彦 高瀬真次
		6	66	1組 2組	江頭有子 内藤哲彦
1993 平5	小学校 小·中校長/依田好照	1	72	1組 2組	一瀬清 五十嵐寿
		2	71	1組 2組	大野映子 根岸あずさ
		3	70	1組 2組	内藤哲彦 河住由美 古関恵美子
		4	69	1組 2組	江頭有子 福田純一
		5	68	1組 2組	照井伸也 百瀬弘
		6	67	1組 2組	飯田達彦 高瀬真次

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1994 平6	小学校 小·中校長/依田好照	1	73	1組 2組	高瀬真次 河住由美
		2	72	1組 2組	一瀬清 阿子島茂美
		3	71	1組 2組	大野映子 根岸あずさ 岩間康子
		4	70	1組 2組	内藤哲彦 飯田達彦
		5	69	1組 2組	江頭有子 福田純一
		6	68	1組 2組	照井伸也 百瀬弘
1995 平7	小学校 小·中校長/依田好照 教頭/根本美愛	1	74	1組 2組	大野映子 根岸あずさ
		2	73	1組 2組	高瀬真次 河住由美
		3	72	1組 2組	一瀬清 阿子島茂美
		4	71	1組 2組	内藤哲彦 百瀬弘
		5	70	1組 2組	照井伸也 飯田達彦
		6	69	1組 2組	江頭有子 福田純一
1996 平8	小学校 小·中校長/依田好照 教頭/根本美愛	1	75	1組 2組	阿子島茂美 一瀬清
		2	74	1組 2組	大野映子 根岸あずさ
		3	73	1組 2組	高瀬真次 河住由美
		4	72	1組 2組	江頭有子 福田純一
		5	71	1組 2組	坂本英治 百瀬弘
		6	70	1組 2組	照井伸也 飯田達彦
1997 平9	小学校 小·中校長/依田好照 教頭/根本美愛	1	76	1組 2組	高瀬真次 根岸あずさ
		2	75	1組 2組	阿子島茂美 一瀬清
		3	74	1組 2組	大野映子 岩間康子
		4	73	1組 2組	飯田達彦 照井伸也
		5	72	1組 2組	江頭有子 福田純一
		6	71	1組 2組	坂本英治 百瀬弘

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1998 平10	小学校 小·中校長/和田武久 教頭/根本美愛	1	77	1組 2組	大野映子 河住由美
		2	76	1組 2組	高瀬真次 根岸あずさ
		3	75	1組 2組	阿子島茂美 一瀬清
		4	74	1組 2組	百瀬弘 照井伸也
		5	73	1組 2組	飯田達彦 坂本英治
		6	72	1組 2組	江頭有子 福田純一
1999 平11	小学校 小·中校長/和田武久 教頭/根本美愛	1	78	1組 2組	根岸あずさ 照井伸也
		2	77	1組 2組	大野映子 河住由美
		3	76	1組 2組	阿子島茂美 冨田秀和
		4	75	1組 2組	江頭有子 高瀬真次
		5	74	1組 2組	福田純一 一瀬清
		6	73	1組 2組	飯田達彦 坂本英治
2000 平12	小学校 小·中校長/和田武久 教頭/根本美愛	1	79	1組 2組	河住由美 冨田秀和
		2	78	1組 2組	根岸あずさ 照井伸也
		3	77	1組 2組	大野映子 前沢優
		4	76	1組 2組	阿子島茂美 川松泰美
		5	75	1組 2組	江頭有子 高瀬真次
		6	74	1組 2組	福田純一 一瀬清
2001 平13	小学校 小·中校長/和田武久 教頭/一瀬清	1	80	1組 2組	阿子島茂美 根岸あずさ
		2	79	1組 2組	河住由美 冨田秀和
		3	78	1組 2組	前沢優 照井伸也
		4	77	1組 2組	福田純一 澁谷淑恵
		5	76	1組 2組	剛力正和 川松泰美
		6	75	1組 2組	吉村直樹 平田紀子 高瀬真次

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
2002 平14	小学校 小·中校長/和田武久 教頭/一瀬清	1	81	1組 2組	河住由美 冨田秀和
		2	80	1組 2組	阿子島茂美 根岸あずさ
		3	79	1組 2組	吉村直樹 照井伸也
		4	78	1組 2組	江頭有子 高瀬真次
		5	77	1組 2組	福田純一 澁谷淑恵
		6	76	1組 2組	剛力正和 川松泰美
2003 平15	小学校 小·中校長/和田武久 教頭/一瀬清	1	82	1組 2組	大野映子 阿子島茂美
		2	81	1組 2組	河住由美 冨田秀和
		3	80	1組 2組	中島剛 根岸あずさ
		4	79	1組 2組	川松泰美 照井伸也
		5	78	1組 2組	江頭有子 高瀬真次
		6	77	1組 2組	福田純一 澁谷淑恵
2004 平16	小学校 小·中校長/和田武久 教頭/一瀬清	1	83	1組 2組	根岸あずさ 福田純一
		2	82	1組 2組	大野映子 阿子島茂美
		3	81	1組 2組	河住由美 冨田秀和
		4	80	1組 2組	中島剛 照井伸也
		5	79	1組 2組	川松泰美 澁谷淑恵
		6	78	1組 2組	江頭有子 高瀬真次
2005 平17	小学校 小·中校長/和田武久 教頭/一瀬清	1	84	1組 2組	大野映子 河住由美
		2	83	1組 2組	根岸あずさ 福田純一
		3	82	1組 2組	高瀬真次 中島剛
		4	81	1組 2組	河野茂 照井伸也
		5	80	1組 2組	江頭有子 冨田秀和
		6	79	1組 2組	川松泰美 簗淑恵 入江潤

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
中高一貫 6・6 制開始					
2006 平18	小学校 校長/和田武久 教頭/一瀬清	1	85	1組 2組	根岸あずさ 高瀬真次
		2	84	1組 2組	中島剛 福田純一
		3	83	1組 2組	大野映子 今井孝彰
		4	82	1組 2組	川松泰美 河住由美
		5	81	1組 2組	河野茂 照井伸也
		6	80	1組 2組	江頭有子 冨田秀和
2007 平19	小学校 校長/一瀬清 教頭/福田純一	1	86	1組 2組	冨田秀和 伊野文子
		2	85	1組 2組	根岸あずさ 高瀬真次
		3	84	1組 2組	大野映子 何森和代
		4	83	1組 2組	江頭有子 小野健太郎
		5	82	1組 2組	川松泰美 河住由美
		6	81	1組 2組	河野茂 照井伸也
2008 平20	小学校 校長/一瀬清 教頭/福田純一	1	87	1組 2組	根岸あずさ 河野茂
		2	86	1組 2組	冨田秀和 伊野文子
		3	85	1組 2組	大日方和美 高瀬真次
		4	84	1組 2組	江頭有子 小野健太郎
		5	83	1組 2組	淘江正仁 照井伸也
		6	82	1組 2組	川松泰美 河住由美
2009 平21	小学校 校長/一瀬清 教頭/福田純一	1	88	1組 2組	根岸あずさ 大日方和美
		2	87	1組 2組	川松泰美 大野映子
		3	86	1組 2組	冨田秀和 伊野文子
		4	85	1組 2組	河野茂 河住由美
		5	84	1組 2組	高瀬真次 小野健太郎
		6	83	1組 2組	淘江正仁 照井伸也

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
2010 平22	小学校 校長/一瀬清 教頭/福田純一	1	89	1組 2組	冨田秀和 伊野文子
		2	88	1組 2組	根岸あずさ 大日方和美
		3	87	1組 2組	川松泰美 大野映子
		4	86	1組 2組	淘江正仁 照井伸也
		5	85	1組 2組	河野茂 河住由美
		6	84	1組 2組	高瀬真次 小野健太郎
2011 平23	小学校 校長/一瀬清 教頭/福田純一	1	90	1組 2組	根岸あずさ 川松泰美
		2	89	1組 2組	冨田秀和 伊野文子
		3	88	1組 2組	高瀬真次 鈴木まき子
		4	87	1組 2組	佐藤彩 小野健太郎
		5	86	1組 2組	淘江正仁 照井伸也
		6	85	1組 2組	河野茂 河住由美
2012 平24	小学校 校長/一瀬清 教頭/福田純一	1	91	1組 2組	伊野文子 大日方和美
		2	90	1組 2組	根岸あずさ 川松泰美
		3	89	1組 2組	河住由美 池上初美
		4	88	1組 2組	冨田秀和 佐藤彩
		5	87	1組 2組	高瀬真次 小野健太郎
		6	86	1組 2組	淘江正仁 照井伸也
2013 平25	小学校 校長/一瀬清 副校長/剛力正和	1	92	1組 2組	高瀬真次 根岸あずさ
		2	91	1組 2組	河住由美 池上初美
		3	90	1組 2組	伊野文子 山本幸子
		4	89	1組 2組	福田純一 入江潤
		5	88	1組 2組	冨田秀和 照井伸也
		6	87	1組 2組	淘江正仁 川松泰美

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
2014 平26	小学校 校長/平田和孝 副校長/剛力正和	1	93	1組 2組	川松泰美 大日方和美
		2	92	1組 2組	高瀬真次 根岸あずさ
		3	91	1組 2組	河住由美 大野健太
		4	90	1組 2組	伊野文子 山本幸子
		5	89	1組 2組	福田純一 淘江正仁
		6	88	1組 2組	冨田秀和 照井伸也
2015 平27	小学校 校長/平田和孝 副校長/照井伸也	1	94	1組 2組	高瀬真次 根岸あずさ
		2	93	1組 2組	淘江正仁 大日方和美
		3	92	1組 2組	河住由美 大野健太
		4	91	1組 2組	大沼有子 山本幸子
		5	90	1組 2組	福田純一 永沼祐介
		6	89	1組 2組	冨田秀和 伊野文子
2016 平28	小学校 校長/福田純一 副校長/照井伸也	1	95	1組 2組	大日方和美 井上良江
		2	94	1組 2組	入野美沙 根岸あずさ
		3	93	1組 2組	伊野文子 岩橋恒平
		4	92	1組 2組	河住由美 大野健太
		5	91	1組 2組	小関大輔 冨田秀和
		6	90	1組 2組	淘江正仁 高瀬真次
2017 平29	小学校 校長/福田純一 副校長/照井伸也	1	96	1組 2組	河住由美 入野美沙
		2	95	1組 2組	根岸あずさ 竹内由美
		3	94	1組 2組	榊京子 大野健太
		4	93	1組 2組	伊野文子 岩橋恒平
		5	92	1組 2組	大箸毅 淘江正仁
		6	91	1組 2組	小関大輔 冨田秀和

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
2018 平30	小学校 校長/福田純一 副校長/照井伸也	1	97	1組 2組	河住由美 榊京子
		2	96	1組 2組	高瀬真次 伊野文子
		3	95	1組 2組	根岸あずさ 淘江正仁
		4	94	1組 2組	岩橋恒平 永瀬晃子
		5	93	1組 2組	入野美沙 大野健太
		6	92	1組 2組	入江潤 小関大輔
2019 平31 令1	小学校 校長/剛力正和 副校長/入江潤	1	98	1組 2組	入野美沙 永瀬晃子
		2	97	1組 2組	河住由美 大野健太
		3	96	1組 2組	福田純一 根岸あずさ
		4	95	1組 2組	岩橋恒平 伊野文子
		5	94	1組 2組	松園悠介 淘江正仁
		6	93	1組 2組	小関大輔 照井伸也
2020 令2	小学校 校長/剛力正和 副校長/入江潤	1	99	1組 2組	河住由美 伊野文子
		2	98	1組 2組	岡祐輔 永瀬晃子
		3	97	1組 2組	福田純一 根岸あずさ
		4	96	1組 2組	伊藤駿 照井伸也
		5	95	1組 2組	岩橋恒平 小関大輔
		6	94	1組 2組	松園悠介 淘江正仁
2021 令3	小学校 校長/剛力正和 副校長/照井伸也	1	100	1組 2組	岡祐輔 伊野文子
		2	99	1組 2組	河住由美 菅野将希
		3	98	1組 2組	大野健太 根岸あずさ
		4	97	1組 2組	福田純一 北村奈穂
		5	96	1組 2組	伊藤駿 松園悠介
		6	95	1組 2組	小関大輔 岩橋恒平

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
2022 令4	小学校 校長/照井伸也 副校長/伊野文子	1	101	1組 2組	河住由美 菅野将希
		2	100	1組 2組	小関大輔 永瀬晃子
		3	99	1組 2組	北村奈穂 根岸あずさ
		4	98	1組 2組	福田純一 岩橋恒平
		5	97	1組 2組	岡祐輔 淘江正仁
		6	96	1組 2組	伊藤駿 松園悠介
2023 令5	小学校 校長/照井伸也 副校長/伊野文子	1	102	1組 2組	根岸あずさ 北村奈穂
		2	101	1組 2組	松園悠介 菅野将希
		3	100	1組 2組	小関大輔 冨田秀和
		4	99	1組 2組	山崎捺 福田純一
		5	98	1組 2組	田中啓美 岩橋恒平
		6	97	1組 2組	伊藤駿 淘江正仁
2024 令6	小学校 校長/照井伸也 副校長/伊野文子	1	103	1組 2組	根岸あずさ 林義人
		2	102	1組 2組	菅野将希 山崎捺
		3	101	1組 2組	北村奈穂 植田めぐみ
		4	100	1組 2組	久保州 福田純一
		5	99	1組 2組	伊藤駿 松園悠介
		6	98	1組 2組	田中啓美 淘江正仁

担任一覧　７～９年生　1947～2024年度

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1947 昭22	中学校 小·中校長/照井猪一郎	1	20	1組	恩地邦郎
				2組	原田満寿郎
1948 昭23	中学校 小·中校長/照井猪一郎	1	21	1組	木村鉄男
				2組	宮田今太郎
				3組	岸すみれ
		2	20	1組	須藤亀蔵
				2組	原田満寿郎
1949 昭24	中学校 小·中校長/照井猪一郎	1	22	1組	恩地邦郎
				2組	榎本法達
		2	21	1組	木村鉄男
				2組	宮田今太郎
				3組	岸すみれ
		3	20	1組	須藤亀蔵
				2組	原田満寿郎
1950 昭25	中学校 小·中校長/照井猪一郎	1	23	1組	原田満寿郎
				2組	山岡幸子 羽鳥文雄
		2	22	1組	恩地邦郎
				2組	榎本法達
		3	21	1組	木村鉄男
				2組	宮田今太郎
				3組	岸すみれ
1951 昭26	中学校 小·中校長/照井猪一郎 中主任/橘正薫	1	24	1組	木村鉄男
				2組	岸すみれ
		2	23	1組	羽鳥文雄
				2組	原田満寿郎
		3	22	1組	恩地邦郎
				2組	榎本法達
1952 昭27	中学校 小·中校長/照井猪一郎 中主任/橘正薫	1	25	1組	恩地邦郎 吉川喜美代
				2組	染谷誠一 吉川喜美代
		2	24	1組	宮田今太郎
				2組	橘正薫 木村鉄雄
		3	23	1組	山岡幸子 榎本法達
				2組	原田満寿郎 小笠原良一
1953 昭28	中学校 小·中校長/照井猪一郎 中主任/橘正薫	1	26	1組	原田満寿郎
				2組	高須いち
		2	25	1組	吉川喜美代
				2組	染谷誠一
		3	24	1組	宮田今太郎
				2組	木村鉄雄
1954 昭29	中学校 小·中校長/照井猪一郎 中主任/橘正薫	1	27	1組	恩地邦郎
				2組	山岡幸子
		2	26	1組	原田満寿郎
				2組	高須いち
		3	25	1組	吉川喜美代
				2組	橘正薫
1955 昭30	中学校 小·中校長/照井猪一郎 中主任/橘正薫	1	28	1組	橘正薫
				2組	村崎洋
		2	27	1組	恩地邦郎
				2組	山岡幸子
		3	26	1組	原田満寿郎
				2組	高須いち
1956 昭31	中学校 小·中校長/照井猪一郎	1	29	1組	原田満寿郎
				2組	高須いち
				3組	鈴木満男
		2	28	1組	吉川喜美代
				2組	村崎洋
		3	27	1組	人見進夫
				2組	山岡幸子
1957 昭32	中学校 小·中校長/照井猪一郎	1	30	1組	川原正希知
				2組	若松善明
				3組	依田好照
		2	29	1組	原田満寿郎
				2組	高須いち
				3組	鈴木満男
		3	28	1組	吉川喜美代
				2組	村崎洋
1958 昭33	中学校 小·中校長/照井猪一郎	1	31	1組	太田幸雄
				2組	宮川幸三
				3組	村崎洋
		2	30	1組	川原正希知
				2組	依田好照
				3組	若松善明
		3	29	1組	原田満寿郎
				2組	高須いち
				3組	鈴木満男
1959年度、4・4・4制開始					
1959 昭34	中学年部（後期） 小中校長/照井猪一郎 高学年部	1	32	1組	人見進夫
				2組	吉川喜美代
				3組	島田厚
				4組	原田満寿郎
		2	31	1組	村崎洋
				2組	太田幸雄
				3組	宮川幸三
		3	30	1組	川原正希知
				2組	依田好照
				3組	若松善明
1960 昭35	中学年部（後期） 小中校長/照井猪一郎 全国教務/橘正薫	7	33	1組	寒川道夫
				2組	菅野昭二
				3組	依田好照
				4組	山岡幸子
		8	32	1組	吉川喜美代
				2組	田中一水
				3組	松井幹夫
				4組	島田厚
	高学年部	9	31	1組	村崎洋
				2組	角舘喜和
				3組	宮川幸三

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1961 昭36	中学年部（後期） 小中校長/照井猪一郎 全園教務/橘正薫	7	34	1組	上川淳
				2組	田中一水
				3組	松井幹夫
				4組	荒川有史
		8	33	1組	寒川道夫
				2組	菅野昭二
				3組	依田好照
				4組	山岡幸子
	高学年部	9	32	1組	渡辺信一
				2組	早田勤
				3組	田崎中
				4組	押川昌一
1962 昭37	中学年部（後期） 小中校長/照井猪一郎 全園教務/橘正薫	7	35	1組	菅野昭二
				2組	依田好照
				3組	内藤哲彦
				4組	渡辺慎晤
		8	34	1組	上川淳
				2組	田中一水
				3組	松井幹夫
				4組	荒川有史
	高学年部	9	33	1組	井口芳雄
				2組	土屋浩
				3組	福永弘
				4組	横川尚
1963 昭38	中学年部（後期） 小中校長/照井猪一郎 全園教務/橘正薫	7	36	1組	荒川有史
				2組	工藤周一
				3組	上川淳
		8	35	1組	菅野昭二
				2組	依田好照
				3組	内藤哲彦
				4組	渡辺慎晤
	高学年部	9	34	1組	武者小路譲
				2組	早田勤
				3組	川原正希知
				4組	梅津修
1964 昭39	中学年部（後期） 全園校長/上田八一郎	7	37	1組	遠藤豊
				2組	内藤哲彦
				3組	菅野昭二
		8	36	1組	荒川有史
				2組	渡辺慎晤
				3組	上川淳
	高学年部	9	35	1組	田崎中
				2組	田代力也
				3組	伴悦
				4組	池上日出夫
1965 昭40	中学年部（後期） 全園校長/上田八一郎	7	38	1組	無着成恭
				2組	松井幹夫
				3組	依田好照
		8	37	1組	渡辺慎晤
				2組	内藤哲彦
				3組	菅野昭二
	高学年部	9	36	1組	渡辺信一
				2組	森由紀子
				3組	梅津修

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1966 昭41	中等部 中校長/上川淳 中教頭/遠藤豊	7	39	1組	菅野昭二
				2組	渡辺慎晤
				3組	広川孝
		8	38	1組	無着成恭
				2組	松井幹夫
				3組	依田好照
	高等部	9	37	1組	福永弘
				2組	堀淳二
				3組	井部高志
1967 昭42	中等部 中校長/上川淳 中教頭/遠藤豊	7	40	1組	松井幹夫
				2組	荒川有史
				3組	遠藤豊
		8	39	1組	菅野昭二
				2組	渡辺慎晤
				3組	広川孝
	高等部	9	38	1組	鈴木露子
				2組	江木清弘
				3組	梅津脩
1968 昭43	中等部 中校長/上川淳 中教頭/遠藤豊	7	41	1組	渡辺慎晤
				2組	荒川有史
				3組	菅野昭二
		8	40	1組	松井幹夫
				2組	青木頼子
	高等部	9	39	1組	佐藤嗣男
				2組	江本清弘
				3組	田崎中
1969 昭44	中等部 中校長/上川淳 中教頭/遠藤豊	7	42	1組	松井幹夫
				2組	遠藤豊
				3組	広川孝
		8	41	1組	渡辺慎晤
				2組	荒川有史
				3組	菅野昭二
	高等部	9	40	1組	井口芳雄
				2組	加藤信夫
1970 昭45	中等部 全園校長/鈴木満男 中教頭/遠藤豊	7	43	1組	内藤哲彦
				2組	和田武久
				3組	太田幸雄
		8	42	1組	松井幹夫
				2組	渡辺慎晤
				3組	広川孝
	高等部	9	41	1組	柳沢義明
				2組	高橋昭八
1971 昭46	中等部 全園校長/鈴木満男 中教頭/遠藤豊	7	44	1組	古川博資
				2組	松井幹夫
		8	43	1組	太田幸雄
				2組	無着成恭
				3組	人見進夫
	高等部	9	42	1組	柳沢義明
				2組	上川淳
				3組	吉川喜美代

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1972 昭47	中等部 全園校長/鈴木満男 中教頭/遠藤豊	7	45	1組	江本清弘
				2組	太田幸雄
				3組	大草繁
				4組	松井幹夫
		8	44	1組	人見進夫
				2組	和田武久
	高等部	9	43	1組	工藤一義
				2組	上川淳
				3組	大貫悦子
1973 昭48	中等部 全園校長/鈴木満男 中教頭/遠藤豊	7	46	1組	池田修次
				2組	内藤哲彦
				3組	金子充子
				4組	江本清弘
		8	45	1組	松井幹夫
				2組	太田幸雄
				3組	大草繁
	高等部	9	44	1組	人見進夫
				2組	和田武久
1973 年度末（1974 年 3 月末）4・4・4 制終了 ⇒ 6・3・3 制へ					
1974 昭49	中学校 校長代行/遠藤豊 小中教頭/無着成恭	7	47	1組	森野壮平
				2組	池田修次
				3組	和田武久
				4組	百瀬弘
		8	46	1組	内藤哲彦
				2組	古川博資
				3組	本間明信
				4組	山内国任
				5組	江本清弘
		9	45	1組	松井幹夫
				2組	太田幸雄
				3組	大草繁
1975 昭50	中学校 小中校長/遠藤豊 小中教頭/無着成恭	7	48	1組	内藤哲彦
				2組	大草繁
				3組	岡本博行
				4組	依田好照
		8	47	1組	村岡篤
				2組	池田修次
				3組	和田武久
				4組	百瀬弘
		9	46	1組	太田幸雄
				2組	山内国任
				3組	古川博資
				4組	本間明信

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1976 昭51	中学校 小中校長/遠藤豊 小中教頭/無着成恭	7	49	1組	佐藤文夫
				2組	大友昭
				3組	太田幸雄
				4組	依田節夫
		8	48	1組	依田好照
				2組	岡本博行
				3組	大草繁
				4組	内藤哲彦
		9	47	1組	村岡篤
				2組	池田修次
				3組	和田武久
				4組	江本清弘
1977 昭52	中学校 小中校長/遠藤豊 小中教頭/無着成恭	7	50	1組	池田修次
				2組	百瀬弘
				3組	塚本ふさ
				4組	久保島信保
		8	49	1組	大友昭
				2組	太田幸雄
				3組	山本豊
				4組	依田節夫
		9	48	1組	内藤哲彦
				2組	大草繁
				3組	和田武久
				4組	依田好照
1978 昭53	中学校 小中校長/遠藤豊 小中教頭/無着成恭	7	51	1組	佐伯昭定
				2組	塚本ふさ
				3組	和田武久
				4組	村岡篤
		8	50	1組	山内国任
				2組	根本美愛
				3組	百瀬弘
				4組	池田修次
		9	49	1組	依田節夫
				2組	山本豊
				3組	太田幸雄
				4組	大友昭
1979 昭54	中学校 小中校長/遠藤豊 小中教頭/無着成恭	7	52	1組	依田節夫
				2組	遠藤春幸
				3組	太田幸雄
				4組	岡本博行
		8	51	1組	佐伯昭定
				2組	木幡寛
				3組	和田武久
				4組	大友昭
		9	50	1組	山内国任
				2組	根本美愛
				3組	百瀬弘
				4組	池田修次

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1980 昭55	中学校 小中校長/遠藤豊 小中教頭/無着成恭	7	53	1組	池田修次
				2組	根本美愛
				3組	大草繁
				4組	山本豊
		8	52	1組	依田節夫
				2組	遠藤春幸
				3組	川手晴雄
				4組	岡本博行
		9	51	1組	佐伯昭定
				2組	依田好照
				3組	和田武久
				4組	大友昭
1981 昭56	中学校 小中校長/遠藤豊 小中教頭/無着成恭	7	54	1組	大友昭 塚本ふさ
				2組	古川博資 杉谷繕子
				3組	大友裕市 和田武久
				4組	時任重孝 人見進夫
		8	53	1組	山本豊 重吉起佐子
				2組	池田修次 依田好照
				3組	大草繁 山内国任
				4組	根本美愛 百瀬弘
		9	52	1組	依田節夫 太田幸雄
				2組	遠藤春幸 中岡典子
				3組	川手晴雄 松井幹夫
				4組	岡本博行 佐伯昭定

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1982 昭57	中学校 小中校長/遠藤豊 小中教頭/無着成恭	7	55	1組	百瀬弘 遠藤春幸
				2組	川手晴雄 人見進夫
				3組	佐伯昭定
				4組	和田武久 斎藤洋子
		8	54	1組	古川ひろし 太田幸雄
				2組	時任重孝 山内国任
				3組	大友裕市 岡本博行
				4組	依田節夫 塚本ふさ
		9	53	1組	根本美愛 松井幹夫
				2組	山本豊 中岡典子
				3組	大草繁 重吉起佐子
				4組	依田好照 杉谷繕子
1983 昭58	中学校 小中校長/依田好照 依田校長が就任した1983～1994年度、小中学校では教頭を置かず、運営委員体制を取った。	7	56	1組	根本美愛
				2組	岡本博行
				3組	遠藤春幸
				4組	大草繁
		8	55	1組	百瀬弘
				2組	川手晴雄
				3組	佐伯昭定
				4組	和田武久
		9	54	1組	古川ひろし
				2組	時任重孝
				3組	山本豊
				4組	依田節夫
1984 昭59	中学校 小中校長/依田好照	7	57	1組	山本豊
				2組	井上成雄
				3組	時任重孝
				4組	飯田啓介
		8	56	1組	根本美愛
				2組	岡本博行
				3組	遠藤春幸
				4組	大草繁
		9	55	1組	百瀬弘
				2組	川手晴雄
				3組	佐伯昭定
				4組	和田武久

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1985 昭60	中学校 小中校長/依田好照	7	58	1組	飯田啓介
				2組	河住貴夫
				3組	平野康弘
				4組	和田武久
		8	57	1組	時任重孝
				2組	井上成雄
				3組	山口一郎
				4組	山本豊
		9	56	1組	根本美愛
				2組	岡本博行
				3組	遠藤春幸
				4組	大草繋
1986 昭61	中学校 小中校長/依田好照	7	59	1組	堀内雅人
				2組	熊坂衛
				3組	大草繁
				4組	百瀬弘
		8	58	1組	飯田啓介
				2組	河住貴夫
				3組	平野康弘
				4組	和田武久
		9	57	1組	時任重孝
				2組	井上成雄
				3組	山口一郎
				4組	山本豊
1987 昭62	中学校 小中校長/依田好照	7	60	1組	山口一郎
				2組	姫野英二
				3組	岡本博行
				4組	根本美愛
		8	59	1組	堀内雅人
				2組	熊坂衛
				3組	大草繁
				4組	百瀬弘
		9	58	1組	飯田啓介
				2組	河住貴夫
				3組	平野康弘
				4組	和田武久
1988 昭63	中学校 小中校長/依田好照	7	61	1組	平野康弘
				2組	須山秀
				3組	井上成雄
				4組	山本豊
		8	60	1組	姫野英二
				2組	山口一郎
				3組	根本美愛
				4組	岡本博行
		9	59	1組	堀内雅人
				2組	熊坂衛
				3組	大草繁
				4組	百瀬弘

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1989 平1	中学校 小中校長/依田好照	7	62	1組	和田武久
				2組	時任重孝
				3組	古川ひろし
				4組	河住貴夫
		8	61	1組	山本豊
				2組	飯田啓介
				3組	井上成雄
				4組	平野康弘
		9	60	1組	姫野英二
				2組	山口一郎
				3組	根本美愛
				4組	岡本博行
1990 平2	中学校 小中校長/依田好照	7	63	1組	和田武久
				2組	遠藤春幸
				3組	川手晴雄
				4組	姫野英二
		8	62	1組	大草繋
				2組	時任重孝
				3組	河住貴夫
				4組	古川ひろし
		9	61	1組	山本豊
				2組	飯田啓介
				3組	井上成雄
				4組	平野康弘
1991 平3	中学校 小中校長/依田好照	7	64	1組	重吉起佐子
				2組	山本豊
				3組	堀内雅人
				4組	井上成雄
		8	63	1組	遠藤春幸
				2組	和田武久
				3組	姫野英二
				4組	川手晴雄
		9	62	1組	大草繁
				2組	時任重孝
				3組	河住貴夫
				4組	古川ひろし
1992 平4	中学校 小中校長/依田好照	7	65	1組	亀山平九郎
				2組	大草繁
				3組	山口一郎
				4組	河住貴夫 古川博資
		8	64	1組	重吉起佐子
				2組	山本豊
				3組	堀内雅人
				4組	井上成雄
		9	63	1組	遠藤春幸
				2組	姫野英二
				3組	川手晴雄
				4組	和田武久

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1993 平5	中学校 小中校長/依田好照	7	66	1組	中西正一
				2組	平山勲
				3組	河住貴夫
				4組	姫野英二
		8	65	1組	川手晴雄
				2組	亀山平九郎
				3組	大草繁
				4組	山口一郎
		9	64	1組	重吉起佐子
				2組	山本豊
				3組	堀内雅人
				4組	井上成雄
1994 平6	中学校 小中校長/依田好照	7	67	1組	堀内雅人
				2組	姫野英二
				3組	飯田啓介
				4組	岡本博行
		8	66	1組	時任重孝
				2組	平山勲
				3組	平野康弘
				4組	河住貴夫
		9	65	1組	大草繁
				2組	山口一郎
				3組	川手晴雄
				4組	亀山平九郎
1995 平7	中学校 小中校長/依田好照 小中教頭/根本美愛	7	68	1組	山口一郎
				2組	森村卓
				3組	亀山平九郎
				4組	山本豊
		8	67	1組	堀内雅人
				2組	岡本博行
				3組	飯田啓介
				4組	姫野英二
		9	66	1組	時任重孝
				2組	平山勲
				3組	平野康弘
				4組	河住貴夫
1996 平8	中学校 小中校長/依田好照 小中教頭/根本美愛	7	69	1組	河住貴夫
				2組	亀山平九郎
				3組	平山勲
				4組	井上成雄
		8	68	1組	川手晴雄
				2組	森村卓
				3組	山本豊
				4組	山口一郎
		9	67	1組	堀内雅人
				2組	石井三絵
				3組	姫野英二
				4組	岡本博行

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1997 平9	中学校 小中校長/依田好照 小中教頭/根本美愛	7	70	1組	石井三絵
				2組	姫野英二
				3組	時任重孝
				4組	平山勲
		8	69	1組	河住貴夫
				2組	河野尚子
				3組	井上成雄
				4組	亀山平九郎
		9	68	1組	山本豊
				2組	森村卓
				3組	川手春雄
				4組	山口一郎
1998 平10	中学校 小中校長/和田武久 小中教頭/根本美愛	7	71	1組	堀内雅人
				2組	森村卓
				3組	姫野英二
				4組	平野康弘
		8	70	1組	石井三絵
				2組	青柳勝利
				3組	時任重孝
				4組	平山勲
		9	69	1組	河住貴夫
				2組	河野尚子
				3組	亀山平九郎
				4組	井上成雄
1999 平11	中学校 小中校長/和田武久 小中教頭/根本美愛	7	72	1組	土器屋真理子
				2組	平野康弘
				3組	遠藤春幸
				4組	岡本博行
		8	71	1組	堀内雅人
				2組	森村卓
				3組	姫野英二
				4組	山口一郎
		9	70	1組	石井三絵
				2組	青柳勝利
				3組	時任重孝
				4組	平山勲
2000 平12	中学校 小中校長/和田武久 小中教頭/根本美愛	7	73	1組	井上成雄
				2組	石井三絵
				3組	山本豊
				4組	時任重孝
		8	72	1組	土器屋真理子
				2組	河野尚子
				3組	平野康弘
				4組	遠藤春幸
		9	71	1組	堀内雅人
				2組	森村卓
				3組	平山勲
				4組	姫野英二

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
2001 平13	中学校 小中校長/和田武久 小中教頭/一瀬清	7	74	1組	山口一郎
				2組	姫野英二
				3組	川手晴雄
				4組	平山勲
		8	73	1組	井上成雄
				2組	石井三絵
				3組	青柳勝利
				4組	堀内雅人
		9	72	1組	河住貴夫
				2組	河野尚子
				3組	遠藤春幸
				4組	平野康弘
2002 平14	中学校 小中校長/和田武久 小中教頭/一瀬清	7	75	1組	山口一郎
				2組	亀山平九郎
				3組	遠藤春幸
				4組	河住貴夫
		8	74	1組	時任重孝
				2組	川手晴雄
				3組	平山勲
				4組	平野康弘
		9	73	1組	井上成雄
				2組	石井三絵
				3組	青柳勝利
				4組	堀内雅人
2003 平15	中学校 小中校長/和田武久 小中教頭/一瀬清	7	76	1組	堀内雅人
				2組	中西正一
				3組	岡本博行
				4組	河住貴夫
		8	75	1組	山口一郎
				2組	青柳勝利
				3組	遠藤春幸
				4組	石井三絵
		9	74	1組	河野尚子
				2組	平野康弘
				3組	平山勲
				4組	川手晴雄
2004 平16	中学校 小中校長/和田武久 小中教頭/一瀬清	7	77	1組	平山勲
				2組	比嘉ちひろ
				3組	時任重孝
				4組	平野康弘
		8	76	1組	中西正一
				2組	川手晴雄
				3組	堀内雅人
				4組	岡本博行
		9	75	1組	石井三絵
				2組	青柳勝利
				3組	遠藤春幸
				4組	山口一郎

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
2005 平17	中学校 小中校長/和田武久 中教頭/河住貴夫	7	78	1組	姫野英二
				2組	山本豊
				3組	遠藤春幸
				4組	山口一郎
		8	77	1組	平山勲
				2組	比嘉ちひろ
				3組	青柳勝利
				4組	平野康弘
		9	76	1組	中西正一
				2組	川手晴雄
				3組	堀内雅人
				4組	岡本博行
中高一貫 6・6 制開始					
2006 平18	中学校 中高校長/黒川実 中教頭/河住貴夫	7	79	1組	堀内雅人
				2組	土器屋真理子
				3組	安部喜史郎
				4組	山本豊
		8	78	1組	山口一郎
				2組	渡辺京
				3組	遠藤春幸
				4組	姫野英二
		9	77	1組	平山勲
				2組	比嘉ちひろ
				3組	青柳勝利
				4組	平野康弘
2007 平19	中学校 中高校長/渡辺京 中教頭/河住貴夫	7	80	1組	高橋三絵
				2組	工藤圭輔
				3組	高橋珠洲彦
				4組	村田修二
		8	79	1組	堀内雅人
				2組	土器屋真理子
				3組	安部喜史郎
				4組	奥西克昌
		9	78	1組	平山勲
				2組	森村卓
				3組	遠藤春幸
				4組	姫野英二
2008 平20	中学校 中高校長/渡辺京 中教頭/河住貴夫	7	81	1組	中村豊
				2組	中西正一
				3組	比嘉ちひろ
				4組	遠藤春幸
		8	80	1組	高橋三絵
				2組	工藤圭輔
				3組	平野康弘
				4組	村田修二
		9	79	1組	堀内雅人
				2組	土器屋真理子
				3組	安部喜史郎
				4組	奥西克昌

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
2009 平21	中学校 中高校長/渡辺京 中教頭/河住貴夫	7	82	1組	井上成雄
				2組	小畑典子
				3組	堀内雅人
				4組	平野康弘
		8	81	1組	中村豊
				2組	中西正一
				3組	比嘉ちひろ
				4組	遠藤春幸
		9	80	1組	高橋三絵
				2組	工藤圭輔
				3組	河野尚子
				4組	村田修二
2010 平22	中学校 中高校長/渡辺京 中教頭/河住貴夫	7	83	1組	石川信行
				2組	工藤圭輔
				3組	山口一郎
				4組	高橋三絵
		8	82	1組	井上成雄
				2組	小畑典子
				3組	堀内雅人
				4組	平野康弘
		9	81	1組	平山勲
				2組	中西正一
				3組	比嘉ちひろ
				4組	姫野英二
2011 平23	中学校 中高校長/渡辺京 中教頭/河住貴夫	7	84	1組	中西正一
				2組	高橋珠洲彦
				3組	平山勲
				4組	姫野英二
		8	83	1組	山口一郎
				2組	工藤圭輔
				3組	高橋三絵
				4組	石川信行
		9	82	1組	井上成雄
				2組	小畑典子
				3組	堀内雅人
				4組	平野康弘
2012 平24	中学校 中高校長/渡辺京 中教頭/河住貴夫	7	85	1組	新坂彩子
				2組	霜田圭一
				3組	小畑典子
				4組	堀内雅人
		8	84	1組	中西正一
				2組	高橋珠洲彦
				3組	平山勲
				4組	姫野英二
		9	83	1組	高橋三絵
				2組	工藤圭輔
				3組	石川信行
				4組	山口一郎

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
2013 平25	中学校 中高校長/河住貴夫 中副校長/堀内雅人	7	86	1組	井上成雄
				2組	繁田真爾
				3組	工藤圭輔
				4組	高橋三絵
		8	85	1組	新坂彩子
				2組	霜田圭一
				3組	小畑典子
				4組	石川信行
		9	84	1組	中西正一
				2組	高橋珠洲彦
				3組	平山勲
				4組	姫野英二
2014 平26	中学校 中高校長/河住貴夫 中副校長/堀内雅人	7	87	1組	平山勲
				2組	中西正一
				3組	工藤圭輔
				4組	新井智之
		8	86	1組	天野茜
				2組	井上成雄
				3組	高橋三絵
				4組	繁田真爾
		9	85	1組	新坂彩子
				2組	霜田圭一
				3組	小畑典子
				4組	石川信行
2015 平27	中学校 中高校長/河住貴夫 中副校長/堀内雅人	7	88	1組	平野康弘
				2組	高橋和代
				3組	小畑典子
				4組	高橋三絵
		8	87	1組	平山勲
				2組	中西正一
				3組	工藤圭輔
				4組	新井智之
		9	86	1組	井上成雄
				2組	青柳勝利
				3組	天野茜
				4組	繁田真爾
2016 平28	中学校 中高校長/河住貴夫 中副校長/堀内雅人	7	89	1組	工藤圭輔
				2組	天野茜
				3組	長谷川元子
				4組	新坂彩子
		8	88	1組	平野康弘
				2組	河野尚子
				3組	小畑典子
				4組	高橋三絵
		9	87	1組	平山勲
				2組	中西正一
				3組	青柳勝利
				4組	姫野英二

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
2017 平29	中学校 中高校長/河住貴夫 中副校長/堀内雅人	7	90	1組	中西正一
				2組	天野茜
				3組	石川信行
				4組	小畑典子
		8	89	1組	工藤圭輔
				2組	青柳勝利
				3組	長谷川元子
				4組	新坂彩子
		9	88	1組	河野尚子
				2組	成田裕
				3組	高橋三絵
				4組	平野康弘
2018 平30	中学校 中高校長/河住貴夫 中副校長/堀内雅人	7	91	1組	高橋珠洲彦
				2組	成田裕
				3組	高橋三絵
				4組	姫野英二
		8	90	1組	河野尚子
				2組	天野茜
				3組	石川信行
				4組	小畑典子
		9	89	1組	工藤圭輔
				2組	青柳勝利
				3組	長谷川元子
				4組	新坂彩子
2019 平31 令1	中学校 中高校長/河住貴夫 中副校長/堀内雅人	7	92	1組	平山勲
				2組	吉川友悟
				3組	高山瑤子
				4組	森村卓
		8	91	1組	高橋三絵
				2組	成田裕
				3組	姫野英二
				4組	青柳勝利
		9	90	1組	河野尚子
				2組	小畑典子
				3組	天野茜
				4組	上田源也
2020 令2	中学校 中高校長/平野康弘 中副校長/堀内雅人	7	93	1組	上田源也
				2組	天野茜
				3組	吉川友悟
				4組	小畑典子
		8	92	1組	平山勲
				2組	新坂彩子
				3組	高山瑤子
				4組	森村卓
		9	91	1組	青柳勝利
				2組	成田裕
				3組	石井三絵
				4組	姫野英二

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
2021 令3	中学校 中高校長/平野康弘 中副校長/堀内雅人	7	94	1組	木暮亮太
				2組	山田崇文
				3組	福元翔輝
				4組	長谷川元子
		8	93	1組	上田源也
				2組	天野茜
				3組	工藤圭輔
				4組	小畑典子
		9	92	1組	平山勲
				2組	新坂彩子
				3組	高山瑤子
				4組	森村卓
2022 令4	中学校 中高校長/平野康弘 中副校長/堀内雅人	7	95	1組	佐藤翔哉
				2組	高山瑤子
				3組	森村卓
				4組	長谷川友理奈
		8	94	1組	木暮亮太
				2組	山田崇文
				3組	福元翔輝
				4組	長谷川元子
		9	93	1組	上田源也
				2組	天野茜
				3組	工藤圭輔
				4組	小畑典子
2023 令5	中学校 中高校長/平野康弘 中副校長/石井三絵	7	96	1組	佐藤耕平
				2組	山口千絵
				3組	森村卓
				4組	小畑典子
		8	95	1組	佐藤翔哉
				2組	高山瑤子
				3組	新坂彩子
				4組	長谷川友理奈
		9	94	1組	福元翔輝
				2組	山田崇文
				3組	長谷川元子
				4組	木暮亮太
2024 令6	中学校 中高校長/平野康弘 中副校長/石井三絵	7	97	1組	木暮亮太
				2組	山田崇文
				3組	新坂彩子
				4組	工藤圭輔
		8	96	1組	佐藤耕平
				2組	山口千絵
				3組	森村卓
				4組	小畑典子
		9	95	1組	佐藤翔哉
				2組	高山瑤子
				3組	山元佑介
				4組	長谷川友理奈

担任一覧　10 ～ 12 年生　1948 ～ 2024 年度

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1948 昭23	高等学校 校長/上田八一郎	1	18		(不明)
		2	17		(不明)
		3	16		(不明)
1949 昭24	高等学校 校長/上田八一郎	1	19	1組	船山博彦
				2組	角舘喜和
				3組	柳沢義明
		2	18	1組	田口武丸
				2組	横川武
				3組	押川昌一
		3	17	1組	上田八郎
				2組	横川尚
1950 昭25	高等学校 校長/上田八一郎 主任/船山博彦	1	20	1組	横川尚
				2組	大庭重信
				3組	武者小路穣
		2	19	1組	上田八郎
				2組	角舘喜和
		3	18	1組	堀淳二
				2組	横川武
				3組	押川昌一
1951 昭26	高等学校 校長/上田八一郎 主任/船山博彦	1	21	1組	堀淳二
				2組	横川武
				3組	加藤信夫
		2	20	1組	横川尚
				2組	大庭重信
				3組	武者小路穣
		3	19	1組	上田八郎
				2組	角舘喜和
				3組	柳沢義明
1952 昭27	高等学校 校長/上田八一郎 主任/船山博彦	1	22	1組	御喜晶子
				2組	押川昌一
				3組	坂本初枝
		2	21	1組	堀淳二
				2組	横川武
				3組	加藤信夫
		3	20	1組	横川尚
				2組	大庭重信
				3組	武者小路穣
1953 昭28	高等学校 校長/上田八一郎 主任/船山博彦	1	23	1組	上田八郎
				2組	岸すみれ
				3組	柳沢義明
		2	22	1組	御喜晶子
				2組	押川昌一
				3組	坂本初枝
		3	21	1組	横川尚
				2組	横川武
				3組	加藤信夫
1954 昭29	高等学校 校長/上田八一郎 主任/船山博彦	1	24	1組	土屋浩
				2組	武者小路穣
		2	23	1組	上田八郎
				2組	柳沢義明
		3	22	1組	押川昌一
				2組	横川尚

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1955 昭30	高等学校 校長/上田八一郎	1	25	1組	角舘喜和
				2組	横川武
				3組	堀淳二
		2	24	1組	土屋浩
				2組	武者小路穣
		3	23	1組	上田八郎
				2組	柳沢義明
1956 昭31	高等学校 校長/上田八一郎	1	26	1組	押川昌一
				2組	上田八郎
				3組	柳沢義明
		2	25	1組	角舘喜和
				2組	横川武
				3組	堀淳二
		3	24	1組	土屋浩
				2組	武者小路穣
1957 昭32	高等学校 校長/上田八一郎	1	27	1組	武者小路穣
				2組	田中一水
				3組	加藤信夫
				4組	土屋浩
		2	26	1組	押川昌一
				2組	上田八郎
				3組	柳沢義明
		3	25	1組	角舘喜和
				2組	横川武
				3組	堀淳二
1958 昭33	高等学校 校長/上田八一郎	1	28	1組	松本唯史
				2組	渡辺信一
				3組	梅津修
				4組	堀淳二
		2	27	1組	武者小路穣
				2組	田中一水
				3組	加藤信夫
				4組	土屋浩
		3	26	1組	岸すみれ
				2組	上田八郎
				3組	柳沢義明
1959 ～ 1973 年度、4・4・4 制実施					
1959 昭34	高学年部 校長/上田八一郎	1	29	1組	角舘喜和
				2組	田口武丸
				3組	岸すみれ
				4組	上田八郎
		2	28	1組	松本唯史
				2組	渡辺信一
				3組	梅津修
				4組	堀淳二
		3	27	1組	武者小路穣
				2組	田中一水
				3組	加藤信夫
				4組	土屋浩

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1960 昭35	高学年部 校長/上田八一郎 全園教務/橘正薫	10	30	1組	若松善明
				2組	鈴木満男
				3組	両角亮一
				4組	武者小路穣
		11	29	1組	井口芳雄
				2組	相良晴彦
				3組	衣笠洋子
				4組	上田八郎
		12	28	1組	松本唯史
				2組	渡辺信一
				3組	梅津修
				4組	堀淳二
1961 昭36	高学年部 校長/上田八一郎 全園教務/橘正薫	10	31	1組	堀淳二
				2組	松本唯史
				3組	村崎洋
				4組	宮川幸三
		11	30	1組	梅津修
				2組	鈴木満男
				3組	田代力也
				4組	武者小路穣
		12	29	1組	井口芳雄
				2組	相良晴彦
				3組	岸すみれ
				4組	上田八郎
1962 昭37	高学年部 校長/上田八一郎 全園教務/橘正薫	10	32	1組	渡辺信一
				2組	早田勤
				3組	田崎中
				4組	押川昌一
		11	31	1組	堀淳二
				2組	松本唯史
				3組	村崎洋
				4組	宮川幸三
		12	30	1組	梅津修
				2組	鈴木満男
				3組	田代力也
				4組	武者小路穣
1963 昭38	高学年部 校長/上田八一郎 全園教務/橘正薫	10	33	1組	横川尚
				2組	井口芳雄
				3組	柳沢義明
				4組	土屋浩
				5組	福永弘
		11	32	1組	渡辺信一
				2組	井部高志
				3組	押川昌一
				4組	上田八郎
		12	31	1組	堀淳二
				2組	鈴木満男
				3組	村崎洋
				4組	宮川幸三
1964 昭39	高学年部 全園校長/上田八一郎 全園教務/橘正薫	10	34	1組	宮川幸三
				2組	早田勤
				3組	梅津修
				4組	川原正希知

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1964 昭39	高学年部 全園校長/上田八一郎 全園教務/橘正薫	11	33	1組	堀淳二
				2組	井口芳雄
				3組	柳沢義明
				4組	土屋浩
				5組	福永弘
		12	32	1組	井部高志
				2組	渡辺信一
				3組	押川昌一
				4組	上田八郎
1965 昭40	高学年部 全園校長/上田八一郎	10	35	1組	田崎中
				2組	田代力也
				3組	伴悦
				4組	池上日出夫
		11	34	1組	宮川幸三
				2組	武者小路穣
				3組	早田勤
				4組	川原正希知
		12	33	1組	堀淳二
				2組	井口芳雄
				3組	柳沢義明
				4組	土屋浩
				5組	福永弘
1966 昭41	高等部 校長/恩地邦郎 教頭/鈴木満男	10	36	1組	渡辺信一
				2組	上田八郎
				3組	柳沢義明
				4組	村崎洋
				5組	梅津修
		11	35	1組	伴悦
				2組	池上日出夫
				3組	田崎中
				4組	内藤一
		12	34	1組	鈴木満男
				2組	武者小路穣
				3組	早田勤
				4組	川原正希知
1967 昭42	高等部 校長/恩地邦郎 教頭/鈴木満男	10	37	1組	堀淳二
				2組	木原光男
				3組	井部高志
				4組	高橋昭八
				5組	土屋浩
		11	36	1組	渡辺信一
				2組	上田八郎
				3組	柳沢義明
				4組	村崎洋
				5組	早田勤
		12	35	1組	伴悦
				2組	池上日出夫
				3組	田崎中
				4組	内藤一
				5組	井口芳雄

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1968 昭43	高等部 校長/恩地邦郎 教頭/鈴木満男	10	38	1組	鈴木幸子
				2組	高木露子
				3組	内藤一
				4組	伴悦
				5組	梅津脩
		11	37	1組	堀淳二
				2組	鈴木雅子
				3組	井部高志
				4組	高橋昭八
				5組	土屋浩
		12	36	1組	渡辺信一
				2組	上田八郎
				3組	柳沢義明
				4組	村崎洋
				5組	早田勤
1969 昭44	高等部 校長/恩地邦郎 教頭/鈴木満男	10	39	1組	柳沢義明
				2組	江本清弘
				3組	渡辺信一
				4組	田崎中
				5組	佐藤嗣男
		11	38	1組	鈴木幸子
				2組	高木露子
				3組	内藤一
				4組	伴悦
				5組	梅津脩
		12	37	1組	堀淳二
				2組	鈴木雅子
				3組	井部高志
				4組	高橋昭八
				5組	土屋浩
1970 昭45	高等部 全園校長/鈴木満男 教頭/加藤信夫	10	40	1組	井口芳雄
				2組	安部善三郎
				3組	堀淳二
				4組	井部高志
				5組	土屋浩
		11	39	1組	上田八郎
				2組	江本清弘
				3組	渡辺信一
				4組	田崎中
				5組	佐藤嗣男
		12	38	1組	野口淳
				2組	高木露子
				3組	内藤一
				4組	伴悦
				5組	葛城八十男
1971 昭46	高等部 全園校長/鈴木満男 教頭/加藤信夫	10	41	1組	高橋昭八
				2組	伴悦
				3組	葛城八十男
				4組	野口淳
				5組	内藤一

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1971 昭46	高等部 全園校長/鈴木満男 教頭/加藤信夫	11	40	1組	井口芳雄
				2組	安部善三郎
				3組	堀淳二
				4組	井部高志
				5組	土屋浩
		12	39	1組	上田八郎
				2組	江本清弘
				3組	渡辺信一
				4組	田崎中
				5組	佐藤嗣男
1972 昭47	高等部 全園校長/鈴木満男 教頭/加藤信夫	10	42	1組	渡辺信一
				2組	椎名真一
				3組	田崎中
				4組	吉川喜美代
				5組	渡辺京
				6組	柳沢義明
		11	41	1組	高橋昭八
				2組	伴悦
				3組	葛城八十男
				4組	野口淳
				5組	内藤一
		12	40	1組	井口芳雄
				2組	鈴木雅子
				3組	堀淳二
				4組	井部高志
				5組	土屋浩
1973 昭48	高等部 全園校長/鈴木満男 教頭/加藤信夫	10	43	1組	堀淳二
				2組	鈴木雅子
				3組	土屋浩
				4組	井部高志
				5組	工藤一義
				6組	上川淳
		11	42	1組	渡辺信一
				2組	椎名真一
				3組	田崎中
				4組	吉川喜美代
				5組	渡辺京
				6組	柳沢義明
		12	41	1組	高橋昭八
				2組	佐藤嗣男
				3組	葛城八十男
				4組	野口淳
				5組	内藤一
1973 年度末（1974 年 3 月末）、4・4・4 制終了					
1974 昭49	高等学校 校長/鈴木満男 教頭/加藤信夫	10	44	1組	高橋昭八
				2組	井口芳雄
				3組	葛城八十男
				4組	大平初枝
				5組	鴨頸隆
				6組	内藤一

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1974 昭49	高等学校 校長/鈴木満男 教頭/加藤信夫	11	43	1組	堀淳二
				2組	鈴木雅子
				3組	土屋浩
				4組	井部高志
				5組	工藤一義
				6組	上川淳
		12	42	1組	渡辺信一
				2組	椎名真一
				3組	田崎中
				4組	吉川喜美代
				5組	渡辺京
				6組	柳沢義明
1975 昭50	高等学校 校長/鈴木満男 教頭/加藤信夫	10	45	1組	野口淳
				2組	上田八郎
				3組	岸すみれ
				4組	竹内進
				5組	渡辺京
				6組	柳沢義明
		11	44	1組	高橋昭八
				2組	井口芳雄
				3組	葛城八十男
				4組	大平初枝
				5組	鴨頸隆
				6組	内藤一
		12	43	1組	堀淳二
				2組	鈴木雅子
				3組	土屋浩
				4組	井部高志
				5組	工藤一義
				6組	上川淳
1976 昭51	高等学校 校長/鈴木満男 教頭/加藤信夫	10	46	1組	安部喜史郎
				2組	鈴木雅子
				3組	黒川実
				4組	吉川喜美代
				5組	工藤一義
				6組	渡辺信一
		11	45	1組	野口淳
				2組	上田八郎
				3組	岸すみれ
				4組	土屋浩
				5組	渡辺京
				6組	柳沢義明
		12	44	1組	高橋昭八
				2組	井口芳雄
				3組	葛城八十男
				4組	大平初枝
				5組	鴨頸隆
				6組	内藤一

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1977 昭52	高等学校 校長/鈴木満男 教頭/加藤信夫	10	47	1組	野口淳 内藤一
				2組	上田八郎 溝口悦子 佐藤嗣男
				3組	岸すみれ 西島直紀
				4組	土屋浩 竹内進
				5組	渡辺京 椎名真一
				6組	柳沢義明 田中一水
		11	46	1組	安部喜史郎 木原光男
				2組	鈴木雅子 大伴恭一
				3組	黒川実 清水万知子
				4組	吉川喜美代 井口芳雄
				5組	工藤一義 荒川有史
				6組	松本真弓 武者小路知行
		12	45	1組	井部高志 高橋幸悦
				2組	角谷薫 上川淳
				3組	葛城八十雄 堀淳二
				4組	大平初枝 田崎中
				5組	鴨頸隆 恩地邦郎
				6組	武者小路知行 加賀谷俊夫
1978 昭53	高等学校 校長/恩地邦郎 教頭/加藤信夫	10	48	1組	内藤一 清水万知子
				2組	田中一水 丸重俊
				3組	野口淳 竹内進
				4組	椎名真一 荒川有史
				5組	木原光男 横田逸郎
				6組	田崎中 岸すみれ
				7組	柳沢義明 松本真弓

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1978 昭53	高等学校 校長/恩地邦郎 教頭/加藤信夫	11	47	1組	井部高志 加賀谷俊夫
				2組	角谷薫 佐藤嗣男
				3組	土屋浩 葛城八十雄
				4組	大平初枝 西島直紀
				5組	斎藤顕隆 吉見元孝
				6組	武者小路知行 桜井恵子
		12	46	1組	安部喜史郎 鈴木満男
				2組	鈴木雅子 大伴恭一
				3組	黒川実 渡辺京
				4組	吉川喜美代 井口芳雄
				5組	工藤一義 溝口悦子
				6組	渡辺信一 上田八郎
1979 昭54	高等学校 校長/恩地邦郎 教頭/加藤信夫	10	49	1組	井口芳雄 桜井恵子
				2組	黒川実 吉見元孝
				3組	大伴恭一 工藤一義
				4組	横田逸郎 竹内進
				5組	清水万知子 上田八郎
				6組	安部喜史郎 松本真弓
		11	48	1組	内藤一 谷口慶子
				2組	田中一水 瀬野卓志
				3組	野口淳 丸重俊
				4組	椎名真一 荒川有史
				5組	木原光男 渡辺京
				6組	田崎中 岸すみれ
				7組	柳沢義明 加賀谷俊夫

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1979 昭54	高等学校 校長/恩地邦郎 教頭/加藤信夫	12	47	1組	井部高志 鈴木満男
				2組	角谷薫 葛城八十雄
				3組	土屋浩 溝口悦子
				4組	大平初枝 加藤信夫
				5組	斎藤顕隆 長田徹
				6組	武者小路知行 渡辺信一 鈴木雅子
1980 昭55	高等学校 校長/恩地邦郎 教頭/加藤信夫	10	50	1組	丸重俊 大平初枝
				2組	鈴木雅子 加藤信夫
				3組	角谷薫 桜井恵子
				4組	竹内進 坂本武
				5組	長田徹 斎藤顕隆
				6組	渡辺信一 溝口悦子
		11	49	1組	武者小路知行 高橋龍郎
				2組	黒川実 瀬野卓志
				3組	大伴恭一 上田八郎
				4組	横田逸郎 松本真弓
				5組	清水万知子 土屋浩
				6組	安部喜史郎 土橋光彦
		12	48	1組	内藤一 谷口慶子
				2組	田中一水 井部高志
				3組	野口淳 加賀谷俊夫
				4組	椎名真一 工藤一義
				5組	渡辺京 鈴木満男
				6組	田崎中 岸すみれ
				7組	柳沢義明 荒川有史

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1981 昭56	高等学校 校長/上田八郎 教頭/加藤信夫	10	51	1組	椎名真一 土橋光男
				2組	野口淳 大平初枝
				3組	内藤一 谷口慶子
				4組	柳沢義明 大橋弘忠
				5組	工藤一義 岸すみれ
				6組	瀬野卓志 田崎中
		11	50	1組	渡辺信一 高橋幸悦
				2組	鈴木雅子 村田晴海
				3組	角谷薫 土屋浩
				4組	竹内進 高橋龍郎
				5組	長田徹 溝口悦子
				6組	丸重俊 斎藤顕隆
		12	49	1組	武者小路知行 井口芳雄
				2組	黒川実 加賀谷俊夫
				3組	大伴恭一 渡辺京
				4組	横田逸郎 田中一水
				5組	清水万知子 井部高志
				6組	安部喜史郎 松本真弓
1982 昭57	高等学校 校長/上田八郎 教頭/加藤信夫	10	52	1組	高橋幸悦 土橋光彦
				2組	田中一水 東川ゆう子
				3組	溝口悦子 井部高志
				4組	渡辺京 横田逸郎
				5組	村田晴海 清水万知子
				6組	田崎中 井口芳雄

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1982 昭57	高等学校 校長/上田八郎 教頭/加藤信夫	11	51	1組	椎名真一 大伴恭一
				2組	野口淳 加賀谷俊夫
				3組	内藤一 庄比呂子
				4組	柳沢義明 大橋弘忠
				5組	工藤一義 岸すみれ
				6組	瀬野卓志 高橋龍郎
		12	50	1組	渡辺信一 松本真弓
				2組	鈴木雅子 斎藤顕隆
				3組	角谷薫 安部喜史郎
				4組	竹内進 武者小路知行
				5組	長田徹 土屋浩
				6組	丸重俊 黒川実
1983 昭58	高等学校 校長/恩地邦郎 教頭/加藤信夫	10	53	1組	安部喜史郎 武者小路知行
				2組	大伴恭一 長田徹
				3組	大橋弘忠 東川ゆう子
				4組	斎藤顕隆 丸重俊
				5組	井部高志 松尾健市
				6組	鈴木雅子 奥西克昌
		11	52	1組	渡辺京 井口芳雄
				2組	高橋幸悦 田崎中
				3組	村田晴海 土屋浩
				4組	横田逸郎 清水万知子
				5組	溝口悦子 角谷薫
				6組	田中一水 高橋龍郎

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1983 昭58	高等学校 校長/恩地邦郎 教頭/加藤信夫	12	51	1組	椎名真一 渡辺信一
				2組	野口淳 黒川実
				3組	内藤一 庄比呂子
				4組	柳沢義明 松本真弓
				5組	工藤一義 岸すみれ
				6組	瀬野卓志 加賀谷俊夫
1984 昭59	高等学校 校長/恩地邦郎 教頭/加藤信夫	10	54	1組	黒川実 椎名真一
				2組	高橋龍郎 瀬野卓志
				3組	渡辺信一 松尾健市
				4組	武者小路知行 庄比呂子
				5組	奥西克昌 加賀谷俊夫
				6組	長田徹 岸すみれ
		11	53	1組	安部喜史郎 小林英一
				2組	大伴恭一 丸重俊
				3組	大橋弘忠 野口淳
				4組	斎藤顕隆 中谷ゆう子
				5組	井部高志 田崎中
				6組	鈴木雅子 松本真弓
		12	52	1組	渡辺京 井口芳雄
				2組	高橋幸悦 内藤一
				3組	村田晴海 柳沢義明
				4組	横田逸郎 平野万知子
				5組	溝口悦子 工藤一義
				6組	田中一水 角谷薫

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1985 昭60	高等学校 校長/恩地邦郎 教頭/加藤信夫	10	55	1組	松尾健市 横田逸郎
				2組	山上比呂子 加賀谷俊夫
				3組	椎名真一 瀬野卓志
				4組	野口淳 村田修二
				5組	丸重俊 溝口悦子
				6組	村田晴海 中村豊
		11	54	1組	黒川実 小林英一
				2組	武者小路知行 大久保真弓
				3組	長田徹 高橋龍郎
				4組	奥西克昌 高橋幸悦
				5組	角谷薫 田中一水
				6組	田崎中 渡辺京
		12	53	1組	安部喜史郎 工藤一義
				2組	大伴恭一 井口芳雄
				3組	大橋弘忠 渡辺信一
				4組	斎藤顕隆 平野万知子
				5組	井部高志 中谷ゆう子
				6組	鈴木雅子 田崎中
1986 昭61	高等学校 校長/恩地邦郎 教頭/加藤信夫	10	56	1組	小林英一 大伴恭一
				2組	村田修二 鈴木雅子
				3組	高橋幸悦 中谷ゆう子
				4組	渡辺京 工藤一義
				5組	瀬野卓志 加賀谷俊夫
				6組	大橋弘忠 溝口悦子
		11	55	1組	丸重俊
				2組	椎名真一
				3組	斎藤顕隆
				4組	野口淳
				5組	田中一水
				6組	村田晴海

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1986 昭61	高等学校 校長/恩地邦郎 教頭/加藤信夫	12	54	1組	黒川実
				2組	武者小路知行
				3組	長田徹
				4組	奥西克昌
				5組	角谷薫
				6組	田崎中
1987 昭62	高等学校 校長/加藤信夫 教頭/井部高志	10	57	1組	中村豊
				2組	安部喜史郎
				3組	大伴恭一
				4組	横田逸郎
				5組	田崎中
				6組	黒川実
		11	56	1組	瀬野卓志
				2組	渡辺京
				3組	村田修二
				4組	高橋幸悦
				5組	小林英一
				6組	大橋弘忠
		12	55	1組	丸重俊
				2組	椎名真一
				3組	斎藤顕隆
				4組	野口淳
				5組	田中一水
				6組	村田晴海
1988 昭63	高等学校 校長/加藤信夫 教頭/井部高志	10	58	1組	鈴木雅子
				2組	武者小路知行
				3組	山領直人
				4組	野口淳
				5組	角谷薫
				6組	溝口悦子
		11	57	1組	中村豊
				2組	奥西克昌
				3組	横田逸郎
				4組	黒川実
				5組	安部喜史郎
				6組	大伴恭一
		12	56	1組	瀬野卓志
				2組	渡辺京
				3組	村田修二
				4組	高橋幸悦
				5組	小林英一
				6組	大橋弘忠
1989 平1	高等学校 校長/加藤信夫 教頭/井部高志	10	59	1組	鈴木貴之
				2組	村田晴海
				3組	工藤一義
				4組	長田徹
				5組	藤川泰彰
				6組	丸重俊
		11	58	1組	野口淳
				2組	溝口悦子
				3組	角谷薫
				4組	鈴木雅子
				5組	山領直人
				6組	武者小路知行

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1989 平1	高等学校 校長/加藤信夫 教頭/井部高志	12	57	1組	中村豊
				2組	奥西克昌
				3組	横田逸郎
				4組	黒川実
				5組	安部喜史郎
				6組	大伴恭一
1990 平2	高等学校 校長/加藤信夫 教頭/井部高志	10	60	1組	中村豊
				2組	加賀谷俊夫
				3組	小林英一
				4組	大橋弘忠
				5組	岡田恵子
				6組	平野万知子
				7組	村田修二
		11	59	1組	工藤一義
				2組	丸重俊
				3組	長田徹
				4組	鈴木貴之
				5組	藤川泰彰
				6組	村田晴海
		12	58	1組	野口淳
				2組	溝口悦子
				3組	角谷薫
				4組	鈴木雅子
				5組	山領直人
				6組	武者小路知行
1991 平3	高等学校 校長/加藤信夫 教頭/内藤一	10	61	1組	武者小路知行
				2組	高橋幸悦
				3組	大伴恭一
				4組	渡辺京
				5組	横田逸郎
				6組	溝口悦子
		11	60	1組	中村豊
				2組	平野万知子
				3組	村田修二
				4組	瀬野卓志
				5組	加賀谷俊夫
				6組	小林英二
				7組	大橋弘忠
		12	59	1組	工藤一義
				2組	丸重俊
				3組	長田徹
				4組	鈴木貴之
				5組	奥西克昌
				6組	鈴木雅子
1992 平4	高等学校 校長/加藤信夫 教頭/内藤一	10	62	1組	野口淳
				2組	安部喜史郎
				3組	奥西克昌
				4組	白鳥悦子
				5組	伊勢誠
				6組	石井孝

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1992 平4	高等学校 校長/加藤信夫 教頭/内藤一	11	61	1組	大伴恭一
				2組	渡辺京
				3組	溝口悦子
				4組	高橋幸悦
				5組	武者小路知行
				6組	横田逸郎
		12	60	1組	中村豊
				2組	平野万知子
				3組	村田修二
				4組	瀬野卓志
				5組	加賀谷俊夫
				6組	小林英一
				7組	大橋弘忠
1993 平5	高等学校 校長/加藤信夫 教頭/黒川実	10	63	1組	中村豊
				2組	角谷薫
				3組	山上比呂子
				4組	工藤一義
				5組	岡田恵子
				6組	山領直人
		11	62	1組	丸重俊
				2組	奥西克昌
				3組	石井孝
				4組	野口淳
				5組	伊勢誠
				6組	染谷悦子
		12	61	1組	大伴恭一
				2組	渡辺京
				3組	溝口悦子
				4組	高橋幸悦
				5組	武者小路知行
				6組	横田逸郎
1994 平6	高等学校 校長/加藤信夫 教頭/黒川実	10	64	1組	横田数弘
				2組	鈴木雅子
				3組	村田晴海
				4組	井部高志
				5組	横田逸郎
				6組	村田修二
		11	63	1組	中村豊
				2組	岡田恵子
				3組	山上比呂子
				4組	鈴木貴之
				5組	工藤一義
				6組	角谷薫
		12	62	1組	丸重俊
				2組	奥西克昌
				3組	石井孝
				4組	野口淳
				5組	伊勢誠
				6組	染谷悦子

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1995 平7	高等学校 校長/松井憲紀 教頭/黒川実	10	65	1組	高橋幸悦
				2組	加賀谷俊夫
				3組	村田晴海
				4組	渡辺京
				5組	横田逸郎
				6組	間宮かおる
		11	64	1組	井部高志
				2組	鈴木雅子
				3組	大伴恭一
				4組	横田数弘
				5組	小林英一
				6組	村田修二
		12	63	1組	中村豊
				2組	岡田恵子
				3組	山上比呂子
				4組	鈴木貴之
				5組	工藤一義
				6組	角谷薫
1996 平8	高等学校 校長/手塚光男 教頭/黒川実	10	66	1組	奥西克昌
				2組	中谷ゆう子
				3組	瀬野卓志
				4組	安部喜史郎
				5組	堀口隆士
				6組	石井孝
		11	65	1組	渡辺京
				2組	溝口悦子
				3組	村田晴海
				4組	高橋幸悦
				5組	加賀谷俊夫
				6組	間宮かおる
		12	64	1組	井部高志
				2組	鈴木雅子
				3組	大伴恭一
				4組	横田数弘
				5組	小林英一
				6組	村田修二
1997 平9	高等学校 校長/手塚光男 教頭/黒川実	10	67	1組	工藤一義
				2組	山上比呂子
				3組	伊勢誠
				4組	鈴木雅子
				5組	横田和弘
				6組	平野万知子
		11	66	1組	安部喜史郎
				2組	石井孝
				3組	堀口隆士
				4組	奥西克昌
				5組	瀬野卓志
				6組	中谷ゆう子
		12	65	1組	渡辺京
				2組	溝口悦子
				3組	村田晴海
				4組	高橋幸悦
				5組	加賀谷俊夫
				6組	間宮かおる

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
1998 平10	高等学校 校長/黒川実 教頭/野口淳	10	68	1組	椎名真一
				2組	村田修二
				3組	田住見
				4組	溝口悦子
				5組	横田逸郎
				6組	新井砂織
		11	67	1組	工藤一義
				2組	鈴木雅子
				3組	伊勢誠
				4組	山上比呂子
				5組	大橋弘忠
				6組	小林英一
		12	66	1組	安部喜史郎
				2組	石井孝
				3組	堀口隆士
				4組	角谷薫
				5組	瀬野卓志
				6組	中谷ゆう子
1999 平11	高等学校 校長/黒川実 教頭/野口淳	10	69	1組	椎名真一
				2組	角谷薫
				3組	高橋幸悦
				4組	間宮かおる
				5組	村田晴海
				6組	村田修二
		11	68	1組	平野万知子
				2組	横田逸郎
				3組	山領直人
				4組	奥西克昌
				5組	田住見
				6組	新井砂織
		12	67	1組	工藤一義
				2組	鈴木雅子
				3組	伊勢誠
				4組	山上比呂子
				5組	大橋弘忠
				6組	小林英二
2000 平12	高等学校 校長/黒川実 教頭/野口淳	10	70	1組	中谷ゆう子
				2組	石井孝
				3組	笠倉恵子
				4組	堀口隆士
				5組	安部喜史郎
				6組	木場敬子
		11	69	1組	椎名真一
				2組	角谷薫
				3組	高橋幸悦
				4組	間宮かおる
				5組	村田晴海
				6組	村田修二
		12	68	1組	平野万知子
				2組	横田逸郎
				3組	溝口悦子
				4組	奥西克昌
				5組	田住見
				6組	新井砂織

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
2001 平13	高等学校 校長/黒川実 教頭/横田逸郎	10	71	1組	工藤一義
				2組	大橋弘忠
				3組	伊勢誠
				4組	椎名真一
				5組	長田徹
				6組	新坂彩子
		11	70	1組	石井孝
				2組	中谷ゆう子
				3組	堀口隆士
				4組	木場敬子
				5組	安部喜史郎
				6組	野口淳
		12	69	1組	鈴木雅子
				2組	角谷薫
				3組	高橋幸悦
				4組	間宮かおる
				5組	村田晴海
				6組	村田修二
2002 平14	高等学校 校長/黒川実 教頭/横田逸郎	10	72	1組	鈴木貴之
				2組	田住見
				3組	横田数弘
				4組	渡辺京
				5組	奥西克昌
				6組	小林英一
		11	71	1組	工藤一義
				2組	大橋弘忠
				3組	高橋幸悦
				4組	椎名真一
				5組	長田徹
				6組	新坂彩子
		12	69	1組	石井孝
				2組	中谷ゆう子
				3組	堀口隆士
				4組	木場敬子
				5組	安部喜史郎
				6組	野口淳
2003 平15	高等学校 校長/黒川実 教頭/横田逸郎	10	73	1組	中村豊
				2組	村田修二
				3組	新井砂織
				4組	野口淳
				5組	山上比呂子
				6組	中井智子
		11	72	1組	鈴木貴之
				2組	平野万知子
				3組	小林英一
				4組	渡辺京
				5組	田住見
				6組	姜福順
		12	71	1組	工藤一義
				2組	大橋弘忠
				3組	高橋幸悦
				4組	椎名真一
				5組	長田徹
				6組	新坂彩子

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
2004 平16	高等学校 校長/黒川実 教頭/横田逸郎	10	74	1組	堀口隆士
				2組	簗賢治
				3組	木場敬子
				4組	間宮かおる
				5組	中谷ゆう子
				6組	石井孝
		11	73	1組	中村豊
				2組	村田修二
				3組	新井砂織
				4組	野口淳
				5組	山上比呂子
				6組	中井智子
		12	72	1組	鈴木貴之
				2組	平野万知子
				3組	小林英一
				4組	渡辺京
				5組	田住見
				6組	姜福順
2005 平17	高等学校 校長/黒川実 教頭/横田逸郎	10	75	1組	長田徹
				2組	小林英一
				3組	伊勢誠
				4組	阿部芳子
				5組	大橋弘忠
				6組	平澤孝洋
		11	74	1組	堀口隆士
				2組	簗賢治
				3組	高橋幸悦
				4組	間宮かおる
				5組	中谷ゆう子
				6組	石井孝
		12	73	1組	中村豊
				2組	村田修二
				3組	新井砂織
				4組	野口淳
				5組	山上比呂子
				6組	新坂彩子
中高一貫 6・6 制開始					
2006 平18	高等学校 中·高校長/黒川実 教頭/横田逸郎	10	76	1組	椎名真一
				2組	村田晴海
				3組	黒川路子
				4組	薬師大五郎
				5組	川手晴雄
				6組	村田修二
		11	75	1組	平野万知子
				2組	大橋弘忠
				3組	伊勢誠
				4組	小林英一
				5組	平澤孝洋
				6組	長田徹
		12	74	1組	堀口隆士
				2組	簗賢治
				3組	高橋幸悦
				4組	間宮かおる
				5組	中谷ゆう子
				6組	姜福順

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
2007 平19	高等学校 中·高校長/渡辺京 教頭/村田晴海	10	77	1組	西崎美登利
				2組	横田逸郎
				3組	瀬野卓志
				4組	新井砂織
				5組	山口一郎
				6組	姜福順
		11	76	1組	簗賢治
				2組	山領直人
				3組	黒川路子
				4組	川手晴雄
				5組	亀山平九郎
				6組	薬師大五郎
		12	75	1組	平野万知子
				2組	大橋弘忠
				3組	伊勢誠
				4組	小林英一
				5組	平澤孝洋
				6組	長田徹
2008 平20	高等学校 中·高校長/渡辺京 教頭/村田晴海	10	78	1組	田住見
				2組	森村卓
				3組	中谷ゆう子
				4組	大石晶子
				5組	長田徹
				6組	新坂彩子
		11	77	1組	佐藤耕平
				2組	横田逸郎
				3組	瀬野卓志
				4組	新井砂織
				5組	山口一郎
				6組	西崎美登利
		12	76	1組	簗賢治
				2組	山領直人
				3組	黒川路子
				4組	川手晴雄
				5組	亀山平九郎
				6組	薬師大五郎
2009 平21	高等学校 中·高校長/渡辺京 教頭/村田晴海	10	79	1組	細井卓麿
				2組	薬師大五郎
				3組	簗賢治
				4組	山本路子
				5組	間宮かおる
				6組	石井孝
		11	78	1組	田住見
				2組	森村卓
				3組	中谷ゆう子
				4組	大石晶子
				5組	小林英一
				6組	新坂彩子
		12	77	1組	佐藤耕平
				2組	横田逸郎
				3組	瀬野卓志
				4組	新井砂織
				5組	山口一郎
				6組	西崎美登利

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
2010 平22	高等学校 中·高校長/渡辺京 教頭/村田晴海	10	80	1組	山上比呂子
				2組	堀口隆士
				3組	土器屋真理子
				4組	大橋弘忠
				5組	長野剛嗣
				6組	村田修二
		11	79	1組	細井卓麿
				2組	薬師大五郎
				3組	簗賢治
				4組	山本路子
				5組	間宮かおる
				6組	石井孝
		12	78	1組	田住見
				2組	森村卓
				3組	中谷ゆう子
				4組	大石晶子
				5組	小林英一
				6組	新坂彩子
2011 平23	高等学校 中·高校長/渡辺京 教頭/村田晴海	10	81	1組	平野万知子
				2組	山領直人
				3組	佐藤耕平
				4組	横田逸郎
				5組	比嘉ちひろ
				6組	松本知宏
		11	80	1組	山上比呂子
				2組	堀口隆士
				3組	土器屋真理子
				4組	大橋弘忠
				5組	西崎美登利
				6組	村田修二
		12	79	1組	細井卓麿
				2組	薬師大五郎
				3組	簗賢治
				4組	山本路子
				5組	間宮かおる
				6組	石井孝
2012 平24	高等学校 中·高校長/渡辺京 教頭/村田晴海	10	82	1組	田住見
				2組	山領直人
				3組	松本知宏
				4組	栗山万由
				5組	小林英一
				6組	平野康弘
		11	81	1組	平野万知子
				2組	長野剛嗣
				3組	石井孝
				4組	比嘉ちひろ
				5組	横田逸郎
				6組	佐藤耕平
		12	80	1組	山上比呂子
				2組	堀口隆士
				3組	土器屋真理子
				4組	大橋弘忠
				5組	西崎美登利
				6組	村田修二

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
2013 平25	高等学校 中·高校長/河住貴夫 副校長/村田修二	10	83	1組	鈴木貴之
				2組	平澤孝洋
				3組	谷口宏大
				4組	山本路子
				5組	間宮かおる
				6組	細井卓麿
		11	82	1組	栗山万由
				2組	山領直人
				3組	小林英一
				4組	田住見
				5組	松本知宏
				6組	平野康弘
		12	81	1組	平野万知子
				2組	長野剛嗣
				3組	石井孝
				4組	比嘉ちひろ
				5組	横田逸郎
				6組	佐藤耕平
2014 平26	高等学校 中·高校長/河住貴夫 副校長/村田修二	10	84	1組	細井卓麿
				2組	大橋弘忠
				3組	西崎美登利
				4組	石井孝
				5組	伊勢誠
				6組	土器屋真理子
		11	83	1組	鈴木貴之
				2組	亀山平九郎
				3組	間宮かおる
				4組	黒川路子
				5組	谷口宏大
				6組	平澤孝洋
		12	82	1組	栗山万由
				2組	山領直人
				3組	小林英一
				4組	森村卓
				5組	松本知宏
				6組	平野康弘
2015 平27	高等学校 中·高校長/河住貴夫 副校長/村田修二	10	85	1組	森村卓
				2組	中谷ゆう子
				3組	山本梨紗
				4組	栗山万由
				5組	佐藤耕平
				6組	溝井学
		11	84	1組	伊勢誠
				2組	西崎美登利
				3組	大橋弘忠
				4組	土器屋真理子
				5組	石井孝
				6組	細井卓麿
		12	83	1組	鈴木貴之
				2組	亀山平九郎
				3組	間宮かおる
				4組	黒川路子
				5組	谷口宏大
				6組	平澤孝洋

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
2016 平28	高等学校 中·高校長/河住貴夫 副校長/石井孝	10	86	1組	小林英一
				2組	千和起子
				3組	亀山平九郎
				4組	間宮かおる
				5組	新井智之
				6組	堀口隆士
				7組	鈴木貴之
		11	85	1組	栗山万由
				2組	中谷ゆう子
				3組	山本梨紗
				4組	長野剛嗣
				5組	松本知宏
				6組	溝井学
		12	84	1組	伊勢誠
				2組	西崎美登利
				3組	大橋弘忠
				4組	土器屋真理子
				5組	谷口宏大
				6組	細井卓麿
2017 平29	高等学校 中·高校長/河住貴夫 副校長/石井孝	10	87	1組	石川弥
				2組	西崎美登利
				3組	谷口宏大
				4組	原仁匡
				5組	細井卓麿
				6組	山上比呂子
		11	86	1組	堀口隆士
				2組	有馬良輔
				3組	千和起子
				4組	小林英一
				5組	新井智之
				6組	亀山平九郎
				7組	大橋弘忠
		12	85	1組	栗山万由
				2組	中谷ゆう子
				3組	山本梨紗
				4組	長野剛嗣
				5組	松本知宏
				6組	溝井学
2018 平30	高等学校 中·高校長/河住貴夫 副校長/石井孝	10	88	1組	伊勢誠
				2組	谷口宏大
				3組	山本梨紗
				4組	矢野和美
				5組	溝井学
				6組	平澤孝洋
				7組	土屋和臣
				8組	松本知宏
		11	87	1組	石川弥
				2組	山上比呂子
				3組	細井卓麿
				4組	西崎美登利
				5組	金城ゆり
				6組	原仁匡

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
2018 平30	高等学校 中·高校長/河住貴夫 副校長/石井孝	12	86	1組	堀口隆士
				2組	有馬良輔
				3組	千和起子
				4組	小林英一
				5組	新井智之
				6組	亀山平九郎
				7組	鈴木貴之
2019 平31 令1	高等学校 中·高校長/河住貴夫 副校長/石井孝	10	89	1組	土屋和臣
				2組	徳田知恵
				3組	小林英一
				4組	新井智之
				5組	金城ゆり
				6組	有馬良輔
				7組	枝松清太
		11	88	1組	松本知宏
				2組	谷口宏大
				3組	矢野和美
				4組	平澤孝洋
				5組	山本梨紗
				6組	新井雄二
				7組	溝井学
		12	87	1組	石川弥
				2組	山上比呂子
				3組	細井卓麿
				4組	西崎美登利
				5組	磯部祥子
				6組	原仁匡
2020 令2	高等学校 中·高校長/平野康弘 副校長/石井孝	10	90	1組	栗山万由
				2組	渡辺舞人
				3組	徳田知恵
				4組	大友日向子
				5組	小林英一
				6組	上村公紀
				7組	細井卓麿
		11	89	1組	新井智之
				2組	長濵茜
				3組	亀山平九郎
				4組	土屋和臣
				5組	枝松清太
				6組	金城ゆり
				7組	有馬良輔
		12	88	1組	松本知宏
				2組	谷口宏大
				3組	間宮かおる
				4組	平澤孝洋
				5組	山本梨紗
				6組	新井雄二
				7組	溝井学

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
2021 令3	高等学校 中·高校長/平野康弘 副校長/石井孝	10	91	1組	長野剛嗣
				2組	山本梨紗
				3組	海老沼柚衣
				4組	松本知宏
				5組	安田夏来
				6組	溝井学
				7組	谷口宏大
		11	90	1組	大友日向子
				2組	渡辺舞人
				3組	小林英一
				4組	徳田知恵
				5組	細井卓麿
				6組	上村公紀
				7組	栗山万由
		12	85	1組	新井智之
				2組	長濵茜
				3組	亀山平九郎
				4組	土屋和臣
				5組	枝松清太
				6組	金城ゆり
				7組	有馬良輔
2022 令4	高等学校 中·高校長/平野康弘 副校長/鈴木貴之	10	92	1組	新井智之
				2組	鈴木侑希
				3組	枝松清太
				4組	土屋和臣
				5組	高木大輝
				6組	長野剛嗣
				7組	長濵茜
				8組	金城ゆり
		11	91	1組	溝井学
				2組	山領直人
				3組	海老沼柚衣
				4組	藤田隼人
				5組	安田夏来
				6組	亀山平九郎
				7組	原仁匡
		12	90	1組	大友日向子
				2組	渡辺舞人
				3組	小林英一
				4組	徳田知恵
				5組	細井卓麿
				6組	上村公紀
				7組	比嘉ちひろ

年度	名称 / 管理職	学年	回生	組	担任
2023 令5	高等学校 中·高校長/平野康弘 副校長/鈴木貴之	10	93	1組	簗賢治
				2組	鈴木侑希
				3組	大友日向子
				4組	藤田隼人
				5組	上田源也
				6組	枝松清太
				7組	渡辺舞人
				8組	武川翔平
		11	92	1組	土屋和臣
				2組	長濵茜
				3組	上村公紀
				4組	石川信行
				5組	新井智之
				6組	長野剛嗣
				7組	高木大輝
		12	91	1組	溝井学
				2組	山領直人
				3組	海老沼柚衣
				4組	松本知宏
				5組	大石晶子
				6組	亀山平九郎
				7組	原仁匡
2024 令6	高等学校 中·高校長/平野康弘 副校長/土屋和臣	10	94	1組	川鍋一壽
				2組	亀山平九郎
				3組	松本知広
				4組	大石晶子
				5組	上田源也
				6組	枝松清太
				7組	小泉佐和子
				8組	末吉彰子
		11	93	1組	簗賢治
				2組	鈴木侑希
				3組	武川翔平
				4組	藤田隼人
				5組	大友日向子
				6組	渡辺舞人
				7組	原仁匡
		12	92	1組	溝井学
				2組	長濵茜
				3組	上村公紀
				4組	石川信行
				5組	細井卓磨
				6組	鈴木貴之
				7組	高木大輝

女学校・旧制中学校　教科担任一覧　1年生～5年生　1928 ～ 1949 年度

※高等女学校（女学部）・中学校（中学部）は各学年１クラス、担任は不明。男女の学校を兼任した教員も多い。

高等女学校				
年度	管理職	学年	回生	主な教科担当
1928 昭3	校長/赤井米吉	1	1	赤井米吉/修身 寺田すすむ/英語 多湖実輝/理科 岡邦夫/数学 山下重輔/歴史 吉原規/音楽 美術/松岡正雄 垂水繁光/体操 菱田秀/裁縫 吉村(宇野)節子
1929 昭4	校長/赤井米吉 主任/寺田すすむ	1	2	佐々木あや/数理
		2	1	
1930 昭5	校長/赤井米吉 主任/寺田すすむ	1	3	藤森朋夫/国語 望月操/割烹
		2	2	
		3	1	
1931 昭6	校長/赤井米吉 主任/柏井すすむ	1	4	高良富子/修身
		2	3	丹羽よし子/洋裁
		3	2	茶郷喜代/茶道華道
		4	1	
1932 昭7	校長/赤井米吉 主任/望月操	1	5	石井小浪/舞踊
		2	4	關口卯之祐/音楽
		3	3	片山信四郎/ピアノ
		4	2	
		5	1	
1933 昭8	校長/赤井米吉	1	6	杉山清/公民
		2	5	金子金治郎/国語
		3	4	青木ふみ/英語
		4	3	
		5	2	
1934 昭9	校長/赤井米吉	1	7	澁谷直/裁縫
		2	6	石川強/ピアノ
		3	5	
		4	4	
		5	3	
1935 昭10	校長/赤井米吉	1	8	加月秋芳/体育
		2	7	中島勇/地理･理科
		3	6	
		4	5	
		5	4	
1936 昭11	校長/赤井米吉	1	9	
		2	8	
		3	7	
		4	6	
		5	5	
1937 昭12	校長/赤井米吉	1	10	佐藤徳雄/体育
		2	9	安部綱義/地歴
		3	8	伊藤嘉代/家庭
		4	7	金田吉尾/書道
		5	6	

中学校（旧制男子）				
年度	管理職	学年	回生	主な教科担当
1928 昭3	校長/赤井米吉 主任/上田八一郎	1	1	赤井米吉/修身 上田八一郎/英語 多湖実輝/理科 岡邦夫/数学 山下重輔/地理 吉原規/音楽 照井猪一郎/歴史 松岡正雄/美術 垂水繁光/体操
1929 昭4	校長/上田八一郎	1	2	内野健児/国語漢文
		2	1	前島治吉/体育
1930 昭5	校長/上田八一郎	1	3	伊藤至郎/数学
		2	2	尾形鶴吉/地歴
		3	1	
1931 昭6	校長/上田八一郎	1	4	冨山國之助/理科
		2	3	越智忠良/英語
		3	2	吉田賢次/国語･歴史
		4	1	岩瀬富士雄/美術
1932 昭7	校長/上田八一郎	1	5	關口卯之祐/音楽
		2	4	
		3	3	
		4	2	
		5	1	
1933 昭8	校長/上田八一郎	1	6	前田重作/数学
		2	5	杉山清/公民･社会
		3	4	
		4	3	
		5	2	
1934 昭9	校長/上田八一郎	1	7	
		2	6	
		3	5	
		4	4	
		5	3	
1935 昭10	校長/上田八一郎	1	8	加月秋芳/体育
		2	7	森口一江/数学
		3	6	
		4	5	
		5	4	
1936 昭11	校長/上田八一郎	1	9	
		2	8	
		3	7	
		4	6	
		5	5	
1937 昭12	校長/上田八一郎	1	10	佐藤徳雄/体育
		2	9	安部綱義/地歴
		3	8	
		4	7	
		5	6	

高等女学校

年度	管理職	学年	回生	主な教科担当
1938 昭13	校長/赤井米吉	1	11	荒井つる子/家庭
		2	10	龍崎恭子/体育
		3	9	森民樹/音楽
		4	8	
		5	7	
1939 昭14	校長/赤井米吉	1	12	横山光子/家庭
		2	11	舩山博彦/国語
		3	10	
		4	9	
		5	8	
1940 昭15	校長/赤井米吉	1	13	木下三郎/理科
		2	12	松村徳一/ヴァイオリン
		3	11	森キヨ子/体育
		4	10	
		5	9	
1941 昭16	校長/赤井米吉	1	14	浦口善之助/数理
		2	13	倉田保郎/理科
		3	12	赤松次郎/ピアノ
		4	11	
		5	10	
1942 昭17	校長/赤井米吉	1	15	宮田今太郎/理数
		2	14	恩地邦郎/美術
		3	13	篠崎弘嗣/ヴァイオリン
		4	12	三輪和敏/公民
		5	11	
1943 昭18	校長/赤井米吉	1	16	小原トミ/体育
		2	15	小出悦蔵/国語
		3	14	山岡幸子/数理
		4	13	戸塚二三枝/国語·地理
		5	12	平林偕行/数理·作業
1944 昭19	校長/赤井米吉 戦時体制で14回生は4年生終了で13回生とともに卒業。	1	17	大島愛子/家事
		2	16	梶内重信/実業
		3	15	田中四郎/歴史
		4	14	中島庸助/武道
		5	13	三宅五十彦/ピアノ
1945 昭20	校長/赤井米吉 戦時体制で15回生は4年生終了で卒業。	1	18	神谷広子
		2	17	館谷米利子/体育
		3	16	高須いち/家庭
		4	15	
1946 昭21	校長/赤井米吉	1	19	山下むつ
		2	18	吉川喜美代/英語
		3	17	岸すみれ/国語
		4	16	
1947 昭22	校長/赤井米吉	2	19	
		3	18	
		4	17	
		5	16	
1948 昭23	校長/赤井米吉	5	17	新井鎮夫

中学校（旧制男子）

年度	管理職	学年	回生	主な教科担当
1938 昭13	校長/上田八一郎	1	11	末綱卓一/音楽
		2	10	青木茂則/英語
		3	9	中山貞二
		4	8	
		5	7	
1939 昭14	校長/上田八一郎	1	12	高橋律之助/体育
		2	11	舩山博彦/国語
		3	10	
		4	9	
		5	8	
1940 昭15	校長/上田八一郎	1	13	佐伯昌延/数学·作業
		2	12	鍬守尊邦/体育
		3	11	
		4	10	
		5	9	
1941 昭16	校長/上田八一郎	1	14	太田理一/数理
		2	13	白井傳三郎/数学
		3	12	下野清太郎/国語漢文
		4	11	
		5	10	
1942 昭17	校長/上田八一郎	1	15	宮田今太郎/理数
		2	14	大阿久登市/数学
		3	13	小關尚志/地理歴史
		4	12	古屋道雄/国語
		5	11	
1943 昭18	校長/上田八一郎	1	16	田口武丸/理科数学
		2	15	坂部勝太郎
		3	14	鈴木弘道
		4	13	皆方定吉/剣道
		5	12	黒柳政幸/地理歴史
1944 昭19	校長/上田八一郎	1	17	鈴木俊純/数学理科
		2	16	富永三郎/音楽
		3	15	横川武/美術
		4	14	横川尚/英語
		5	13	堀淳二/地理歴史
1945 昭20	校長/上田八一郎	1	18	門川澤吉/国語地理
		2	17	寺田吉松/剣道
		3	16	上田八郎/理科数学
		4	15	
		5	14	
1946 昭21	校長/上田八一郎	1	19	宮城弘/理科数学
		2	18	酒井求女
		3	17	藤田瑞穂
		4	16	
		5	15	
1947 昭22	校長/上田八一郎	2	19	
		3	18	
		4	17	
		5	16	
1948 昭23	校長/上田八一郎	5	17	

宿泊行事一覧・小学校

※除く「スキー教室」「スケート教室」「移動教室」

年度	【小学校】宿泊行事
1924	◆3年/1回生-日光(10/29)
1925	◆3·4年/2·1回生-箱根(5/18-1泊)◆有志(30名)/4~1回生-三浦半島三戸海岸(7/21-9泊)
1926	◆5年/1回生-松島(5/28-2泊)◆3·4年/3·2回生-日光(6/4-1泊)◆有志(40名)/5~1回生-三浦半島三戸海岸(7/21-9泊)
1927	◆4年/3回生-箱根(5/27-1泊)◆5年/2回生-伊豆(6/10-1泊)◆6年/1回生-関西(6/10-3泊)◆5~6年(39名)/2·1回生-富士登山と富士五湖巡り(7/21-7泊)
1928	◆4年/4回生-日光(5月)◆5年/5回生-伊豆修善寺(10/19-1泊)◆6年/2回生-関西(10/29-3泊)◆小·旧·女合同/7~1回生-三浦半島鴨居(7/21-9泊)
1929	◆5年/4回生-箱根(5月-1泊)◆小·旧有志(50名)/8~1回生-房総半島勝山(7/21-9泊)◆6年/3回生-関西(10/29-3泊)
1930	◆5年/5回生-箱根(5月-1泊)◆6年/4回生-関西(9/29-5泊)◆小·旧·女有志(小24名)/9~1回生-軽井沢(7/25-7泊)
1931	◆2年/9回生-女学校裁縫室(7/20-3泊)◆3年/8回生-女学校裁縫室(7/23-4泊)◆4·5年/7·6回生-箱根(6/5-1泊)◆4年/7回生-女学校裁縫室(7/27-4泊)◆5年/6回生-女学校裁縫室(7/31-6泊)※2班編成,大島(10/30)◆6年/5回生-女学校裁縫室(8/6-6泊),関西(10/27-3泊)
1932	◆2~4年/10~8回生-女学校裁縫室(7/19)◆5·6年/7·6回生-軽井沢(7/19)◆6年/6回生-関西(10/25-5泊)
1933	◆2年/11回生-女学校裁縫室(7/25-3泊)◆3年/10回生-女学校裁縫室(7/21-4泊)◆4年/9回生-軽井沢(7/17-6泊)◆4·5年/9·8回生-箱根·熱海(5/23-1泊)◆5年/8回生-大島(11/25-1泊)◆5·6年/8·7回生-三浦半島三戸(7/17-9泊)◆6年/7回生-関西(10/20-5泊)
1934	◆2年/12回生-女学校裁縫室(7/25-3泊)◆3年/11回生-女学校裁縫室(7/21-4泊)◆4·5年/10·9回生-伊豆·伊東(7/16-7泊)◆5年/9回生-大島(10/15-1泊)◆6年/8回生-日光(6/1-1泊),軽井沢(7/16-9泊),関西(11/6-6泊)
1935	◆2年/13回生-女学校裁縫室(7/25-3泊)◆3年/12回生-女学校裁縫室(7/21-4泊)◆4·5年/11·10回生-箱根清水(5/23-1泊),三浦半島初声村(7/21-9泊)◆5年/10回生-大島(10/3-1泊)◆6年/9回生-軽井沢(7/21-9泊),関西(11/5-6泊)
1936	◆2年/14回生-女学校裁縫室(7/24-3泊)◆3年/13回生-女学校裁縫室(7/20-4泊)◆4·5年/12·11回生-伊東(7/19-7泊),日光(10/29-1泊)◆5年/11回生-大島(10/7-1泊)◆6年/10回生-軽井沢(7/19-9泊),関西(11/4-7泊)
1937	◆2年/15回生-女学校裁縫室(7/25-3泊)◆3年/14回生-女学校裁縫室(7/22-3泊)◆4·5年/10·9回生-箱根·清水(6/1-1泊),千倉·青木さんと朝日屋(7/20)◆5年/9回生-大島(10/15-1泊)◆6年/11回生-日立鉱山と水戸(6/25-1泊),軽井沢(7/20-9泊),関西(12/2-6泊)
1938	◆5年/13回生-大島(10/21-1泊)◆5·6年/13·12回生-富士·三つ峠(7/26-各1·2泊)◆6年/12回生-日立鉱山と水戸(1泊),関西(11/7-6泊)
1939	◆2年/17回生-学園内(7/26-3泊)◆3年/16回生-女学校裁縫室(7/22-4泊)◆4年/15回生-日光(6/1-1泊),千倉:青木さんと朝日屋に分宿(7/15-8泊)◆5年/14回生-箱根·清水(6/6-1泊),千倉:青木さんと朝日屋(7/23-8泊),伊豆大島(10/6-1泊)◆6年/13回生-軽井沢(7/22-9泊),関西(11/4-6泊)
1940	◆2年/18回生-女学校裁縫室(7/26-3泊)◆3年/17回生-女学校裁縫室(7/22-4泊)◆4年/16回生-日光(6/1-1泊),健田村瀬戸(7/15-7泊)◆5年/15回生-箱根·清水(6/7-1泊),健田村瀬戸(7/23-8泊)◆6年/14回生-軽井沢(7/18-9泊),関西(11/13-6泊)
1941	◆2年/19回生-女学校裁縫室(7/24-3泊)◆3年/18回生-女学校裁縫室(7/27-4泊)◆4年/17回生-日光(5/27-1泊),千倉(7/23-8泊)◆5年/16回生-箱根·清水(6/5-1泊),千倉(7/15-8泊),大島(11/17-1泊)◆6年/15回生-水戸·日立(6/12-1泊),軽井沢(7/15-9泊),関西(11/3-6泊)
1942	◆2年生/20回生-学園内(7/24-3泊)◆3年生/19回生-学園内(7/20-4泊)◆4年/18回生-日光(5/21-1泊)千倉(7/27-8泊),足尾銅山(10/7-1泊)◆5年/17回生-箱根清水(5/27-1泊),千倉(7/20-8泊),富士山麓(9/15-1泊),大島(10/28-1泊)◆6年/16回生-北伊豆(4/24),東北(5/12-2泊),軽井沢(7/27-9泊),関西(10/27-6泊)
1943	◆2年/21回生-学園内(8/6-3泊)◆3年/20回生-学園内(8/2-4泊)◆4年/19回生-千倉(8/2-8泊)◆5年/18回生-箱根·清水(5/27-1泊),千倉(8/11-8泊)◆6年/17回生-北伊豆(5月),軽井沢(8/2-9泊),関西(10月-6泊)
1944	
1945	
1946	
1947	◆5年/20回生-箱根(11/20-1泊)◆6年/21回生-日光(11/17-1泊)
1948	◆6年/22回生-千倉(7/21-6泊)
1949	◆5·6年/24·23回生-千倉(7/21-6泊)
1950	◆5年/25回生-千倉(7/30-6泊)◆6年/24回生-千倉(7/22-6泊)
1951	◆5·6年/26·25回生-千倉(7/21-6泊)
1952	◆5年/27回生-伊豆大島(6/3-1泊)◆5·6年/27·26回生-千倉(7/22~)※3班編成◆6年/26回生-箱根内輪山(6月)
1953	◆5·6年/28·27回生-千倉(7/21-6泊)
1954	◆5年/29回生-伊豆大島(6/2-船中1泊)◆5·6年/29·28回生-千倉(7/16-各6泊)※3班編成◆6年/28回生-大島(6/1-船中1泊)

1955	◆1·2年/34·33回生-学園内(7月)◆3年生(32回生)-軽井沢(7/19)◆5·6年/30·29回生-千倉(7/21-各6泊)※3班編成◆6年/29回生-清水·箱根(3/22-1泊)
1956	◆5年/31回生-伊豆大島(6/6-船中1泊)◆5·6年/31·30回生-千倉(7/14-各6泊)※2班編成◆6年/30回生-清水·箱根(6/11-1泊)
1957	◆5年/32回生-伊豆大島(1泊)◆5·6年/32·31回生-千倉(7/10~7/30)※3班編成
1958	◆5年/33回生-伊豆大島(1泊)◆5·6年/33·32回生-千倉(7/15-各6泊)※3班編成◆6年/32回生-静岡·清水·箱根(6/5-1泊)
1959	◆5年/34回生-伊豆大島(5/27-1泊)◆5·6年/34·33回生-千倉(7/15-各6泊)※3班編成◆6年/33回生-静岡·清水·箱根(5/27-1泊)
1960	◆5·6年/35·34回生-千倉(7/19~8/8)※3班編成◆6年/34回生-清水·箱根(5/31-1泊)
1961	◆4年/37回生-千倉(7/10～14-各2泊)※2班編成◆5年/36回生-箱根火山(5/30-1泊),大島(3/8-1泊)◆5·6年/36·35回生-千倉(7/18～8/3-各6泊)※3班編成◆6年/35回生-北関東·南奥羽(5/23-2泊),清水·登呂(5/31-1泊)
1962	◆4年/38回生-軽井沢(6月)◆5年/37回生-伊豆大島(5/21-1泊)◆5·6年/37·36回生-千倉(7/17-2週間)◆6年/36回生-北伊豆·静岡(5/31-1泊)
1963	◆5年/38回生-伊豆大島(5/22-1泊)◆5·6年/38·37回生-千倉(7/17~30-各6泊)※2班編成◆6年/37回生-水郷·銚子·京葉(5/21-1泊)
1964	◆4年/40回生-千倉(7/6-5泊)◆5·6年/39·38回生-千倉(7/17~30-各6泊)※2班編成
1965	◆5年/40回生-伊豆大島(5/19-1泊)◆5·6年/40·39回生-千倉(7/19~31)◆6年/39回生-霞ヶ浦(5/19-2泊)
1966	◆5·6年/41·40回生-千倉(7/19~31)
1967	◆5年/42回生-三原山(6/1-1泊)◆5·6年/42·41回生-千倉(7/19~31)
1968	◆5·6年/43·42回生-千倉(7/19~31)
1969	◆3·4年/46·45回生-千倉(7/14-3泊)※2班編成◆5年/44回生-伊豆大島(5/29-1泊)◆6年/43回生-富士五湖(2泊)
1970	◆1·2年/49·48回生-清里(8/27-2泊)◆3·4年/47·46回生-千倉(7/17-各3泊)※2班編成◆5·6年/45·44回生-千倉(7/24~8/1)
1971	◆1·2年/50·49回生-清里(8/30-2泊)◆3·4年/48·47回生-千倉(7/17-各3泊)◆5·6年/46·45回生-千倉(7/22~31)
1972	◆1·2年/51·50回生-清里(7/28-2泊)◆3·4年/49·48回生-千倉(7/17-各3泊)※2班編成◆5年/47回生-清里(5/21-4泊)◆6年/46回生-清里(5/25-4泊)
1973	◆1·2年52·51/回生-清里(8/29-2泊)◆3·4年/50·49回生-千倉(7/16-3泊)◆5年/48回生-清里(5/21-4泊)◆6年/47回生-清里(5/25-4泊)
1974	◆1·2年/53·52回生-清里(8/28-2泊)◆3~6年/51~48回生-千倉(7/20-各3泊)※3班編成
1975	◆1年/54回生-清里(8/29-2泊)◆４年/51回生-千倉(7/24-3泊)◆５年/50回生-千倉(7/27-3泊)◆６年/49回生-千倉(7/21-3泊)
1976	◆1·2年/55·54回生-清里(8/28-2泊)◆5·6年/51·50回生-千倉(7/23-3泊)◆5年/51回生-伊豆大島(1泊)
1977	◆4~6年/53~51回生-千倉(7/23-各3泊)◆6年/51回生-越後湯沢(3/2-2泊)
1978	◆３年/55回生-千倉(8/28-２泊)◆４年/54回生-千倉(7/17-3泊)◆５年/53回生-千倉(7/21-３泊)◆６年/52回生-清里(7/20-３泊),会津(3/7-2泊)
1979	◆4年/55回生-千倉(7/20-3泊)◆5年/54回生-千倉(7/24-3泊)◆6年/53回生-清里(7/18-3泊),伊豆修善寺(3/9-1泊)
1980	◆2·3年/58·57回生-千倉(8/28-2泊)◆4年/56回生-千倉(7/22-3泊)◆5年/55回生-千倉(7/25-3泊)◆6年/54回生-伊豆大島(5/26-2泊),千倉(7/28-3泊)
1981	◆1·2年生/60·59回生-清里(8/27-2泊)◆4年/57回生-千倉(7/20-3泊)◆５年/56回生-千倉(7/24-３泊)◆6年/55回生-伊豆大島(5/26-2泊),千倉(7/28-３泊)
1982	◆2·3年/60·59回生-千倉(8/26-2泊)◆4·6年/58·56回生-千倉(7/19-3泊)※2班編成◆5年/57回生-伊豆大島(5/20-2泊),千倉(7/27-3泊)◆6年/56回生-三重県山岸会豊里顕地·奈良(9/9-4泊)
1983	◆1年/62回生-校内宿泊体験(7/14-1泊)◆2年/61回生-千倉(8/30-2泊)◆3年/60回生-千倉(8/27-2泊)◆4·6年/59·57回生-千倉(7/22-各3泊)※2班編成◆5年/58回生-伊豆大島(5/20-2泊),千倉(7/18-3泊)◆6年/57回生-尾瀬(9/26-3泊)
1984	◆4·6年/60·58回生-千倉(7/18-各3泊)※2班編成◆5年/59回生-千倉(7/26-3泊)◆6年/58回生-花巻(9/10-3泊)
1985	◆4·6年/61·59回生-千倉(7/18-各3泊)※2班編成◆5年/61回生-伊豆大島(5/29-2泊),千倉(7/26-3泊)◆6年/59回生-猪苗代(1/21-2泊)
1986	◆4·6年/62·60回生-千倉(7/18-各3泊)※2班編成◆5年/61回生-伊豆大島(5/28-2泊),千倉(7/26-3泊)◆6年/60回生-尾瀬(10/6-3泊)
1987	◆4·6年/63·61回生-千倉(7/18-各3泊)※2班編成◆5年/62回生-伊豆大島(5/7-2泊),千倉(7/26-3泊)◆6年/61回生-猪苗代(1/20-2泊)
1988	◆4·6年/64·62回生-千倉(7/18-各3泊)※2班編成◆5年/63回生-伊豆大島(5/10-2泊),千倉(7/26-3泊)◆6年/62回生-飛騨高山(9/28-2泊)
1989	◆4·6年/65·63回生-千倉(7/18-各3泊)※2班編成◆5年/64回生-伊豆大島(5/17-2泊),千倉(7/26-3泊)◆6年/63回生-飛騨高山(10/24-2泊)
1990	◆4年/66回生-千倉(7/26-3泊)◆5年/65回生-伊豆大島(5/23-2泊),千倉(7/22-3泊)◆6年/64回生-淡路島徳島(6/6-2泊),千倉(7/18-3泊)

1991	◆4年/67回生-千倉(7/26-3泊)◆5年/66回生-伊豆大島(5/15-2泊),千倉(7/22-3泊)◆6年/65回生-千倉(7/18-3泊),飛騨高山(10/1-2泊)
1992	◆4年/68回生-千倉(7/27-2泊)◆5年/67回生-伊豆大島(5/7-2泊),千倉(7/23-3泊)◆6年/66回生-千倉(7/19-3泊),飛騨高山(9/30-2泊)
1993	◆4年/69回生-千倉(7/18-3泊)◆5年/68回生-伊豆大島(5/6-2泊),千倉(7/26-3泊)◆6年/67回生-千倉(7/22-3泊),飛騨高山(9/27-2泊)
1994	◆4年/70回生-千倉(7/23-2泊)◆5年/69回生-伊豆大島(5/10-2泊),千倉(7/26-3泊)◆6年/68回生-千倉(7/19-3泊),飛騨高山(9/28-2泊)
1995	◆4年/71回生-千倉(7/27-2泊)◆5年/70回生-伊豆大島(5/10-2泊),千倉(7/23-3泊)◆6年/69回生-千倉(7/19-3泊),飛騨高山(9/27-2泊)
1996	◆4年/72回生-千倉(7/17-2泊)◆5年/71回生-伊豆大島(5/8-2泊),千倉(7/20-3泊)◆6年/70回生-千倉(7/24-3泊),奈良(10/2-2泊)
1997	◆4年/73回生-千倉(7/19-2泊)◆5年/71回生-伊豆大島(5/7-2泊),千倉(7/22-3泊)◆6年/70回生-千倉(7/26-3泊),奈良(10/1-2泊)
1998	◆4年/74回生-千倉(7/23-2泊)◆5年/72回生-伊豆大島(5/11-2泊),千倉(7/19-3泊)◆6年/72回生-千倉(8/26-3泊),奈良(10/6-2泊)
1999	◆4年/75回生-千倉(7/27-2泊)◆5年/74回生-伊豆大島(5/12-2泊),千倉(7/23-3泊)◆6年/73回生-千倉(7/19-3泊),奈良(10/12-2泊)
2000	◆3年/77回生-桧原都民の森(11/7-1泊)◆4年/76回生-千倉(7/18-2泊)◆5年/75回生-伊豆大島(5/17-2泊),千倉(7/21-3泊)◆6年/74回生-千倉(7/25-3泊),奈良(10/4-2泊)
2001	◆4年/77回生-千倉(7/19-2泊)◆5年/76回生-伊豆大島(5/16-2泊),千倉(7/26-2泊)◆6年/75回生-千倉(7/23-2泊),黒部(10/10-2泊)
2002	◆4年/78回生-千倉:矢原荘(7/23-2泊)◆5年/77回生-伊豆大島(5/22-2泊),千倉:矢原荘(7/26-2泊)◆6年/76回生-千倉:矢原荘(7/19-2泊),奈良(10/9-2泊)
2003	◆4年/79回生-千倉(7/28-2泊)◆5年/78回生-伊豆大島(5/21-2泊),千倉(7/25-2泊)◆6年/77回生-千倉(7/22-2泊),奈良(10/8-2泊)
2004	◆4年/80回生-千倉(7/18-2泊)◆5年/79回生-伊豆大島(5/31-2泊),千倉(7/24-2泊)◆6年/78回生-千倉(7/21-2泊),奈良(10/6-2泊)
2005	◆4年/81回生-千倉(7/20-2泊)◆5年/80回生-伊豆大島(5/11-3泊),千倉(7/26-2泊)◆6年/79回生-千倉(7/23-2泊),奈良(10/5-2泊)
2006	◆4年/82回生-千倉(7/24-2泊)◆5年/81回生-伊豆大島(5/24-2泊),千倉(7/27-2泊)◆6年/80回生-千倉(7/21-2泊),奈良(10/25-2泊)
2007	◆4年/83回生-千倉(7/23-2泊)◆5年/82回生-伊豆大島(5/9-2泊),千倉(7/26-2泊)◆6年/81回生-千倉(7/20-2泊),奈良(11/20-2泊)
2008	◆4年/84回生-千倉(7/21-2泊)◆5年/83回生-伊豆大島(5/21-2泊),千倉(7/18-2泊)◆6年/82回生-千倉(7/24-2泊),奈良(10/8-2泊)
2009	◆3年/86回生-桧原都民の森(10/1-1泊)◆4年/85回生-千倉(7/24-2泊)◆5年/84回生-伊豆大島(5/20-2泊),千倉(7/21-2泊)◆6年/83回生-千倉(7/27-2泊),奈良(10/7-2泊)
2010	◆4年/86回生-千倉(7/27-2泊)◆5年/85回生-伊豆大島(5/12-2泊),千倉(7/24-2泊)◆6年/84回生-小菅村(7/20-2泊),奈良(10/5-3泊)
2011	◆5年/86回生-白根·浅間(10/4-2泊)◆6年/85回生-奈良(10/4-3泊)　※震災の影響で千倉実施できず
2012	◆4~6年/88~86回生-黒姫(7/11-3泊)◆5年/87回生-伊豆大島(5/9-2泊)◆6年/86回生-奈良(9/17-3泊)
2013	◆4~6年/89~87回生-黒姫(7/21-3泊)◆5年/88回生-伊豆大島(5/8-2泊)◆6年/87回生-奈良(9/19-2泊)
2014	◆4~6年/90~88回生-黒姫(7/16-3泊)◆5年/89回生-伊豆大島(5/7-2泊)◆6年/88回生-奈良(9/15-2泊)
2015	◆4年/91回生-千倉(7/19-2泊)◆5年/90回生-伊豆大島(5/18-2泊),千倉(7/22-2泊)◆6年/89回生-千倉(7/15-2泊).奈良(10/16-2泊)
2016	◆4年/92回生-千倉(7/20-2泊)◆5年/91回生-伊豆大島(5/25-2泊),千倉(7/23-2泊)◆6年/90回生-千倉(7/17-2泊).奈良(10/19-2泊)
2017	◆4年/93回生-千倉(7/18-2泊)◆5年/92回生-伊豆大島(5/24-2泊),千倉(7/21-2泊)◆6年/91回生-千倉(7/24-2泊).奈良(10/18-2泊)
2018	◆4~6年/94~92回生-千倉(7/20~28-各2泊)◆5年/93回生-伊豆大島(5/23-2泊)◆6年/92回生-奈良(10/24-3泊)
2019	◆4年/95回生-千倉(7/21-2泊)◆5年/94回生-伊豆大島(5/22-2泊),千倉(7/18-2泊)◆6年/93回生-千倉(7/24-2泊).奈良(10/23-2泊)
2020	◆5年/95回生-伊豆大島(10/28-2泊)◆6年/94回生-奈良(10/21-2泊)
2021	◆5年/96回生-伊豆大島(10/13-2泊)◆6年/95回生-奈良(10/20-3泊)
2022	◆4~6年/98~96回生-千倉(7/17-各1泊)※1クラス毎◆5年/97回生-伊豆大島(5/25-2泊)◆6年/96回生-奈良(10/19-2泊)
2023	◆4年/99回生-千倉(7/21-1泊)※2班編成◆5年/98回生-伊豆大島(5/25-2泊),千倉(7/25-1泊)※2班編成◆6年/97回生-千倉(7/17-1泊)※2班編成.奈良(10/18-2泊)
2024	◆4年/100回生-千倉(7/22-1泊)※2班編成◆5年/99回生-伊豆大島(5/22-2泊),千倉(7/19-2泊)◆6年/98回生-千倉(7/26-2泊),奈良(10/23-2泊)

宿泊行事一覧・中学校

※除く「スキー教室」「スケート教室」「移動教室」

年度	【中学校】宿泊行事
1950	◆全校/23~21回生-軽井沢(7/19-6泊)※3班編成◆1年/23回生-箱根(10/10-1泊)◆2·3年/22·21回生-伊豆大島(10/10)
1951	◆2年/23回生-伊豆大島(5月)◆3年/22回生-北伊豆(5月)◆全校/24~22回生-千倉(7/23-6泊)※2班編成
1952	◆1年/25回生-箱根外輪山(6月)◆2年/24回生-日光(6月)◆1·2年/25·24回生-軽井沢(7月-9泊)◆2·3年/24·23回生-丹沢·塔ヶ岳(9/25-1泊)◆3年/23回生-軽井沢(7月-6泊),関西(11/5-4泊)
1953	◆1年/26回生-北伊豆(5月-1泊)◆2年/25回生-日光湯元(6月)◆3年/24回生-三浦半島(5/28-1泊),関西(11/5-4泊)◆全校/26~24回生-軽井沢(7/20-7泊)
1954	◆1·2年/27·26回生-多摩川キャンプ(7/19-1泊)◆3年/25回生-軽井沢(7/19-9泊),関西(11/4-4泊)
1955	◆1年/28回生-大丹波(7/15-1泊)◆2年/27回生-大丹波(7/14-1泊),日光(9/7-1泊)◆3年/26回生-軽井沢(7月),関西(9/5-4泊)◆学年不明-涸沢キャンプ(7/21-6泊),湯河原と真鶴 (2/14-1泊)
1956	◆1年/29回生-北伊豆(5/25-1泊),千倉(7/28-各6泊)※2班編成◆2年/28回生-日光(5/25-1泊),軽井沢(7/13-各4泊)※2班編成◆3年/27回生-海老名(5/25-1泊),軽井沢(7/21-各8泊)※2班編成,関西(11/6-4泊)
1957	◆1年/30回生-千倉(8/7-各6泊)※2班編成◆2年/29回生-日光(4月-1泊),軽井沢(7/15-各5泊)※2班編成◆3年/28回生-軽井沢(7/31-各7泊)※2班編成,関西(11/3-4泊)
1958	◆1年/31回生-千倉(8/5-各5泊)※2班編成◆2年/30回生-日光湯元(5/13-1泊),軽井沢(7/21-各5泊)※2班編成◆3年/29回生-軽井沢(8/7-各6泊)※2班編成
1959	◆7年/32回生-軽井沢(7/15-各4泊)※3班編成◆8年/31回生-日光(5/22-1泊),軽井沢(7/27-各6泊)※2班編成◆9年/30回生-千倉(8/5-6泊).関西(10/3-4泊)
1960	◆7·8年/33·32回生-軽井沢(7/19~8/13)※5班編成◆9年/31回生-関西(10/3-4泊)
1961	◆7年/34回生-日光湯元(5/30-1泊)◆7·8年/34·33回生-軽井沢(7/16-各6泊)※3班編成◆9年/32回生-伊勢·奈良·京都(11/8-4泊)
1962	◆9年/33回生-伊勢·奈良·京都(11月-3泊)
1963	◆7年/36回生-日光湯元(5/23-1泊)◆7·8年/36·35回生-軽井沢(7/17-各5泊)※4班編成◆8年/35回生-北関東·南奥州(5/22-2泊)
1964	◆7年/37回生-日光(5/21-1泊)◆8年/36回生-東北(5/19-3泊)
1965	◆7年/38回生-日光湯元(5/19-2泊)◆8年/37回生-東北(5/19-2泊)◆7·8年/38·37回生-軽井沢(7/19~8/3)◆9年/36回生-関西(11/11-4泊)
1966	◆7年/39回生-日光(5月-1泊)◆7·8年/39·38回生-軽井沢(7月)◆8年/38回生-東北(5/25-3泊)
1967	◆7·8年/40·39回生-清里(7/17-各4泊)※3班編成
1968	◆7·8年/41·40回生-清里(7月-4泊)◆9年/39回生-千倉(7月)
1969	◆9年/40回生-千倉(8/1-7泊),伊豆(11/4-4泊)
1970	◆7·8年/43·42回生-清里(7/22~8/1)◆9年/41回生-千倉(8/3-各3泊)※2班編成
1971	◆7·8年/44·43回生-清里(7/21~31)◆9年/42回生-千倉(8/2~8),寸又峡(11/24-1泊)
1972	◆7·8年/45·44回生-清里(7/17~31)◆9年/43回生-千倉(7/24~31)
1973	◆7·8年/46·45回生-清里(7/17-各4泊)※3班編成◆9年/44回生-千倉(7/24),尾瀬(10/1-3泊)
1974	◆7年/47回生-清里(7/19-4泊)◆8年/46回生-鬼怒川(7/19-4泊)◆9年/45回生-清里(7/28-3泊),尾瀬(10/1-3泊)
1975	◆7·8年/48·47回生-清里(7/17-各3泊)※4班編成◆9年/46回生-尾瀬(9/30-3泊)
1976	◆7年/49回生-清里(7/17-各3泊)※2班編成◆8年/48回生-清里(7/23-各3泊)※2班編成◆9年/47回生-尾瀬(10/13-3泊)
1977	◆7·8年/50·49回生-清里(7月-3泊)◆9年/48回生-尾瀬(9/19-3泊)
1978	◆7年/51回生-黒斑山(5/29-1泊)◆7·8年/50·49回生-清里·赤岳鉱泉小屋(7/17-各3泊)※4班編成◆8年/50回生-石割山(5/29-1泊)◆9年/49回生-沖縄(12/11-4泊)
1979	◆7·8年/52·51回生-清里(7/20-各3泊)※4班編成◆8年/51回生-大菩薩峠(5/28-1泊)◆9年/50回生-日光(5/28-1泊),穂高岳(8/30-4泊),沖縄(4泊)
1980	◆7年/53回生-清里(7/18-各3泊)※2班編成◆8年/52回生-清里(7/20-各3泊)※2班編成◆9年/51回生-三宅島(5月-2泊),尾瀬(10/8-3泊)
1981	◆7年/54回生-大菩薩峠(5/27-1泊),清里(7/20-各3泊)※2班編成◆8年/53回生-石割山(5/27-1泊),鳳凰三山(7/20-3泊)◆9年/52回生-東北·秋田わらび座(9/9-4泊)
1982	◆7年/55回生-三浦半島(5/21),八ヶ岳(7/19-2泊)◆8年/54回生-八ヶ岳(7/19-3泊)◆9年/53回生-小笠原(10/18-5泊)
1983	◆7年/56回生-南八ヶ岳(7/17-2泊)◆8年/55回生-北アルプス常念岳(8/18-3泊)◆9年/54回生-長崎·平戸(9/19-2泊)
1984	◆7年/57回生-八ヶ岳(7/22-2泊)◆8年/56回生-会津駒ケ岳(7/18-2泊)◆9年/55回生-尾瀬(10/10-3泊)

1985	◆7年/58回生-八ヶ岳(7/19-2泊)◆8年/57回生-常念岳(7/22-3泊)◆9年/56回生-白馬岳(8/27-4泊)
1986	◆7年/59回生-八ヶ岳(7/18-2泊)◆8年/58回生-燕岳(8/26-3泊)◆9年/57回生-白馬岳(8/25-4泊)
1987	◆7年/60回生-八ヶ岳(7/18-2泊)◆8年/59回生-伊豆(5/28-1泊),燕岳(7/26-3泊)◆9年/58回生-韓国(10/11-4泊)
1988	◆7年/61回生-八ヶ岳(7/18-2泊)◆8年/60回生-白馬岳(8/24-3泊)◆9年/59回生-白馬岳(8/26-4泊)
1989	◆7年/62回生-八ヶ岳(7/22-2泊)◆8年/61回生-燕岳(7/25-3泊)◆9年/60回生-沖縄(3/7-4泊)
1990	◆7年/63回生-八ヶ岳(7/20-2泊)◆8年/62回生-西穂高(7/24-2泊)◆9年/61回生-韓国(10/1-4泊)
1991	◆7年/64回生-八ヶ岳(7/18-2泊)◆8年/63回生-立山(7/22-2泊)◆9年/62回生-九州(9/30-4泊)
1992	◆7年/65回生-八ヶ岳(7/18-2泊)◆8年/64回生-唐松岳(7/22-2泊)◆9年/63回生-長崎(9/28-4泊)
1993	◆7年/66回生-八ヶ岳(7/18-2泊)◆8年/65回生-穂高(7/23-各3泊)※2班編成◆9年/64回生-韓国(10/4-4泊)
1994	◆7年/67回生-八ヶ岳(7/18-2泊)◆8年/66回生-尾瀬(10/4-3泊)◆9年/65回生-中国(10/4-4泊)
1995	◆7年/68回生-八ヶ岳(7/18-2泊)◆8年/67回生八丈島･駒ケ岳他グループ別(7/23-各3泊)◆9年/66回生-長崎五島列島(10/3-4泊)
1996	◆7年/69回生-八ヶ岳(7/18-2泊)◆8年/68回生-燕岳(8/23-3泊)◆9年/67回生-北海道(7/7-4泊)
1997	◆7年/70回生-八ヶ岳(7/18-2泊)◆8年/69回生-白馬岳(7/22-4泊)◆9年/68回生-沖縄(9/29-4泊)
1998	◆7年/71回生-八ヶ岳(7/21-2泊)◆8年/70回生-蝶ヶ岳(7/26-2泊)◆9年/69回生-台湾(9/28-4泊)
1999	◆7年/72回生-八ヶ岳(7/21-2泊)◆8年/71回生-式根島･妙高他グループ別(7/25~8/25)◆9年/70回生-沖縄(9/27-4泊)
2000	◆7年/73回生-八ヶ岳(7/21-2泊)◆8年/72回生-裏磐梯･酪農体験他グループ別(7/25~8/25)◆9年/71回生-沖縄(6/26-4泊)
2001	◆7年/74回生-八ヶ岳(7/19-2泊)◆8年/73回生-駒ヶ岳･山里体験他グループ別(7/17~8/25)◆9年/72回生-五島列島(10/1-4泊)
2002	◆7年/75回生-八ヶ岳(7/18-2泊)◆8年/74回生-尾瀬・白神山地他グループ別(7/17~8/1)◆9年/73回生-尾道・四国(7/8-4泊)
2003	◆7年/76回生-八ヶ岳(7/22-2泊)◆8年/75回生-登山･歴史他コース別(7/22~7/30)◆9年/74回生-沖縄(9/29-4泊)
2004	◆7年/77回生-八ヶ岳(7/20-2泊)◆8年/76回生-妙高･尾瀬他コース別(7/20-各1~3泊)◆9年/75回生-沖縄コース別(7/5-4泊)
2005	◆7年/78回生-八ヶ岳(7/19-2泊)◆8年/77回生-尾瀬･式根島他コース別(7/20-各1~3泊)◆9年/76回生-沖縄･伊江島民泊(7/4-4泊)
2006	◆7年/79回生-八ヶ岳(7/19-2泊)◆8年/78回生-尾瀬･甲斐駒ヶ岳他コース別(7/17-各2･3泊)◆9年/77回生-沖縄･伊江島民泊(7/4-4泊)
2007	◆7年/80回生-八ヶ岳(7/19-2泊)◆8年/79回生-奥阿賀民泊(8/27-3泊)◆9年/78回生-沖縄･伊江島民泊(7/3-4泊)
2008	◆7年/81回生-八ヶ岳(7/22-2泊)◆8年/80回生-奥阿賀･熊野古道他コース別(7/25-各2･3泊)◆9年/79回生-沖縄伊江島民泊(7/7-4泊)
2009	◆7年/82回生-八ヶ岳(7/21-2泊)◆8年/81回生-佐渡(7/27-3泊)◆9年/80回生-沖縄伊江島民泊(7/6-4泊)
2010	◆7年/83回生-八ヶ岳(7/22-2泊)◆8年/82回生-奥阿賀民泊(5/23-4泊)◆9年/81回生-沖縄･伊江島民泊(7/5-4泊)
2011	◆7年/84回生-八ヶ岳(7/21-2泊)◆8年/83回生-奥阿賀民泊(7/5-4泊)◆9年/82回生-沖縄･伊江島民泊(7/4-4泊)
2012	◆7年/85回生-八ヶ岳(7/23-2泊)◆8年/84回生-奥阿賀民泊(7/18-4泊)◆9年/83回生-沖縄･伊江島民泊(7/2-4泊)
2013	◆7年/86回生-八ヶ岳(7/22-2泊)◆8年/85回生-奥阿賀民泊(6/9-3泊)◆9年/84回生-沖縄･伊江島民泊(7/8-4泊)
2014	◆7年/87回生-八ヶ岳(7/22-2泊)◆8年/86回生-奥阿賀民泊(7/8-3泊)◆9年/85回生-沖縄･伊江島民泊(7/7-4泊)
2015	◆7年/88回生-八ヶ岳(7/22-2泊)◆8年/87回生-奥阿賀民泊(7/8-2泊)◆9年/86回生-沖縄･伊江島民泊(7/6-4泊)
2016	◆7年/89回生-八ヶ岳(7/20-2泊)◆8年/88回生-奥阿賀民泊(6/6-3泊)◆9年/87回生-沖縄･伊江島民泊(7/4-4泊)
2017	◆7年/90回生-八ヶ岳(7/19-2泊)◆8年/89回生-奥阿賀民泊(7/5-2泊)◆9年/88回生-北海道･十勝民泊(7/3-4泊)
2018	◆7年/91回生-八ヶ岳(7/23-2泊)◆8年/90回生-奥阿賀民泊(7/5-2泊)◆9年/89回生-陸前高田民泊(7/2-4泊)
2019	◆7年/92回生-八ヶ岳(7/22-2泊)◆8年有志/91回生-奥阿賀民泊(8/17-2泊)◆9年/90回生-沖縄･伊平屋島民泊(7/1-4泊)
2020	コロナで中止
2021	◆8年/93回生-志賀(9/2-2泊)◆9年/90回生-沖縄･伊平屋島民泊(11/3-4泊)
2022	◆7~9年有志/95~93回生-八ヶ岳(8/16-2泊)◆8年/94回生-大田原民泊(11/7-2泊)◆9年/93回生-沖縄･伊平屋島民泊(7/1-4泊)
2023	◆7年/96回生-八ヶ岳(7/19-2泊)◆8年/95回生-大田原民泊(11/13-2泊)◆9年/94回生-沖縄･伊平屋島民泊(7/3-4泊)
2024	◆7年/97回生-八ヶ岳(7/23-2泊)◆8年/96回生-新潟県上越市･田植えと民泊(5/27-2泊)◆9年/95回生-沖縄(7/1-4泊)

宿泊行事一覧・高等学校

※除く「スキー教室」「スケート教室」「オリエンテーション」

年度	【高等学校】宿泊行事
1948	◆3年/16回生-箱根(不明)
1949	◆3年/17回生-箱根(不明)
1950	◆3年/18回生-蓼科(10/10)
1951	◆学年不明-上高地·伊東·軽井沢(7月)◆3年/19回生-那須·塩原(9月)
1952	◆学年不明-河口湖·西湖(5/30),甘利山(6月)◆1·2年/22·21回生-上高地·伊東·軽井沢(7月)◆3年/20回生-志賀高原熊の湯(7月)
1953	◆1~2年/23·22回生-軽井沢(7/28-6泊)◆3年/21回生-裏磐梯(7/28-3泊)
1954	◆3年/22回生-高山·乗鞍·上高地·白骨(7/20-4泊)◆全校有志/24~22回生-軽井沢(7/28-7泊)
1955	◆1·2年/25·24回生-上高地キャンプ·軽井沢(7/21-6泊)◆3年/23回生-十和田湖(7/22-5泊)
1956	◆1·2年/26·25回生-上高地(7/22-8泊)◆2·3年/25·24回生-軽井沢(8/6-7泊)◆3年/24回生-志賀高原(7/22-3泊)
1957	◆1·2年/26·27回生-上高地(7/22-6泊)◆3年/25回生-中善寺·十和田湖(7/23-5泊)◆学年不明-軽井沢·神津牧場(7/25-6泊),千倉(7/31-6泊)
1958	◆1·2年/27·26回生-上高地(7/21-7泊)·千倉(7/21-6泊)·軽井沢(8/1-6泊)※3か所から選択制◆3年/26回生-東北·十和田湖(7/20-5泊)◆学年不明－三つ峠(4/26-1泊)
1959	◆10·11年/29·28回生-西伊豆·戸田(7/23-4泊)·上高地(8/3-5泊)·軽井沢(8/8-5泊)※3か所から選択制◆12年/27回生-男鹿半島·十和田湖(7/24-5泊)◆全校/29~27回生-小田原·箱根·熱海(5/22-1泊)※4コースに分かれて
1960	◆10·11年/30·29回生-上高地(7/18-6泊)·裏磐梯(7/25-5泊)·三浦(8/7-5泊)·軽井沢(8/13-5泊)※4か所から選択制◆12年/28回生-男鹿半島·十和田湖(7/18-5泊)
1961	◆12年/29回生-東北(7/18-6泊)
1962	◆12年/30回生-十和田湖·奥入瀬渓谷(7月)
1963	◆12年/31回生-東北(7/17-5泊)◆10·11年/33·32回生-上高地(7/17-5泊)◆10·11年有志/33·32回千倉(8/1-5泊)
1964	◆12年/32回生-東北(7/22-5泊)
1965	◆12年/33回生-東北(7/18-6泊)
1966	◆10·11年/36·35回生-上高地(7/17~7/25)◆12年/34回生-東北(7/16-5泊)
1967	◆11年/36回生-東北(7/20-5泊)
1968	◆10年/38回生-関西(7/19-3泊)◆11年/37回生-東北(7/18-6泊)
1969	◆10年/39回生-伊豆松崎(8/1-7泊)◆10年有志/39回生-関西(8月)◆11年/38回生-伊豆(11/4-4泊)
1970	◆11年/39回生-東北(7/17-6泊)
1971	◆11年/40回生-東北·高山·黒四ダム·上高地コース別(7/22~26)
1972	◆11年/41回生-東北(7/21-5泊)
1973	◆11年/42回生-東北·能登·高山·黒部他クラス別(7/17~7/29)
1974	◆11年/43回生-クラス別(8月-4泊)
1975	◆11年/44回生-能登·金沢·立山黒部·飛騨高山·四国·倉敷·津和野·萩クラス別(7/21~26)
1976	◆11年/45回生-飛騨·高山(9/1-3泊)
1977	◆10年/47回生-千倉(9/2-各2泊)※3班編成◆11年/46回生-能登·金沢(9/2-各4泊)※2班編成
1978	◆10年/48回生-千倉(9/3-各2泊)※3班編成◆11年/47回生-東北(9/2-各4泊)※2班編成
1979	◆10年/49回生-千倉(9/2-各2泊)※3班編成◆11年/48回生-合歓の郷(9/2-各3泊)※2班編成
1980	◆10年/50回生-千倉(9/1-各2泊)※3班編成◆11年/49回生-飛騨高山(9/1-各3泊)※2班編成
1981	◆10年/51回生-伊豆韮山·富士ランド(9/7-2泊)◆11年/50回生-十和田湖(9/2-4泊)
1982	◆10年/52回生-群馬県嬬恋村(9/4-2泊)◆11年/51回生-近江八幡(9/5-3泊)
1983	◆10年/53回生-群馬県野反湖(9/5-2泊)◆11年/52回生-佐渡島(9/5-3泊)
1984	◆11年/53回生-能登(8/31-5泊)·広島(9/1-4泊)※2か所から選択制

1985	◆10年/55回生-北海道農業体験(8/31-各4泊)※2班編成◆11年/54回生-青木湖(8/30-各3泊)※2班編成
1986	資料なし
1987	◆11年/56回生-韓国(9/1-4泊)
1988	◆11年/57回生-北海道コース別(9/1-各4泊･5泊)
1989	◆11年/58回生-沖縄(粟国･粟国･座間味･渡嘉敷･伊江島･北部･南部･工芸)コース別(9/1-各4泊･5泊)
1990	◆11年/59回生-アジア(マレーシア･シンガポール)コース別(9/3-各4泊)
1991	◆11年/60回生-アジア(マレーシア･シンガポール)コース別(9/2-各4泊)
1992	◆11年/61回生-北海道コース別(9/1-各4泊)
1993	◆11年/62回生-マレーシア･タイ･シンガポールコース別(9/1-各4泊)
1994	◆11年/63回生-北海道コース別(9/1-各4泊)
1995	◆11年/64回生-北海道･沖縄･ボルネオ･タイ･マレーシアコース別(9/1-各4泊)
1996	◆11年/65回生-北海道･沖縄･韓国･マレーシア･タイコース別(8/27-各4泊･5泊)
1997	◆11年/66回生-タイ･マレーシアコース別(7月-各4泊･5泊)◆社会科主催-奈良･京都(3/9-3泊)
1998	◆11年/67回生-北海道･沖縄･韓国･マレーシア･タイコース別(8/26-各4泊･5泊)
1999	◆11年/68回生-北海道･韓国･マレーシアコース別(8/25-各4泊･5泊)◆社会科主催-奈良･京都(3/20-3泊)
2000	◆11年/69回生-北海道･韓国･沖縄･屋久島コース別(8/25-各4泊･5泊)
2001	◆11年/70回生-八重山･韓国･屋久島コース別(8/19-各4泊･5泊)
2002	◆社会科主催-奈良･京都(2/23-3泊)※この年以降,高校の宿泊行事は教科主催の学習旅行のみに変わり、希望者だけが参加するようになった。
2003	
2004	◆社会科主催-奈良･京都(3/27-3泊)
2005	
2006	
2007	
2008	
2009	◆10年/79回生-山中湖(7/13-1泊)※学年旅行
2010	◆11年/79回生-山中湖(7/10-1泊)※学年旅行
2011	
2012	
2013	
2014	
2015	
2016	
2017	
2018	
2019	◆10年/89回生-水上温泉(7/16-1泊)※学年旅行
2020	
2021	
2022	◆10年/92回生(7/18-1泊)※学年旅行
2023	
2024	

宿泊行事一覧・女学校・旧制中学校

※除く「スキー教室」「スケート教室」「野外演習」「踏破」「競歩」

年度	【女学校】宿泊行事
1928	◆小·旧·女合同/7~1回生-三浦半島鴨居(7/21-9泊)
1929	
1930	◆小·旧·女有志(女13名)/9~4回生-軽井沢(7/25-7泊)
1931	
1932	◆1~5年/5~1回生-三浦半島三戸(7/14)◆4·5年/1·2回生-北陸(11/4-5泊)
1933	◆1~5年/6~2回生-軽井沢(7/21-9泊)
1934	◆1~5年/7~3回生-三浦半島三戸(7/23-9泊)◆5年/3回生-奥日光(10/11-2泊)
1935	◆1~5年/8~4回生-軽井沢(7/30-9泊)◆5年/4回生-上高地(10/13-3泊)
1936	◆5年/5回生-上高地(10/13-4泊)
1937	◆1~5年/10~6回生-軽井沢(7/29-6泊)◆5年/6回生-東北(6/8),上高地(3泊)
1938	◆5年/7回生-上高地·天竜峡(5/30-4泊)
1939	◆1~4年/12~9回生-伊豆大島(6/6-1泊)◆5年/8回生-上高地·天竜峡(6/5-5泊)
1940	◆1~4年/13~10回生-軽井沢(7/21-9泊)◆5年/9回生-上高地·天龍峡地方(6/10-5泊)
1941	◆5年/10回生-上高地(10/7-3泊)
1942	◆5年/11回生-上高地·天竜(6/8-3泊)
1943	
1944	
1945	
1946	
1947	◆5年/16回生-箱根(1泊)

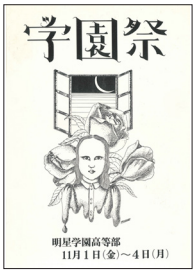
年度	【旧制中学校】宿泊行事
1928	◆小·旧·女合同/1回生-三浦半島鴨居(7/21-9泊)
1929	◆小·旧有志(50名)/2~1回生-房総半島勝山(7/21-9泊)
1930	◆小·旧·女有志(旧23名)/9~4回生-軽井沢(7/25-7泊)
1931	
1932	◆1~5年/5~1回生-軽井沢·房総勝山(7/14-4泊)
1933	
1934	◆1~5年/7~3回生-館山(7/23)
1935	◆1~5年/8~4回生-房総勝山(7/23-7泊)
1936	
1937	
1938	
1939	
1940	

明星祭　プログラムとテーマ

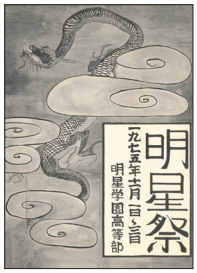
4・4・4 制の最終年　1973 年度から、明星祭ではテーマが設けられるようになった。
趣向が凝らされたパンフレットの表紙やフライヤーとともに各年のテーマを紹介する。
（1984 年と 2018 年のテーマは分からなかった。2020 年はコロナ禍の影響で開催できなかった。）



1973 年
「アピール」



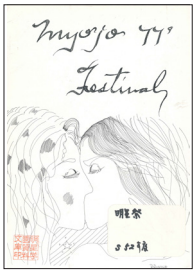
1974 年
「オリジナリティをモットーに！！」



1975 年
「空なるかな　空の空なるかな」



1976 年
「明星らしさをみつけよう！」



1977 年
「創造」



1978 年
「明星らしさ」



1979 年
「Free World」



1980 年
「未完成（その果てしない可能性を求めて）」



1981 年
「飛翔」



1982 年
「脱出」



1983 年
「HALO」



1984 年



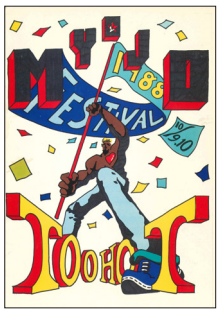
1985 年
「来れば幸せになれる」



1986 年
「躍動（わくわく）」



1987 年
「BRIGHTER THE PLANETS ！」



1988 年
「TOO HOT ！」



1989 年
「現実逃避」



1990 年
「KICK&START」



1991 年
「LET'S BE HAPPY」



1992 年
「WAKE UP」



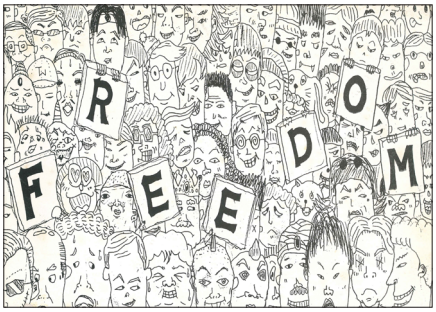
1993 年
「RENEWAL FACTORY」



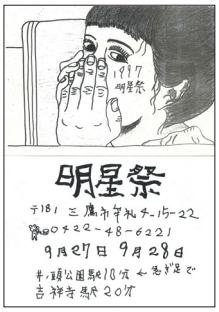
1994 年
「BE FREE」



1995 年
「ABOUT」



1996 年
「FREEDOM」



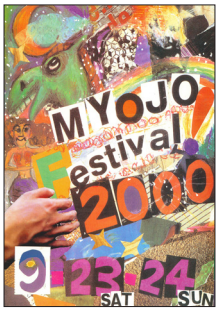
1997 年
「∞アンフィニ（無限大）」



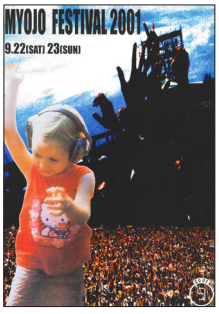
1998 年
「individuality（個性）」



1999 年
「表現する」



2000 年
「新☆自己発見（I ×明星＝∞）」



2001 年
「『楽』～明星らしさ～」



2002 年
『『輪』～ミンナシダイ！？
ジブンシダイ！！～」



2003 年
「彩―SAI―」



2004 年
「『遊』ゆう」



2005 年
「笑～ LAUGH&SMILE ～」



2006 年
「Like a Rolling Stone
（心の石を転がせ）」



2007 年
「ECOJOY ！」



2008 年
「ジパング」



2009 年
「百花繚乱」



2010 年
「Colorful」



2011 年
「万遊引力」



2012 年
「Myojoyful ～おもてなし～」



2013 年
「Myojo Be Ambitious」



2014 年
「MYOJOBAL（Myojo ＋ GLOBAL）」



2015 年
「Challenge」



2016 年
「かける」



2017 年
「全進」



2018 年



2019 年
「夢の島」

2020 年
コロナ禍で中止



2021 年
「和」



2022 年
「楽園～君たちが創る仮想世界～」



2023 年
「バブル～ふくらむ情熱、遂にはじける。～」



2024 年
「華」

第５部

人事一覧













なつかしい先生たち

歴代理事長・校長

	年度			園長	小学部長	中学部長	女学部長
創立期	1924	大正 13		赤井 米吉	照井 猪一郎		
	1925	大正 14		赤井 米吉	照井 猪一郎		
	1926	大正 15		赤井 米吉	照井 猪一郎		
	1927	昭和 2		赤井 米吉	照井 猪一郎		
	1928	昭和 3		赤井 米吉	赤井 米吉	赤井 米吉	赤井 米吉

	年度		財団法人理事長	園長	小学部長	中学部長	女学部長
旧制度	1929	昭和 4	赤井 米吉	赤井 米吉	照井 猪一郎	上田 八一郎	赤井 米吉
	1930	昭和 5	赤井 米吉	赤井 米吉	照井 猪一郎	上田 八一郎	赤井 米吉
	1931	昭和 6	赤井 米吉	赤井 米吉	照井 猪一郎	上田 八一郎	赤井 米吉
	1932	昭和 7	赤井 米吉	赤井 米吉	照井 猪一郎	上田 八一郎	赤井 米吉
	1933	昭和 8	赤井 米吉	赤井 米吉	照井 猪一郎	上田 八一郎	赤井 米吉
	1934	昭和 9	赤井 米吉	赤井 米吉	照井 猪一郎	上田 八一郎	赤井 米吉
	1935	昭和 10	赤井 米吉	赤井 米吉	照井 猪一郎	上田 八一郎	赤井 米吉
	1936	昭和 11	赤井 米吉	赤井 米吉	照井 猪一郎	上田 八一郎	赤井 米吉
	1937	昭和 12	赤井 米吉	赤井 米吉	照井 猪一郎	上田 八一郎	赤井 米吉
	1938	昭和 13	赤井 米吉	赤井 米吉	照井 猪一郎	上田 八一郎	赤井 米吉
	1939	昭和 14	赤井 米吉	赤井 米吉	照井 猪一郎	上田 八一郎	赤井 米吉
	1940	昭和 15	赤井 米吉	赤井 米吉	照井 猪一郎	上田 八一郎	赤井 米吉
	1941	昭和 16	赤井 米吉	赤井 米吉	照井 猪一郎	上田 八一郎	赤井 米吉
	1942	昭和 17	赤井 米吉	赤井 米吉	照井 猪一郎	上田 八一郎	赤井 米吉
	1943	昭和 18	赤井 米吉	赤井 米吉	照井 猪一郎	上田 八一郎	赤井 米吉
	1944	昭和 19	赤井 米吉	赤井 米吉	照井 猪一郎	上田 八一郎	赤井 米吉
	1945	昭和 20	赤井 米吉	赤井 米吉	照井 猪一郎	上田 八一郎	赤井 米吉
	1946	昭和 21	赤井 米吉	赤井 米吉	照井 猪一郎	上田 八一郎	赤井 米吉

	年度		財団法人理事長		小学校長	(新制)中学校長	(新制)高等学校長
制度移行期	1947	昭和 22	市村 今朝蔵		照井 猪一郎	照井 猪一郎	
	1948	昭和 23	市村 今朝蔵		照井 猪一郎	照井 猪一郎	上田 八一郎
	1949	昭和 24	市村 今朝蔵		照井 猪一郎	照井 猪一郎	上田 八一郎

	年度		学校法人理事長		小学校長	中学校長	高等学校長
新制	1950	昭和 25	上田 八一郎(理事長事務取扱)		照井 猪一郎	照井 猪一郎	上田 八一郎
	1951	昭和 26	神田 五雄		照井 猪一郎	照井 猪一郎	上田 八一郎
	1952	昭和 27	神田 五雄		照井 猪一郎	照井 猪一郎	上田 八一郎
	1953	昭和 28	赤井 米吉		照井 猪一郎	照井 猪一郎	上田 八一郎
	1954	昭和 29	赤井 米吉		照井 猪一郎	照井 猪一郎	上田 八一郎
	1955	昭和 30	赤井 米吉		照井 猪一郎	照井 猪一郎	上田 八一郎
	1956	昭和 31	赤井 米吉		照井 猪一郎	照井 猪一郎	上田 八一郎
	1957	昭和 32	赤井 米吉		照井 猪一郎	照井 猪一郎	上田 八一郎
	1958	昭和 33	市村 寅之輔		照井 猪一郎	照井 猪一郎	上田 八一郎

	年度		理事長	学園長	初等(低学年)部長	中等(中学年)部長	高等(高学年)部長
4・4・4制	1959	昭和 34	市村 寅之輔		照井 猪一郎	照井 猪一郎	上田 八一郎
	1960	昭和 35	市村 寅之輔		照井 猪一郎	照井 猪一郎	上田 八一郎
	1961	昭和 36	市村 寅之輔		照井 猪一郎	照井 猪一郎	上田 八一郎
	1962	昭和 37	市村 寅之輔		照井 猪一郎	照井 猪一郎	上田 八一郎
	1963	昭和 38	市村 寅之輔		照井 猪一郎	照井 猪一郎	上田 八一郎
	1964	昭和 39	市村 寅之輔(7月没) 衣笠 武夫(7月から)		上田 八一郎	上田 八一郎	上田 八一郎
	1965	昭和 40	衣笠 武夫	赤井 米吉	上田 八一郎	上田 八一郎	上田 八一郎
	1966	昭和 41	衣笠 武夫	赤井 米吉	寒川 道夫	上川 淳	恩地 邦郎
	1967	昭和 42	衣笠 武夫	赤井 米吉	寒川 道夫	上川 淳	恩地 邦郎
	1968	昭和 43	衣笠 武夫	赤井 米吉	寒川 道夫	上川 淳	恩地 邦郎
	1969	昭和 44	衣笠 武夫	赤井 米吉	寒川 道夫	上川 淳	恩地 邦郎
	1970	昭和 45	衣笠 武夫	赤井 米吉	鈴木 満男	鈴木 満男	鈴木 満男
	1971	昭和 46	衣笠 武夫	赤井 米吉	鈴木 満男	鈴木 満男	鈴木 満男
	1972	昭和 47	衣笠 武夫	赤井 米吉	鈴木 満男	鈴木 満男	鈴木 満男
	1973	昭和 48	衣笠 武夫	赤井 米吉	鈴木 満男	鈴木 満男	鈴木 満男

	年度		理事長	小・中学校長	高等学校長
6・3・3制	1974	昭和 49	衣笠 武夫	遠藤 豊(代行)	鈴木 満男
	1975	昭和 50	衣笠 武夫	遠藤 豊	鈴木 満男
	1976	昭和 51	衣笠 武夫	遠藤 豊	鈴木 満男
	1977	昭和 52	衣笠 武夫(7月まで) 板橋 宗一(8月から代行)	遠藤 豊	鈴木 満男
	1978	昭和 53	板橋 宗一(代行)	遠藤 豊	恩地 邦郎
	1979	昭和 54	板橋 宗一(11月まで代行) 松井 憲紀(12月から)	遠藤 豊	恩地 邦郎
	1980	昭和 55	松井 憲紀	遠藤 豊	恩地 邦郎
	1981	昭和 56	松井 憲紀	遠藤 豊	上田 八郎
	1982	昭和 57	松井 憲紀	遠藤 豊	上田 八郎
	1983	昭和 58	松井 憲紀	依田 好照	恩地 邦郎
	1984	昭和 59	松井 憲紀	依田 好照	恩地 邦郎
	1985	昭和 60	松井 憲紀	依田 好照	恩地 邦郎
	1986	昭和 61	松井 憲紀	依田 好照	恩地 邦郎
	1987	昭和 62	松井 憲紀	依田 好照	加藤 信夫
	1988	昭和 63	松井 憲紀	依田 好照	加藤 信夫
	1989	平成 1	松井 憲紀	依田 好照	加藤 信夫
	1990	平成 2	松井 憲紀	依田 好照	加藤 信夫
	1991	平成 3	松井 憲紀	依田 好照	加藤 信夫
	1992	平成 4	松井 憲紀	依田 好照	加藤 信夫
	1993	平成 5	松井 憲紀	依田 好照	加藤 信夫
	1994	平成 6	松井 憲紀	依田 好照	加藤 信夫
	1995	平成 7	松井 憲紀(12月没)	依田 好照	松井 憲紀
	1996	平成 8	手塚 光雄	依田 好照	手塚 光雄
	1997	平成 9	手塚 光雄	依田 好照	手塚 光雄
	1998	平成 10	手塚 光雄	和田 武久	黒川 実
	1999	平成 11	手塚 光雄	和田 武久	黒川 実
	2000	平成 12	菅谷 嘉穂	和田 武久	黒川 実
	2001	平成 13	菅谷 嘉穂	和田 武久	黒川 実
	2002	平成 14	菅谷 嘉穂	和田 武久	黒川 実
	2003	平成 15	菅谷 嘉穂	和田 武久	黒川 実
	2004	平成 16	菅谷 嘉穂	和田 武久	黒川 実
	2005	平成 17	菅谷 嘉穂	和田 武久	黒川 実

	年度		理事長	小学校長	中・高等学校長
6・6制	2006	平成 18	菅谷 嘉穂	和田 武久	黒川 実
	2007	平成 19	菅谷 嘉穂	一瀬 清	渡辺 京
	2008	平成 20	出口 一彦	一瀬 清	渡辺 京
	2009	平成 21	出口 一彦	一瀬 清	渡辺 京
	2010	平成 22	出口 一彦	一瀬 清	渡辺 京
	2011	平成 23	出口 一彦	一瀬 清	渡辺 京
	2012	平成 24	出口 一彦	一瀬 清	渡辺 京
	2013	平成 25	出口 一彦	平田 和孝	河住 貴夫
	2014	平成 26	出口 一彦	平田 和孝	河住 貴夫
	2015	平成 27	出口 一彦	平田 和孝	河住 貴夫
	2016	平成 28	出口 一彦	福田 純一	河住 貴夫
	2017	平成 29	出口 一彦	福田 純一	河住 貴夫
	2018	平成 30	出口 一彦(6月まで) 平田 和孝(7月から)	福田 純一	河住 貴夫
	2019	令和 1	平田 和孝	剛力 正和	河住 貴夫
	2020	令和 2	平田 和孝	剛力 正和	平野 康弘
	2021	令和 3	平田 和孝	剛力 正和	平野 康弘
	2022	令和 4	平田 和孝	照井 伸也	平野 康弘
	2023	令和 5	平田 和孝	照井 伸也	平野 康弘
	2024	令和 6	平田 和孝(6月まで) 渡辺 京(7月から)	照井 伸也	平野 康弘

法人評議員会議長・関連団体会長

年度		評議員会議長	PTA会長	後援会会長	明星会会長
1927	昭和 2		〔母の会〕 山之内 鈴衛ら 在校生の母たち	岡崎 栄松（第1次）	
1928	昭和 3			岡崎 栄松	
1929	昭和 4			岡崎 栄松	
1930	昭和 5			岡崎 栄松	
1931	昭和 6			岡崎 栄松	
1932	昭和 7			岡崎 栄松	
1933	昭和 8			赤堀 郁太郎	
1934	昭和 9			赤堀 郁太郎	
1935	昭和 10			赤堀 郁太郎	横川 武
1936	昭和 11			赤堀 郁太郎	横川 武
1937	昭和 12			赤堀 郁太郎	横川 武
1938	昭和 13			赤堀 郁太郎	横川 武
1939	昭和 14			赤堀 郁太郎	横川 武
1940	昭和 15			赤堀 郁太郎	横川 武
1941	昭和 16			赤堀 郁太郎	横川 武
1942	昭和 17			赤堀 郁太郎	横川 武
1943	昭和 18			赤堀 郁太郎	横川 武
1944	昭和 19				横川 武
1945	昭和 20		▼		横川 武
1946	昭和 21		神田 亀代枝		横川 武
1947	昭和 22		神田 仂代枝 〔母姉の会〕	二村 鐘（第2次）	横川 武
1948	昭和 23		神田 仂代枝 〔母姉の会〕	二村 鐘	横川 武
1949	昭和 24		浅野 均一	二村 鐘	横川 武
1950	昭和 25		神田 五雄		横川 武
1951	昭和 26	牧野 寛索	神田 五雄		横川 武
1952	昭和 27	牧野 寛索	高田 止戈夫		横川 武
1953	昭和 28	牧野 寛索	高田 止戈夫		福沢 慧
1954	昭和 29	牧野 寛索	高田 止戈夫		福沢 慧
1955	昭和 30	牧野 寛索	宮地 良三		福沢 慧
1956	昭和 31	衣笠 武夫	宮地 良三		富永 三郎
1957	昭和 32		宮地 良三		富永 三郎
1958	昭和 33		宮地 良三		富永 三郎
1959	昭和 34		松井 憲紀		富永 三郎
1960	昭和 35		松井 憲紀	武者小路 実篤 （第3次）	富永 三郎
1961	昭和 36		松井 憲紀	武者小路 実篤	富永 三郎
1962	昭和 37		松井 憲紀	武者小路 実篤	富永 三郎
1963	昭和 38		徳武 敏夫	武者小路 実篤	富永 三郎
1964	昭和 39	板橋 宗一	徳武 敏夫	武者小路 実篤	岡崎 健児
1965	昭和 40	板橋 宗一	兼子 廸	武者小路 実篤 （第4次）	岡崎 健児
1966	昭和 41	板橋 宗一	兼子 廸	武者小路 実篤 （第5次）	岡崎 健児
1967	昭和 42	板橋 宗一	兼子 廸	武者小路 実篤	岡崎 健児
1968	昭和 43	板橋 宗一	兼子 廸	武者小路 実篤	岡崎 健児 藤田 早苗 （6月～）
1969	昭和 44	板橋 宗一	原 徹	武者小路 実篤	藤田 早苗
1970	昭和 45	板橋 宗一	原 徹	武者小路 実篤	藤田 早苗
1971	昭和 46	板橋 宗一	原後 山治	武者小路 実篤	藤田 早苗
1972	昭和 47	板橋 宗一	原後 山治	武者小路 実篤	藤田 早苗
1973	昭和 48	板橋 宗一	藤本 猛	武者小路 実篤	藤田 早苗
1974	昭和 49	板橋 宗一	原後 山治	武者小路 実篤	藤田 早苗
1975	昭和 50	板橋 宗一	原後 山治	武者小路 実篤	藤田 早苗
1976	昭和 51	馬場 幸彦	鈴木 利和	武者小路 実篤	北川 富枝
1977	昭和 52	馬場 幸彦	鈴木 利和	千秋 実	北川 富枝
1978	昭和 53	馬場 幸彦	長谷 緑也	千秋 実	北川 富枝
1979	昭和 54	上田 八郎	佐藤 温重	千秋 実	谷井 精之助
1980	昭和 55	上田 八郎	内田 良平	千秋 実	谷井 精之助
1981	昭和 56	加藤 信夫	内田 良平	千秋 実	谷井 精之助
1982	昭和 57	都留 純也	山崎 馨	千秋 実	谷井 精之助
1983	昭和 58	都留 純也	安藤 通久	千秋 実	谷井 精之助
1984	昭和 59	都留 純也	安藤 通久	千秋 実	谷井 精之助
1985	昭和 60	都留 純也	片岡 敬吉	千秋 実	谷井 精之助
1986	昭和 61	都留 純也	片岡 敬吉	千秋 実	谷井 精之助
1987	昭和 62	金森 久	奈良 正博	千秋 実	谷井 精之助
1988	昭和 63	金森 久	井上 隆	千秋 実	谷井 精之助
1989	平成 1	金森 久	奈良 正博	千秋 実	谷井 精之助
1990	平成 2	金森 久	富谷 久子	千秋 実	谷井 精之助
1991	平成 3	金森 久	平野 惠子	千秋 実	谷井 精之助
1992	平成 4	金森 久	平野 惠子	千秋 実	谷井 精之助
1993	平成 5	金森 久	若山 直彦	千秋 実	谷井 精之助
1994	平成 6	金森 久	若山 直彦	川連 拡子	谷井 精之助
1995	平成 7	片岡 敬吉	奈良 正博	川連 拡子	谷井 精之助
1996	平成 8	片岡 敬吉	中神 康博	川連 拡子	谷井 精之助
1997	平成 9	片岡 敬吉	中神 康博	川連 拡子	谷井 精之助
1998	平成 10	片岡 敬吉	青野 和子	川連 拡子	上田 八郎 （代行）
1999	平成 11	栗山 美知郎	青野 和子	川連 拡子	出口 一彦
2000	平成 12	栗山 美知郎	土屋 真弓	川連 拡子	出口 一彦
2001	平成 13	栗山 美知郎	土屋 真弓	川連 拡子	出口 一彦
2002	平成 14	栗山 美知郎	小川 秀佳	奈良 正博	出口 一彦
2003	平成 15	栗山 美知郎	小川 秀佳	奈良 正博	出口 一彦
2004	平成 16	栗山 美知郎	大野 由充子	奈良 正博	出口 一彦
2005	平成 17	栗山 美知郎	大野 由充子	奈良 正博	出口 一彦
2006	平成 18	栗山 美知郎	守屋 弥生	川連 拡子	出口 一彦
2007	平成 19	栗山 美知郎	守屋 弥生	川連 拡子	出口 一彦
2008	平成 20	栗山 美知郎	守屋 弥生	川連 拡子	出口 一彦
2009	平成 21	栗山 美知郎	守屋 弥生	（活動休止）	人見 武彦
2010	平成 22	栗山 美知郎	和田 博子	（解散）	人見 武彦
2011	平成 23	栗山 美知郎	藤原 里己		人見 武彦
2012	平成 24	栗山 美知郎	加藤 結花		人見 武彦
2013	平成 25	栗山 美知郎	加藤 結花		人見 武彦
2014	平成 26	栗山 美知郎	仁科 雪子		人見 武彦
2015	平成 27	栗山 美知郎	冨宇加 淳		人見 武彦
2016	平成 28	栗山 美知郎	冨宇加 淳		人見 武彦
2017	平成 29	栗山 美知郎	冨宇加 淳	明星学園をささえる会 加藤 結花	人見 武彦
2018	平成 30	栗山 美知郎	飯室 たみ代	加藤 結花	人見 武彦
2019	令和 1	栗山 美知郎	飯室 たみ代	加藤 結花	赤井 創
2020	令和 2	栗山 美知郎	飯室 たみ代	“明星学園後援会”に改称 加藤 結花	赤井 創
2021	令和 3	栗山 美知郎	飯室 たみ代	加藤 結花	赤井 創
2022	令和 4	栗山 美知郎	田山 未来	加藤 結花	赤井 創
2023	令和 5	栗山 美知郎	三十日 明子	加藤 結花	赤井 創
2024	令和 6	栗山 美知郎	三十日 明子	加藤 結花	赤井 創

歴代理事・監事

財団法人役員

1928(昭和3).4.21～
【理事長】赤井米吉
【理　事】内藤正太郎、岡崎栄松
【監　事】山之内一郎、茶郷基

1931(昭和6).4～
【理事長】赤井米吉
【理　事】岡崎栄松、赤堀郁太郎
【監　事】山之内一郎、茶郷基

1933(昭和8).4～1935(昭和10)
【理事長】赤井米吉
【理　事】岡崎栄松、市村今朝蔵
【監　事】山之内一郎、柳井貴一

1935(昭和10).4～1945(昭和20)
【理事長】赤井米吉
【理　事】岡崎栄松、赤堀郁太郎、市村今朝蔵
【監　事】山之内一郎、柳井貴一

1945(昭和20)～1947(昭和22).3
【理事長】赤井米吉
【理　事】岡崎栄松、赤堀郁太郎、市村今朝蔵
【監　事】山之内一郎

1947(昭和22)～1951(昭和26).6.7
【理事長】市村今朝蔵(1950.6.9没)、上田八一郎(理事長事務取扱)
【理　事】岡崎栄松、赤堀郁太郎、照井猪一郎、上田八一郎
【監　事】山之内一郎

学校法人役員

※財団法人を学校法人に組織変更(1951.2.27認可)

1951(昭和26)～1952(昭和27).2
【理事長】神田五雄
【理　事】二村鐘、照井猪一郎、上田八一郎、岡崎栄松、橘正薫(1951.9就任)、牧野寛策、赤井米吉(1951.12就任)
【監　事】山根篤、山之内一郎

1953(昭和28)～1954(昭和29).2
【理事長】赤井米吉
【理　事】神田五雄、二村鐘、照井猪一郎、上田八一郎、岡崎栄松、宮崎吉則(1953.9就任)、橘
【監　事】山根篤、山之内一郎

1955(昭和30)～1957(昭和32).2
【理事長】赤井米吉(1955.2改選)
【理　事】照井猪一郎、上田八一郎、高田止戈夫、市村寅之輔、宮崎吉則、降旗三七男、小林中
【監　事】山根篤、山之内一郎

1958(昭和33)～1962(昭和37)
【理事長】市村寅之輔(1958.5改選)
【理　事】赤井米吉、照井猪一郎、上田八一郎、小林中(1960退任)、降旗三七男、高田止戈夫(1960退任)、宮崎吉則、橘正薫、善方国男、横川武、松山博彦、富永三郎、衣笠武夫、湊裕(1960退任)、宮地良三、原田満寿郎(1961就任)、中村卯三郎(1961就任)、金子てる子(1961就任)、中神格一
【監　事】山根篤、山之内一郎

1963(昭和38)～1964(昭和39)
【理事長】市村寅之輔(1964.7没)
【理　事】赤井米吉、照井猪一郎(1964.2没)、上田八一郎、降旗三七男(1964退任)、宮崎吉則、宮地良三、橘正薫(1963.6没)、横川武、富永三郎、衣笠武夫(1964.7理事長)中村卯三郎、金子てる子
【監　事】山根篤、山之内一郎

1965(昭和40)～1967(昭和42)
【理事長】衣笠武夫
【理　事】上田八一郎(1965.7.16没)、谷井精之助、原田満寿郎、赤井米吉、宮崎吉則、宮地良三、降旗三七男(1965退任)、松井忞紀、横川武、佐藤正幸、塩崎芳子、寒川道夫、上川淳、恩地邦郎、岡崎健児、角館喜和
【監　事】山根篤、山之内一郎

1968(昭和43)～1969(昭和44)
【理事長】衣笠武夫
【理　事】赤井米吉、恩地邦郎、上川淳、寒川道夫、清田文永、渋谷輝之、西野入尚一、藤田早苗、原田満寿郎、水野惣平、稲垣文子、塩崎芳子
【監　事】岡崎健児、中安一

1970(昭和45)～1971(昭和46)
【理事長】衣笠武夫
【理　事】赤井米吉、鈴木満男、真田三喜彦、照井明三、原田満寿郎、岩波正幸、渋谷輝之(1970退任)、西野入尚一、藤田早苗、水野惣平
【監　事】岡崎健児、中安一

1971(昭和46)～1974(昭和49)
【理事長】衣笠武夫
【理　事】赤井米吉(1974.2.26没)、鈴木満男、真田三喜彦、照井明三、原田満寿郎、岩波正幸、藤田早苗、西野入尚一、水野惣平(1971退任)、原徹、沼田達男(1971.12.21就任)、金澤嘉市(1969.5.31就任)、遠藤豊(1971就任)、藤田早苗、西野入尚一、水野惣平(1971退任)、原徹、沼田達男(1971.12.21就任)、金澤嘉市(1969.5.31就任)、遠藤豊(1971就任)
【監　事】中安一(1971退任)、土屋伝之助

1975(昭和50)
【理事長】衣笠武夫
【理　事】鈴木満男、遠藤豊、真田三喜彦、金澤嘉市(1975.11.18退任)、原徹、照井明三、原田満寿郎、岩波正幸、藤田早苗(1975.11.18退任)、西野入尚一(1975.11.18退任)、沼田達男(1975.12.5退任)、北川富枝(1975.12.20就任)、板橋宗市(1975.12就任)
【監　事】土屋伝之助

1976(昭和51)～1979(昭和54)
【理事長】衣笠武夫(1977.7.30没)、理事長代行：板橋宗市(8月～)
【理　事】鈴木満男(1978.3.31退任)、遠藤豊、真田三喜彦(1979.11.27辞任)、照井明三(1979.11.27辞任)、原徹(1977.12.7辞任)、加藤信夫(1979.11.27辞任)、無着成恭(1979.11.27辞任)、原田満寿郎(1979.11.27辞任)、岩波正幸(1979.11.27辞任)、板橋宗市(1979.11.27辞任)、北川富枝(1979.11.27辞任)、尾形憲(1977.12.2就任–1979.11.27辞任)、恩地邦郎(1978.4.1就任)、遠山啓(1978.11.13就任–1979.9.11没)
【監　事】土屋伝之助(1980.1.28退任)、藤本猛(1980.1.28退任)

1979(昭和54)～1983(昭和58).4.1
【理事長】松井憲紀
【理　事】恩地邦郎、依田好照(1982.11就任)、遠藤豊(1983.3.31退任)、手塚光雄、平出宣道、木下武彦、花岡建夫、谷井精之助、原後山治(1981.12.8退任)、渡辺嗣、上田八郎(1980.12就任–1983.3退任)、善方国男(1981.1就任)
【監　事】鍋島仁(1980.2就任)、廣田壽徳(1980.2就任)

1983(昭和58)～1984(昭和59).4.1
【理事長】松井忞紀
【理　事】恩地邦郎、依田好照、手塚光雄、平出宣道、木下武彦、花岡建夫、谷井精之助、上田八郎、渡辺嗣、善方国男
【監　事】鍋島仁、廣田壽徳

1984(昭和59).4.2～1986(昭和61).4.1
【理事長】松井忞紀
【理　事】恩地邦郎、依田好照、手塚光雄、平出宣道、木下武彦、花岡建夫、谷井精之助、渡辺嗣(1985.4.1退任)、上田八郎、善方国男、津田謙二、松本唯史(1985.4就任)
【監　事】鍋島仁、廣田壽徳

1986(昭和61).4.2～1987(昭和62).4.1
【理事長】松井憲紀
【理　事】加藤信夫、依田好照、手塚光雄、平出宣道、木下武彦、花岡建夫、谷井精之助、上田八郎、善方国男、津田謙二、佐藤雄二
【監　事】鍋島仁、原田満寿郎

1987(昭和62).4.2～1988(昭和63).4.1
【理事長】松井憲紀
【理　事】加藤信夫、依田好照、手塚光雄、平出宣道、木下武彦、谷井精之助、上田八郎、善方国男、津田謙二、佐藤雄二、伊藤哲郎
【監　事】一法師信武、高村弘道

1988(昭和63).4.2～1989(平成1).4.1
【理事長】松井憲紀
【理　事】加藤信夫、依田好照、手塚光雄、平出宣道、谷井精之助、上田八郎、善方国男、津田謙二、佐藤雄二、伊藤哲郎、石原憲一
【監　事】高村弘道、福田眞也

1989(平成1).4.2～1990(平成2).4.1
【理事長】松井憲紀
【理　事】加藤信夫、依田好照、手塚光雄、平出宣道、谷井精之助、上田八郎、善方国男、津田謙二、佐藤雄二、石原憲一、井上隆
【監　事】高村弘道、福田眞也

1990(平成2).4.2～1991(平成3).4.1
【理事長】松井憲紀
【理　事】加藤信夫、依田好照、手塚光雄、平出宣道、谷井精之助、上田八郎、津田謙二、佐藤雄二、石原憲一、渡邊実、安藤道久
【監　事】高村弘道、福田眞也

1991(平成3).4.2～1993(平成5).4.1
【理事長】松井憲紀
【理　事】加藤信夫、依田好照、手塚光雄、平出宣道、谷井精之助、上田八郎、津田謙二、佐藤雄二、石原憲一、渡邊実、安藤道久
【監　事】福田眞也、田中一水

1993(平成5).4.2～1996(平成8).4.1
【理事長】松井憲紀(1995.12.16没)、理事長職務代行：依田好照
手塚光雄(1995.12就任)
【理　事】加藤信夫(1994.3退任)、依田好照、手塚光雄、平出宣道(1995.12退任)、谷井精之助、上田八郎、津田謙二、佐藤雄二、石原憲一、渡邊実、安藤道久、木下武彦(1996.3就任)
【監　事】福田眞也、田中一水

1996(平成8).4.2～1998(平成10).4.1
【理事長】手塚光雄
【理　事】依田好照、津田謙二、安藤道久、谷井精之助、上田八郎、佐藤雄二、石原憲一(1997.4退任)、渡邊実、木下武彦、川連拡子(1997.1就任)、黒川実(1997.1就任)
【監　事】福田眞也、田中一水

1998(平成10).4.2～2000(平成12).4.1
【理事長】手塚光雄(1999.12退任)、菅谷嘉穂(2000.1就任)
【理　事】黒川実、和田武久、津田謙二(1998.12退任)、安藤道久、谷井精之助(1998.9退任)、上田八郎、佐藤雄二(1998.12退任)、渡邊実、木下武彦、川連拡子、出口一彦(1999.1就任)、片岡敬吉(1999.1就任)
【監　事】福田眞也、田中一水

2000(平成12).4.2～2002(平成14).4.1
【理事長】菅谷嘉穂
【理　事】黒川実、和田武久、津田謙二、市川昭雄、安藤道久、上田八郎、渡邊実、木下武彦(2002.1退任)、川連拡子(2002.1退任)、出口一彦、片岡敬吉(2000.12退任)、繁下和雄(2001.1就任)
【監　事】福田眞也(2000.5退任)、田中一水(2000.5退任)、一法師信武(2000.6就任)、森武夫(2000.6就任)

2002(平成14).4.2～2004(平成16).4.1
【理事長】菅谷嘉穂
【理　事】黒川実、和田武久、市川昭雄、安藤道久、上田八郎(2003.12退任)、渡邊実、川連拡子(2002.12退任)、出口一彦、繁下和雄、鮫山典彦(2003.1就任)、土屋眞弓(2004.1就任)
【監　事】一法師信武、森武夫

2004(平成16).4.2～2006(平成18).4.1
【理事長】菅谷嘉穂
【理　事】黒川実、和田武久、市川昭雄、安藤道久、渡邊実、出口一彦、土屋眞弓、繁下和雄、鮫山典彦
【監　事】森武夫、一法師信武(2005.4退任)

2006(平成18).4.2～2008(平成20).4.1
【理事長】菅谷嘉穂(2007.12退任)、出口一彦(2008.1就任)
【理　事】黒川実(2007.3退任)、和田武久(2007.3退任)、渡辺京(2007.4就任)、一瀬清(2007.4就任)、市川昭雄、安藤道久、渡邊実、出口一彦、土屋眞弓、繁下和雄、鮫山典彦、衣川幸男(2007.5就任)
【監　事】森武夫、石曽根慶吉

2008(平成20).4.2～2010(平成22).4.1
【理事長】出口一彦
【理　事】渡辺京、一瀬清、塚田勝俊(2008.1就任)、石川趙夫(2008.1就任)、鮫山典彦、安藤道久、渡邊実、繁下和雄、池上惠子、人見武彦(2008.5就任)
【監　事】森武夫、石曽根慶吉

2010(平成22).4.2～2012(平成24).4.1
【理事長】出口一彦
【理　事】渡辺京、一瀬清、塚田勝俊(2011.6没)、石川趙夫、鮫山典彦、安藤道久(2012.2退任)、渡邊実、繁下和雄、池上惠子、人見武彦、熊谷勝仁(2011.5就任)、赤井創(2012.2就任)
【監　事】森武夫(2010.5退任)、石曽根慶吉(2012.2退任)、赤井創(2010.6就任-2012.2退任)、安藤道久(2012.2就任)、松岡幸秀(2012.2就任)

2012(平成24).4.2～2014(平成26).4.1
【理事長】出口一彦
【理　事】渡辺京(2013.3退任)、一瀬清(2013.3退任)、河住貴夫(2013.4就任)、平田和孝(2013.4就任)、石川趙夫、鮫山典彦、赤井創、渡邊実、繁下和雄、池上惠子、人見武彦、熊谷勝仁
【監　事】松岡幸秀、安藤道久(2014.3退任)

2014(平成26).4.2～2016(平成28).4.1
【理事長】出口一彦
【理　事】河住貴夫、平田和孝(2016.3退任)、石川趙夫、原田茂(2015.1就任)、鮫山典彦、赤井創、渡邊実、繁下和雄、池上惠子、人見武彦、熊谷勝仁
【監　事】松岡幸秀、中山俊秀(2015.1就任)

2016(平成28)～2018(平成30)
【理事長】出口一彦
【理　事】河住貴夫、福田純一(2016.4就任)、原田茂、石川趙夫(2016.6退任)、鮫山典彦、赤井創、平田和孝(2016.7就任)、渡邊実、繁下和雄、深沢澄男(2016.7就任)、池上惠子(2016.6退任)、人見武彦、熊谷勝仁
【監　事】松岡幸秀、中山俊秀

2018(平成30)～2020(令和2)
【理事長】出口一彦(2018.6退任)、平田和孝(2018.7就任)
【理　事】河住貴夫、剛力正和(2019.4就任)、福田純一(2019.3退任)、原田茂、赤井創、平田和孝、渡邊実、繁下和雄(2018.12退任)、鮫山典彦、人見武彦、熊谷勝仁、深沢澄男、善方隆(2018.7就任)
【監　事】松岡幸秀、中山俊秀

2020(令和2)～2022(令和4)
【理事長】平田和孝
【理　事】平野康弘(2020.4就任)、剛力正和(2022.3退任)、赤井創、原田茂、深沢澄男(2021.3退任)、渡邊実、鮫山典彦、熊谷勝仁、善方隆、渡辺京(2020.4就任)、河住貴夫、人見武彦(2020.6退任)
【監　事】松岡幸秀、中山俊秀

2022(令和4)～2024(令和6)
【理事長】平田和孝
【理　事】平野康弘、照井伸也(2022.4就任)、原田茂、赤井創、渡邊実、鮫山典彦、熊谷勝仁、善方隆、渡辺京、河住貴夫
【監　事】松岡幸秀、中山俊秀

2024(令和6)
【理事長】平田和孝(2024.6退任)、渡辺京(2024.7就任)
【理　事】平野康弘、照井伸也、原田茂、赤井創、渡邊実、鮫山典彦、津末亜紀子(2024.7就任)、善方隆、加藤結花(2024.7就任)、河住貴夫、中山俊秀(2024.7就任)
【監　事】松岡幸秀、寺坂成(2024.7就任)

書籍版『明星学園 100 年の ひと・もの・こと』の P.152 から P.169 には、**教員在職期間・職員在職期間**の一覧表を掲載していますが、ダウンロード版では省略いたしました。

この一覧表の閲覧をご希望の方は、書籍版をご覧ください。

（書籍版の入手方法は次ページをご参照ください）

書籍版

『明星の年輪―明星学園 100 年のあゆみ』
『明星学園 100 年の ひと・もの・こと』

入手方法のご案内

書籍版『明星の年輪―明星学園 100 年のあゆみ』および『明星学園 100 年の ひと・もの・こと』はともに非売品ですが、

2024 年 6 月 3 日以降に、5,000 円以上をご寄付いただいた方に
セットで贈らせていただきます。

寄付の方法

① インターネット経由での寄付

https://www.myojogakuen.ed.jp/100th/donation/inquiry#sec01

クレジットカード、銀行振込、指定の郵便局払込取扱票のいずれかの方法でご入金ください。
入金確認後、返礼品申込みの書面をお送りします。

② 学園事務局窓口での現金寄付

事務局窓口（月～金：9 時～ 16 時　※祝日曜日・事務局閉鎖期間除く）でご寄付手続きをしていただければ、すぐに『明星の年輪―明星学園 100 年のあゆみ』『明星学園 100 年の ひと・もの・こと』をセットでお渡しいたします。

創立 100 周年

2024 年 5 月 15 日に向けて、学園では数年前から創立 100 周年記念事業の準備にあたってきた。とくに 2023 年からは「みんなで祝おう！ 100 周年イヤー」として数々の記念事業を集中して実施している。

- イベント（記念式典、祝賀会、シンポジウム・講演会、特別授業、コンサート、展覧会など）
- 記念出版事業（『明星の年輪―明星学園 100 年のあゆみ』、『明星学園 100 年のひと・もの・こと』、他記念出版物）
- リレーエッセイ（2022 年 6 月から学園 WEB サイトに連載中。書籍版も 2 冊刊行）
- 募金（目標額 2 億円を募集、ネットも活用）
- 映像（記念映像「明星学園 100 年のあゆみ」、リレー動画「明星」など）

（1）創立 100 周年記念式典・明星学園誕生祭

2024 年 5 月 7 日（火）、武蔵野の森総合スポーツプラザ メインアリーナにて、「明星学園 誕生祭―明星学園創立 100 周年記念式典」を挙行した。

在校生とその家族に加えて、卒業生、卒業生の家族、歴代の教職員など、明星学園に所縁（ゆかり）のある人たちが多数参加した。当日のプログラムを転載する。



明星学園誕生祭パンフレット表紙
土屋恵理子さん（70 回生）在学時の貼り絵作品



明星学園 誕生祭　明星学園創立100周年記念式典プログラム

プログラム 第1部 13：00～

《式典》100年の想い
総合司会：柳井麻希（57回生）、司会：松園悠介（74回生）

プロローグ「和太鼓部卒業生六人衆」による演奏
中込健太（71回生）、花岡哲海（77回生）、髙倉龍和（79回生）、近藤玲未（80回生）、渡辺ちひろ（82回生）、上田源也（79回生）

ご来賓の紹介

開会宣言
平野康弘 中学校・高等学校校長

映像上映「明星学園100年のあゆみ」
アニメーション制作：近藤優実（11年生）、題字：菊地寛太（12年生）、音楽：増田太郎（54回生）、中島ありか（Mプロ）、朗読：照井伸也（49回生）、編集・動画撮影：大草廣平（79回生）、ドローン撮影：郷源雅史（51回生）、写真提供：明星学園資料整備委員会、企画・監督：大草美紀（51回生）

ご来賓祝辞
戸部順一 様（成城学園長）、河村孝 様（三鷹市長）

明星学園行進歌合唱
指揮：岡戸淳、伴奏：平野碧海（12年生）、演奏：高等学校音楽部

（休憩 10分）

プログラム 第2部 13：50～

《明星学園の今、そして未来へ》
総合司会：柳井麻希（57回生）、
司会：松園悠介（74回生）、小野楓恵（11年生）、金壮琉（12年生）

プロローグ
東儀秀樹（保護者）、東儀典親（12年生）演奏

小学生群読
「たけのこ ぐん」武島悦子 ／「花火」高田敬子
「暖」杉本深由起 ／「いま」まど・みちお

中学生合唱
8年生「Let's search tor tomorrow」指揮：氷田理緒、ピアノ：仲野朝栄
9年生「チェリー」指揮：コーヘン藤原シャノン、ピアノ：大関阿留

高校生映像上映「私たちの高校」
映像制作者：後藤大河（91回生）、鈴木優斗（91回生）在校時に制作

高校生パフォーマンス
軽音楽同好会、ダンス部

卒業生演奏
小林沙羅（69回生）、沙央くらま（69回生）、土屋アンナ（69回生）、伴奏：宮崎誠（64回生）

（休憩 5分）

保護者トーク
中村碧童（59回生）

リレー動画上映「明星」
オリジナルソング「明星」©2009 by FUJIPACIFIC MUSIC INC./TASUKE Co.Ltd.
作詞・作曲：トータス松本、ミュージックディレクター：久米大作（43回生）、ビジュアルディレクター：関田悠登（81回生）、プロデューサー：関田有彦（43回生）、スーパーバイザー：子安次郎（42回生）

卒業生によるバイオリン演奏
テーマ「Reimei」
バイオリン：増田太郎（54回生）、ピアノ：矢嶋マキ（元保護者）

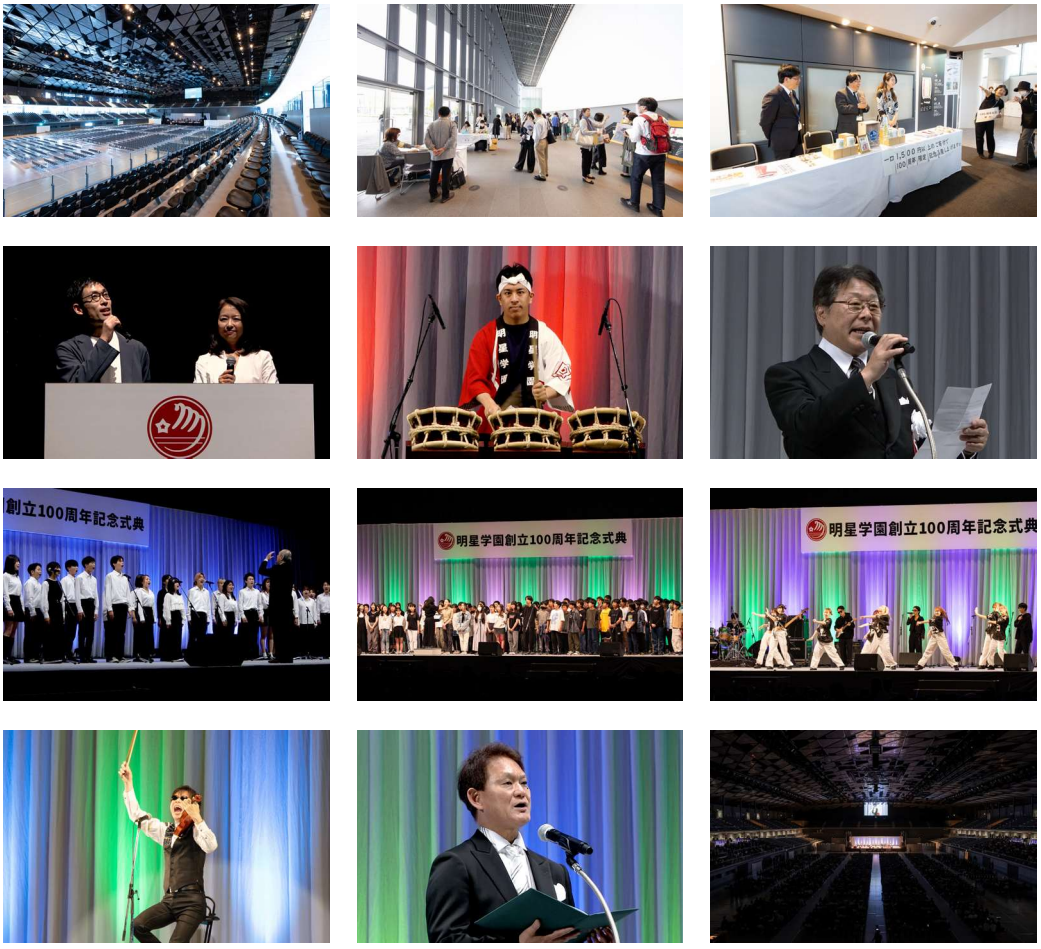
閉会挨拶「未来宣言」
照井伸也 小学校校長

フィナーレ

明星学園行進歌　北原白秋 詩　細谷一郎 曲

1
黎明、
霜に光る明星、
池は近く、
ふかき木立、
我等学ぶこの水上、
さながら
清らぎ、常に行のう。
めざめ 若きたましい、
ひびけ 空と地の声々。
明星、明星、
明星、学園。

2
残照、
すでに光る明星、
雲はなびき、
ひろき武蔵、
我等集うこの師のもと、
幸あれ
朗らぎ、常に磨けり。
思え、遠きかがやき、
はなて 目をば富士のあなたへ。
明星、明星、
明星、学園。



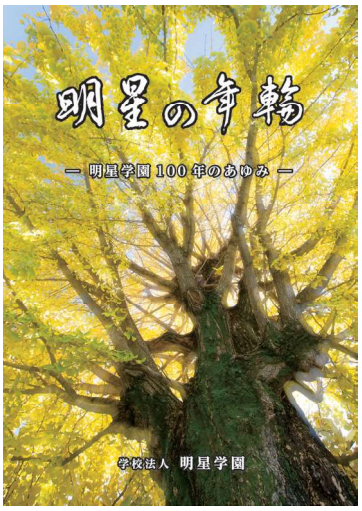
最大約１万人収容の武蔵野の森スポーツアリーナ。１階席には在校生１年生～12 年生と小学生保護者、２階以上の観客席には来賓、中・高校生の保護者、卒業生、卒業生の家族，教職員が着席。これだけ多くの関係者が一堂に会したのは初めてのことだった。

また５月 19 日、吉祥寺エクセルホテル東急にて祝賀会を催した。

(2) 記念出版事業

これまでの周年事業を踏襲し、記念誌『明星の年輪―明星学園 100 年のあゆみ』を創立記念日の５月 15 日に刊行した。

また、『100 年のあゆみ』とは別角度から 100 年の歴史にアプローチし、100 年間の時代の変遷を一覧表やグラフなどで見せる『明星学園 100 年の ひと・もの・こと』(本誌)を夏に刊行。



(3) 創立 100 周年記念シンポジウム 2024

2024 年 8 月 30 日、「明星学園創立 100 周年記念シンポジウム 2024」を開催。

第 1 部は、玉川大学学術研究所特別研究員・白柳弘幸氏の講演『赤井米吉と小原國芳―両雄並び立つ―』。明星学園の創立者赤井米吉、玉川学園の創立者小原國芳は、ともに成城小学校の教員だった。その二人がなぜ別々の新しい学校を創るに至ったのか、また二人の関係はいかなるものだったのか。世間では、成城小学校における二人を称し、「両雄並び立たず」といった評価がされてきた。白柳氏は両学園に残されている多くの資料から、二人の関係の真実に迫っていく。

また第 2 部の座談会には、パネリストとして大正自由教育（児童中心主義）の理念を持つ学校の先生方にご登壇いただき、どのような形で各学校が歴史を刻み、未来に向かって歩んでいるかを語り合いながら、先人たちが残した教育的財産の継承と発展について、ともに考えた。

【日　時】2024 年 8 月 30 日（金）　【会　場】武蔵野公会堂 1 階ホール

【プログラム】

第 1 部　講演『赤井米吉と小原國芳 ― 両雄並び立つ ―』16:10 ～ 17:00

講師：白柳（しらやなぎ） 弘幸（ひろゆき）氏 玉川学園小学部教諭を経て玉川大学教育博物館学芸員、玉川大学教育学部全人教育研究センター研究員。現在は玉川大学学術研究所特別研究員。

第 2 部　座談会（敬称略）17:10 ～ 18:25　司会：堀内 雅人（明星学園元国語科教諭・元中学校副校長）

- 成城学園／高橋 丈夫（初等学校校長）・笹間 俊彦（初等学校副校長）
- 明星学園／照井 伸也（小学校校長）・平野 康弘（中・高等学校校長）
- 玉川学園／渡瀬 恵一（学園理事）
- 和光学園／橋本 暁　（中・高等学校校長）
- 清明学園／横山 豊治（初等学校校長）
- 自由学園／高橋和也（前学園長・現最高学部（大学部）長）
- 自由の森学園／鬼澤 真之（学園理事長）

(4) 記念イベント

明星会（同窓会）、後援会と協力し、アート展、ミュージックフェスティバル、記念コンサートなどのイベントを開催。



- アート展　2024 年 10 月 23 日（水）～26 日（土）
  三鷹市芸術文化センター・美術創作・展示室

- ミュージックフェスティバル　2024 年 10 月 26 日（土）三鷹芸術文化センター・星のホール

- 記念コンサート「歌で紡ぐ 100 年」 2024 年 12 月 14 日（土）
  三鷹芸術文化センター・風のホール

(5) リレーエッセイ

さまざまな分野で活躍する明星学園ゆかりの方々に登場していただき、エッセイをリレーでつなぐ企画。2022年6月にスタートし、2024年現在も学園WEBサイトで継続して連載中。

これまでにご登場いただいた方を紹介する。

尾木 直樹氏　（教育評論家、法政大学名誉教授）
鈴木 健次郎氏（パリのテーラー／62回生）
藪内 竜太氏　（藪内正幸美術館館長／55回生）
伊藤 隆氏　　（東京都立大学理学部化学科教授／保護者）
宮崎 たま子氏（バレエダンサー・ワシントンバレエ団／74回生）
高橋 のぼる氏（漫画家「土竜の唄」作者／保護者）
中川 麻子氏　（大妻女子大学家政学部被服学科准教授、博士／57回生、保護者）
夢白 あや氏　（宝塚歌劇団　雪組トップ娘役／卒業生）
本橋 菜子氏　（プロバスケットボールプレイヤー、東京オリンピック銀メダリスト／79回生）
伊勢崎 賢治氏（ジャズトランペッター、元ＮＧＯ国際連合職員「紛争解決請負人」、東京外国語大学大学院教授／元保護者）
土屋 アンナ氏（モデル、ロック歌手、女優／69回生、保護者）
土屋 眞弓氏　（着物着付師、書家、モデル事務所取締役、元ＰＴＡ会長、元理事）
大石 陽子氏　（日産厚生会玉川病院　乳腺外科副部長、医学博士、理学博士／55回生）
中村 獅童氏　（歌舞伎俳優、俳優／59回生、保護者）
明石 哲郎氏　（レーシングチーム「H43TeamNOBBY」マネージメント ディレクター／56回生）
中山 俊秀氏　（東京外国語大学副学長／元保護者）
沙央 くらま氏（元宝塚専科　女優／卒業生）
杉田 かおる氏（女優／50回生）
宮崎 眞彩子氏（明星会会報委員／50回生）
川手 晴雄氏　（本校元教諭／33回生）
増田 太郎氏　（作編曲家、ヴァイオリニスト／54回生）
白石 雄治氏　（オーレリアン＝蝶愛好家、白石環境株式会社取締役会長／30回生）
桐生 純子氏　（コミュニケーション能力開発トレーナー、株式会社Feel Communication 代表取締役／元保護者）
高橋 佑磨氏　（千葉大学理学部准教授、理学博士／67回生）
柳瀬 雅史氏　（映像カメラマン／51回生）
近藤 玲未氏　（プロ和太鼓奏者／80回生）
田中 愛治氏　（早稲田大学総長、政治学者／37回生）
柴田 勲氏　　（元プロ野球選手・読売ジャイアンツ、日本プロ野球名球会理事／お孫さんが在校生）
SAORI氏　　（映画小道具、ＮＰＯ法人映画業界で働く女性を守る会（swfi）代表／69回生）

これまでにWEBサイトで紹介したエッセイは、掲載順に12編ずつ2冊の冊子にして配布している。今後もリレーエッセイのバトンをつなげ、冊子の刊行も継続していく。



(6) 募金

中学校・管理棟新校舎建築の実現を目指して、目標額２億円の募金活動を行っている。この募金は90周年を迎える時から続けている。募金開始時からの総額は９千万円に迫ろうとしているが、目標額にはまだ遠い。明星学園後援会、ＰＴＡ、明星会の協力も得て、さまざまな場面や方法で募集を続けているが、厳しい状況である。

今後高等学校校舎の改築も控えており、関係者のさらなる協力を期待している。

(7) 記念映像「明星学園 100 年のあゆみ」

創立同人の照井猪一郎先生が明星学園創立の原風景を詩的に描いた『明星誕生ものがたり』、その冒頭の「呱々の声」(本誌 P.12) を、在校生の近藤優実さん（2024 年度 11 年生）がアニメーション化し、写真や映像が残されていない時代の風景を視覚化した。






左：映像は金色に実った初夏の麦畑から始まる。麦畑の背景にはうっそうとした井の頭公園の森が広がる。
中：季節は変わり、麦の芽が伸び始めるころ（2、３月）、創立同人たちは白木の標木を手に麦畑の真中へ向かう。
右：畑中の一地点に立てられた標木、その表面には照井げん先生による「明星学園建設地」の文字。





左：大空をふりあおぎ、思い深げにまわりの森や林をながめまわす創立同人たち。
中：やがて陽は西に傾き、麦畑に立てられた標木が地面に長い影を落とす。
右：夕暮れの残照のなかにひときわ明るい星が輝く。

金色に実った麦畑に重なる題字は、12 年生の菊池寛太さんに揮毫いただいた。

アニメーションに合わせた「呱々の声」の朗読は、照井猪一郎先生の孫の照井伸也小学校校長（49 回生）にお願いした。

宵の空に輝く星の場面でアニメーションが終わり、映像はここから、昔の明星学園内や通学路風景の写真と、同じ場所の現在の映像とを交互に紹介しながら、100 年間の移り変わりを描いていく。

現在の学園を上空から撮影したドローンパイロットは柳瀬雅史さん（51 回生）、後半の動画撮影と全体の編集は大草鷹平さん（79 回生）にお願いした。

また BGM は卒業生のヴァイオリニスト・増田太郎さん（54 回生）と中島ありかさんの二人がこの映像のために作曲してくださった。

この映像「明星学園 100 年のあゆみ」は５月７日の記念式典で上映された。また学園公式 WEB サイトでも視聴できる。

あとがき

2020年、中学校8年生の総合探究科・探究実践「学校紹介プロジェクト」を資料整備委員会として初めて手伝った。生徒への課題は、「明星学園に関わるひと・こと・ものの今昔の要素」を入れて明星学園の学校紹介をする、という内容。「修学旅行の今昔」、「運動会の今昔」、「明星生の服装の今昔」など、グループごとにテーマを決め、調べた内容をスライドにまとめて発表する課題だ。8年生からの思いがけない質問に驚きつつも、知りたいことはGoogleで調べればすぐに答えが見つかる時代に、ネットで調べてもわからないテーマに苦心する中学生たちを見て、「“明星学園事典”のようなものがあれば8年生だけでなく、明星に関わる多くの人にとって便利だろう」と思った。このプロジェクトで生徒たちが参考とした『明星の年輪―明星学園90年のあゆみ』は、どちらかといえば定性的な記述がメインで、知りたい疑問の答えにたどり着くことはなかなか難しい内容だった。

折しも創立100周年記念誌の編集がスタートしていた。創立50周年（1974年）以来十年ごとに更新してきた『明星の年輪』シリーズに加えて、もっと定量的な観点から学園史を振り返ることのできる資料集をつくりたいという思いは、8年生との関わりのなかで一層強くなっていた。

さらに編集委員会では、創立者の教育思想や卒業生の記憶、行事の記録や校舎の移り変わりなど、これまで『明星の年輪』に載せきれなかった内容をすくい上げ、新たな記念誌としたいという構想がまとまってきた。

こうして本誌は、明星学園にまつわる「ひと」「もの」「こと」に、これまでとは違った角度からアプローチした一冊として完成した。

まだ粗削りで物足りない部分もあるが、本誌をこれからの明星学園資料集の新たな基準として、育てていってほしいと願う。

本誌にもご寄稿くださった40回生の松居和氏が以前小学校を訪れた際に、「ここには場の力がある」と呟かれた。場の力‥‥それは私も漠然と、しかし常々感じていた、明星学園に宿る不思議な力のことではないか。明星学園で過ごした子どもたちは、過ごした年数や時代に関わらず、なにか「明星力」のようなものを身につけてゆく。年代が違えば関わる教師も違うし校舎だって建て替わっているのに、明星生にはなぜか共通するところがあるのはそのせいではないだろうか。ずっと不思議に思っていたが、松居さんの言葉がじつにぴったりと来た。それはもしかすると創立者がこの学園に遺した想いのようなものなのかもしれないし、歴代の教師たちの教育への情熱が“場の力”となって今も明星に宿っているのかもしれない。

いまも未来も、明星学園にあり続ける“場の力”を、多くの人に感じてほしいと思う。

明星学園創立100周年記念誌　編集委員　大草 美紀

明星学園創立 100 周年記念誌編集委員会

河住　貴夫（編集委員長、前中学校高等学校校長、中学校体育科）
堀内　雅人（前中学校副校長、中学校国語科）
一瀬　　清（元小学校校長、小学校総合科）
渡辺　　京（元中学校高等学校校長、高等学校社会科）
串田　妙子（学園評議員、36 回生）
大草　美紀（学園資料整備委員、51 回生）

協　力

依田　好照（元小学校中学校校長、中学校社会科）
依田　八重子
伊野　文子（小学校副校長）
〈学園資料整備委員会〉山森 睦代
〈資料整備ボランティア〉松居 洋子、中山 みつ
〈学園事務局〉東 れいか、長尾 元美、小島 春奈、副島 理子

写真撮影（表紙・扉）
大草　鷹平（79 回生）

明星学園創立 100 周年記念

明星学園 100 年の ひと・もの・こと

2024 年 8 月 30 日発行

編　集：明星学園創立 100 周年記念誌編集委員会
発行者：学校法人 明星学園　渡辺 京
〒 181-0001　東京都三鷹市井の頭 5-7-7
電話 0422-43-2195
印刷・製本：株式会社 文伸

